

本書の見かた

本ページは見本を使って本書の基本的な読みかたを説明しています。

運転する前に/スイッチの使いかた

タイトル

階層により区別しています。

フォグランブ

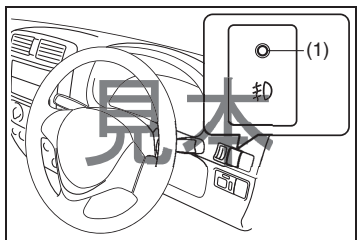
タイプ別装備

フォグランブスイッチ

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

→ 3-53ページ (ライトスイッチ)

- スイッチを押すとフォグランブが点灯し、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯します。もう一度押すと消灯します。



参照先

関連する内容が記載されているページなどを案内しています。

注記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

ヘッダー

ページの内容を案内しています。

タイプ別装備

お車のグレードなどにより装備の有無が異なる事を示しています。

3

章番号

各章の番号を案内しています。

操作要領

装備の取扱いかななどを説明しています。

警告・注意・注記・アドバイス

前ページをお読みください。

お知りになりたいことをさがすときは

次のような方法で検索されますと、すばやくさがせます。

■ タイトルからさがす

- ◆ 総合目次
- ◆ 各章のはじめの目次
- ◆ ヘッダー

■ 取り付け位置、警告灯・表示灯からさがす

- ◆ イラスト目次 → 1-2ページ

■ ブザー音からさがす

- ◆ 警告ブザーが鳴ったときは → 1-16ページ

■ 名称からさがす

- ◆ さくいん → 9-1ページ

■ 4WD車特有の記載をさがす

- ◆ 4WD車を運転するときは → 2-31ページ
- ◆ タイヤチェーン → 6-15ページ
- ◆ けん引してもらうときは → 7-31ページ

■ オイルや、交換部品をさがす

- ◆ お車との上手なつきあいかた → 6-1ページ
- ◆ 万一のとき → 7-1ページ
- ◆ サービスデータ → 8-1ページ

■ よくあるご質問 (Q & A) からさがす

- ◆ よくあるご質問 (Q & A) → 1-23ページ

ご愛車に関するメモ

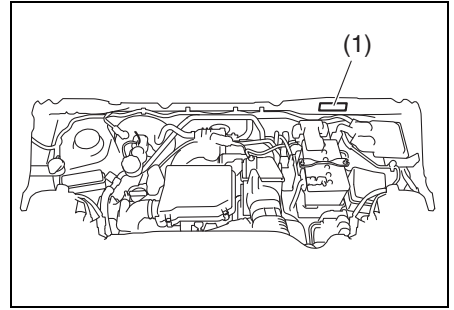
記入される記号・番号は、車検証、IDラベルをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および 車両型式	車名： 型式：
車台番号	
エンジン型式	R06A型
車体色記号	
機種記号	
トランス ミッション	オートマチックミッション(※)
ナンバープレート (車両番号)	
ご購入年月日	年 月 日

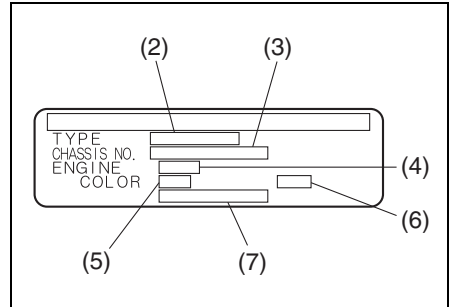
※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

IDラベル (1)

エンジンルームに貼付してあります。



65P00010



81M00020

- (2) 車両型式
- (3) 車台番号
- (4) エンジン型式
- (5) 車体色記号
- (6) 車体色と内装色の組合せコード
- (7) 機種記号

総 合 目 次

1 クイックガイド

イラスト目次	1-2
警告ブザーが鳴ったときは	1-16
よくあるご質問 (Q & A)	1-23

2 必読！安全なドライブのために

必読！安全なドライブのために	2-2
----------------	-----

3 運転する前に

ドアの開閉	3-2
警報装置	3-17
ウインドーの開閉	3-20
各部の調節	3-24
シートの調節	3-30
シートベルト	3-39
SRSエアバッグ	3-45
お子さま用シート	3-53
メーター	3-63
スイッチの使いかた	3-102

4 運転するときは

エンジン始動・停止	4-2
パーキングブレーキ	4-11
オートマチック車	4-13
ABS	4-23
DSC&TCS	4-28

運転支援機能	4-37
S-エネチャージ	4-48
アイドリングストップシステム	4-50

5 装備の取扱い

主な装備	5-2
エアコン、ヒーター	5-22
オーディオ	5-33

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ	6-2
寒冷時の取扱い	6-10

7 万一の時

パンク	7-2
バッテリーあがり	7-16
ヒューズ切れ	7-20
電球切れ	7-24
オーバーヒート	7-28
そのほか	7-29

8 サービスデータ

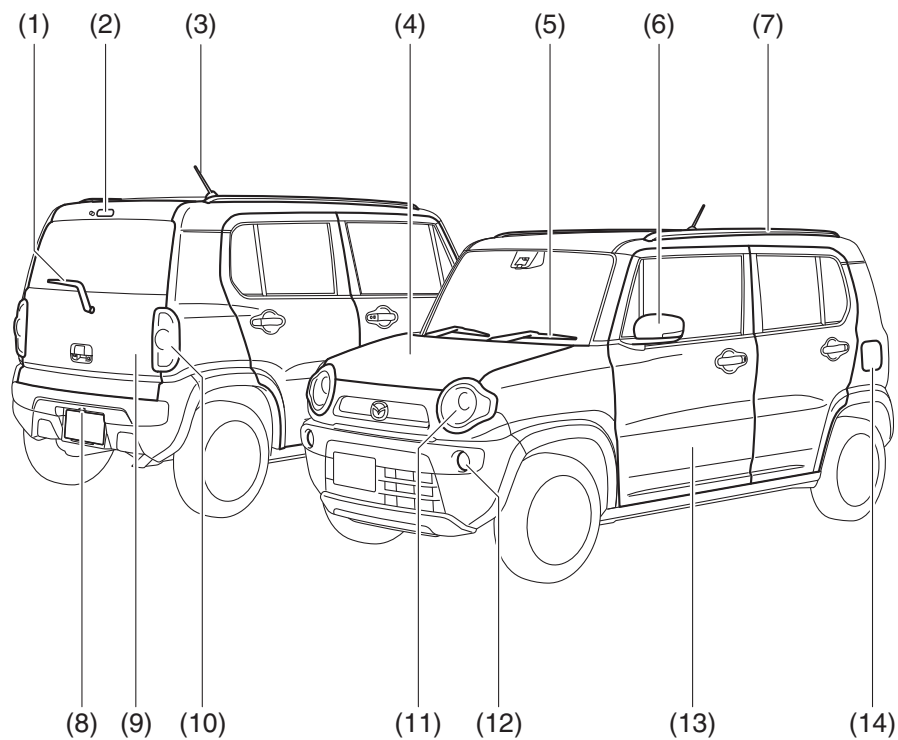
サービスデータ	8-1
---------------	-----

9 さくいん

さくいん	9-1
------------	-----

■ 外観

1

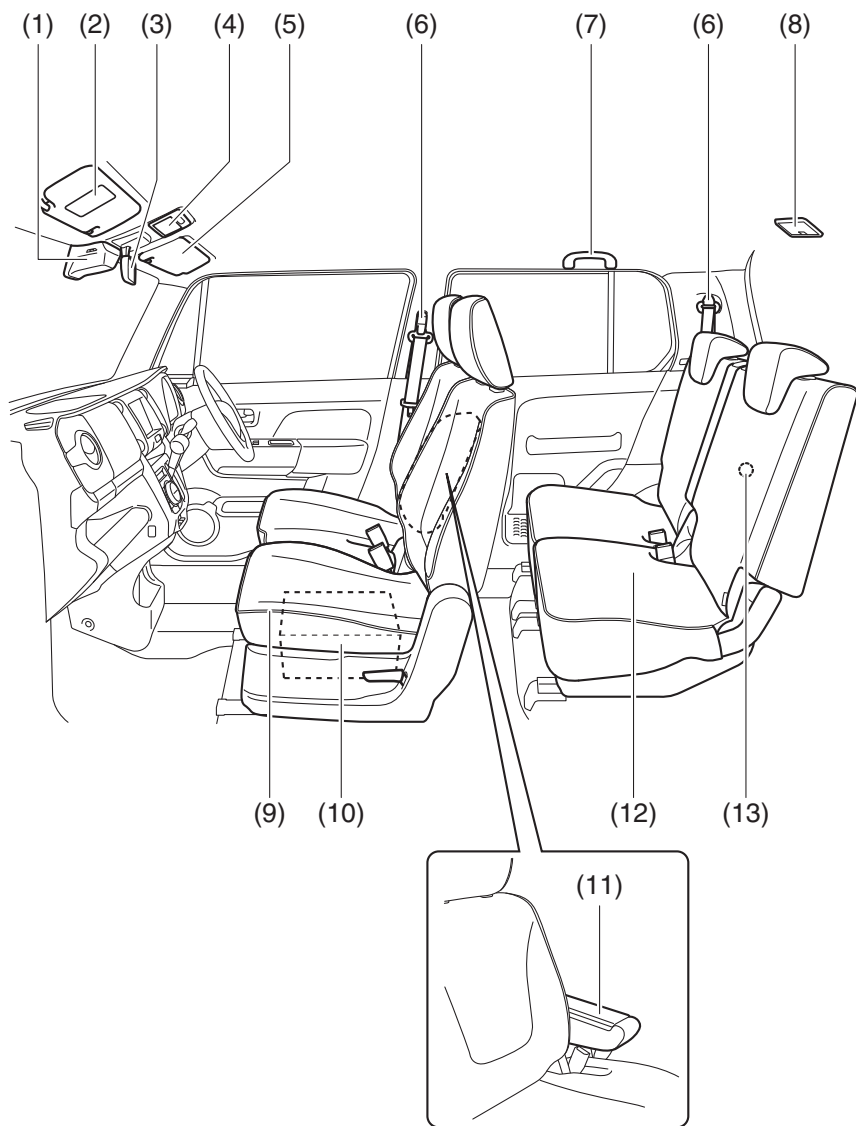


65P1001G

お車のタイプにより、異なる装備も含まれています。

(1)	リヤワイパー	3-107
(2)	ハイマウントストップランプ	7-26
(3)	アンテナ	5-33
(4)	ボンネット	5-3
(5)	フロントワイパー	3-106
(6)	ドアミラー	3-25
(7)	ルーフレール	5-21
(8)	番号灯	7-28
(9)	バックドア	3-13
(10)	リヤコンビネーションランプ	7-28
(11)	ヘッドライト	3-102
(12)	フォグランプ	3-104、7-26
(13)	ドア	3-12
(14)	燃料給油口(フューエルリッド)	5-2

■ 内装1



お車のタイプにより、異なる装備も含まれています。

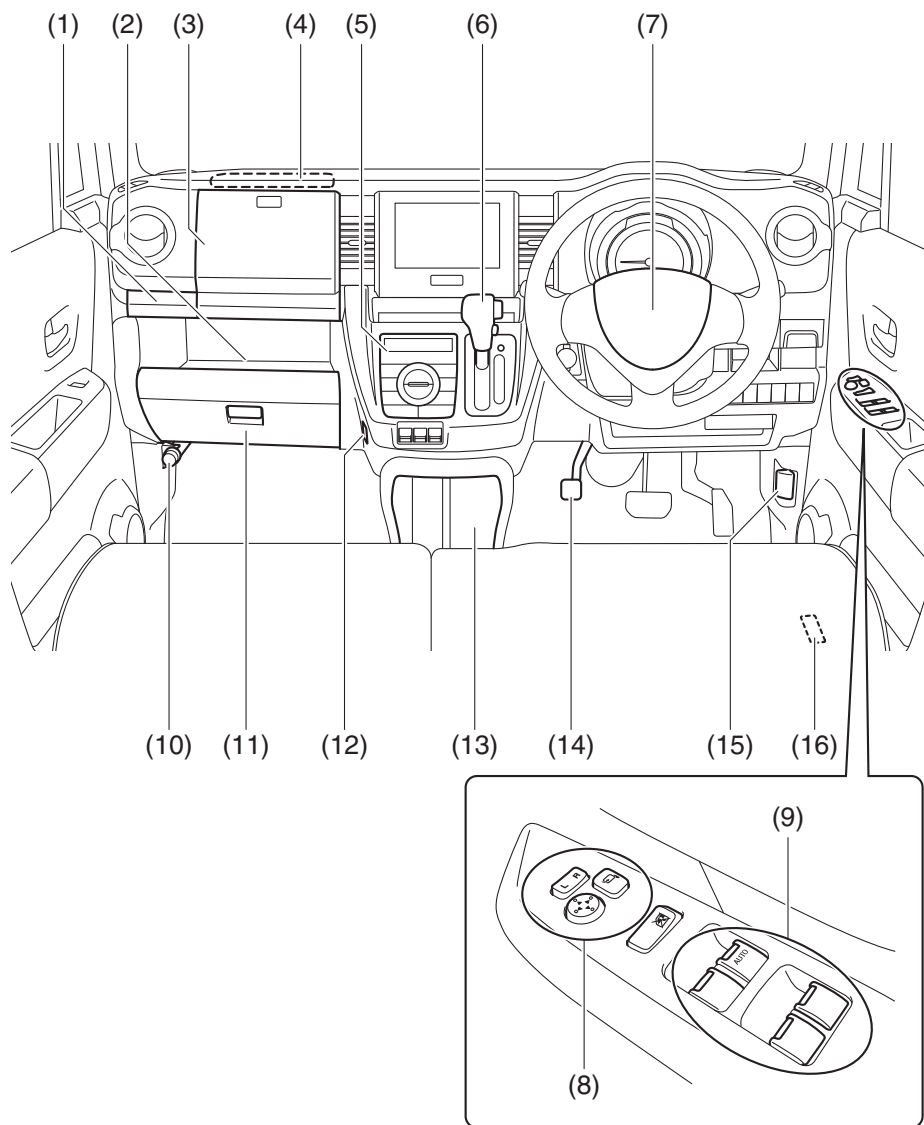
65P1002G

(1)	レーザーレーダー	4-46
(2)	助手席SRSエアバッグに関する 警告ラベル(※)	2-30
(3)	ルームミラー	3-24
(4)	前席室内灯	5-7
(5)	サンバイザー	5-5
(6)	シートベルト	3-39
(7)	アシストグリップ	5-20
(8)	荷室室内灯	5-7
(9)	前席シート	3-30
(10)	シートアンダーボックス	5-17
(11)	アームレスト(ひじ掛け)	5-19
	アームレストボックス	5-16
(12)	後席シート	3-33
(13)	アクセサリースOCKET	5-18

※お子さま用シートをご使用になる前に、必ずお読みください。

■ 内装2

1



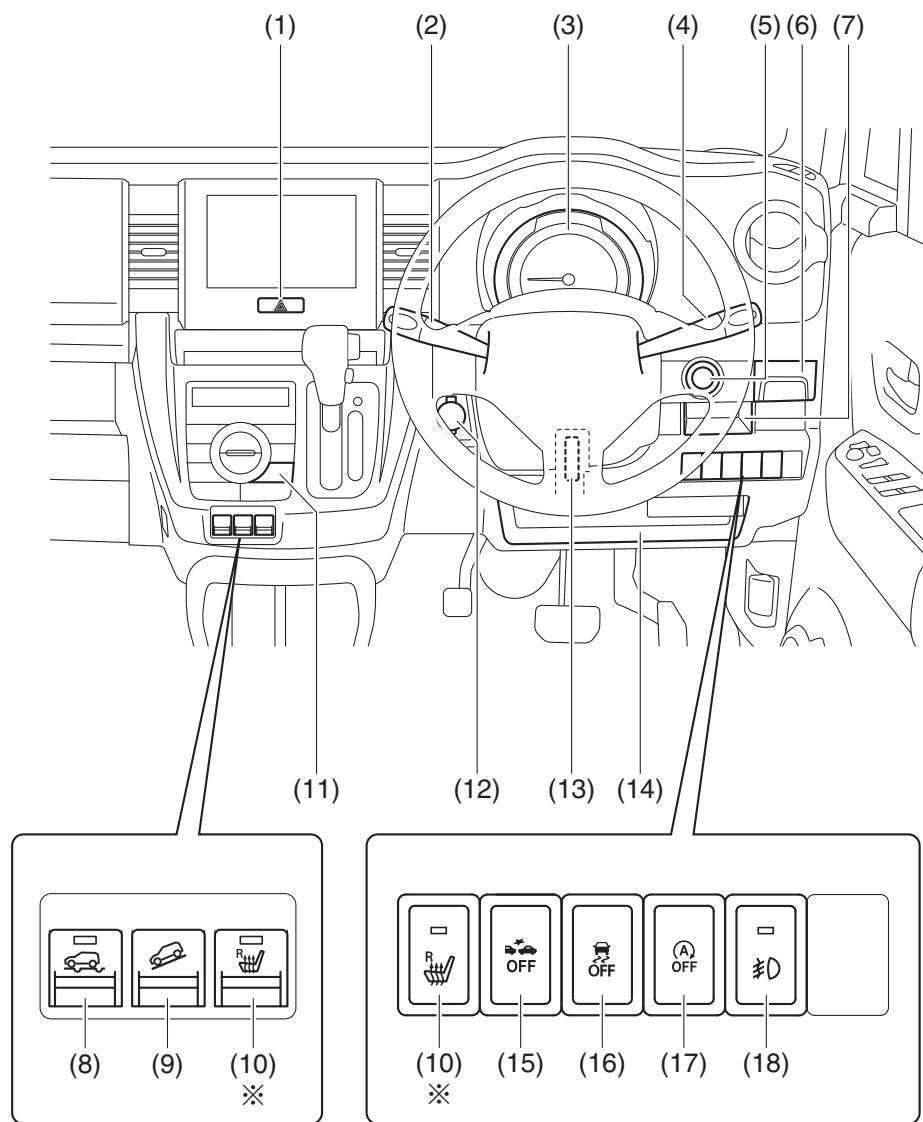
65P1003G

お車のタイプにより、異なる装備も含まれています。

(1)	ドリンクホルダー(助手席)	5-12
(2)	インパネトレイ(助手席)	5-9
(3)	リッド付インパネボックス	5-10
(4)	助手席SRSエアバッグ	3-45
(5)	エアコン、ヒーター	5-22
(6)	セレクトレバー	4-13
(7)	運転席SRSエアバッグ	3-45
	ホーンスイッチ	3-107
(8)	ドアミラー角度調節スイッチ	3-25
	ドアミラー格納スイッチ	3-26
(9)	パワーウインドースイッチ	3-20
(10)	発炎筒	7-29
(11)	グローブボックス	5-11
(12)	ショッピングフック	5-18
(13)	センター口ポケット	5-9
(14)	パーキングブレーキ	4-11
(15)	ボンネットオープナー	5-3
(16)	フューエルリッドオープナー	5-2

■ 運転席まわり

1



65P1004H

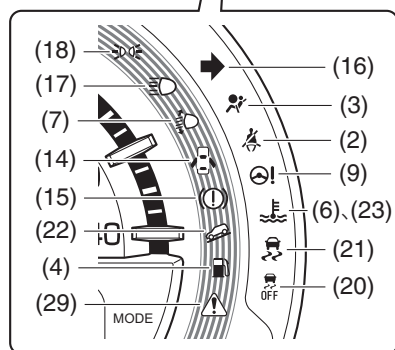
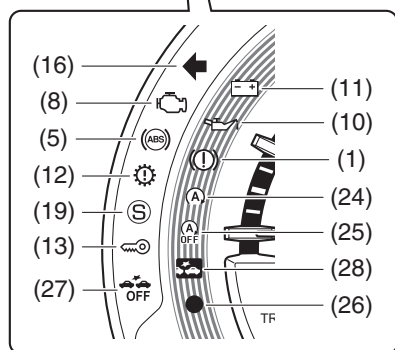
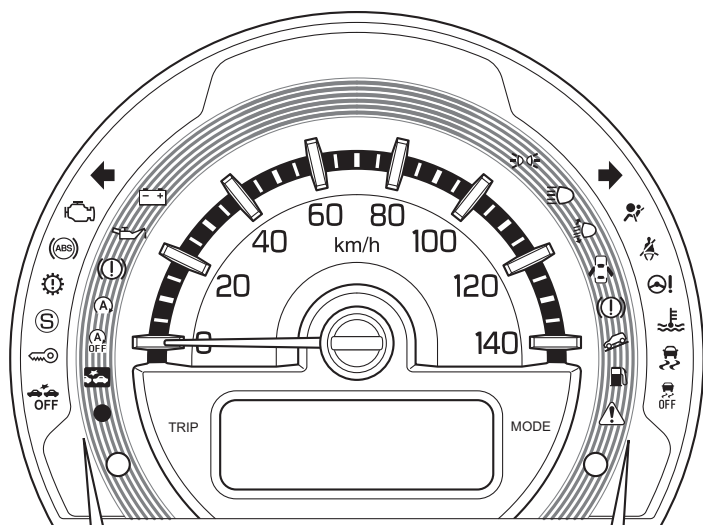
お車のタイプにより、異なる装備も含まれています。

- ※印のスイッチはお車のタイプにより、位置が異なります。

(1)	非常点滅表示灯スイッチ	3-105
(2)	ワイパー/ウォッシャースイッチ	3-105
(3)	メーター	3-63
(4)	ライトスイッチ	3-102
	方向指示器スイッチ	3-104
(5)	エンジンスイッチ	4-2
(6)	ドリンクホルダー(運転席)	5-12
(7)	インパネポケット(運転席)	5-9
(8)	グリップコントロールスイッチ	4-35
(9)	ヒルディセントコントロールスイッチ	4-31
(10)	シートヒータースイッチ(運転席のみ)	3-32
(11)	ドアミラーヒータースイッチ	3-29、5-30
	リヤデフォグガススイッチ	5-30
(12)	アクセサリーソケット	5-18
(13)	チルトステアリング(レバー)	3-29
(14)	インパネアンダートレイ	5-9
(15)	レーダーブレーキサポート(RBS) OFF スイッチ	4-45
(16)	DSC&TCS OFFスイッチ	4-30
(17)	アイドリングストップシステム OFFスイッチ	4-59
(18)	フォグランプスイッチ	3-104

■ 警告灯・表示灯

1



お車のタイプにより、異なる装備も含まれています。




- 警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、車両またはシステムの異常が考えられます。次の参照先をよくお読みのうえ、マツダ販売店で点検を受けてください。
→ **3-64ページ (警告灯・表示灯の見かた)**
- 警告灯・表示灯が点灯または点滅すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。
→ **3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)**
- ※印の警告灯・表示灯は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに初期点灯するのが正常です。（「水温警告灯／低水温表示灯」の初期点灯は赤色に点灯します。）点灯しない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
- 「水温警告灯（赤色）／低水温表示灯（青色）」は点灯する色で表示を切り替えています。
- アイドリングストップシステム装備車には、特有の点灯条件があります。
→ **4-50ページ (アイドリングストップシステム)**

警告灯			色	警告灯名
(1)		※	赤	ブレーキ警告灯
(2)			赤	シートベルト警告灯
(3)		※	赤	SRSエアバッグ警告灯
(4)			オレンジ	燃料残量警告灯
(5)		※	オレンジ	ABS警告灯
(6)		※	赤	水温警告灯
(7)		※	オレンジ	オートレベリング警告灯
(8)		※	オレンジ	エンジン警告灯

クイックガイド/イラスト目次

1

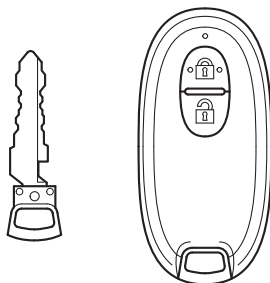
警告灯			色	警告灯名
(9)		※	オレンジ	パワーステアリング警告灯
(10)		※	赤	油圧警告灯
(11)		※	赤	充電警告灯
(12)		※	オレンジ	トランスミッション警告灯
(13)		※	オレンジ	イモビライザー警告灯
(14)			赤	半ドア警告灯
(15)		※	オレンジ	ブレーキシステム警告灯

表示灯			色	表示灯名
(16)			緑	方向指示器表示灯
(17)			青	ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯
(18)			緑	ライト点灯表示灯
(19)			オレンジ	S（スポーツ）モード表示灯
(20)		※	オレンジ	DSC&TCS OFF表示灯

表示灯		色	表示灯名
(21)		※ オレンジ	DSC&TCS作動表示灯
(22)		※ 緑	ヒルディセントコントロール表示灯 (タイプ別装備)
(23)		青	低水温表示灯
(24)		※ 緑	アイドリングストップ表示灯
(25)		※ オレンジ	アイドリングストップシステムOFF表示灯
(26)		赤	セキュリティアラームインジケーター
(27)		※ オレンジ	レーダーブレーキサポート (RBS) OFF表示灯
(28)		※ オレンジ	レーダーブレーキサポート (RBS) 作動表示灯
(29)		オレンジ	マスターウォーニング

■ キー

1

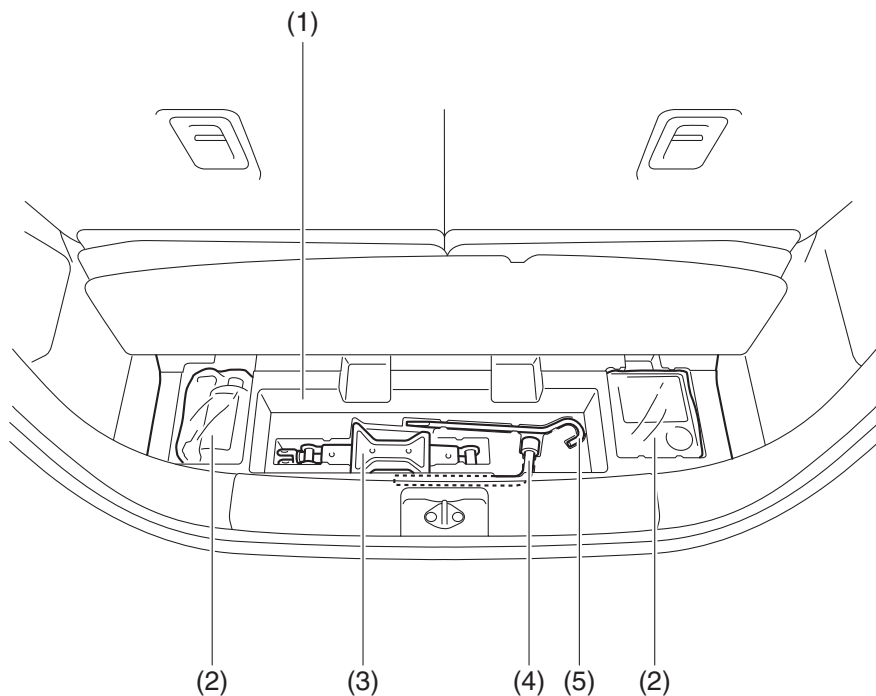


85K10090

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

キー	3-2
キーレスエントリー	3-4
携帯リモコン	3-6
ドア	3-12
アドバンストキーレスエントリー& キーレスプッシュボタンスタートシステム	4-5
エンジンのかけかた	4-8

■ 荷室



65P10060

お車のタイプにより、異なる装備も含まれています。

(1)	ツールボックス	7-2
(2)	タイヤパンク応急修理セット	7-2
(3)	ジャッキ	7-2
(4)	ホイールナットレンチ	7-2
(5)	ジャッキバー	7-2


警告ブザーが鳴ったときは

標準装備による警告ブザー

- ※1は、▲(マスターウォーニング) が点滅するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
 - ※2は、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
- 3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

■ 全車共通

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
いずれかのドアを開けたとき	室内ブザー	● 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。エンジンスイッチを ON にすると、警報を途中で停止できます。 → 3-17ページ(セキュリティアラーム)
	●ピー、ピー、 (約10秒間)		
エンジンスイッチを ON にしたとき	室内ブザー	● 約8秒間 小刻みに点滅	駐車時にセキュリティアラームの警報が作動したことを示しています。盗難にあってないか車の中を確認してください。 → 3-17ページ(セキュリティアラーム)
	●ピー、ピー、 (4回)		
	室内ブザー	※1	ハンドルロックが解除されていません。ハンドルを左または右にまわして負荷がかからない状態としながら、エンジンスイッチの操作をやり直してください。 → 4-3ページ (ハンドルロック未解除警告)
	●ポーン (1回)		
エンジンスイッチが ON のとき	室内ブザー	ⓘ 点灯 (赤色) ※1	ブレーキ液の不足、またはブレーキシステムに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 3-64ページ (ブレーキ警告)
	●ポーン (1回)		
	室内ブザー	Ⓣ 点灯 ※2	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → 3-66ページ (燃料残量警告灯)
	●ポーン (1回)		

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
走行中	室内ブザー ●ピー、ピー、 (約95秒間)	 点滅 ※1	運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → 3-40ページ (シートベルト警告ブザー)
	室内ブザー ●ピピピッ、 ピピピッ、	 点灯 (赤色) ※1	パーキングブレーキが解除されていません。安全な場所に停車して、パーキングブレーキを解除してください。 → 4-12ページ (パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー)
	室内ブザー ●ポーン (1回)	 点灯 ※1	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → 3-70ページ (半ドア警告灯)
運転席ドアを開けたとき	室内ブザー ●ピー---	 点灯 ※1	ヘッドライトまたは車幅灯が点灯したままです。これらを消してください。 → 3-103ページ (ライト消し忘れ警告ブザー)
停車中/ 後退中	室内ブザー ●ピー、ピー、	R 表示	セレクトレバーが R に入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → 4-17ページ (R (リバース) ポジション警告ブザー)
エンジン スイッチを LOCK (OFF) に もどそうと したとき	室内ブザー ●ポーン (1回)	※1	セレクトレバーの故障などによりエンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどせません。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 4-10ページ (エンジンスイッチをもどすときは)


各装備による警告ブザー

- 次の各装備には特有の警告ブザーがあります。
 - アイドリングストップシステム装備車…………… 1-18ページ
 - アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車…………… 1-20ページ
 - 運転支援機能装備車…………… 1-22ページ
- ※1は、▲(マスターウォーニング) が点滅するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
- ※2は、マルチインフォメーションディスプレイに車両状態や対処方法などをお知らせするメッセージが表示されます。
 - 3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

■ アイドリングストップシステム装備車




- 下記以外にも警告ブザーが鳴り、エンジンが自動再始動する場合があります。
 - 4-50ページ (アイドリングストップシステム)

いつ	ブザー音	メーター	再始動の理由
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中	室内ブザー	※2	次のいずれかの状態になったため、エンジンが再始動しました。 ● エアコンの設定温度と室内の温度の差が大きくなった ● デフロスタースイッチを押した → 4-50ページ (アイドリングストップシステム)
	●ピー (1回)		
	室内ブザー	※2	ブレーキ倍力装置の負圧が低下したため、エンジンが再始動しました。 → 4-50ページ (アイドリングストップシステム)
●ピー (1回)			
	室内ブザー	※2	バッテリーの放電が進んだため、エンジンが再始動しました。 → 4-50ページ (アイドリングストップシステム)
	●ピー (1回)		



いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中	室内ブザー ●ピー、ピー、	※2	ボンネットが開いたためエンスト状態(※3)になりました。次の手順で対処してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを [P] に入れる ②ボンネットを完全に閉める ③エンジンスイッチを操作して再始動する → 4-8ページ (エンジンのかけかた) → 4-50ページ (アイドリングストップシステム)
	室内ブザー ●ピー、ピー、 (約5秒間)	 いずれか点灯 ※2	次のいずれかの操作をしたため、エンジンが自動で再始動しました。 ●運転席シートベルトを外す ●運転席ドアを開ける 発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また、車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを [P] に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → 4-10ページ (エンジンを止めるときは)

※3 エンスト状態になると、上記以外にも次の警告灯が点灯します。
●エンジン警告灯、パワーステアリング警告灯、油圧警告灯、充電警告灯
→ **1-10ページ (警告灯・表示灯)**



■ アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
エンジンスイッチが ON のとき	室内ブザー ●ポーン (1回)	 1秒間隔で点滅 ※1	アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステムに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 3-75ページ (セキュリティアラームインジケーター)
エンジンスイッチを操作したとき	室内ブザー ●ポーン (2回)	 点灯 ※1	携帯リモコンが検知できない、またはリモコンの電池が切れています。リモコンを車内の検知できる位置にするか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → 4-5ページ (車内の作動範囲) → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
いずれかのドアを開閉したとき	室内/車外ブザー ●ピー、ピー、 (5回)	 点滅 ※1	携帯リモコンが検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置にしてください。 → 4-7ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告)
エンジンを始動しようとしたとき	室内/車外ブザー ●ピー、ピー、 (5回) そのあとに室内ブザー ●ポーン (1回)	 点滅 ※1	エンジンスイッチを ACC または ON にしたときは携帯リモコンを検知していましたが、始動時に検知できなくなりました。リモコンを車内の検知できる位置でエンジンスイッチを操作してください。 → 4-5ページ (車内の作動範囲) → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
運転席ドアを開けた	室内ブザー ●ピー、ピー、	—	エンジンスイッチが ACC になっています。 LOCK (OFF) にもどしてください。 → 4-11ページ (エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー)
	室内ブザー ●ピッ、ピッ、	—	エンジンスイッチを LOCK (OFF) にもどしていずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされていません。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 4-11ページ (ハンドルロック未作動警告ブザー)

クイックガイド/警告ブザーが鳴ったときは

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
リクエストスイッチを押したとき	車外ブザー ●ピー (約2秒間)	—	エンジンスイッチが ACC または ON になっています。 LOCK (OFF) にもどしてください。 → 3-11ページ (リクエストスイッチ未作動警告ブザー)
		—	携帯リモコンが車内にあります。リモコンを車外に持ち出してください。
		 点灯 ※2	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。
携帯リモコンのロックスイッチを押したとき	車外ブザー ●ピー (約2秒間)	 点灯 ※2	いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。 → 3-4ページ (キーレスエントリー)

■ 運転支援機能装備車

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
走行中	室内ブザー	 点滅	レーダーブレーキサポート (RBS) が作動しています。ブレーキペダルを強く踏み込んでください。 → 4-37ページ (レーダーブレーキサポート (RBS))
	●ピピピピピ		
停車中/ 徐行中	室内ブザー	 点滅	誤発進抑制機能が作動しています。すみやかにアクセルペダルから足を離してください。 → 4-42ページ (誤発進抑制機能)
	●ピピピピピ		

よくあるご質問 (Q & A)

お問い合わせの多い、よくあるご質問についてご案内します。

1

ドアの開閉

- Q.** キーレスエントリーが作動しない。
- A.** キーレスエントリーが作動しない状況にあるおそれがあります。
3-4ページ (キーレスエントリー) をお読みください。
- A.** 携帯リモコンの電池が消耗しているときは、交換してください。
→ **6-8ページ (携帯リモコンの電池交換)**
- Q.** ドアを開けたら警報が鳴る。
- A.** 警報装置 (セキュリティアラーム) が作動しています。
エンジンスイッチを **[ON]** にして警報を止めてください。
正しい取扱い方法や設定切替えについては、**3-17 ページ (セキュリティアラーム)** をお読みください。

窓ガラス

- Q.** フロントガラスやドアガラス内側のくもりを取りたい。
- A.** デフロスタースイッチ (**5-29ページ**) をご使用ください。
- Q.** バックドアガラス内側のくもりを取りたい。
- A.** リヤデフォグスイッチ (**5-30ページ**) をご使用ください。

タイヤ

- Q.**パンクした。
- A.**パンクの状態によっては、タイヤパンク応急修理セットをご使用いただくことで、応急修理ができます。
→ **7-2ページ (パンク)**

バッテリーあがり

- Q.** バッテリーがあがり、エンジンが始動できない。
- A.** 救援車のバッテリーとブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。
→ **7-16ページ (鉛バッテリーあがりのときは)**

エンジンオイル

- Q.** エンジンオイルを交換したい。
- A.** 次の項目をお読みください。
→ **2-35ページ (エンジンオイルを交換するときは)**
→ **8-1ページ (サービスデータ)**

電装品

- Q.** ヘッドライトまたは制動灯が点灯しなくなった。
- A.** 電球を点検してください。
→ **7-24ページ (電球の点検)**
→ **7-25ページ (電球を交換するときは)**
→ **8-4ページ (電球の容量)**
- Q.** 電気装置が使用できなくなった。
- A.** ヒューズを点検してください。
→ **7-20ページ (ヒューズが切れたときは)**
- Q.** 運転席パワーウィンドーがオートで全開/全閉しなくなった。
- A.** パワーウィンドーのはさみ込み防止機能の初期設定が必要です。**3-23ページ (初期設定のしかた)**をお読みください。

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

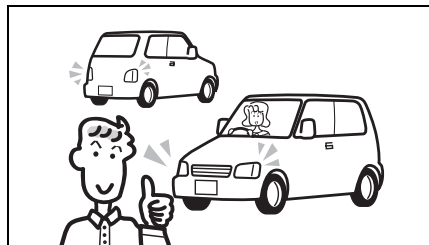
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認）	2-2
荷物を積むときは	2-6
お子さまを乗せるときは	2-7
運転席にすわって	2-13
エンジンをかけるときは	2-15
走行するとき	2-16
駐車するとき	2-22
給油するとき	2-25
オートマチック車を運転するとき	2-26
SRSエアバッグ車を運転するとき	2-28
4WD車を運転するとき	2-31
ターボ車を運転するとき	2-31
こんなことにも注意して	2-32
エコドライブをしましょう	2-36

出発の前に（お車の確認）

日常点検を確実に

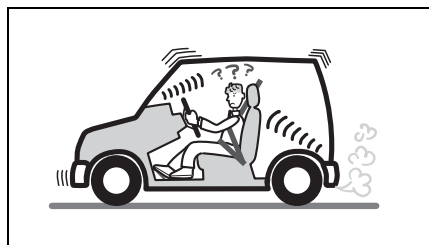


64L20180

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。

→ メンテナンスノート（日常点検）

こんな症状に気づいたときは



80J009

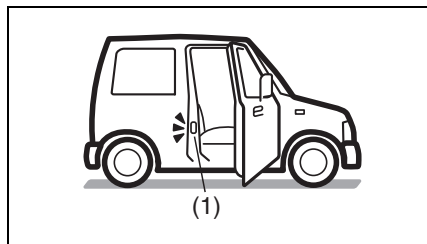
▲ 注意

次のような場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

- 地面に油や液の漏れたあとが残っている
- ブレーキ液が不足している
- いつもと違うにおい、音、振動がある
- ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。
この車の指定空気圧は、運転席ドアの開閉口に貼付してある「空気圧レベル」(1)で確認できます。
→ メンテナンスノート（日常点検）

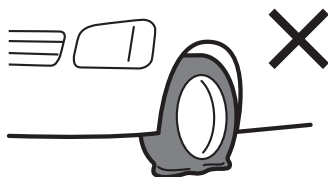


70K115

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。
- 扁平タイヤ（165/60R15 77H）は、見た目では空気圧の不足がわかりにくいので注意が必要です。

▲ 警告

空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。



72J20040

警告

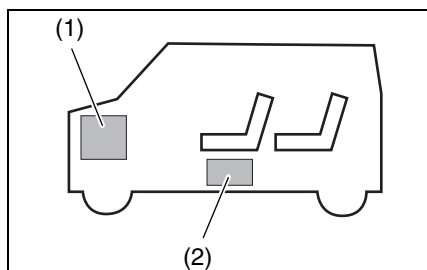
指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

- 走行安定性が悪化する
- ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる
- 正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる
 - ABS
 - エマージェンシーストップシグナル (ESS)
 - DSC&TCS
 - ヒルディセントコントロール (タイプ別装備)
 - グリップコントロール (タイプ別装備)
 - レーダーブレーキサポート (RBS)
 - 誤発進抑制機能
- 4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる

バッテリーについて

この車は、次のバッテリーを搭載しています。

- **鉛バッテリー**
車の電源供給に使用されています。
- **リチウムイオンバッテリー**
車の電装品に電気を供給するために使用されています。
→ 4-48ページ (S - エネチャージ)
→ 4-60ページ (エネチャージ)



72M00153

- (1) 鉛バッテリー
- (2) リチウムイオンバッテリー

各バッテリーについて、次の「鉛バッテリー」および「リチウムイオンバッテリー」をお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

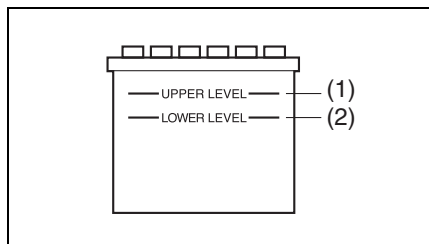
- 鉛バッテリーおよびリチウムイオンバッテリーは少しずつ放電します。バッテリーあがりを防ぐためには、1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。

■ 鉛バッテリー

鉛バッテリーの液面を点検する

液面が下限 (2) より下にあるときは、バッテリー補充液を上限 (1) まで補充してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

→ メンテナンスノート (日常点検)



80J1267

⚠ 警告

- バッテリー液が不足すると、発熱して爆発のおそれがあります。
- バッテリー端子を外して再び接続するときは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。

注記

アイドリングストップシステム装備車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをご守りください。守らないとアイドリングストップシステムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する (指定外のものを使用しない)
 - 7-18 ページ (鉛バッテリーを交換するときは)
 - 8-2 ページ (サービスデータ)
- バッテリー端子から電気製品の電源をとらない

■ リチウムイオンバッテリー

エネチャージ装備車またはS - エネチャージ装備車専用のバッテリーで助手席下（シートアンダーボックス下）にあります。

→ 5-17ページ

（シートアンダーボックス）

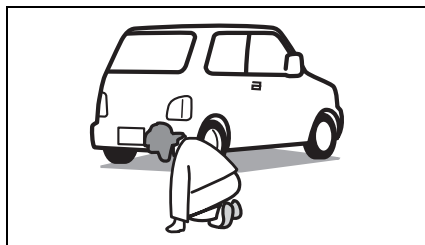
- リチウムイオンバッテリーは点検不要です。ただし、バッテリーは少しずつ放電します。バッテリーあがりを防ぐためには、1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- リチウムイオンバッテリーの交換または廃棄については、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

リチウムイオンバッテリーの取扱いを誤ると、火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあるため、次のことをお守りください。

- 取り外したり分解したりしない
- 水などで濡らさない
- 強い衝撃をあたえない
- 上に乗ったり、荷物を載せたりしない
- バッテリー端子を外したり、端子から電気製品の電源をとらない

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠ 警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積みすぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

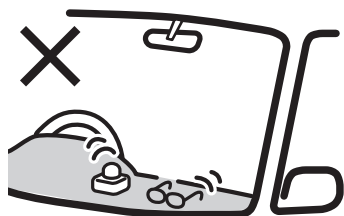
警告

- 燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。



80J021

- インパネの上にものを置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席 SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときに飛ばされたりして、けがのおそれがあります。



80J070

注意

- 車内に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



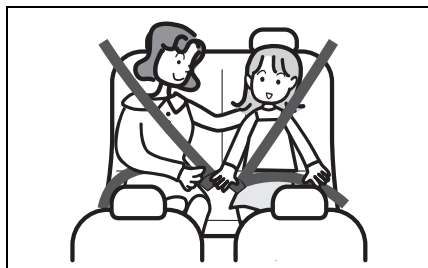
80J022

- 動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる



51K0188

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
 - 2-8ページ（お子さま用シートの使用について）
 - 3-53ページ（お子さま用シートの選択について）

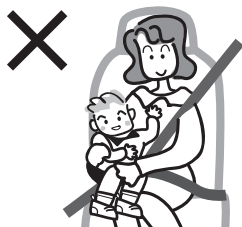
⚠ 警告

- 後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドブーフをご使用ください。
 - 3-17ページ
(チャイルドブーフ)
- お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。
 - 助手席を一番後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - お子さまがアームレストやシート下のレール部分など車内の可動部に手や足を近づけないように注意してください。はさまれてけがをするおそれがあります。

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

- ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分にささえることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J081

- 必ずシートベルトを着用させてください。
- 一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
- シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J082

- 首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない



80J028

⚠ 警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

⚠ 警告

助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。



67H20440

- お子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
→ **3-53ページ（お子さま用シートの選択について）**
- 助手席サンバイザーの両面には、助手席 SRS エアバッグ装備車にお子さま用シートを取り付ける場合の禁止事項などを示した警告ラベルが貼られています。お子さま用シートをご使用の前に、**2-30ページの「助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル」**を必ずお読みください。
- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
 - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
→ **3-58ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
 - ISOFIXタイプのお子さま用シート
→ **3-60ページ（ISOFIX対応お子さま用シートの固定）**
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- お子さま用シートには、マツダ純正をおすすめします。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。
- お子さま用シートを使用しているも、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにし、安全運転に心がけてください。

警告

- 走行する前に、お子さま用シートが**確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどが無いことを確認してください。**
- お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、**重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- 万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、**外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。**

注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たるおそれがあります。

ドアやウィンドーの開閉、
シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。



80J029

⚠ 警告

パワーウィンドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウィンドーロックスイッチをご使用ください。

→ 3-21ページ

(ウィンドーロックスイッチ)

窓から顔や手を出さない



80J030

⚠ 警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外のものなどに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

⚠ 警告

車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



80J031

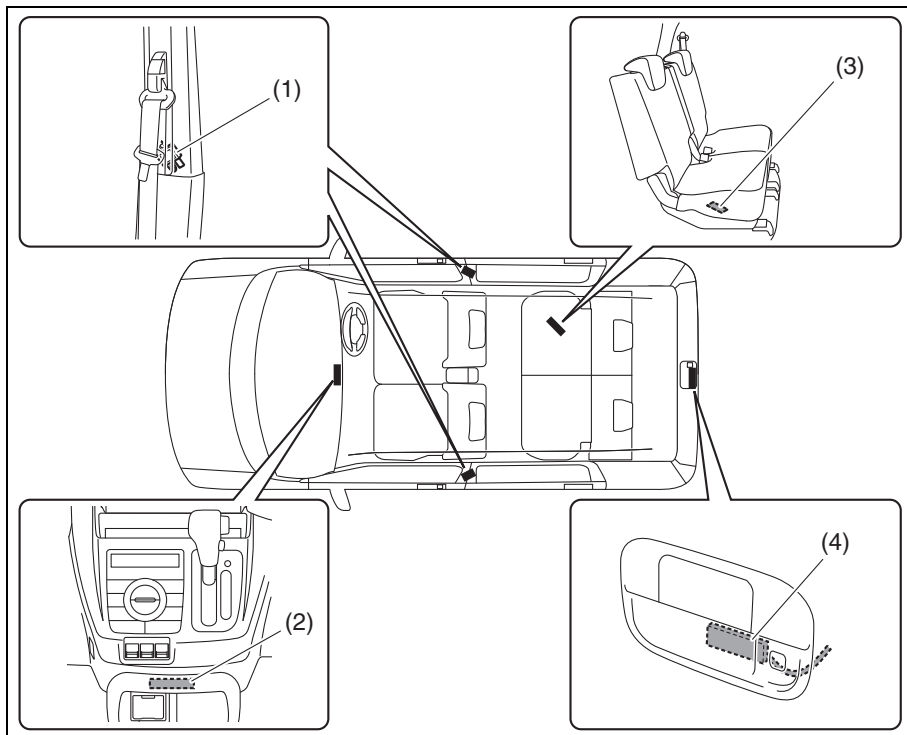
⚠ 警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アドバンスキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車の各発信機（下図参照）から約 22 cm 以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、アドバンスキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。
- 詳しくは、マツダ販売店にお問い合わせください。

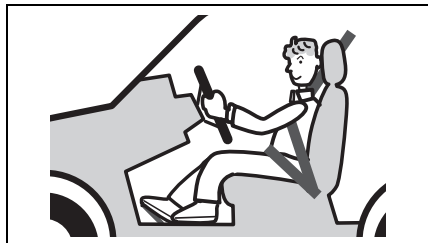


65P20010

- (1) 前席ドア車外発信機（※イラストは運転席ドア側）
- (2) 車室内発信機
- (3) 荷室発信機
- (4) バックドア車外発信機

運転席にすわって

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に



80J014

⚠ 警告

- 走行中にハンドルの調節やシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 3-29ページ

(チルトステアリング)

→ 3-30ページ (前席シート)

→ 3-24ページ

(ルームミラー、ドアミラー)

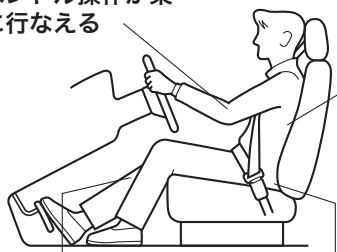
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすきまのないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。

背中を背もたれに軽くつける
ひじが軽く曲がりハンドル操作が楽に行なえる



ひざが伸びきらずペダル類を踏むときに余裕がある

シートに深くすわる

82K185

⚠ 警告

背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

シートベルトは正しく着用

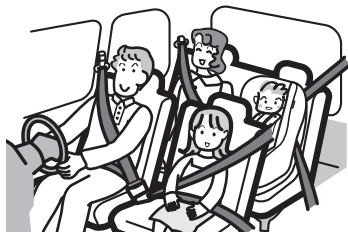


- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。
→ 2-13ページ（正しい運転姿勢）

⚠ 警告

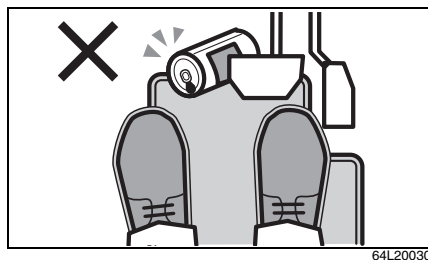
- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。



81M20040

運転席の足元付近にもものを置かない

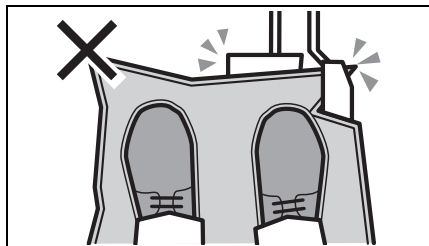


64L20030

⚠ 警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなつて思わぬ事故につながるおそれがあります。

車にあったフロアマットを
適切に使用する



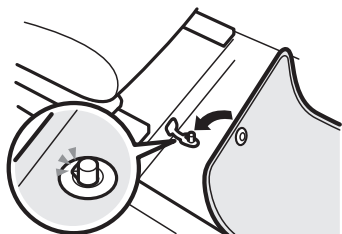
64L20040

⚠ 警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- 足元の形にあわないフロアマットを使わない
- フロアマットを重ねて敷かない
- フロアマットは固定具などで確実に固定する

マツダ純正フロアマットの例



64L2019A

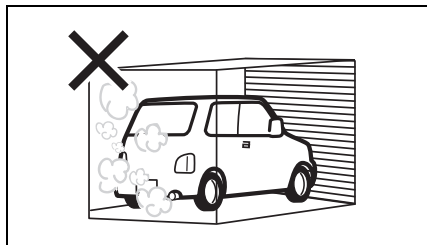
※ 運転席および助手席側のフロア（カーペット下）には、マツダ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。

📌 アドバイス

この車専用のマツダ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

エンジンをはけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない

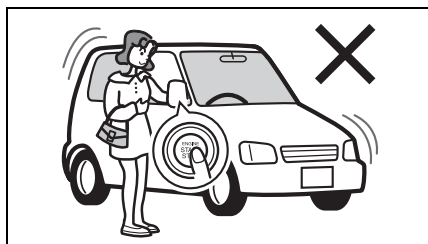


80J010

⚠ 警告

- 車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。
- 車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替を外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

窓越しのエンジン始動はしない



81M20030

運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

警告

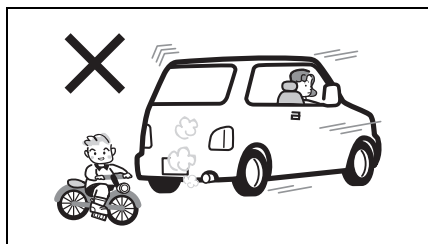
窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 4-8ページ

(エンジンのかけかた)

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

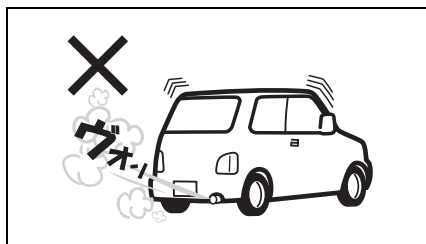


80J025

注意

- 周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。
- バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車から降りて自分の目で後方を確認してください。

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない



80J064

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。

→ 2-36ページ

(エコドライブをしましょう)

注記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

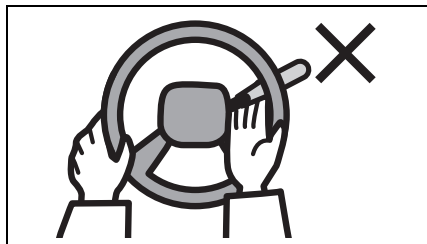


80J071

警告

- 運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを操作しないでください。電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は、走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

警告

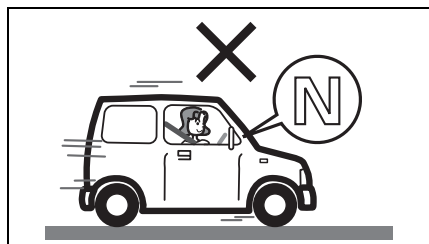
ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

走行中はニュートラルにしない




▲ 注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーをニュートラルに入れしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

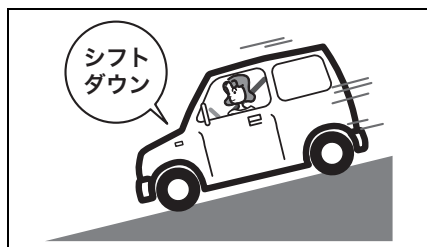
長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度にあわせて、次のようにシフトダウンします。

- S（スポーツ）モードスイッチを ON にするか、セレクトレバーを  にします。

→ 4-13ページ

（セレクトレバーの操作）

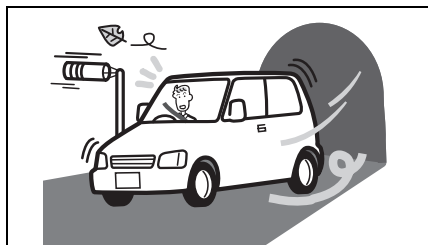
※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。



▲ 警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

横風が強いときは



72J20330

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

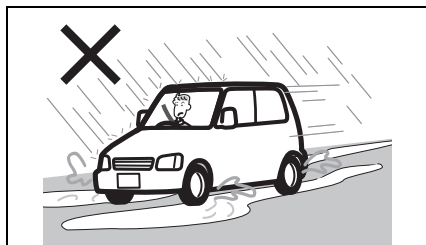


80J039

⚠ 注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンプレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

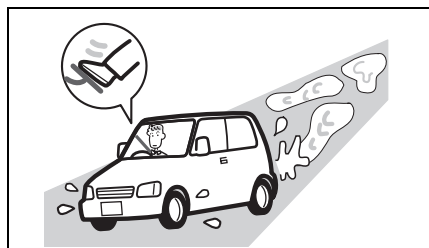


72J20350

⚠ 注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない



万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

注記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

スタック（立ち往生）したときは

- むかのみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - セレクトレバーを確実にに入れてからアクセルを軽く踏んでください。
 - 数回行っても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。

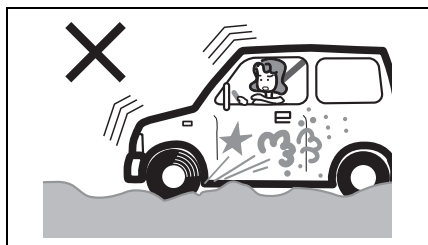
- DSC&TCS 装備車 / グリップコントロール 装備車では、TCS (トラクションコントロールシステム) / グリップコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、DSC&TCS OFF スイッチを操作して TCS (トラクションコントロールシステム) / グリップコントロールを作動停止の状態にしてください。
 - 4-28 ページ
(DSC&TCS 装備車の取扱い)
 - 4-34 ページ
(グリップコントロール)

警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注記

タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



80J043

こんなときどうする？

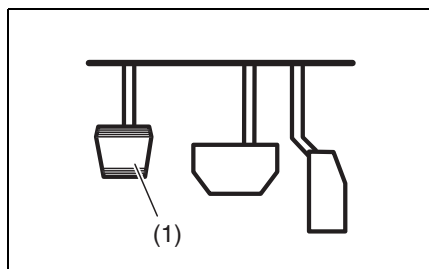
- 警告灯が点灯したら？
警告メッセージが表示されたら？
ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
 - 1-10 ページ (警告灯・表示灯)
 - 3-94 ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)
- 床下に強い衝撃を受けたら？
ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、マツダ販売店にご連絡ください。
- タイヤが突然パンクしたら？
ハンドルをしっかりと握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
 - 7-2 ページ (パンク)
- ブレーキペダルが重く感じたら？
車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じるがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて

■ 平らな場所に駐車するときは

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。



(1) パーキングブレーキペダル

- 2 セレクトレバーを **P** に入れます。
 - ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。→ 4-13ページ
(セレクトレバーの操作)

▲ 注意

- 平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のため、セレクトレバーを **P** に入れてください。
- 寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。
→ 6-14ページ
(パーキングブレーキ)

■ 坂道に駐車するときは

- 1、2 は、平らな場所で駐車するときと同じ操作です
- 3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

▲ 警告

急な坂道には駐車しないでください。
無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン停止後に冷却ファンが作動することがあります

エンジン冷却水温が高い場合、エンジンを停止させたあとでもエンジンルーム内の冷却ファンが駆動しますが、異常ではありません。冷却水の温度が下がると、自動的にファンが停止します。

▲ 注意

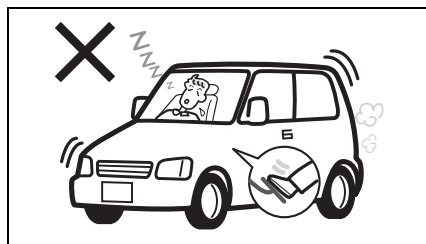
動いているファンに近づかないでください。手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

▲ 注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない

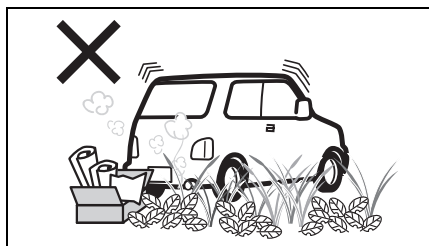


72J20400

▲ 警告

- 周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。

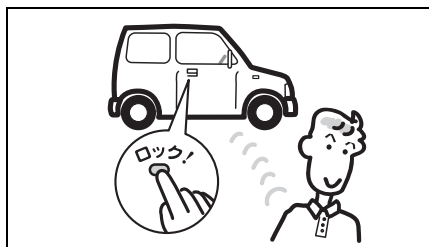
燃えやすいものの近くに駐車
しない



⚠ 警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

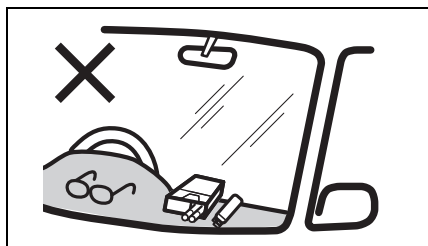
⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置
しない



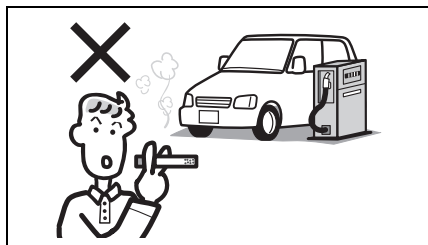
⚠ 警告

- 炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。
- 操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすきまに落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。

給油するときは

→ 5-2ページ（燃料給油口）

火気に気をつけて



80J020

⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。

- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するとき

⚠ 警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。

また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。

- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。

- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

警告

- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。
- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。



80J1005

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示にしたがってください。

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- そのほか、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他の燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を
運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。4-13ページの「オートマチック車」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

クリーブ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクタレバーが [P] [N] 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリーブ現象といいます。

注意

- セレクタレバーを [P] [N] 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリーブ現象が強くなる場合があります。とくにしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

⚠️ アドバイス

CVT車もクリーブ現象があります。

R (リバース) ポジション
警告ブザー

セレクトレバーを **R** に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが **R** に入っていることを運転者に知らせます。

⚠️ アドバイス

R (リバース) ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

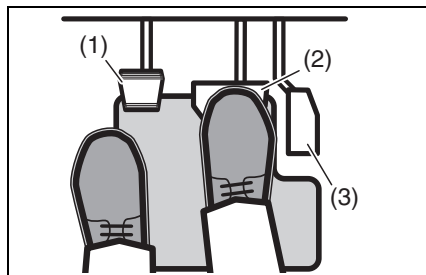
ペダルの踏み間違いに注意

⚠️ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



81M20060

- (1) パーキングブレーキ
- (2) ブレーキペダル
- (3) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するとき

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **R** に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに **R** から **N** に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

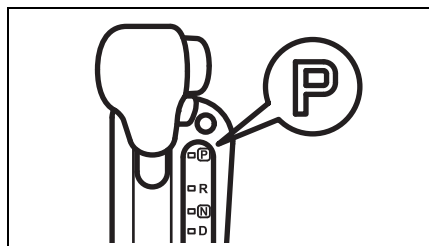
⚠️ 警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は **P**、前進時は **D**、後退時は **R** に入っていることを目で確認してください。

車から離れるときは



70K30010

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが **P** 以外に入っていると、車がひとりで動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-45** ページの「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



65J106

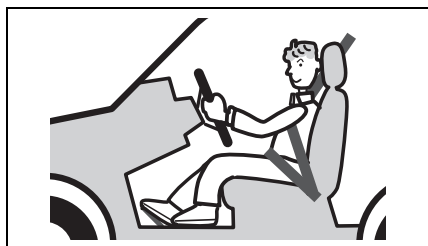
⚠ 警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートを前方に調節してください。

→ 2-13ページ (正しい運転姿勢)

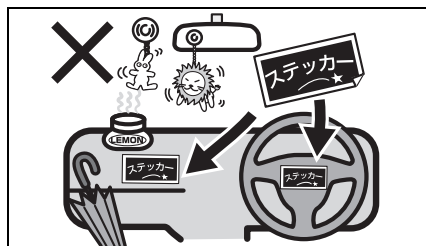


80J014

⚠ 警告

ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために



66K20540

⚠ 警告

- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。
- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。
- フロントガラスやルームミラーにアクセサリなどを取り付けしないでください。

助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル

助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。このラベルは、助手席 SRS エアバッグが作動したときにお子さま用シートにあたえる影響と、お子さま用シートの取り付けに関する禁止事項を示しています。この車の助手席にお子さま用シートを取り付ける場合は、警告ラベルの説明および参照先の項目をよくお読みになり、適切に取り付けてください。



72M00150

警告ラベルの説明

シンボルマーク	シンボルマークの意味
	助手席 SRS エアバッグ 装備車の助手席に、後ろ向きのお子さま用シートを取り付けて、お子さまを乗せることを禁止
	助手席 SRS エアバッグ がふくらむと、後ろ向きのお子さま用シートおよびお子さまに強い衝撃が加わることを表示
	詳しくは、取扱書（本書）を読むことを指示 → 2-8 ページ（お子さま用シートの使用について） → 3-53 ページ（お子さま用シートの選択について）

警告

助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。



67H20440

4WD車を運転するときは

4WD車には特有の操作上の注意があります。正しい取扱いをしてください。

路面の状況に注意して走行する

▲ 注意

4WD車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- 砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。
- 渡河走行や水中走行をしないでください。



80J042

ターボ車を運転するときは

ターボ車には特有の注意があります。次の内容をよく読み、正しい取扱いをしてください。

ターボ車の取扱い

ターボとは、通常のエンジンより大きな馬力を引き出す精密装置です。ターボ装置内のタービン（羽根）が、排気ガスの圧力で超高速回転することで、エンジンに多量の圧縮空気を送り込みます。タービンを含むターボ装置は700℃以上の高温になり、その潤滑と冷却はエンジンオイルによって行なわれています。

ターボ装置の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは定期的に交換してください。劣化したオイルのまま運転を続けると、ターボ装置の潤滑と冷却が適切に行なわれず、タービン軸受部の固着や異音の原因となります。
- 2-35ページ（エンジンオイルを交換するときは）

- 高速走行直後や登坂走行直後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

次の表にしたがってアイドリング運転を行ない、高温になったターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。

エンジン停止直前の走行状況	アイドリング運転時間の目安
高速走行、登坂走行	約1分（※）
市街地、郊外などの一般走行	不要

※アイドリングストップシステム装備車の場合、エンジンが自動停止するときはターボ装置が所定温度内にあるため、アイドリング運転は不要です。

- エンジンが冷えているときに、空ぶかしや急加速をしないでください。

注記

前記にしたがって適切に取り扱わないと、ターボ装置の故障や破損の原因となります。

こんなことにも注意して

車検を受けるときの注意

テスターに載せる場合は、DSC&TCS OFFスイッチを操作して、次の機能を作動停止（OFF）の状態にしてください。

→ 4-30ページ

（DSC&TCS OFFスイッチ）

- TCS（トラクションコントロールシステム）および DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）
- レーダーブレーキサポート（RBS）
- 誤発進抑制機能
- グリップコントロール

詳細については、マツダ販売店にご相談ください。

⚠️ アドバイス

RBS OFF スイッチを操作しても、DSC&TCS は作動停止（OFF）しません。

外装部品に力をかけすぎない

注記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

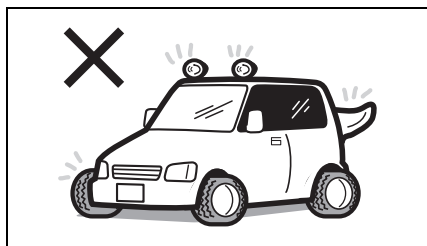
段差などに注意して

注記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- 路肩など段差がある場所への乗り入れ
- わだちやくぼみなどがある道路の走行

不正改造はしない



64L20170

警告

- この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、不正改造になったりすることがあります。

- 無線機、ナビゲーション、オーディオ、ETC車載器などの電気製品の取り付け、取り外しをするときは、マツダ販売店にご相談ください。また、バッテリー端子から電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品のはたらきをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールナットは車両に合った正しいものをご使用ください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

注記

ディスチャージヘッドライト装備車では、次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）
- 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着

部品の取り付け、取り外し、修理をするときは

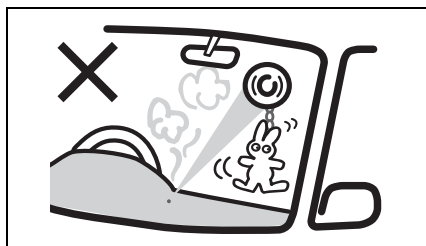
⚠ 警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。

次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にマツダ販売店にご相談ください。

- ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
- センターコンソールの修理、インパネまわり、前席下の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取り付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席の交換およびシートまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取り付けに気をつけて



80J069

⚠ 警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーが飛んでけがのおそれがあります。

飲み物などをこぼしたときは

⚠ 警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

- SRSエアバッグシステム
- ナビゲーションまたはオーディオ
- スイッチ、配線などの電気部品
- セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分

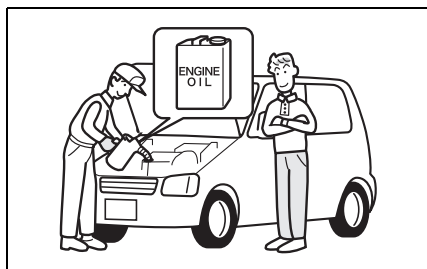
エンジンオイルを交換するとき

■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは**10,000 km**（ターボ車は**5,000 km**）ごと、または**6か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**10,000 km**ごとに交換してください。
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
→ **メンテナンスノート**

注記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、マツダ販売店へお申し付けください。



54M3143

■ エンジンオイルの規格/粘度

使用するエンジンオイルにより燃費などの性能は左右されるため、次の表1、表2をそれぞれみたますオイルを使用してください。オイルは、マツダ純正オイルのご使用をおすすめします。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**

表1

規格		オイル性能
API(※1)/ ILSAC(※2)	SN/GF-5	
	SM/GF-4	
	SL/GF-3	

表2

規格	ターボなし車	ターボ車
SAE粘度 (※3)	0W-20	5W-30

- ※1 API規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格でエンジンオイルの品質グレードを表しています。
- ※2 ILSAC規格とは、国際潤滑油標準化認証委員会が定めた自動車用エンジンオイルの規格で、API規格をベースに省燃費・耐久性などの性能がさらに優れたオイルであることを示します。
- ※3 SAE粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。
左側の数字(Wの付く数字)は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強く、エンジンの保護性能に優れています。

📌 アドバイス

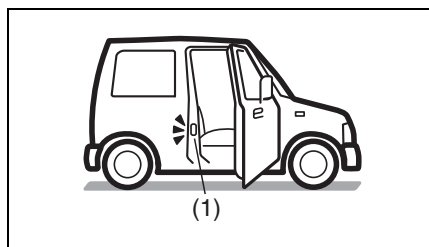
0W-20は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。
(ターボなし車)

エコドライブをしましょう

- 3-63ページ（ステータスインフォメーションランプ）
- 3-84ページ（エコ運転表示機能）

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開閉部に貼付してある「空気圧ラベル」(1)で確認のうえ、調整してください。



不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行なってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（ -10°C 以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

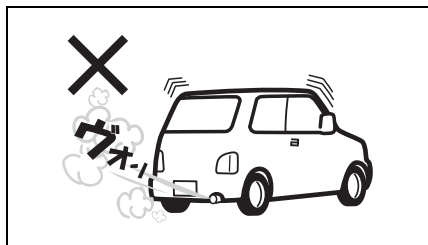
アドバイス

状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5分間で160 mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



空ぶかしをしない



80J064

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

3. 運転する前に

● ドアの開閉

キー	3-2
キーレスエントリー	3-4
携帯リモコン	3-6
ドア	3-12

● 警報装置

セキュリティアラーム（警報装置）	3-17
------------------	------

● ウィンドーの開閉

パワーウィンドー	3-20
----------	------

● 各部の調節

ルームミラー	3-24
ドアミラー	3-25
チルトステアリング	3-29

● シートの調節

前席シート	3-30
後席シート	3-33
シートの便利な使いかた	3-35

● シートベルト

シートベルトについて	3-39
シートベルトの着用のしかた	3-41
シートベルトの取扱いとお手入れ	3-43
シートベルトプリテンショナー（前席のみ）	3-44
シートベルト可変ロードリミッター （前席のみ）	3-45

- **SRSエアバッグ**
 - SRSエアバッグ車を運転するときは…………… 3-45
 - SRSエアバッグシステムの取扱い…………… 3-47
 - SRSエアバッグシステムの作動…………… 3-49
 - SRSエアバッグ警告灯…………… 3-52
 - 廃棄と廃車…………… 3-52
 - イベントデータレコーダー（EDR）とは…………… 3-52

- **お子さま用シート**
 - お子さま用シートの選択について…………… 3-53
 - お子さま用シートのシートベルトによる固定… 3-58
 - ISOFIX対応お子さま用シートの固定…………… 3-60

- **メーター**
 - メーターの見かた…………… 3-63
 - 警告灯・表示灯の見かた…………… 3-64
 - マルチインフォメーションディスプレイ…………… 3-77

- **スイッチの使いかた**
 - ライトスイッチ…………… 3-102
 - フォグランプスイッチ…………… 3-104
 - 方向指示器スイッチ…………… 3-104
 - 非常点滅表示灯スイッチ…………… 3-105
 - ワイパー／ウォッシャースイッチ…………… 3-105
 - ホーンスイッチ…………… 3-107

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界がありません。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

キー

キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。

警告

携帯リモコンを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

※携帯リモコンは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

アドバイス

盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにマツダ販売店にご相談ください。

注記

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- インパネの上などの高温になるような場所に置かない
- 落下させるなどして、強い衝撃をあてない
- 水洗いをしたり、水中に入れたりしない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない
- テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

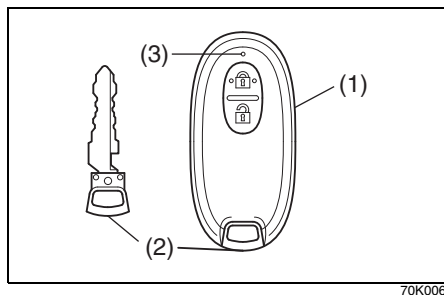
- キーはドアの施錠・解錠に使えますが、エンジンの始動・停止には使えません。エンジンの始動・停止には携帯リモコンをご使用ください。

→ 4-8ページ

(エンジンのかけかた)

- 携帯リモコン (1) が2個、リモコンに格納可能なキー (2) が2本ついてきます。

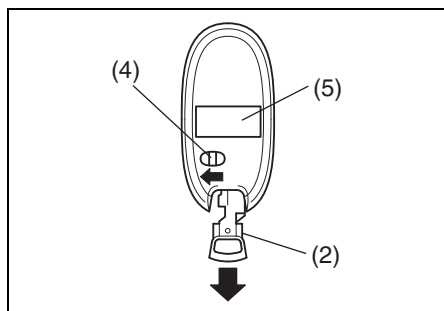
→ 3-6ページ (携帯リモコン)



70K006

(3) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー (2) は、ロック解除レバー (4) を ← 方向に引きながら取り出します。



82K283

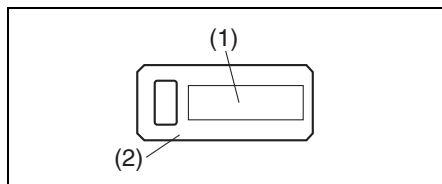
(5) 適合証明マーク

アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- キーのご購入については、マツダ販売店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレート (2) には、キー作成時に必要なキーナンバー (1) が打刻されています。



80J1008

アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、マツダ販売店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

キーレスエントリー

車から約2 m以内の範囲で、携帯リモコンの操作部を押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。

警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

注記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- インパネの上などの高温になるような場所に置かない
- 落下させるなどして、強い衝撃をあたえない
- 水洗いをしたり、水中に入れたりしない

アドバイス

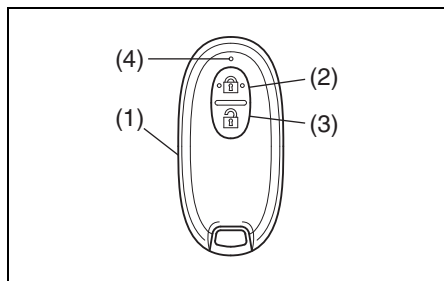
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 携帯リモコンでドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。

→ 6-8ページ

(携帯リモコンの電池交換)

- 携帯リモコンを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、マツダ販売店にご相談ください。

構成



70K018

- (1) 携帯リモコン
- (2) 操作部(ロックスイッチ)
- (3) 操作部(アンロックスイッチ)
- (4) 作動表示灯

⚠️ アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
 - いずれかのドアが開いていると、施錠できません。(解錠はできます)
 - 車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴ります。
 - エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のとき。
- 1台の車両で、4個の携帯リモコンまで登録できます。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定 (工場出荷時)		設定切替え時	
	ロック (施錠)	アンロック (解錠)	ロック (施錠)	アンロック (解錠)
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅	/	/
室内灯 (スイッチがDOOR位置)	/	約10秒間点灯	2回点滅	約10秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約10秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。
→ **5-7ページ (室内灯)**
- アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車の場合、車外ブザーも鳴ります。

アンサーバック機能	初期設定 (工場出荷時)		設定切替え時	
	ロック (施錠)	アンロック (解錠)	ロック (施錠)	アンロック (解錠)
車外ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴	/	/

- 解錠したとき車幅灯と尾灯も15秒間点灯します。また、フォグランプ装備車は、フォグランプスイッチがONの位置にあるとフォグランプも点灯します。

アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、マツダ販売店にご相談ください。
- アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車は、リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。また、次の合図が別々にカスタマイズできます。
 - 非常点滅表示灯／室内灯による合図
 - 車外ブザーによる合図

3

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。（警報なしモード時を除く）
→ 3-17ページ
（セキュリティアラーム）

アドバイス

アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車は、リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

携帯リモコン

すべてのドアが閉まっているときに、前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチを押すと、所持している携帯リモコンが車両と電波で通信を開始し、照合がとれるとドアの施錠・解錠が可能となります。

また、そのほかに次の機能があります。

- キーレスエントリー
→ 3-4ページ（キーレスエントリー）
- エンジンスイッチによる始動および電源の切替え
→ 4-5ページ（アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム）
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
→ 4-4ページ
（イモビライザーシステム）

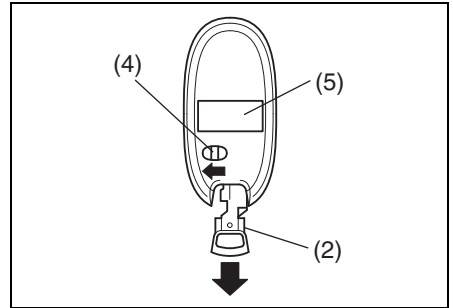
注記

携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話やほかのリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにマツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
 - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
 - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
 - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
 - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
 - コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

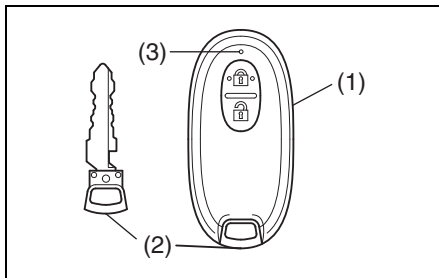
- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ← 方向に引きながら取り出します。



82K283

(5) 適合証明マーク

携帯リモコン（1）が2個、リモコンに格納可能なキー（2）が2本ついています。



70K006

(3) 作動表示灯

⚠ 注意

携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。

注記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- インパネの上などの高温になるような場所に置かない
- 落下させるなどして、強い衝撃をあたえない
- 水洗いをしたり、水中に入れたりしない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない
- テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

📌 アドバイス

- 適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。
- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 1台の車両で、4個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりですが約2年です。
→ 6-8ページ
(携帯リモコンの電池交換)
- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。
(テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど)
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、マツダ販売店にご相談ください。

■ 携帯リモコン電池消耗警告

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを **ON** にしたときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。電池交換のうえ、警告をリセットしてください。

- 3-94 ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)
- 6-8ページ
(携帯リモコンの電池交換)

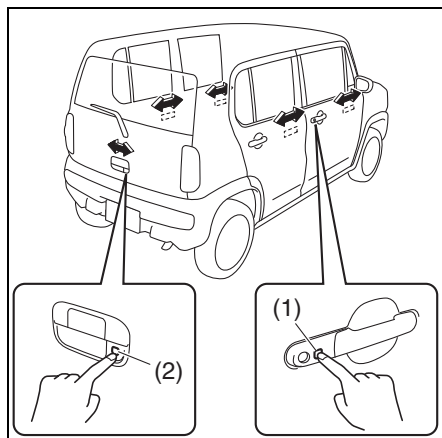
🔧 アドバイス

設定の切替え (カスタマイズ) をすると、メッセージを表示させなくすることもできます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

リクエストスイッチによる ドアの施錠・解錠

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「リクエストスイッチの作動範囲」(3-10 ページ参照) に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



65P30010

- (1) 前席ドアのリクエストスイッチ
- (2) バックドアのリクエストスイッチ

警告

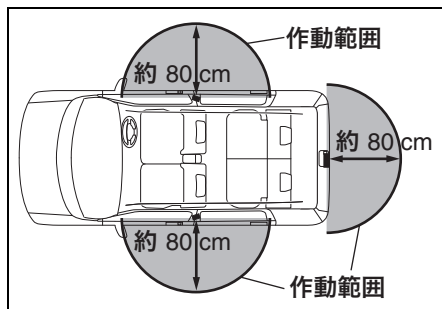
火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

アドバイス

- 次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
 - いずれかのドアが開いている
 - エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のとき
- リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。
 - 3-5ページ (アンサーバック機能)
 - 3-6ページ (タイマーロック機能)
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

リクエストスイッチの作動範囲 (車外)

前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチ付近から半球状に周囲約80 cm以内です。



82K266

アドバイス

- 「リクエストスイッチの作動範囲」で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
 - 携帯リモコンの電池が消耗している
 - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
 - 携帯リモコンが金属製のものと接触していたり、覆われていたりしている
 - 携帯リモコンがドアに近づきすぎている
 - 携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあたりして、リクエストスイッチから離れている
- 車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

リクエストスイッチ未作動 警告ブザー

次のようなときは車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴って、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。

- エンジンスイッチが **ACC** または **ON** の状態で、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
 - 携帯リモコンを車内に置き忘れている
 - いずれかのドアが開いている
→ **3-70ページ (半ドア警告灯)**

エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認してから、再度リクエストスイッチを押してください。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

「キーを使わない施錠」(3-15ページ参照)で、携帯リモコンを閉じ込んでしまうのを防止する機能です。

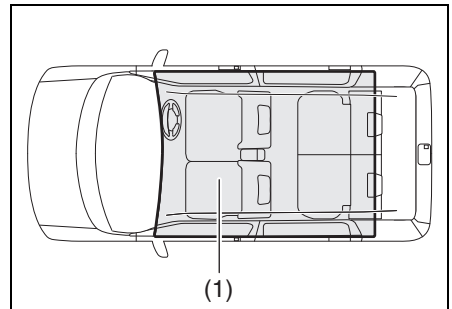
- 携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、「キーを使わない施錠」ですべてのドアを施錠しようとする、自動的にすべてのドアが解錠されます。

アドバイス

- 「キーを使わない施錠」をするときは、携帯リモコンが手元にあるか確認してください。リモコンを閉じ込むおそれがあります。
- エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。
- 鉛バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。

リクエストスイッチ未作動警告 ブザー/携帯リモコン閉じ込み 防止機能の検知範囲 (車内)

「車内の検知範囲」(1)は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



81M40230

アドバイス

- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
 - 携帯リモコンの電池が消耗している
 - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
 - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
 - 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある
 - 5-9ページ
(インパネ収納スペース)
 - 5-12ページ
(ドリンクホルダー)
 - 5-15ページ
(そのほかの装備)
- 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある
- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。
 - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
 - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

ドア

警告

- ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

注意

- ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。
- ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。
- バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。

アドバイス

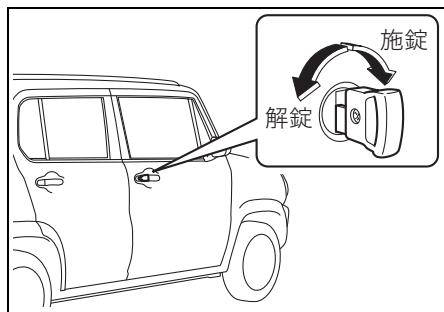
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。
→ 3-17ページ
(セキュリティアラーム)

キー操作による車外からの
施錠・解錠

- 3-4ページ (キーレスエントリー)
- 3-6ページ (携帯リモコン)

■ 運転席ドア

キーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

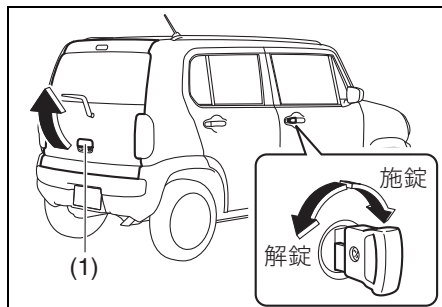


65P30020

■ バックドア

運転席ドアにキーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

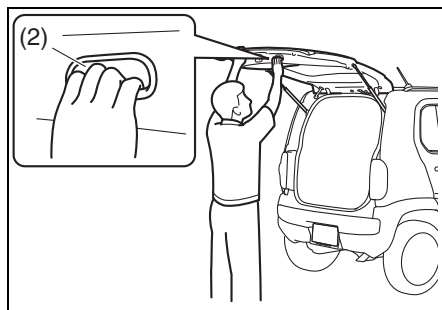
- バックドアを開けるときは、解錠後、ドアハンドル (1) を手前に引きながらドアを持ち上げます。



65P30030

バックドアを閉めるときは

ドア下面右側の手かけ部 (2) を持って引き下げます。最後はドアを外側から手で、少し勢いをつけて押し付けます。

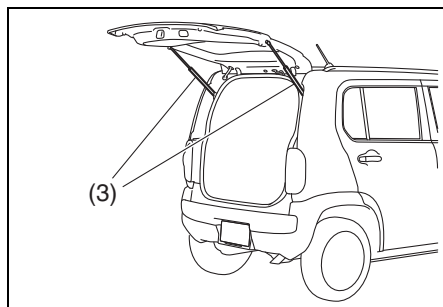


65P30040

⚠ 注意

バックドアをささえているダンパーステー (3) の損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。ステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに、保持できなくなったりするおそれがあります。

- ステーのロッド部 (ドア開閉時に摺動する棒部分) に傷をつけたり、泥やビニール片、テープなどの異物を付着させたりしないでください。
- ステーに手をかけたり、ものをかけたりしないでください。

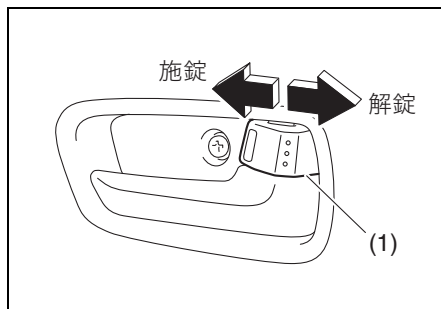


65P30050

車内からの施錠・解錠

■ 前席ドア、後席ドア

ドアを閉めてロックレバー (1) を施錠側 (車の前方向) にすると施錠、解錠側 (車の後ろ方向) にすると解錠できます。



65P30060

⚠ アドバイス

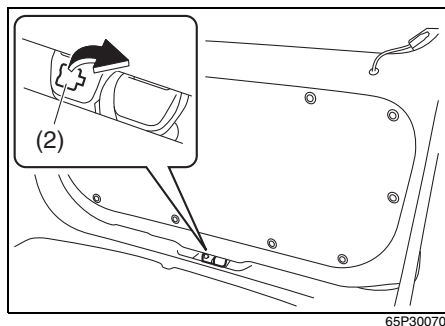
解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

■ バックドア

故障や鉛バッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

緊急を要するときは、次の手順で解錠すると同時にドアを開けることができます。

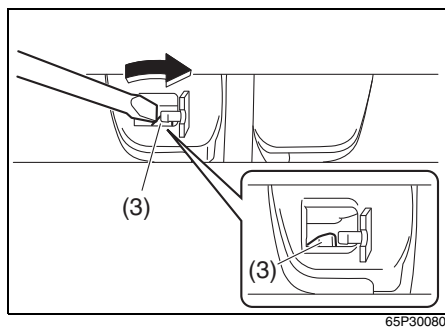
- 1 バックドアのロック機構部にあるカバー (2) を開きます。



⚠️ アドバイス

カバーは小さい部品のため、紛失にご注意ください。

- 2 レバー (3) をマイナスドライバー (市販品) などで図の矢印方向に操作すると、バックドアが解錠と同時に開きます。



キーを使わない施錠

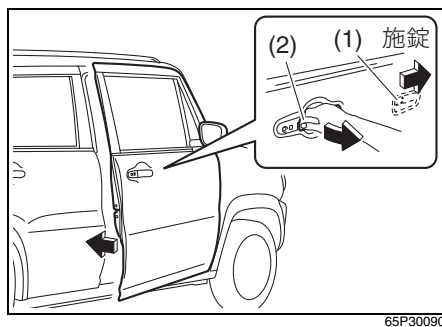
⚠️ アドバイス

- 「キーを使わない施錠」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込むおそれがあります。
 - 次のような状況では、「キーを使わない施錠」ができない場合があります。
 - 携帯リモコンが車内にある
 - エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のとき
- 3-11ページ
(携帯リモコン閉じ込み防止機能)

3

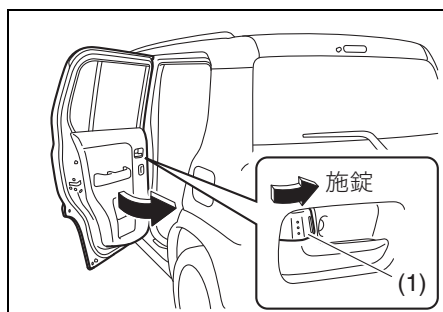
■ 前席ドア

ロックレバー (1) を施錠側 (車の前方向) にして、ドアハンドル (2) を引いたままドアを閉めると施錠できます。



■ 後席ドア

ロックレバー (1) を施錠側 (車の前方) にして、ドアを閉めると施錠できます。

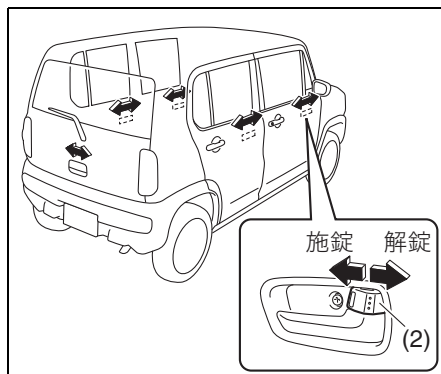
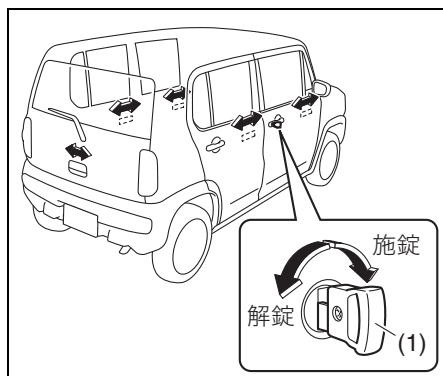


3

キーまたはロックレバー操作によるパワードアロック

- 3-4ページ (キーレスエントリー)
- 3-6ページ (携帯リモコン)

運転席ドアをキー (1) またはロックレバー (2) 操作で施錠・解錠すると、助手席/後席/バックドアも同時に施錠・解錠します。



⚠️ アドバイス

アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム装備車の場合、いずれかのドアが開いていると、キーまたは運転席ドアのロックレバー操作で施錠できない場合があります。

- 3-11ページ (携帯リモコン閉じ込み防止機能)

■ ドアロック解除機能

衝突などで SRS エアバッグが作動すると、自動的にすべてのドアロックを解除します。

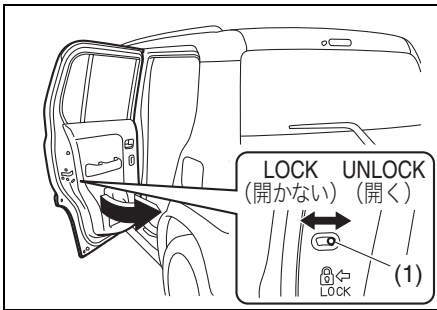
⚠️ アドバイス

エアバッグが作動したときでも、ドアロックモーターの配線やモーター自体が損傷した場合は、ドアロック解除機能が作動しません。

チャイルドブローフによる 施錠・解錠

車内から後席ドアが開かないようにできます。お子さまなどによるドア誤開放を防止するために使用してください。

- 後席ドアにあるレバー (1) を **LOCK** (開かない) の位置にして、ドアを閉めます。車内からはドアが開きません。
- 外からドアを開けることは可能です。



⌄m アドバイス

万一、車内から開ける場合は、窓から手を出して外側のドアハンドルをご使用ください。

セキュリティアラーム (警報装置)

セキュリティアラームは、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、約 20 秒後にセットされます。

セット状態にて、キーレスエントリーまたはリクエストスイッチ以外のもの (※) で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※キーやロックレバーを含む

- 工場出荷時は、<警報モード>になっています。任意で<警報なしモード>に切り替えてください。

→ **3-19ページ**

(モード設定の切替えのしかた)

- 警報を誤作動させたときは

→ **3-18ページ**

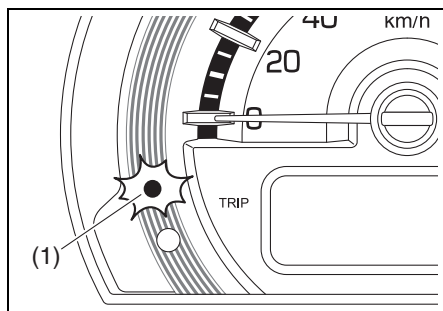
(警報の停止のしかた)

⌄m アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。キーを使ってドアを解錠すると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを<警報なしモード>に切り替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた (警報モード時)

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠してください。セキュリティアラームインジケーター(1)が小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。セット中は、セキュリティアラームインジケーターが2秒間隔で点滅します。



65P30130

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人々がロックレバーで解錠し、ドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、アラームがセットされません。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。(警報なしモード時を除く)

→ 3-6ページ

(タイマーロック機能)

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、エンジンスイッチを **[ON]** にしてください。警報を途中で停止できます。

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態で鉛バッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを **[ON]** にすると、セキュリティアラームインジケーターが約8秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが4回鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

セキュリティアラームモード

<警報モード>と<警報なしモード>の2つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

<警報モード> (工場出荷時)

非常点滅表示灯が約40秒間点滅するとともに、室内ブザーが約10秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終わると、ホーンが約30秒間断続的に鳴ります。作動中は、セキュリティアラームインジケータも点滅します。

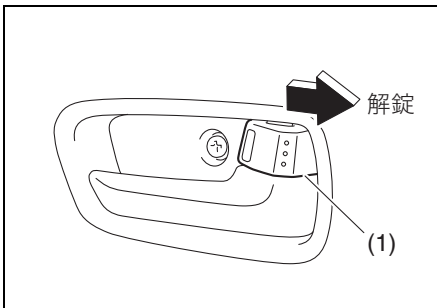
<警報なしモード>

警報は作動しません。

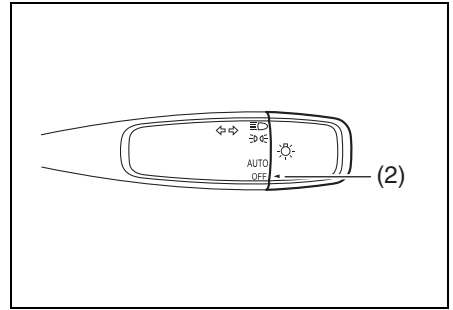
モード設定の切替えのしかた

セキュリティアラームが解除されている状態で、次の手順で切り替えてください。

- 1 運転席にすわり、すべてのドアが閉まっているか確認します。
 - いずれかのドアが開いていると、半ドア警告灯が点灯します。
→ 3-70ページ (半ドア警告灯)
- 2 ロックレバー (1) を解錠側 (車の後ろ方向) にします。ライトスイッチをOFF (2) の位置にします。



81M30280



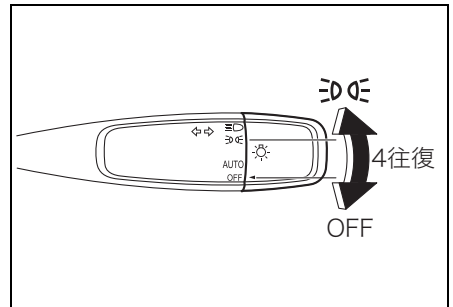
65P3082G

→ 3-102ページ (ライトスイッチ)

3

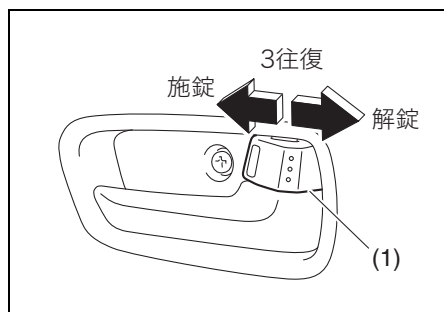
※次の③から④までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

- 3 ライトスイッチを ③ の位置にまわし、OFFの位置にもどします。この操作を4往復行ないます。



65P3083G

- 4 ロックレバー (1) を施錠側 (車の前方向) にし、解錠側 (車の後ろ方向) にもどします。この操作を 3 往復行ないます。



81M30290

前記の手順を行なうと、モード設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

モード設定状態	設定確認ブザー
警報なしモード	1回
	↕
警報モード	4回

- ③から④までの操作が正しく行なわれなかったり、15秒以内にできなかったりしたときは、モード設定が切り替わらず、設定確認ブザーが鳴りません。はじめからやり直してください。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが **ON** のときに、パワーウィンドースイッチ (1) を操作すると、ウィンドーの開閉ができます。



81M30981

警告

- パワーウィンドーは強い力で開閉します。閉めるときは手や首をはさまないように注意してください。
- 窓から手を入れてパワーウィンドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

注意

ウィンドーガラスを開閉するときは、ガラスに触れないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注記

鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

アドバイス

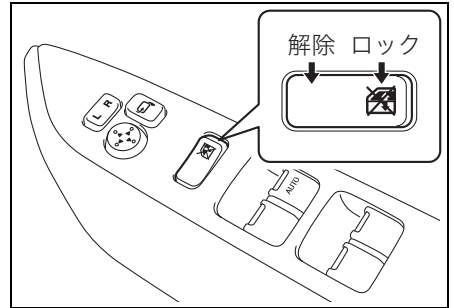
走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にもなる現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。

- 前席ウインドーも開ける。
- 後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。

ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチの **ロック** 側を押すと、助手席/後席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、ウインドーロックスイッチの **解除** 側を押します。



65P30140

3

警告

お子さまにはパワーウインドースイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーロックスイッチを **ロック** 位置にしてください。

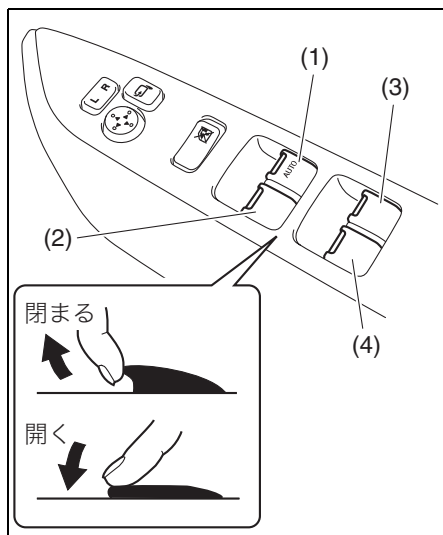
アドバイス

ウインドーロックスイッチが **ロック** 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

運転席で各席のウィンドーの開閉ができます。

- ウィンドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウィンドーはその位置で止まります。（運転席ウィンドーのオート機構を除く）



- (1) 運転席ウィンドースイッチ（オート機構付）
- (2) 助手席ウィンドースイッチ
- (3) 右後席ウィンドースイッチ
- (4) 左後席ウィンドースイッチ

■ 運転席ウィンドーのオート機構

運転席ウィンドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。

途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ 運転席ウィンドーのオフディレイタイマー機能

運転席ウィンドーは、エンジンスイッチを **ON** の位置から **ACC** または **LOCK** (OFF) にしたあとも、30 秒以内は開閉が可能です。

アドバイス

- 30 秒以内でも、運転席ドアを開けて閉めると、運転席ウィンドーの開閉ができません。
- 運転席ウィンドーの開閉が可能な間は、運転席ウィンドースイッチの“**AUTO**”の文字が点灯しています。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウィンドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウィンドーに一定以上の負荷がかかると、ウィンドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まりきる直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などははさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ はさみ込み防止機構の初期設定が必要なとき

次のような場合は、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまう。

「初期設定のしかた」をお読みになり、初期設定を行ってください。

→ **3-23ページ (初期設定のしかた)**

- 鉛バッテリーの端子を外したとき
- 鉛バッテリーあがりがおきたとき
- 鉛バッテリーを交換したとき
→ **7-18 ページ (鉛バッテリーを交換するときは)**
- ヒューズを点検・交換したとき
→ **7-20ページ (ヒューズが切れたときは)**

警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

アドバイス

運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、初期設定を行なってください。

■ 初期設定のしかた

はさみ込み防止機構の初期設定は次の手順で行なってください。

- 1 エンジンを始動します。
- 2 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。
- 3 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。
- 4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。
- 5 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順①～④を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

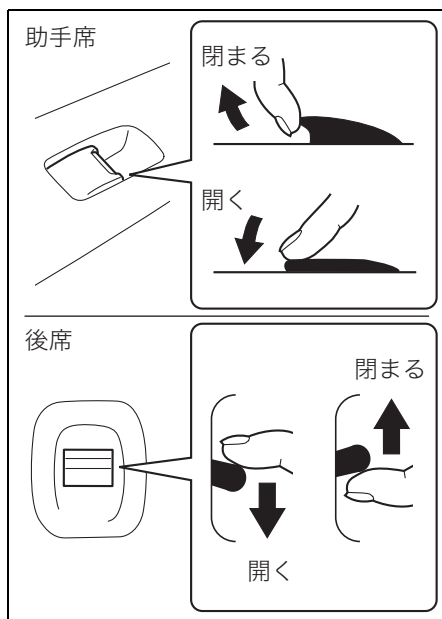
助手席、後席での開閉

自席のウインドーを開閉できます。

- ウィンドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを **ロック** 位置にしてください。

→ **3-21ページ**
(ウインドーロックスイッチ)

3



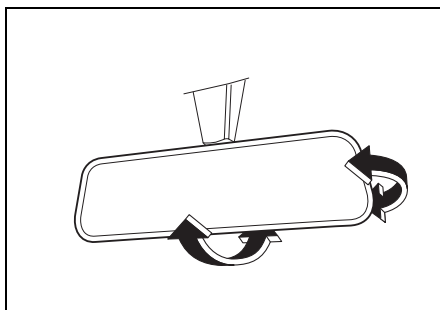
65P30780

⚠️ アドバイス

ウインドーロックスイッチが **ロック** 位置のときは、助手席/後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

ミラーの本体を持って角度を調節します。



⚠️ 警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラー

警告

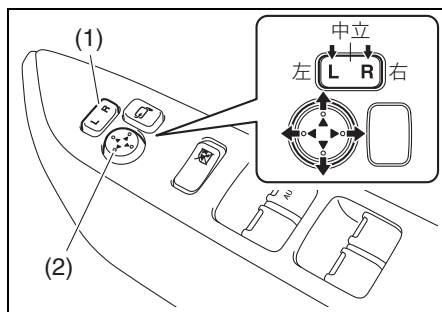
必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

角度の調節

■ ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** の位置にあるときに使用できます。

- 1 左右切替えスイッチ (1) を、調節したいミラーの側に押します。
- 2 角度調節スイッチ (2) を押して、上下左右にミラーを動かします。



65P30170

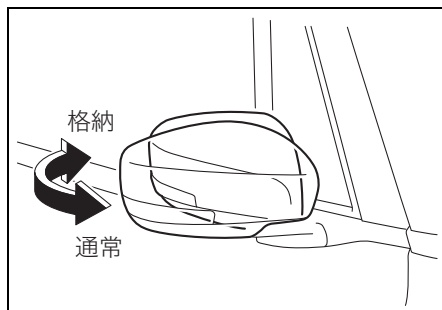
アドバイス

調節後は、左右切替えスイッチを中立の位置へもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に格納できます。

- 電動で格納するときは、次の「ドアミラー格納スイッチ」をお読みください。



65P30180

- 上図のドアミラーは代表例です。お車のタイプにより異なります。

注意

- ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
- ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人やものに当たらないように気をつけてください。

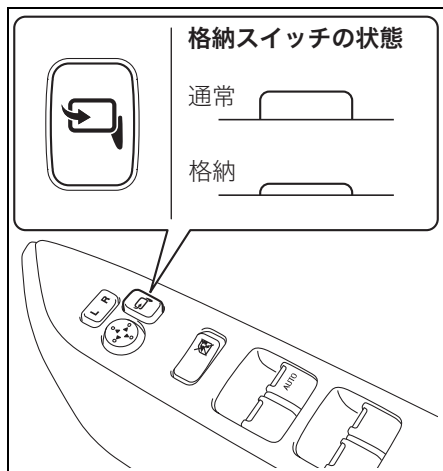
注記

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** の位置にあるときは、手でドアミラーを動かさないでください。故障の原因となります。

■ ドアミラー格納スイッチ

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに使用できます。

- 格納スイッチを押すごとに、格納と通常の位置に切り替わります。



65P30190

- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

▲ 注意

- ドアミラーを動かすときは、次のことに注意してください。けがをしたり、ミラーが破損したりする原因となります。
 - ドアミラーの周囲に人やものがないか確認する
 - 動いているドアミラーに触れない
- 格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常的位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。その場合は、スイッチを通常的位置に押し、確実にドアミラーを固定してください。

注記

ドアミラーが凍結しているときは、手で動かすことが可能かを確認してから、格納スイッチの操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。

→ 6-12ページ (ドアミラーの凍結)

アドバイス

ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。

リモート格納ミラー

タイプ別装備

ドアミラー格納スイッチが通常の位置にあるときは、ドアの施錠やエンジンスイッチの操作と連動して、ドアミラーが自動的に格納と通常の位置に切り替わります。

- リクエストスイッチまたはキーレスエントリーでドアを施錠すると、自動的にドアミラーが格納されます。
→ **3-4ページ (キーレスエントリー)**
→ **3-6ページ (携帯リモコン)**
- 通常の位置にもどすときは、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にします。
- 工場出荷時は、作動する設定になっています。任意で停止に切り替えてください。
→ **3-28ページ (リモート格納ミラーの停止・作動の切替えのしかた)**

注記

ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください。凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ **6-12ページ (ドアミラーの凍結)**

⚠️ アドバイス

- ドアをキーまたはロックレバーで施錠すると、ドアミラーが自動的に格納されません。
- ドアミラー格納スイッチが格納の位置にあるときは、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたときに、ドアミラーが自動的に通常の位置にもどりません。
- タイマーロック機能が作動すると、ドアミラーが自動的に格納されます。
→ **3-6ページ (タイマーロック機能)**

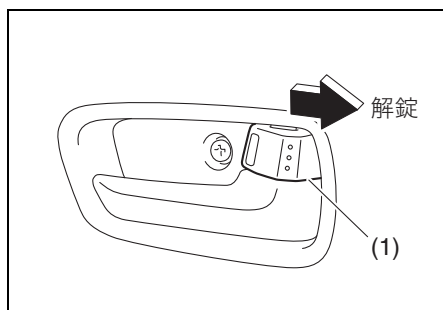
■ リモート格納ミラーの停止・作動の切替えのしかた

エンジンスイッチが **LOCK** (OFF) の位置にある状態で、次の手順で切り替えてください。

1 運転席にすわり、すべてのドアが閉まっているか確認します。

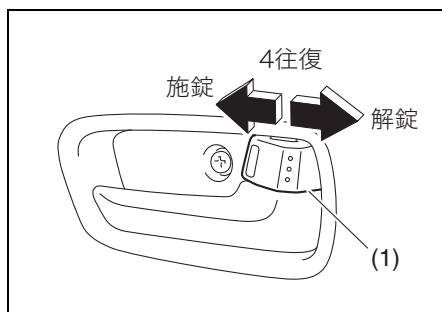
- いずれかのドアが開いていると、半ドア警告灯が点灯します。
→ **3-70ページ (半ドア警告灯)**

2 ロックレバー (1) を解錠側 (車の後ろ方向) にします。



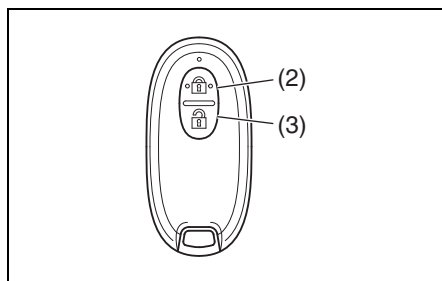
※次の**3**から**4**までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

3 ロックレバー (1) を施錠側 (車の前方向) にし、解錠側 (車の後ろ方向) にもどします。この操作を4往復行ないます。



4 携帯リモコンの操作部を3回押します。

- 操作部はロック/アンロックスイッチのどちらでも結構です。
- 設定切替え中は、操作部を押してもドアの施解錠は行なわれません。



- (2) 操作部(ロックスイッチ)
(3) 操作部(アンロックスイッチ)

前記の手順を行なうと、リモート格納ミラーの設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

リモート格納ミラーの設定状態	設定確認ブザー
停止	1回
	↕
作動	2回

- [3]から[4]までの操作が正しく行なわれなかったり、15秒以内にできなかったりしたときは、設定が切り替わらず、設定確認ブザーが鳴りません。はじめからやり直してください。

ドアミラーヒータースイッチ

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。

→ 5-30ページ

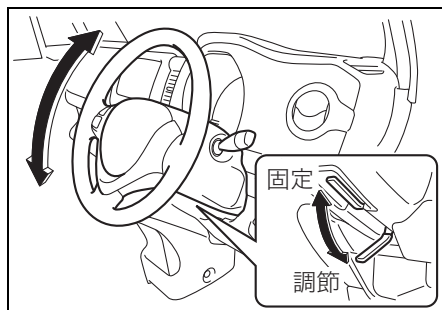
(リヤデフォッガースイッチ)

チルトステアリング

ハンドルの高さ調節

→ 2-13 ページ (ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に)

- 1 ハンドルの固定を解除します。
 - 片手でハンドルをささえながら、ハンドル下のレバーを押し下げます。
- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置に調節します。
- 3 調節後は、ハンドルを固定します。
 - その位置でハンドルを押さえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



65P30200

▲ 注意

調節後はハンドルを上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

前席シート

→ 5-19ページ (アームレスト)

⚠ 注意

- シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
→ 2-13ページ (ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に)
- シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

⚠ 警告

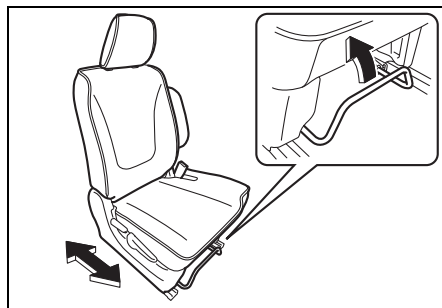
シートの下にものを置かないでください。(助手席のシートアンダーボックス内を除く) ものがはさまって、次のようなことが起きるおそれがあります。

- シートが固定されない
- エネチャージ装備車または S - エネチャージ装備車の助手席下 (シートアンダーボックス下) にあるリチウムイオンバッテリーを損傷する
→ 2-3ページ (バッテリーについて)
- 5-17ページ (シートアンダーボックス)

3

前後位置の調節

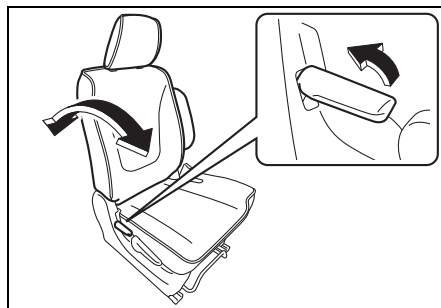
スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。



65P30210

背もたれの角度調節

- 後方に倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中であく軽く押します。
- 前方に起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



65P30220

警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトやSRSエアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

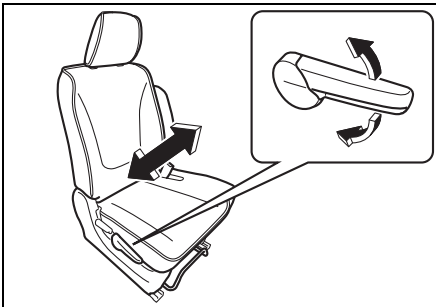
注意

背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方に倒れることがあります。手などを添えて操作してください。

運転席シートの高さ調節

運転席シート右横のレバーを繰り返し操作します。

- レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方に動きます。
- レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方に動きます。



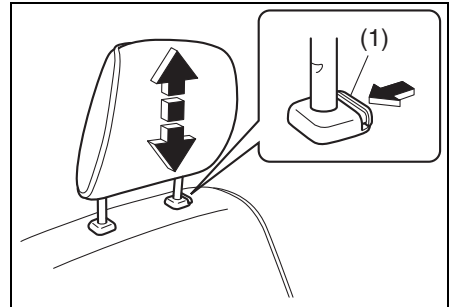
65P30230

**ヘッドレストの高さ調節と
取り外し・取り付け**

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときには、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときには、ロックボタン (1) を押したままヘッドレストを押し下げます。



65P30240

■ 取り外しかた

ロックボタンを押したまま引き抜きます。

警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

警告

ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。

ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

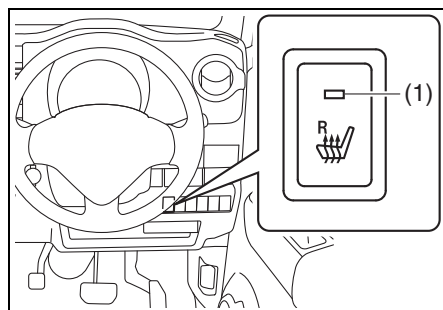
3

運転席シートヒータースイッチ

シート内にあるヒーターで座面をあたためることができます。

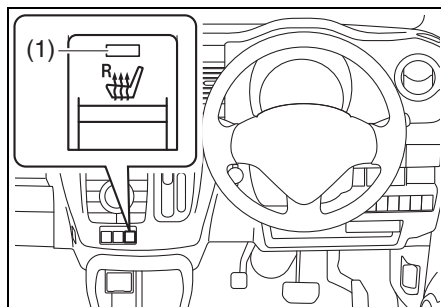
- エンジンスイッチが **ON** のときにスイッチを押すと、ヒーターが作動して、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯します。もう一度押すと、ヒーターが止まります。
- シートがお好みの温度になったら、ヒーターを止めてください。

ヒルディセントコントロール非装備車



65P30251

ヒルディセントコントロール装備車



65P30261

注意

- 長時間ヒーターを使用すると、低温やけど (水ぶくれなど) の原因になります。
- 毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。

注記

- シートの上に重い荷物を置いたり、針や釘などをシートに刺したりしないでください。
- シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。
→ 6-4ページ (内装のお手入れ)
- 水やジュースなどをこぼしたときは、やわらかい布などでふき取り、十分に乾かしてからご使用ください。
- 鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。

↓mアドバイス

ヒーターは自動停止しません。スイッチを切らないと、作動し続けます。

後席シート

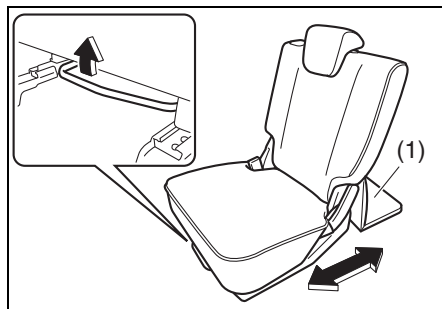
⚠注意

- シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
- シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

前後位置の調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。

- ラゲッジフロアボード (1) も連動して前後に動きますので、ボード上に荷物がある場合はいったん降ろしてからシートを動かしてください。



65P90270

⚠警告

シートの下にものを置かないでください。ものがはさまって、シートが固定されないおそれがあります。

⚠注意

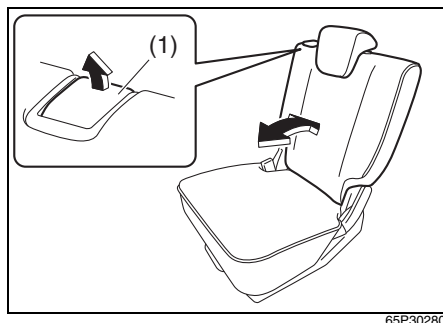
シートを動かすときは、ラゲッジフロアボードに指や手をはさまないようにご注意ください。また、荷物が倒れたり、はさまれたりすることがありますのでご注意ください。

背もたれの角度調節

1 片方の手を背もたれに添え、もう一方の手で背もたれ上面のリクライニングレバー（1）をいっぱい引き上げます。

- シートから降りて操作してください。シートにすわったままリクライニングレバーを引き上げると、背もたれが急に最大角度まで倒れ込むことがあります。
- リクライニングレバーは、いっばいに引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

2 リクライニングレバーを引き上げたまま、背もたれを好みの角度の少し手前まで倒します。



65P30280

3 リクライニングレバーから手を離し、固定される位置まで背もたれを倒します。

警告

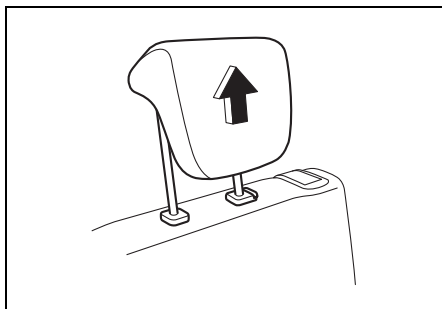
背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

■ 使用時の位置

使用するときには、ヘッドレストを手で持ち上げ、しっかりと固定します。

使用時

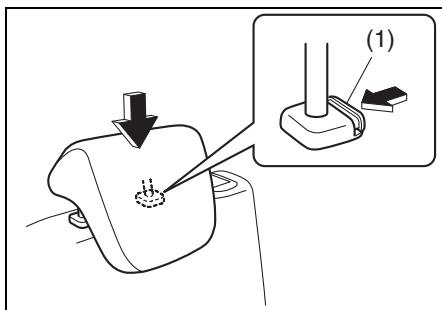


70K30400

■ 収納時の位置

収納するときには、ロックボタン（1）を押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。

収納時



65P30790

■ 取り外しかた

ロックボタン (1) を押したまま引き抜きます。

⚠ 警告

ヘッドレストを外したまま、後席に人を乗せないでください。(お子さま用シートの固定時を除く)

⚠ 注意

お子さま用シートの固定などで取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取り付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠ 警告

- ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

- お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。ヘッドレストが当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

シートの便利な使いかた

荷室を広げるとき(後席シート)

背もたれを前方へ倒すと、荷室が広く使えます。

⚠ 警告

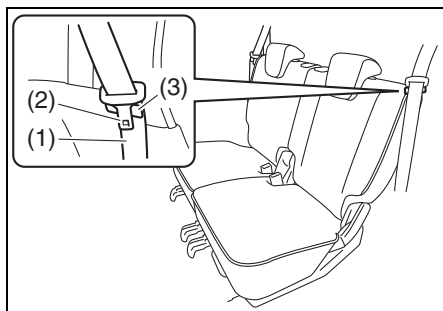
倒した背もたれの上や荷室に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されてけがのおそれがあります。

⚠ 注意

シートを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当たったりしないように気をつけてください。

■ 格納のしかた

- 1 シートベルト (1) およびタンクプレート (2) を図のようにベルトガイド (3) にかけます。



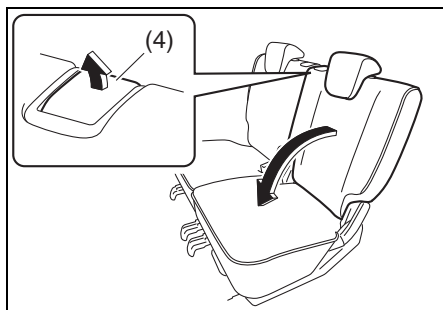
65P30300

- 2 片方の手を背もたれに添え、もう一方の手で背もたれ上面のリクライニングレバー (4) を、いっぱいに引き上げます。

- リクライニングレバーはいっぱい引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

- 3 リクライニングレバーを引き上げたまま、背もたれを前方へ倒します。

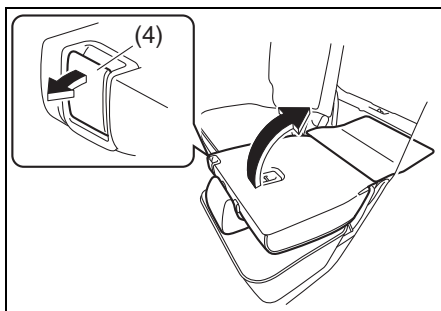
- 後席のヘッドレストが前席に当たる場合は、前席を前方へ動かしてください。



65P30310

■ もとにもどすときは

- 1 リクライニングレバー (4) を車の前方向にいっぱい倒し、そのまま背もたれを少し起こします。



65P30330

- 2 リクライニングレバーから手を離し、固定される位置まで背もたれを起こします。

- 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

長い荷物を積むとき (助手席シート)

後席シートの格納のあとに、助手席の背もたれを前方へ倒すと、より長い荷物が積めます。

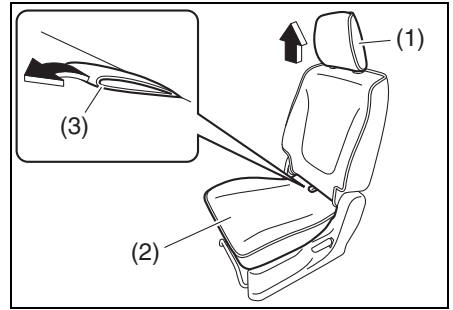
→ 3-35ページ
(荷室を広げるとき (後席シート))

警告

- 前方へ倒した背もたれの上に、人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに投げ出されてけがのおそれがあります。また、シートが破損する原因となります。
- 背もたれを前方へ倒したときは、荷物を確実に固定してください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、荷物が飛び出して身体に当たるおそれがあります。

■ 背もたれの前方への倒しかた

- 1 助手席を後方へいっぱいまでスライドし、ヘッドレスト(1)を外します。
→ 3-31ページ(ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け)
- 2 クッション(2)の後部についているバンド(3)を引き上げて固定を外し、クッションを車の前方向へ起こします。
 - バンドが引き上げにくいときは、背もたれを後方へ倒します。

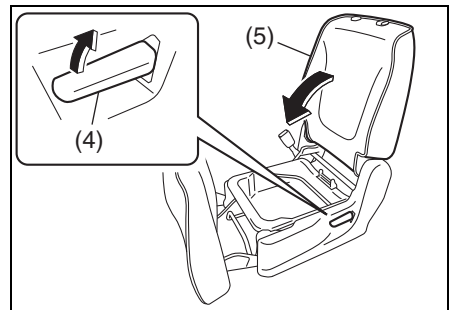


65P30350

注記

前方へ起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

- 3 リクライニングレバー(4)を引き上げ、背もたれ(5)を前方へいっぱいまで倒します。



65P30360

■ もとにもどすときは

「背もたれの前方への倒しかた」と逆の手順で行ないます。

3

フルフラットシート

前席と後席の背もたれを後方へ倒すと、室内に連続的な空間が作れます。

警告

フルフラットにしたシートに、人や荷物を乗せて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されたり、荷物が身体に当たったりして重大な傷害を受けるおそれがあります。

注意

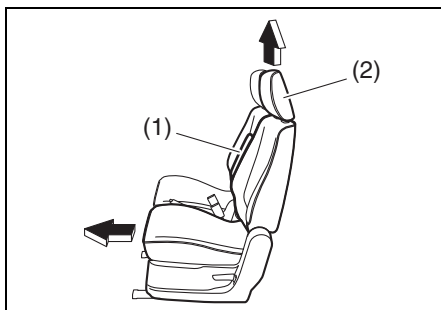
- フルフラットにしたシートの上を歩きまわらないでください。シートから足を踏み外すと、けがのおそれがあります。
- シートをもとにもどしたときは、クッションや背もたれをゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。シート自体の固定が不確実な場合、走行中に突然シートが動いたり背もたれが前方へ倒れたりして、思わぬけがをするおそれがあります。

注記

シートに強い衝撃をあたえないでください。シートが損傷することがあります。

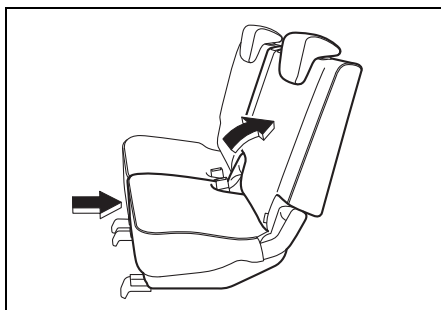
■ フルフラットにするときは

- 1 前席のアームレスト (1) を持ち上げ収納します。
- 2 前席のヘッドレスト (2) を外し、前席を前方へいっぱいまでスライドさせます。



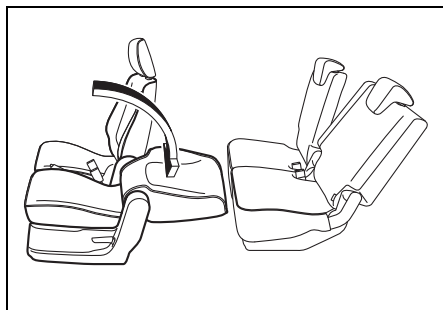
65P30370

- 3 後席を後方へいっぱいまでスライドさせます。
- 4 後席の背もたれを、後方へいっぱいまで倒します。後席はフラットになりません。



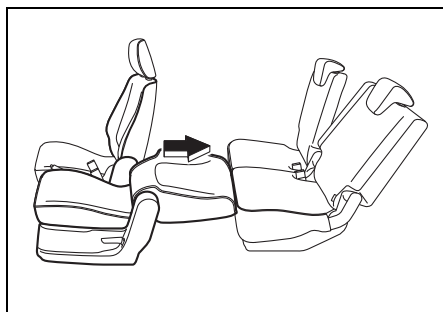
65P30380

- 5 前席の背もたれを、後方へいっぱいまで倒します。



65P30390

- 6 後席に当たるまで、前席を後方へスライドさせます。



65P30400

もとにもどすとき

「フルフラットにするときは」と逆の手順で操作します。

シートベルトについて

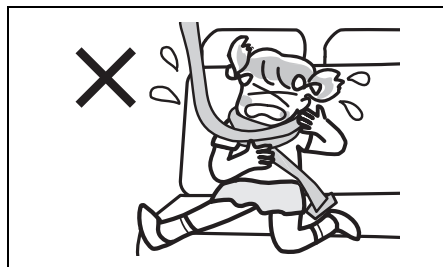
正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトは、2-14ページの「シートベルトは正しく着用」を参照のうえ、正しく着用するとともに、同乗者がいる場合は、安全のため全員着用しましょう。

お子さまもシートベルトを着用

→ 2-7ページ
(お子さまを乗せるときは)

警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合はハサミでベルトを切断してください。



80J028

妊娠中や疾患のある方は

⚠ 警告

- 妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。
- 妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるとように着用してください。



80J075

シートベルト警告ブザー

運転席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。

→ 3-65ページ

(シートベルト警告灯)

- 警告ブザーの作動中は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ 3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

📌 アドバイス

- 運転者がベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がベルトを着用しなくても、約95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを **[ACC]** または **[LOCK]** (OFF) にするまで消灯しません。

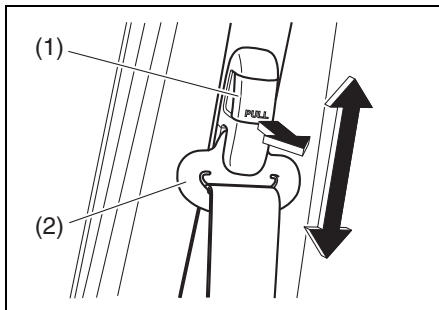
シートベルトの長さ調節

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

肩ベルトの高さ調節 (前席のみ)

身体の大きさにあわせて、ショルダークラスパー (2) の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバー (1) を引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーを離します。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。



シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

- 1 タングプレート (1) とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。

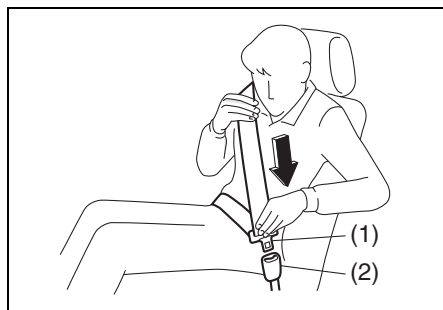


⚠️ アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

運転する前に/シートベルト

- 2 タングプレート (1) をバックル (2) の差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



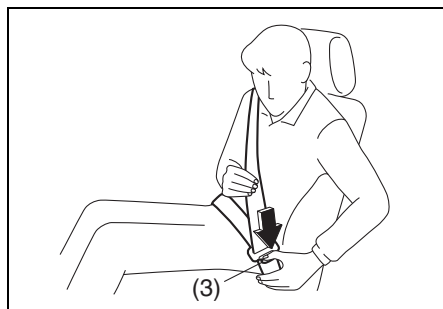
- 3 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

- 4 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

- 5 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン (3) を押します。シートベルトが自動的に巻きもとされまますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



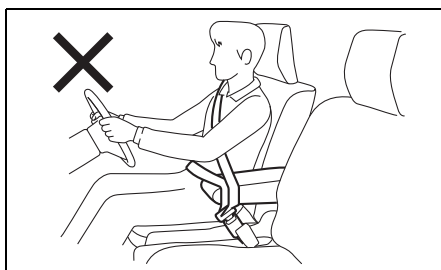
アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもとされていることを確認してください。

シートベルトを正しく着用する

⚠ 警告

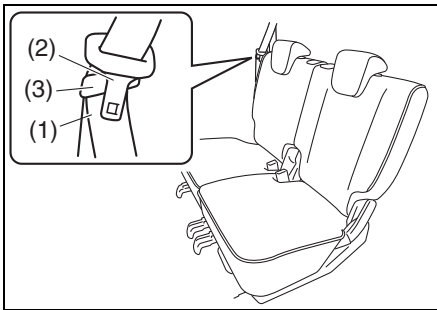
- シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。
- ベルトが腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに強く圧迫されるおそれがあります。
- ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前に投げ出されるおそれがあります。
- アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。ベルトは、アームレストの下を通してください。



シートベルトの 取扱いとお手入れ

取扱い

後席に人を乗せないときは、シートベルト (1) およびタンクプレート (2) を次の図のようにベルトガイド (3) にかけてください。



65P30490

⚠ 警告

- シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。
- バックルが正常に動かないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
- 衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。
- バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

- ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。
- ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ 6-4ページ (布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ)

⚠ 警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー (前席のみ)

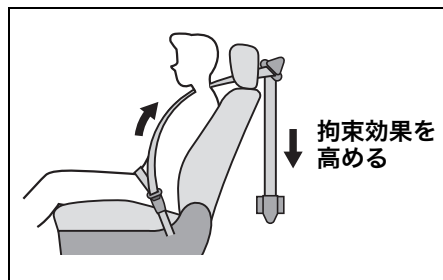
シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが **ON** のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動しています。

→ **3-49ページ**
(SRSエアバッグシステムの作動)

また、運転席側はラップアウタープリテンショナー機構により、腰ベルトも同時に巻き取ります。



80J1018

⚠️ アドバイス

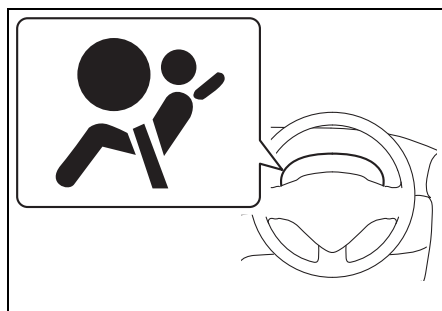
作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ **2-34ページ** (部品の取り付け、取り外し、修理をするときは)

SRSエアバッグ警告灯



81M30841

メーターパネル内にあります。

- シートベルトプリテンショナー、SRSエアバッグが作動したまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。
- **1-10ページ** (警告灯・表示灯)

廃棄や廃車

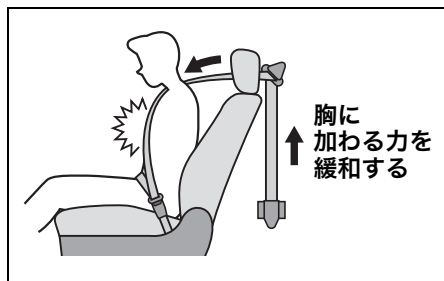
作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

⚠️ 注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときには、マツダ販売店にご相談ください。

シートベルト可変ロードリミッター (前席のみ)

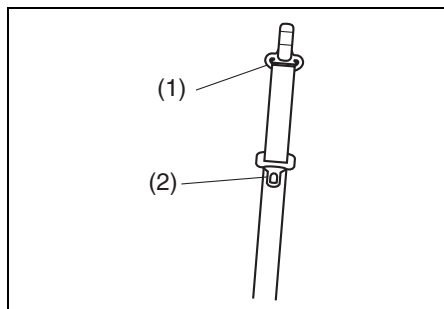
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻き取り装置内のシートベルト可変ロードリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを2段階に繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠ 警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部 (1) およびタングプレート部 (2) の樹脂が強い摩擦で溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できません。マツダ販売店で交換してください。



82K179

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRSエアバッグシステムとは

SRSとはSupplemental Restraint System (サブリメンタル レストレイント システム) の略で、補助拘束装置の意味です。

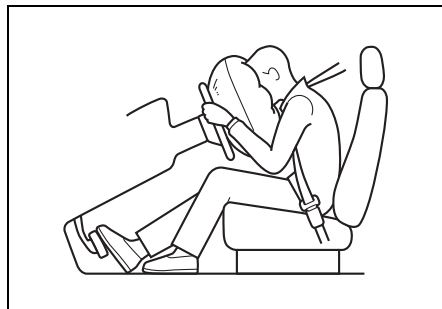
■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが **ON** の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席 SRS エアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した運転席・助手席乗員の主に顔面への衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。

→ 3-41ページ

(シートベルトの着用のしかた)



80J090

警告

- SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRSエアバッグの効果が十分発揮できません。

3



65J106

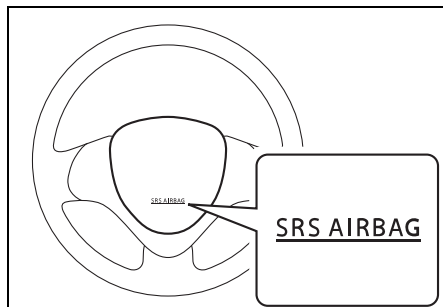
アドバイス

助手席SRSエアバッグは、助手席に乗員がいなくても、運転席SRSエアバッグと同時にふくらみます。

表示と収納場所

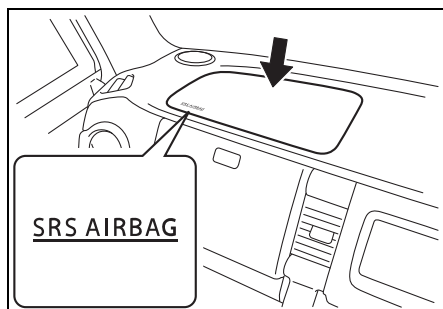
“SRS AIRBAG” の表示がある付近に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



65P30420

■ 助手席SRSエアバッグ



65P30430

警告

- エアバッグの収納部分に傷がついたり、ひび割れがあったりするときは、マツダ販売店で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

着座姿勢

運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。

とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。

→ 2-13ページ (正しい運転姿勢)

お子さま用シートの取り付け

→ 2-8 ページ (お子さま用シートの使用について)

→ 3-53 ページ (お子さま用シートの選択について)

→ 3-58 ページ (お子さま用シートのシートベルトによる固定)

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

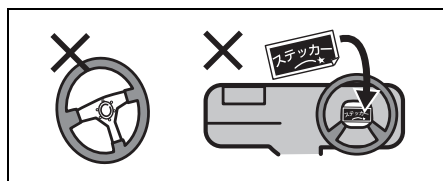
警告

- サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRSエアバッグの誤作動の原因になります。
- 車両前部にグリルガードなどを装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときは、マツダ販売店にご相談ください。無線機の電波などがSRSエアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。
- SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後はマツダ販売店で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRSエアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。
- SRSエアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にマツダ販売店にご相談ください。
 - ・ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
 - ・センターコンソールの修理、インパネまわり、前席下の修理および電気配線の修理
 - ・オーディオ用品などの取り付け
 - ・ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
 - ・前席シートの交換およびシートまわりの修理
 - ・センターピラーまわりの修理

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- ハンドルにもたれかかるなどして、SRSエアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーで覆うなどの改造をしないでください。万一のときにSRSエアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。

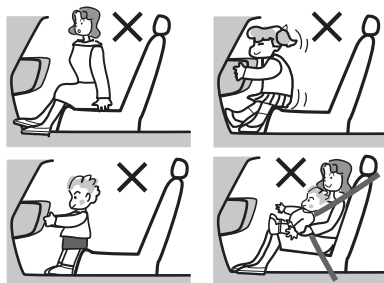


80J094

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

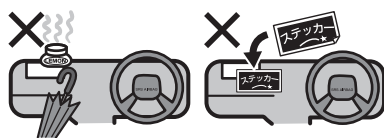
- 助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- インパネのSRSエアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



80J095

- シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、後席に乗せてください。
 - 2-8 ページ (お子さま用シートの使用について)
 - 3-53ページ (お子さま用シートの選択について)

- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリや芳香剤、ETC車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

- フロントガラスやルームミラーにアクセサリなどを取り付けしないでください。

SRSエアバッグシステムの 作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠ 警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠ 注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。

ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

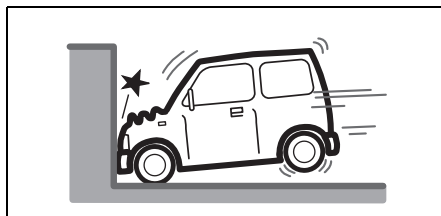
📌 アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

こんなとき作動します

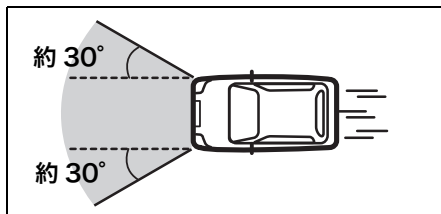
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両の前方約30°以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき



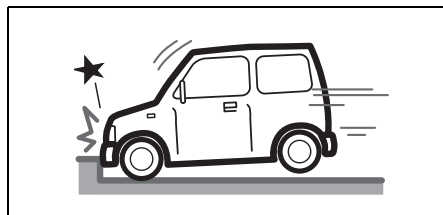
80J098

こんなとき作動することがあります

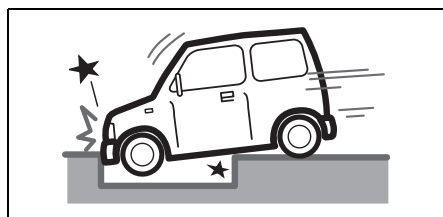
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

車体下部に強い衝撃を受けると、多くの場合作動します。

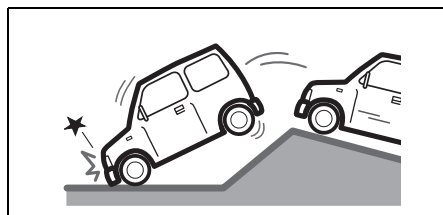
- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



- 深い穴や溝などに落ちたとき



- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき

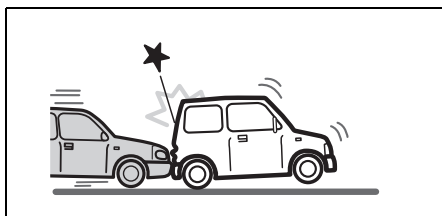


こんなとき、衝撃が強いと作動する場合があります

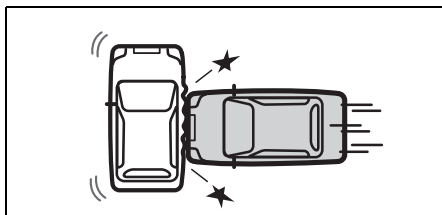
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

後方、横方向からの衝突、横転などでは基本的に作動しませんが、衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

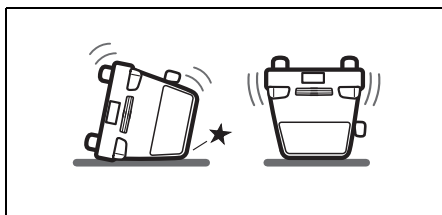
- 後方からの衝突



- 横方向からの衝突



- 横転や転覆をしたとき

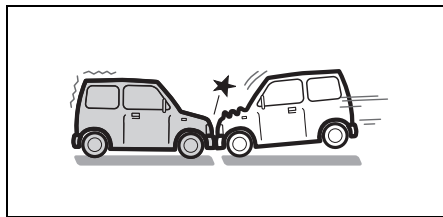


こんなとき作動しないことがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

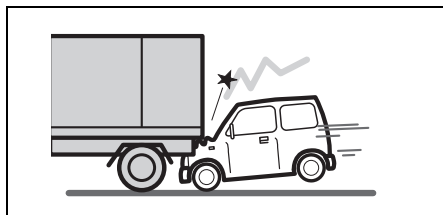
衝突の相手が移動したり、車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝突の角度が前方約30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 停車している同程度の重さの車に、50 km/h程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



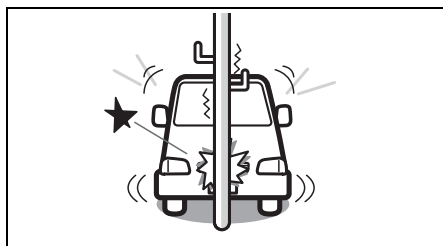
80J102

- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



80J103

- 電柱や立木などに衝突したとき



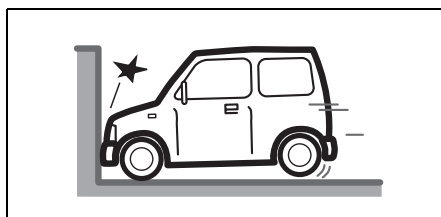
80J104

- 前方約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



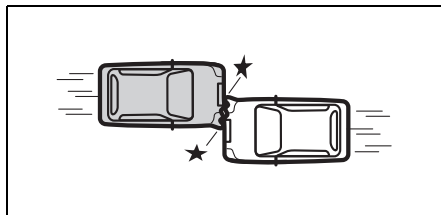
80J105

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25 km/h以下のとき



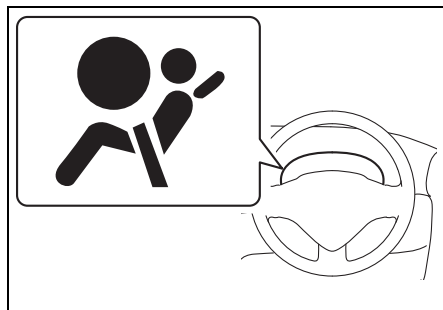
80J106

- 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）



80J107

SRSエアバッグ警告灯



81M30841

メーターパネル内にあります。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動したまたは電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。
→ 1-10ページ (警告灯・表示灯)

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。



80J112

▲ 注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、マツダ販売店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

イベントデータレコーダー (EDR) とは

この車は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、SRSエアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、エアバッグが作動するような事故のときに、衝突時点やその前後の車両データを記録するイベントデータレコーダー (EDR) システムを備えています。

EDRに記録するデータ

- SRS エアバッグシステムの故障診断情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報

↓mアドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

EDRデータの開示について

マツダおよびマツダが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。

なお、マツダおよびマツダが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令そのほか法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

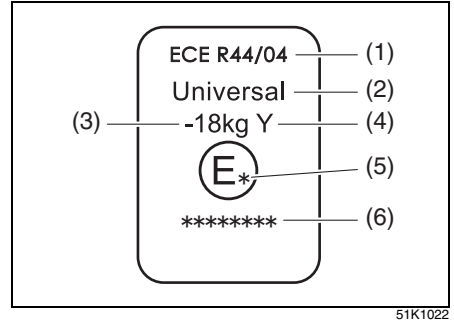
お子さま用シートの選択について

お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

- 2-7 ページの「お子さまを乗せるときは」もよくお読みください。
 - この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。
- 3-60ページ（ISOFIX対応お子さま用シートの固定）

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

ECE R44（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



51K1022

- (1) 法規番号
- (2) お子さま用シートのカテゴリ（※2）
- (3) 対象となるお子さまの体重範囲
- (4) 装置の仕様
- (5) お子さま用シートを認可した国番号
- (6) お子さま用シートの認可番号

- 上図の認証マークは代表例です。

※1 ECE R44 とは、お子さま用シートに関する国際法規です。

※2 前図の「**Universal**」は、汎用カテゴリの認可であることを表します。

ⓘ アドバイス

この車のマツダ純正お子さま用シートは、ECE R44 の基準に適合していません。

ECE R44 の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→ 3-56ページ (ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表)

■ 質量グループについて

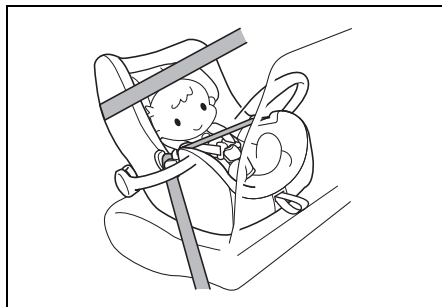
● ECE R44の基準に適合するお子さま用シートは、次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

● 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ0、0+に相当します。



64L30810

チャイルドシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループⅠに相当します。



64L30820

ジュニアシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。



64L30830

■ ISOFIXタイプのお子さま用シートの、サイズ等級について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。次の一覧表をご覧ください。

サイズ等級		説明
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (ISO/F2とは別形状)
C	ISO/R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート (キャリコット※)
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート (キャリコット※)

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。

詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表

■ シートベルトによる固定

質量グループ	着席位置	
	助手席	後席
グループ0 (10kgまで)	X	U
グループ0+ (13kgまで)	X	U
グループⅠ (9～18kg)	X	U
グループⅡ (15～25kg)	X	U
グループⅢ (22～36kg)	X	U

<上表に記入する文字の説明>

U : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

X : お子さま用シートの取り付けには適していません。

- シートベルトを使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-58 ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。
- ISOFIXタイプのお子さま用シートの種類によっては、上表の質量グループでの使用に適していても、取り付けができない場合があります。詳しくは、次ページの「**ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具による固定**」をお読みください。

アドバイス

取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

■ ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定

質量グループ	サイズ等級		チャイルドシート固定専用金具の位置	
			助手席	後席
キャリコット	F	ISO/L1	N.A.	X
	G	ISO/L2	N.A.	X
グループ0 (10kgまで)	E	ISO/R1	N.A.	IL
グループ0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	N.A.	IL
	D	ISO/R2	N.A.	IL
	C	ISO/R3	N.A.	IL
グループⅠ (9~18kg)	D	ISO/R2	N.A.	IL
	C	ISO/R3	N.A.	IL
	B	ISO/F2	N.A.	IUF
	B1	ISO/F2X	N.A.	IUF
	A	ISO/F3	N.A.	IUF
グループⅡ (15~25kg)			N.A.	X
グループⅢ (22~36kg)			N.A.	X

<上表に記入する文字の説明>

- IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応前向きお子さま用シートに適しています。
- IL：この質量グループでの使用を許可された準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの「マツダ純正ベビーシート」に適しています。
- X：ISOFIX対応お子さま用シートの取り付けには適していません。固定専用金具を使わずにシートベルトを使用して固定してください。次の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。
- N.A.：この位置にはチャイルドシート固定専用金具が装備されていないため、ISOFIXタイプのお子さま用シートを取り付けることはできません。

- チャイルドシート固定専用金具を使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-60ページ**の「**ISOFIX対応お子さま用シートの固定**」をお読みください。

 **アドバイス**

取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

お子さま用シートのシートベルトによる固定

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
→ 3-53 ページ (お子さま用シートの選択について)
- ISOFIXタイプのお子さま用シート (別売り) を取り付けるときは、3-60ページの「ISOFIX対応お子さま用シートの固定」をお読みください。

3

⚠ 警告

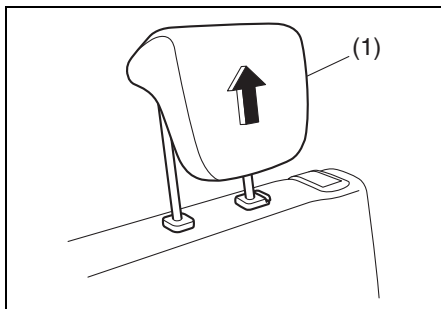
助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。



67H20440

固定のしかた

- 1 ヘッドレスト (1) は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ 3-34ページ (ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け)



70K40021

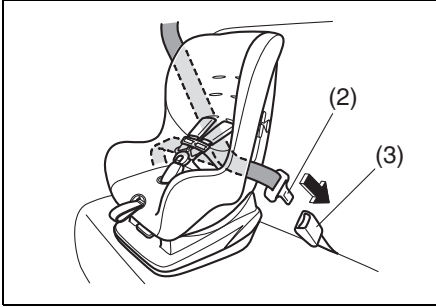
⚠ 警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 2 お子さま用シートと背もたれの間にはすきまができないように背もたれの角度を調節します。
- 3 座席が確実に固定されているか確認します。

- 4 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。

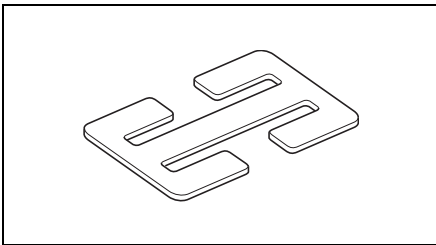
- 5 カチッと音がするまで、タングプレート (2) をバックル (3) にしっかりと差し込みます。



70K40030

- 上図のお子さま用シートは代表例です。

- 6 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロックングクリップも備わっていない場合は、別売りのロックングクリップを使用してしっかりと固定します。



72M00172

- 上図のロックングクリップ (別売り) は代表例です。

警告

シートベルト固定機構またはロックングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 7 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

警告

お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX対応お子さま用シートの固定

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具

後席には、ECE R44 (3-53ページ参照)の基準に適合したISOFIX (※1) タイプのお子さま用シート (別売り) を固定するための専用金具が装備されています。

- 座面と背もたれのすきまにある金具が、ISOFIX対応チャイルドシート固定用アンカー (以下ISOFIXアンカーと略す) です。
- 背もたれ裏側にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー (以下テザーアンカーと略す) です。

※1 ISOFIXとは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取り付け方法を統一した国際標準化機構【ISO (※2)】の規格です。

※2 ISOとは、International Organization for Standardization (インターナショナル オーガニゼーション フォー スタンダーディゼイション) の略です。

<マツダ純正用品の場合>

	ISOFIXアンカー	テザーアンカー
ISOFIXタイプのベビーシート (後ろ向きに固定)	○ (使用)	○ (使用)
ISOFIXタイプのチャイルドシート (前向きに固定)	○ (使用)	○ (使用)

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

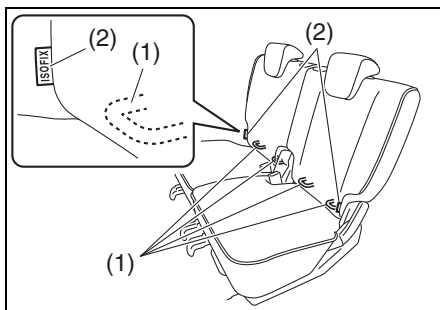
→ 3-53ページ (お子さま用シートの選択について)

- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、3-58ページの「お子さま用シートのシートベルトによる固定」をお読みください。

■ 固定のしかた

1 ISOFIXアンカー (1) の位置を確認します。

- 座面と背もたれのすきまにあります。



65P30440

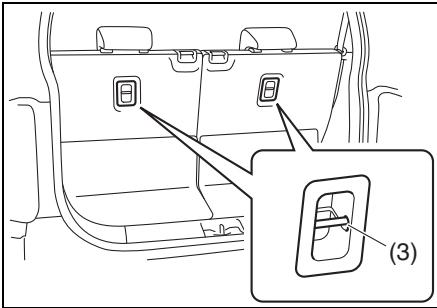
(1) ISOFIXアンカー (2) タグ

⚠️ アドバイス

ISOFIX アンカーがある付近の背もたれには、上図のようなタグ (2) がついています。

- 2 テザーアンカー (3) の位置を確認します。

- 背もたれ裏側にあります。

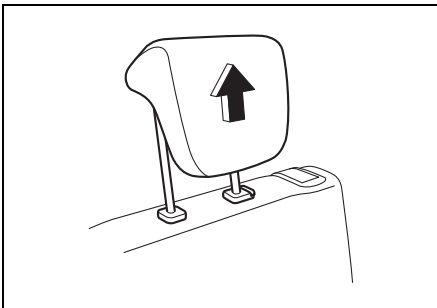


65P30450

(3) テザーアンカー

- 3 後席のヘッドレストは、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。

→ 3-34ページ(ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け)



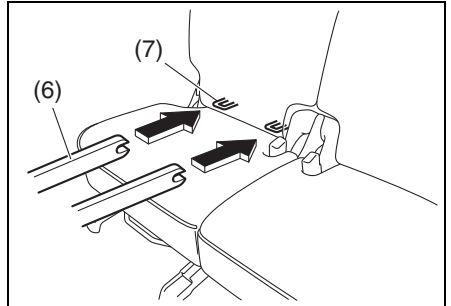
70K30400

警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 4 座席が確実に固定されているか確認します。

- 5 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、お子さま用シートのコネクター (6) を ISOFIX アンカー (7) へ差し込みます。



65P30470

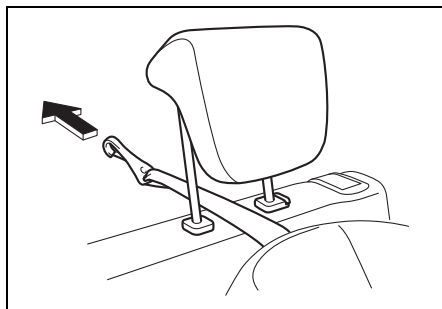
(6) コネクター (7) ISOFIXアンカー

運転する前に/お子さま用シート

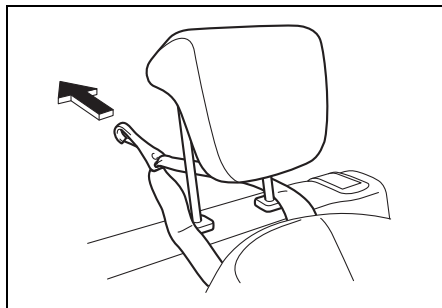
6 テザーベルトを使用する場合、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。

- ヘッドレストを取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間を通す

テザーベルト1本の場合



テザーベルト2本の場合



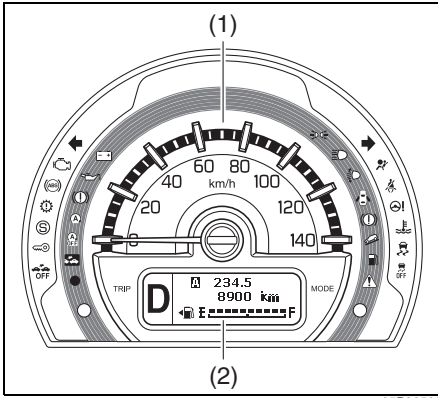
7 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

警告

- お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIX アンカーやテザーアンカー周辺に異物やシートベルトなどがないか確認してください。シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。アンカーが曲がったり損傷したりすると、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



65P30500

- (1) スピードメーター (速度計)
 (2) マルチインフォメーションディスプレイ
 → 3-77 ページ (マルチインフォメーションディスプレイ)

(1) スピードメーター (速度計)

走行速度がkm/hで示されます。

ステータスインフォメーションランプ

スピードメーターの上部が、次のようになります。

- 通常の走行時は、青色に点灯します。
- 燃費効率が良い運転をしていると判定されると、緑色に変化します。
- エネチャージまたは減速エネルギー回生機能が作動しているときは、白色に変化します。
 → 4-48ページ (S - エネチャージ)
 → 4-60ページ (エネチャージ)

アドバイス

- アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中も緑色に変化します。
 → 4-50 ページ (アイドリングストップシステム)
- 設定の切替え (カスタマイズ) をすると、スピードメーターの上部の照明を変化させなくすることができます。
 → 3-92ページ (エコ照明設定)

メーターの照明

メーターの照明は、エンジンスイッチを **ON** にすると点灯し、**ACC** または **LOCK** (OFF) にすると消灯します。
 → 3-83ページ (明るさ調整のしかた)

警告灯・表示灯の見かた

次に示す警告灯・表示灯のメーター内の位置については、1-10ページをご覧ください。

警告灯



82K170

(1) ブレーキ警告灯(赤色)

3

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。
 - ・ ブレーキ液が不足している
 - ・ パーキングブレーキをかけている
 - ・ ブレーキシステムに異常がある
- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを **ON** にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠ 警告

- 次のようなときはただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。
 - ・ パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。
 - ・ ブレーキ警告灯とABS警告灯が同時に点灯したままのとき。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。
- パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。また、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。
→ 4-12ページ (パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー)



(2) シートベルト警告灯

80J221

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。

また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約95秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** (OFF) にするまで消灯しません。



(3) SRSエアバッグ警告灯

80J111

- 次のような場合、エンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯します。
 - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動
 - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常がある
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約 6 秒間点灯したあと消灯します。

警告

次のような場合、ただちに使用を止め、マツダ販売店にご連絡ください。万一、衝突したとき SRS エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンスイッチを **ON** にしても点灯しない
- エンジンスイッチを **ON** にしたあと、約6秒間たっても消灯しない
- 運転中に点灯



80J225

(4) 燃料残量警告灯

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。すみやかに給油してください。
 - 点灯すると、警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。また、そのまま給油しないしていると、エンジンスイッチを **ON** にすることに警告ブザーが鳴ります。
- システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。
→ **3-78ページ (燃料計)**

⚠️ アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。



80J127

(5) ABS警告灯

ABS (アンチロックブレーキシステム) の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。マツダ販売店で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。

⚠️ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

⚠️ アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。



(6) 水温警告灯(赤色)

65P30800

エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると赤色に点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは赤色に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに約 2 秒間赤色に点灯したあと消灯します。(※)

※エンジン冷却水温が低いときは、赤色に点灯したあと青色に点灯します。

- 赤色に点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

→ **7-28ページ (オーバーヒートしたときは)**

- 赤色に点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



(7) オートレベリング警告灯

80J217

ディスチャージヘッドライト装備車では、オートレベリング（自動光軸調整）システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに約 2 秒間点灯したあと消灯します。

- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。再びエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。

消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



(8) エンジン警告灯

80J222

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。

- 枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する
- やむをえず走行する場合はアクセルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する



(9) パワーステアリング警告灯

80J408

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 駐車するときや停車中に、ハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したりすると、ハンドル操作が徐々に重くなる場合があります。これはシステムの過熱防止のための保護機能であり異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がり操作力はもとにもどりますが、このようなハンドル操作を繰り返すと故障の原因となります。
- すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



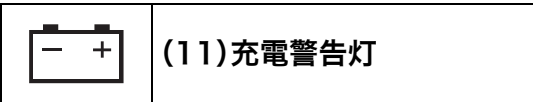
80J223

エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「メンテナンスノート」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてマツダ販売店にご連絡ください。

注記

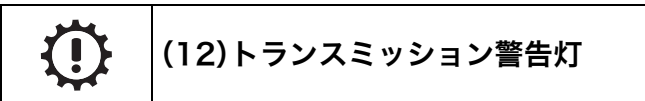
点灯したまま走行を続けしないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



80J226

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

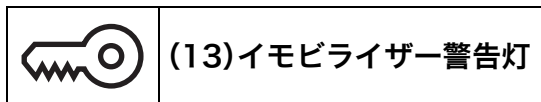
- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、マツダ販売店にご連絡ください。



80J219

CVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約 2 秒間点灯したあと消灯します。

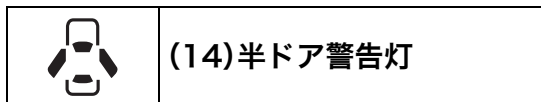


80J216

車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯することがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

→ 4-4ページ (イモビライザーシステム)

3



82K274

いずれかのドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行することに警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。



警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。
(バッテリーセーバー機能)

- エンジンスイッチが **LOCK** (OFF) の位置
- 点灯したまま15分が経過



(15) ブレーキシステム警告灯(オレンジ色)

82K170

- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - ABS
 - **4-23ページ (ABS装備車の取扱い)**
 - ヒルホールドコントロール
 - **4-61ページ (ヒルホールドコントロール)**
 - レーダーブレーキサポート (RBS)
 - **4-37ページ (レーダーブレーキサポート (RBS))**
 - 誤発進抑制機能
 - **4-42ページ (誤発進抑制機能)**
 - そのほかのブレーキに関するシステム
- レーザーレーダーがフロントガラスの汚れを検知したときに点灯します。
 - **4-46ページ (レーザーレーダー)**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、次のとおり点灯したあと消灯します。
 - 運転支援機能非装備車：約2秒間
 - 運転支援機能装備車：約3秒間

表示灯



(16)方向指示器表示灯

72M00170

- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

→ 7-25ページ（電球を交換するときは）

3



(17)ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

80J212

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。



(18)ライト点灯表示灯

82K096

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。



(19)S(スポーツ)モード表示灯

85K2055

S（スポーツ）モードスイッチがONのときに点灯します。

→ 4-15ページ（S（スポーツ）モードスイッチ）



57L30045

DSC&TCS OFFスイッチを長押しすると点灯します。

→ 4-28ページ (DSC&TCS装備車の取扱い)



79K019

- TCS (トラクションコントロールシステム) およびDSC (ダイナミック・スタビリティ・コントロール) が作動すると、小刻みに点滅します。
- DSC&TCSのシステムに異常があると点灯します。
→ 4-28ページ (DSC&TCS装備車の取扱い)



65P40270

タイプ別装備

→ 4-31ページ (ヒルディセントコントロール)



65P30800

(23)低水温表示灯(青色)

エンジンスイッチが **ON** のときに、エンジン冷却水温が低いと青色に点灯し、エンジンが暖まると消灯します。

- 暖機を十分にしても青色に点灯したままのときは、センサーの異常が考えられます。また、赤色に点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

3



72M00032

(24)アイドリングストップ表示灯

走行中に、エンジンが自動停止する条件（スタンバイ条件）をみたすと点灯します。

→ **4-50ページ (アイドリングストップシステム)**

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。



72M00159

(25)アイドリングストップシステムOFF表示灯

- アイドリングストップシステムOFFスイッチを押すと点灯します。
→ **4-59ページ (アイドリングストップシステムOFFスイッチ)**
- 次のような状況になると点滅します。
 - アイドリングストップシステムに異常があるとき
 - エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期であるとき→ **4-50ページ (アイドリングストップシステム)**
- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。



(26)セキュリティアラームインジケーター

82K269

- セキュリティアラームが<警報モード>のときに、ドアをキーレスエントリーまたはリクエストスイッチで施錠すると、小刻みに点滅して約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。
セット中は、2秒間隔で点滅します。
- 駐車時に警報が作動していると、エンジンスイッチを **ON** にしたときに約 8 秒間小刻みに点滅します。
→ **3-17ページ (セキュリティアラーム)**
- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに約15秒間、1秒間隔で点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。



72M20303

(27)レーダーブレーキサポート (RBS) OFF表示灯

- 次のような電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - RBS
→ **4-37ページ (レーダーブレーキサポート (RBS))**
 - 誤発進抑制機能
→ **4-42ページ (誤発進抑制機能)**
 - そのほかのブレーキに関するシステム
- RBS OFFスイッチを長押しすると点灯します。
→ **4-45ページ (レーダーブレーキサポート (RBS) OFFスイッチ)**
- レーザーレーダーがフロントガラスの汚れを検知したときに点灯します。
→ **4-46ページ (レーザーレーダー)**
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約 3 秒間点灯したあと消灯します。



72M20304

(28)レーダーブレーキサポート (RBS)作動表示灯

- RBSまたは誤発進抑制機能が作動中に点滅します。
 - 4-37ページ (レーダーブレーキサポート (RBS))
 - 4-42ページ (誤発進抑制機能)
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約 3 秒間点灯したあと消灯します。

3



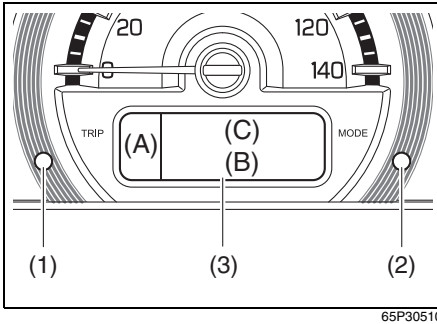
78K049

(29)マスターウォーニング

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージがあるとき、同時に点滅する場合があります。

- 3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

マルチインフォメーション ディスプレイ



65P30510

- (1) トリップノブ
- (2) モードノブ
- (3) マルチインフォメーション
ディスプレイ

- エンジンスイッチを **ON** にすると、オープニング、カレンダー、電源の状態が画面に表示されたあと、ディスプレイの各位置に次項の内容が表示されます。

- (A) セレクトレバー位置
- (B) 燃料計
- (C) インフォメーション

- **3-83ページ**
(オープニングモード)
- **3-83ページ**
(カレンダーモード)

- アイドリングストップシステム装備車はエンジンが自動停止を開始すると、ディスプレイの (C) 部分が専用表示に切り替わります。エンジンが再始動すると元の表示画面にもどります。

- **3-84ページ**
(アイドリングストップ表示)

- エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にすると、次の内容が表示されたあと、エンディング画面が表示されます。
 - アイドリングストップ時間/節約燃料
 - エコスコア
- **3-84ページ** (エコ運転表示機能)
- **3-85ページ**
(エンディングモード)

アドバイス

メッセージの種類によっては、エンジンスイッチが **ACC** または **LOCK** (OFF) のときでも表示される場合があります。

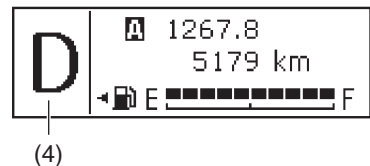
3

(A) セレクトレバー位置表示

エンジンスイッチが **ON** のときに、ディスプレイの (A) 部分に、現在選択しているセレクトレバーの位置が表示されます。

- **4-13 ページ** (セレクトレバーの各位置のはたらき)

表示例



65P30520

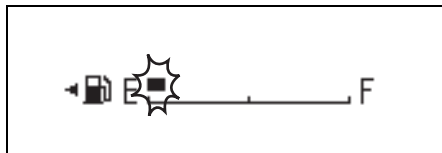
- (4) セレクトレバー位置表示

(B) 燃料計

エンジンスイッチが **[ON]** のとき、ディスプレイの (B) 部分に燃料残量の目安が表示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。また、あわせて燃料計の目盛り（一つ）が点滅したときは、燃料がほとんどないことをお知らせしています。

→ **3-66ページ（燃料残量警告灯）**



85K2096

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを **[ON]** にしてから表示が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- 燃料計の左にある **◀** 印は、給油口（フェュエルリッド）が助手席側の車両後部にあることを示します。

(C) インフォメーション

エンジンスイッチが **[ON]** のときに、メーター内のトリップノブ (1) または、モードノブ (2) を短押しすると次のように表示が切り替わります。

走行距離情報

トリップノブ (1) を短押しすることにより番号の順に表示が切り替わります。

- ➡ ①トリップメーター **A** / オドメーター
- ➡ ②トリップメーター **B** / オドメーター

トリップノブ
を短押し

モードノブを
短押し

サポート情報

モードノブ (2) を短押しすることにより番号の順に表示が切り替わります。

- ➡ ①瞬間燃費
- ➡ ②平均燃費
- ➡ ③航続可能距離
- ➡ ④タコメーター
- ➡ ⑤積算アイドリングストップ時間
- ➡ ⑥積算アイドリングストップ節約燃料
- ➡ ⑦エコスコア
- ➡ ⑧エネルギーフローインジケター
- ➡ ⑨照明コントロール表示 (※)

65P3053H

※⑨照明コントロール表示は、エンジンスイッチが **ON** で、ヘッドライトや車幅灯が点灯しているときに表示されます。

警告

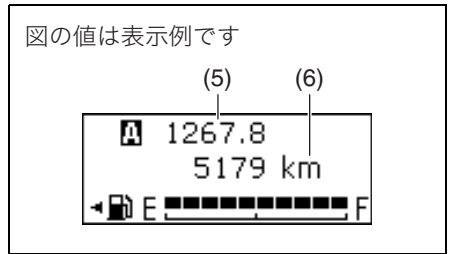
走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 表示は、ノブを離れたときに切り替わります。
- 走行距離情報またはサポート情報に切り替えると、それぞれ前回選択した画面が表示されます。ただし、⑨照明コントロール表示は表示されずに、①瞬間燃費に切り替わります。
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。
→ **3-68ページ (エンジン警告灯)**
- 表示される次の値は目安です。実際とは異なる場合があります。
 - ①瞬間燃費
 - ②平均燃費
 - ③航続可能距離
 - ⑥積算アイドリングストップ節約燃料

■ 走行距離情報

①、②トリップメーター (区間距離計) / オドメーター (積算距離計)



図の値は表示例です

(5) トリップメーター (区間距離計)

(6) オドメーター (積算距離計)

トリップメーター

リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。(次にリセットするまで距離計測は継続されます)

- **A** および **B** の2種類の走行距離を同時に計測できます。

<使いかたの例>

- A** : 出発時にリセットして、出発後の距離を計測
- B** : 給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまでトリップノブ (1) を長押しします。

アドバイス

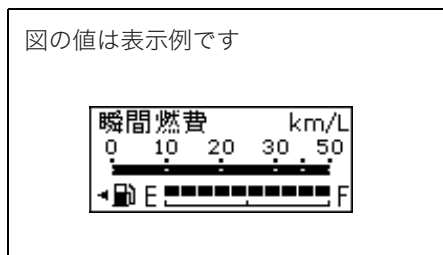
トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと 0.0 にもどります。(距離計測は継続されます)

オドメーター

新車時 (またはメーター交換時) からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。(リセットはできません)

■ サポート情報

①瞬間燃費

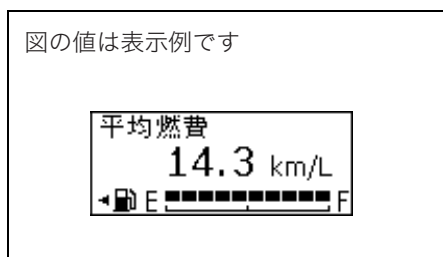


走行中の瞬間燃費が表示されます。

⚠️アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は50です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。

②平均燃費



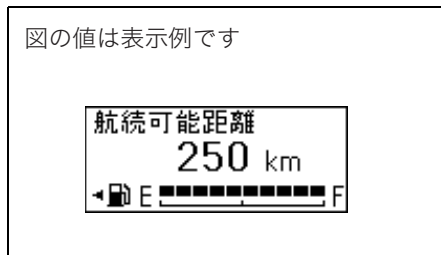
表示をリセットしてからの平均燃費が表示されます。

- リセットするときは、平均燃費の表示中にトリップノブ (1) を長押しします。

⚠️アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均燃費の表示はリセットされます。

③航続可能距離



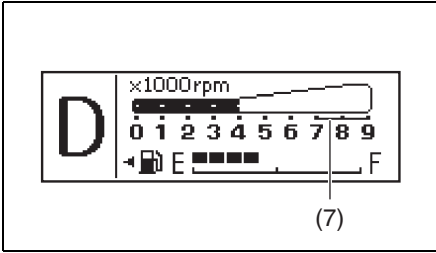
現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。

- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

⚠️アドバイス

- 算出に使用される過去の平均燃費は、表示される平均燃費とは異なります。
- 鉛バッテリーを外すと過去の平均燃費の記憶が消去されますので、外す前までとは異なる値が表示される場合があります。
- エンジンスイッチを **ON** のままにして給油すると、正しい値が表示されない場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
 - バッテリー接続後しばらくの間
 - 燃料残量警告灯の点灯中
 → **3-66ページ (燃料残量警告灯)**

④タコメーター



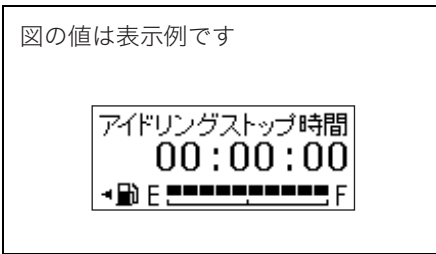
(7) レッドゾーン

1 分間あたりのエンジン回転速度（回転数）が示されます。

注記

- エンジン保護のため、エンジン回転数のバーグラフがレッドゾーン（※）に入らないように運転してください。
※エンジンの許容回転を超えていることを示す表示範囲
- シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。

⑤積算アイドリングストップ時間



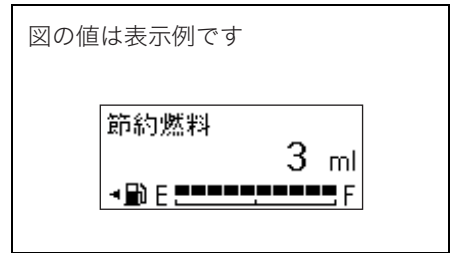
表示をリセットしてからのアイドリングストップ時間の累計が、時、分、秒単位で表示されます。

- リセットするときは、積算アイドリングストップ時間の表示中にトリップノブ（1）を長押しします。

アドバイス

- 積算アイドリングストップ時間の最大値は99:59:59で、そのあと00:00:00にもどります。（時間計測は継続されます）
- 鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ時間の表示はリセットされます。

⑥積算アイドリングストップ節約燃料



表示をリセットしてからのアイドリングストップによる節約燃料の累計がmL単位で表示されます。

- リセットするときは、積算アイドリングストップ節約燃料の表示中にトリップノブ（1）を長押しします。

アドバイス

- 鉛バッテリーを外すと、積算アイドリングストップ節約燃料の表示はリセットされます。

⑦エコスコア

表示例



65P30550

運転中の燃費効率に対する運転内容を採点し、その点数が表示されます。

- エコドライブの目安としてください。

⚠ 警告

走行中はエコスコアの表示に気を取れないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

ℹ アドバイス

点数の表示は、0～90まで10点刻みとなり、90～100は5点刻みとなります。

⑧エネルギーフローインジケーター

表示例

エンジン始動～走行中



バッテリーへ充電中



エンジンの自動停止中



65P30561

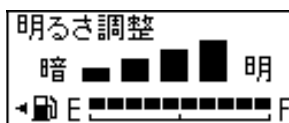
エネルギーの流れが表示されます。

→ 4-48ページ (S - エネチャージ)

→ 4-60ページ (エネチャージ)

⑨照明コントロール表示

表示例



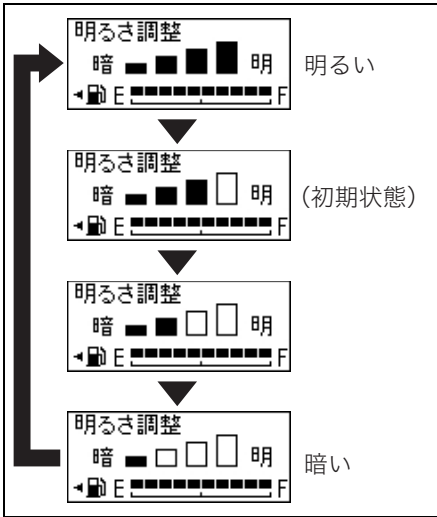
85K30580

- 現在設定されているメーターの明るさが表示されます。
- ヘッドライトや車幅灯が点灯しているときのメーターの明るさは、4段階に調整できます。

明るさ調整のしかた

明るさの調整は次の手順で行ないます。

- 1 ヘッドライトや車幅灯点灯時にモードノブ (2) を短押しして、「明るさ調整」表示を選択します。
- 2 モードノブを長押しします。明るさが1段階ずつ変化します。



85K2097

⚠️アドバイス

- 「明るさ調整」表示の状態で、モードノブを短押しする、または約4秒間押さないでいると、瞬間燃費の表示に切り替わります。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調整をやり直す必要があります。

オープニングモード

エンジンスイッチを **ON** にすると、オープニング動画が表示されます。

- オープニング動画はお好みのタイプに変更することができます。
→ **3-88ページ**
(オープニング動画の設定)

⚠️アドバイス

オープニング動画を変更すると同時にエンディング動画も同じタイプのものになります。

3

カレンダーモード

オープニングモード終了後に、カレンダーモードが表示されます。

	表示例
日時 未設定時 (初期状態)	20-- / -- / --
日時 設定時	2015 / 12 / 31

→ **3-87ページ** (日時の設定)

⚠️アドバイス

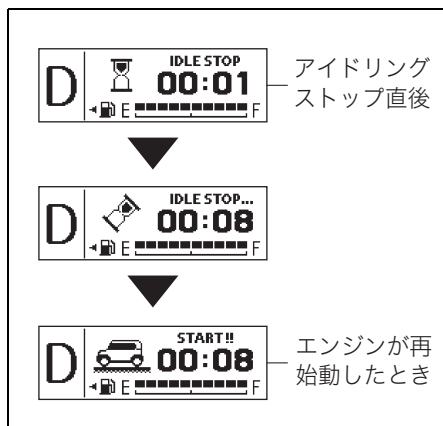
- 表示できる日時は、お車の工場出荷時より、およそ30年間です。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、日時の設定をやり直す必要があります。

アイドリングストップ表示

アイドリングストップシステムにより自動停止すると、オドメーターなどの通常表示から専用の表示画面へ自動的に切り替わり、アイドリングストップ中であることをお知らせします。

ディスプレイの (C) 部分に表示される画面は、次の順の通りです。また、エンジンが再始動すると通常の画面に自動的に切り替わります。

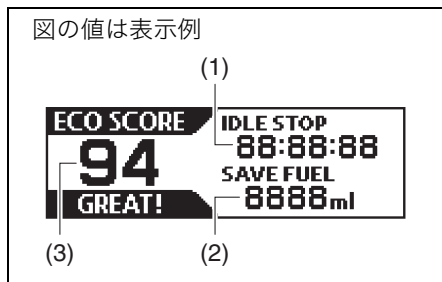
- アイドリングストップ表示は、非表示にすることもできます。
→ 3-89 ページ (アイドリングストップ (IS) 表示設定)



65P30570

エコ運転表示機能

エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にすると、1 回の運転に対する次のエコ運転結果が、ディスプレイ内に表示されます。



65P30580

- (1) アイドリングストップ時間
- (2) アイドリングストップ節約燃料
- (3) エコスコア

- 上図は代表例です。お車のタイプにより表示される項目は異なります。

ⓘ アドバイス

- 設定の切替え (カスタマイズ) をすると、表示させなくすることもできます。
→ 3-89 ページ (アイドリングストップ (IS) 表示設定)
→ 3-91 ページ (エコスコア設定)
 - 次の表示はエンジンスイッチが **ON** のときにディスプレイに表示させることができます。
 - 積算アイドリングストップ時間
 - 積算アイドリングストップ節約燃料
 - エコスコア
- 3-78 ページ (インフォメーション)

(1) アイドリングストップ時間

1回の運転でのアイドリングストップの合計時間が時、分、秒単位で表示されます。

(2) アイドリングストップ節約燃料

1回の運転でアイドリングストップによって節約された燃料が mL 単位で表示されます。

(3) エコスコア

1回の運転で、燃費効率が良いと判定された割合から、運転内容を採点します。

- エコドライブの目安としてお使いください。
→ **2-36ページ**
(エコドライブをしましょう)
- 前図のように表示されている間、ステータスインフォメーションランプが点灯します。照明色は、エコスコアの点数により変化します。点数が高いほど、より緑色になります。

エコスコア	0点 □□□□ ⇨ 100点
照明色	青色 ■■■■ ⇨ 緑色

→ **3-63ページ (ステータスインフォメーションランプ)**

Ⓜアドバイス

メーター内のステータスインフォメーションランプを緑色または白色に変化させる走行を心がけると、高得点を得られます。(100点満点)

エンディングモード

エンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** (OFF) にすると、エンディング動画が表示されます。表示されるエンディング動画は選択されたオープニング動画と同じタイプのものとなります。

- オープニング/エンディング動画はお好みのタイプに変更することができます。

→ **3-88ページ**

(オープニング動画の設定)

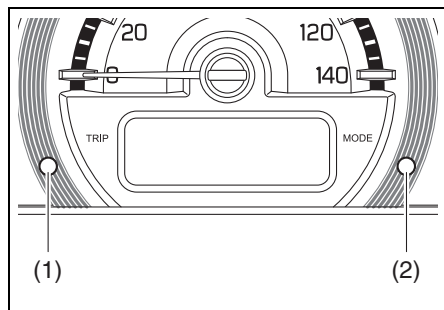
Ⓜアドバイス

オープニング動画を変更すると同時にエンディング動画も同じタイプのものになります。

セッティングモード

停車中に、メーター内のモードノブを長押ししてセッティングモードにすると、次の順序で各設定ができます。(走行中ではできません)

- 設定画面の表示を切替えるときは、モードノブを短押しします。



- (1) トリップノブ
(2) モードノブ



65P30600

- 上記の設定項目は代表例です。お車のタイプにより異なります。

⏏️ アドバイス

- 現在選択している項目は、次の※印のように黒字が白字に反転して表示されます。

代表例



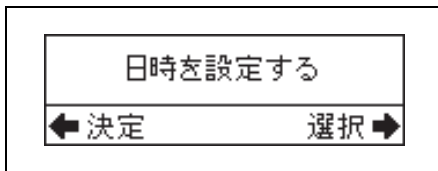
65P30770

- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、設定をやり直す必要があります。

■ 日時の設定

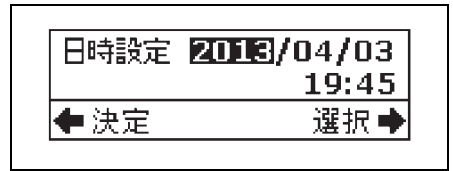
次の手順で日時を設定します。

- 1 セッティングモードに切替え、「日時を設定する」を表示します。



85K2101

- 2 トリップノブ (1) を短押しすると次のような画面が表示されます。
 - トリップノブを短押しして、「年」、「月」、「日」、「時」、「分」のいずれかを選択します。



65P30810

- 3 モードノブ (2) を短押しして、値をあわせませす。
 - モードノブを長押しすると、値が早送りされます。
- 4 [2]、[3] の手順を繰り返して日時を合わせたら、トリップノブを短押しします。
- 5 セッティングモードを終了します。
→ 3-93ページ (設定の終了)

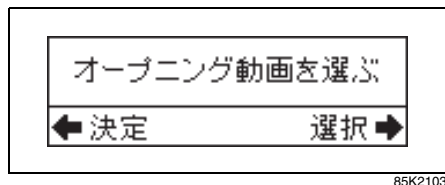
⏏️ アドバイス

「分」を設定すると、同時に「秒」がゼロにリセットされます。

■ オープニング動画の設定

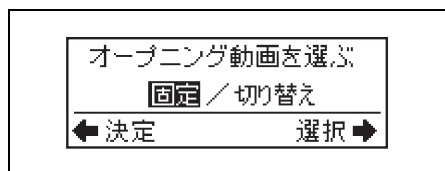
次の手順でオープニング動画を選択できます。

- 1 セッティングモードに切替え、「オープニング動画を選ぶ」を表示します。



85K2103

- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30610

- 3 モードノブ (2) を短押しして、「固定」、「切り替え」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- 「切り替え」を選択した場合、A～Dのオープニング動画がエンジンスイッチを **ON** にするたびに順番に切替わります。また、エンディング動画もオープニング動画と同じタイプのもものが順番に切替わります。

〈オープニング動画の表示例〉

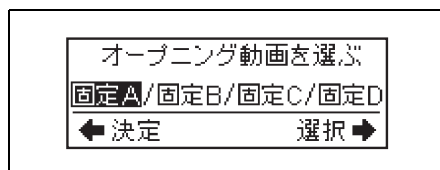
タイプ	オープニング動画
A	
B	
C	
D	

アドバイス

初期設定時（工場出荷時）は「切り替え」に設定されています。

- 4 手順 3 で「固定」を選択した場合、次のような画面が表示されます。モードノブを短押ししてオープニング動画A～Dのいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- エンジンスイッチを **ON** にするたびに選択されたオープニング動画が表示されます。
- オープニング動画を選択すると、同時にエンディング動画も同じタイプのものとなります。



65P30660

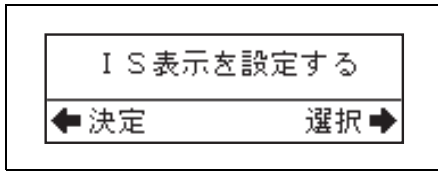
- 5 セッティングモードを終了します。
→ 3-93ページ (設定の終了)

■ アイドリングストップ (IS) 表示設定

アイドリングストップシステム装備車

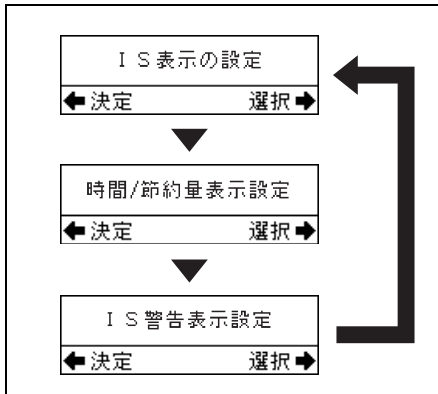
次の手順でアイドリングストップ (IS) 表示の設定をします。

- 1 セッティングモードに切替え、「IS表示を設定する」を表示します。



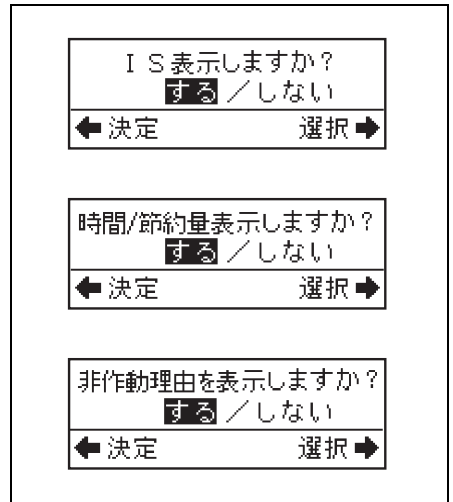
85K30640

- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、「IS表示の設定」が表示されます。そこからモードノブを短押しすると、次のように設定したい項目を切替えることができます。



65P30670

- 3 設定したい項目を表示させトリップノブを短押しすると、次のような画面が表示されます。



65P30680

- 選択した項目により前図のいずれかが表示されます。

- 4 モードノブ (2) を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

IS表示

「する」を選択した場合、アイドリングストップによる自動停止中に動画が表示されます。

- **3-84ページ**
(アイドリングストップ表示)

時間/節約量表示

「する」を選択した場合、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にしたとき、アイドリングストップ時間/節約燃料が表示されます。

- **3-84ページ**
(エコ運転表示機能)

IS警告表示

「する」を選択した場合、アイドリングストップに関する警告が発生した場合表示されます。

- **3-94 ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)**

ⓘ アドバイス

アイドリングストップ (IS) 警告表示は、「しない」を選択しても警告が表示される場合があります。

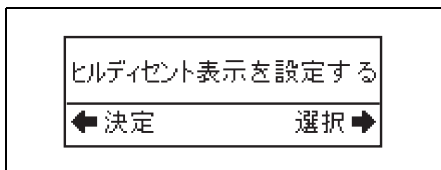
- 5 セッティングモードを終了します。
→ **3-93ページ (設定の終了)**

■ ヒルディセントコントロール表示設定

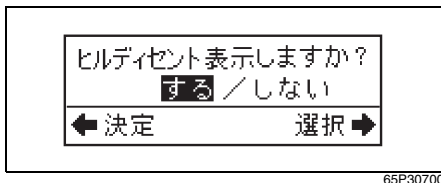
ヒルディセントコントロール装備車

次の手順でヒルディセントコントロール表示の設定をします。

- 1 セッティングモードに切替え、「ヒルディセント表示を設定する」を表示します。



- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、次のような画面が表示されます。



- 3 モードノブ (2) を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- 「する」を選択すると、ヒルディセントコントロールが作動しているときなどの動画が表示されません。

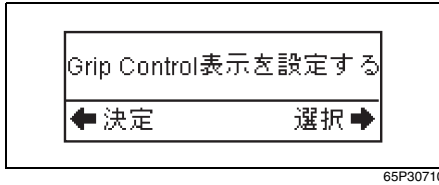
- 4 セッティングモードを終了します。
→ **3-93ページ (設定の終了)**

■ グリップコントロール表示設定

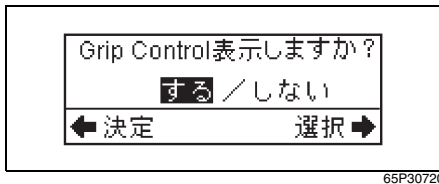
グリップコントロール装備車

次の手順でグリップコントロール表示の設定をします。

- 1 セッティングモードに切替え、「Grip Control 表示を設定する」を表示します。



- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、次のような画面が表示されます。



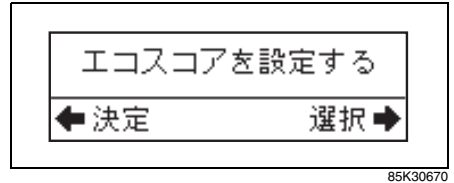
- 3 モードノブ (2) を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。
 - 「する」を選択すると、グリップコントロールが作動しているときなどの動画が表示されます。

- 4 セッティングモードを終了します。
 - **3-93ページ (設定の終了)**

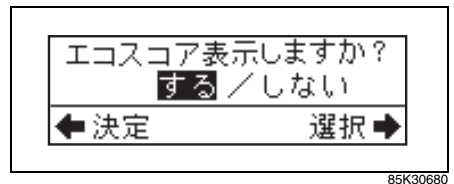
■ エコスコア設定

次の手順でエンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にしたときに表示されるエコスコア表示の設定をします。

- 1 セッティングモードに切替え、「エコスコアを設定する」を表示します。



- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、次のような画面が表示されます。

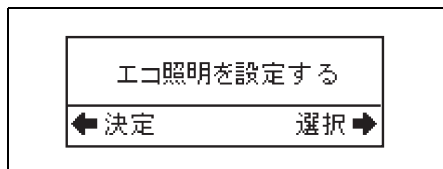


- 3 モードノブ (2) を短押しして、「する」、「しない」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。
- 4 セッティングモードを終了します。
 - **3-93ページ (設定の終了)**

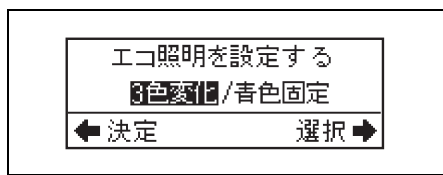
■ エコ照明設定

次の手順でエコ照明の設定をします。

- 1 セッティングモードに切替え、「エコ照明を設定する」を表示します。



- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、次のような画面が表示されます。



- 3 モードノブ (2) を短押しして、「3色変化」、「青色固定」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

- 「3色変化」を選択すると、お車の状態により、スピードメーター上部が青、緑、白に変化します。
- 「青色固定」を選択すると、スピードメーター上部が青色に点灯します。

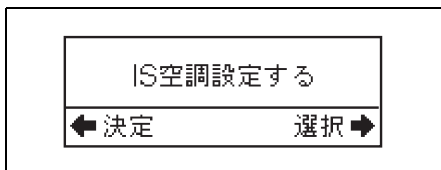
- 4 セッティングモードを終了します。
→ **3-93ページ (設定の終了)**

■ アイドリングストップ (IS) 空調設定

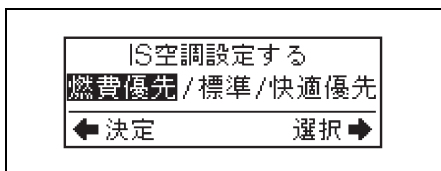
アイドリングストップシステム装備車

次の手順でアイドリングストップ (IS) 空調の設定をします。

- 1 セッティングモードに切替え、「IS空調設定する」を表示します。



- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、次のような画面が表示されます。



- 3 モードノブ (2) を短押しして、「燃費優先」、「標準」、「快適優先」のいずれかを選択し、トリップノブを短押しします。

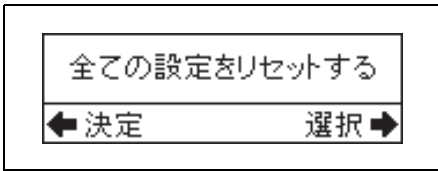
- 「燃費優先」を選択すると、「標準」に対して空調によるアイドリングストップ条件が緩和され、エンジン自動停止になりやすく、自動停止時間も長くなります。(燃料の消費を抑えます。)
- 「快適優先」を選択すると、「標準」に対して空調によるアイドリングストップ条件が厳しくなり、エンジンが自動停止しにくく、自動停止時間も短くなります。(快適性が向上します。)

- 4 セッティングモードを終了します。
→ 3-93ページ (設定の終了)

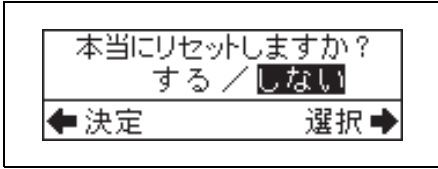
■ すべての設定のリセット

次の手順で工場出荷時の状態（初期設定）にもどせます。

- 1 セッティングモードに切替え、「全ての設定をリセットする」を表示します。



- 2 トリップノブ (1) を短押しすると、次のような画面が表示されます。



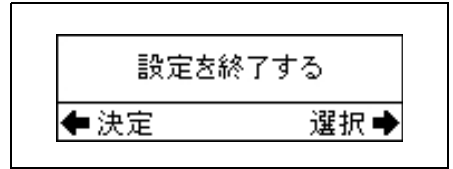
- 3 モードノブ (2) を短押しして、「する」を選択し、トリップノブを短押しします。

- リセットされると次の状態になります。
 - オープニング画面：切り替え
 - 日時：未設定
- 「しない」を選択すると、リセットを途中でやめることができます。

- 4 セッティングモードを終了します。
→ 3-93ページ (設定の終了)

■ 設定の終了

- 1 メーター内のモードノブ (2) を短押しして、「設定を終了する」を表示します。



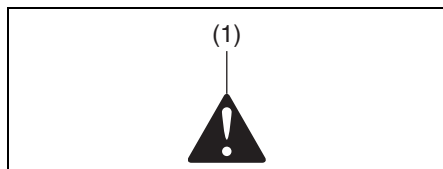
- 2 メーター内のトリップノブ (1) を短押しします。

- セッティングモードは次のような操作をしても、設定を終了することができます。
 - エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にする
 - 走行を開始する

マルチインフォメーション ディスプレイのメッセージ

各システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メッセージが表示されま
す。また、メッセージの種類によって
は、同時に室内/車外ブザーが鳴る場合
があります。

- メッセージが表示されたときは、その
指示にしたがってください。詳しく
は、次のページの「**マルチインフォ
メーションディスプレイのメッセージ
一覧**」をお読みください。また、その
一覧に案内されている参照ページもあ
わせてお読みください。
- 表示されるメッセージの種類によっ
ては、メーター内のマスターウォーニ
ング (1) が同時に点滅する場合があり
ます。



65J275

アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、
表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッ
セージが追加されると、割り込み表
示されます。そのあとは、一定時間
ごとに表示が切り替わります。
- メッセージが表示されているとき
に、メーターの右下にあるモードノ
ブを長押しすると、もとの画面にも
どります。ただし、メッセージの種
類によっては、要因が解消されるま
では、ふたたび表示される場合があ
ります。











■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ一覧

お車のタイプにより表示される内容が異なります。

● エンジンスイッチが **ACC** または **LOCK** (OFF) のとき

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音	原因 (対処方法)
 ドアが 開いています (※1)	消灯	なし	いずれかのドアが開いています。ドアを完全に閉めてください。 → 3-70ページ (半ドア警告灯)
電源の状態 ACC (※1)	消灯	なし	電源の状態が ACC のときに、表示されます。 → 4-6ページ (電源の切替えのしかた)
 スタートスイッチ を押して下さい	消灯	なし	ブレーキペダルを踏んでいます。エンジンをかけるときは、エンジンスイッチを押してください。 → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
ギアシフトを P に入れ ブレーキを踏んで下さい	消灯	なし	セレクトレバーが P N 以外の位置、またはブレーキを踏まずにエンジンスイッチを押しています。メッセージの指示にしたがってください。 → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
 ギアシフトを P に 入れて下さい	消灯	なし	セレクトレバーが P 以外の位置になっています。メッセージの指示にしたがってください。 → 4-10 ページ (エンジンスイッチをもどすときは)
 ステアリング ロック要点検	点滅 	ポーン (1回、室内 ブザー)	ハンドルロックに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 4-10 ページ (エンジンスイッチをもどすときは)

※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因 (対処方法)
 スタートシステム要点検	点滅 	ポーン (1回、室内ブザー)	アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステムに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 3-75 ページ (セキュリティアラームインジケーター)
 リモコンを検知できません	点滅 	ポーン (2回、室内ブザー)	携帯リモコンが検知できない、またはリモコンの電池が切れている状態で、エンジンスイッチ操作をした。リモコンを車内の検知できる位置にするか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → 4-5ページ (車内の作動範囲) → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
リモコンをスタートスイッチに当ててください			
リモコンをスタートスイッチに当ててください	点滅 	ピー、ピー (5回、室内/車外ブザー)、そのあとにポーン(1回、室内ブザー)	エンジンスイッチを ACC または ON にしたときは携帯リモコンを検知していたが、始動時に検知できなくなった。リモコンを車内の検知できる位置で、エンジンスイッチを操作してください。 → 4-5ページ (車内の作動範囲) → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
 リモコンを検知できません			
 リモコンを検知できません	点滅 	ピー、ピー (5回、室内/車外ブザー)	エンジンをかけた状態、またはエンジンスイッチが ACC または ON のときに、ドアのいずれかを開閉して、携帯リモコンが検知外(車外など)になった。リモコンを車内の検知できる位置にもどしてください。 → 4-7ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告)
 ライト点灯しています	点滅 	ピー--- (室内ブザー)	ライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → 3-103ページ (ライト消し忘れ警告ブザー)





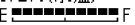



● エンジンスイッチが **ON** のとき


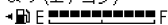
メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音	原因 (対処方法)
 ドアが 開いています (停車中は※1)	点滅 (走行中のみ) 	ポーン (走行中のみ 1回、室内 ブザー)	いずれかのドアが開いています。安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。 → 3-70ページ (半ドア警告灯)
 電源の状態 ON (※1)	消灯	なし	電源の状態が ON のときに、表示されます。 → 4-6ページ (電源の切替えのしかた)
 シートベルトを 着用して下さい	点滅 	ピー、ピー、 (約95秒 間、室内 ブザー)	走行中に、運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → 3-40ページ (シートベルト警告ブザー)
 ブレーキ液 要補充	点滅 	ポーン (1回、室内 ブザー)	ブレーキ液が不足しています。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 3-64ページ (ブレーキ警告灯)
 パーキング ブレーキ未解除	点滅 	ピピピッ、 ピピピッ、 (室内 ブザー)	走行中に、パーキングブレーキが解除されていません。安全な場所に停車して、パーキングブレーキを解除してください。 → 4-12ページ (パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー)
 給油して下さい (※1)	消灯	ポーン (1回、室内 ブザー)	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → 3-66ページ (燃料残量警告灯)
 スタートスイッチ を押して下さい	消灯	なし	ブレーキペダルを踏んでいます。エンジンをかけるときは、エンジンスイッチを押してください。 → 4-8ページ (エンジンのかけかた)

※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

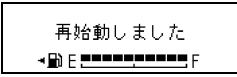
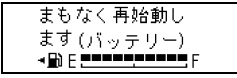
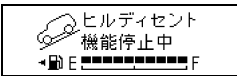


メッセージ	マスターウォーニング	ブザー音	原因 (対処方法)
	消灯	なし	セレクトレバーが P N 以外の位置でブレーキペダルを踏んで、エンジンスイッチを押しています。メッセージの指示にしたがってください。 → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
	点滅 	ポーン (1回、室内ブザー)	ハンドルロックに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 4-10ページ (エンジンスイッチをもどすときは)
	点滅 	ポーン (1回、室内ブザー)	ハンドルロックが解除されていません。ハンドルを左右にまわしながら、エンジンスイッチの操作をやり直してください。 → 4-3ページ (ハンドルロック未解除警告)
	点滅 	ポーン (1回、室内ブザー)	アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステムに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 → 3-75ページ (セキュリティアラームインジケーター)
 <p>(※1)</p>	消灯	なし	携帯リモコンの電池切れが近いです。電池交換のうえ、警告をリセットしてください。 → 6-8ページ (携帯リモコンの電池交換)
	点滅 	ピー、ピー、 (5回、室内/車外ブザー)	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。リモコンを車内にもどすか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 → 4-7ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告) → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
		ポーン (1回、室内ブザー)	

※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音	原因 (対処方法)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アイドリングストップ できません(ボンネット)  E  F </div>	消灯	なし	ボンネットが開いている、またはエンジン始動時ボンネットが完全に閉まっていなかったため、アイドリングストップできません。 → 4-53 ページ (エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて) → 4-54ページ (スタンバイ条件)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アイドリングストップ できません  E  F </div>	消灯	なし	バッテリー内部温度が所定温度内でない、急な坂道、運転席ドアが開いている、または運転席シートベルトが外れているなどの理由によりアイドリングストップできません。 → 4-53 ページ (エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて) → 4-54ページ (スタンバイ条件)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アイドリングストップ できません(充電中)  E  F </div>	消灯	なし	鉛バッテリーまたはリチウムイオンバッテリーを充電する必要があるため、アイドリングストップできません。 → 4-54ページ (スタンバイ条件)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アイドリングストップ できません(水温)  E  F </div>	消灯	なし	冷却水の温度が所定温度内でないため、アイドリングストップできません。 → 4-54ページ (スタンバイ条件)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アイドリングストップ できません(エアコン)  E  F </div>	消灯	なし	空調の設定温度と車内温度の差が大きくなった、または冷暖房機能が十分でなくなったため、アイドリングストップできません。 → 4-54ページ (スタンバイ条件)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アイドリングストップ できません(ハンドル)  E  F </div>	消灯	なし	ハンドル操作によりアイドリングストップできません。 → 4-56ページ (エンジン自動停止の条件)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> アイドリングストップ できません(ブレーキ)  E  F </div>	消灯	なし	次の状態のため、アイドリングストップできません。 ●ブレーキの踏み込みが弱い → 4-56ページ (エンジン自動停止の条件)

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音	原因 (対処方法)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> エンジンを再始動 して下さい  </div>	消灯	※2	自動停止中に次の状態になりました。 エンジンを再始動してください。 ● ボンネットが開いたあと、完全に閉 めた → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> まもなく再始動し ます(エアコン)  </div>	消灯	ピー (1回、室内 ブザー)	空調の設定温度と車内温度の差が大き くなった、またはデフロスタースイッ チを押したため、まもなくエンジンが 再始動します。 → 4-57ページ (エンジン自動再始動の条件) また、エアコンによるアイドルングス トップ時間の長さは設定により変更す ることができます。 → 3-92 ページ (アイドルングス トップ (IS) 空調設定)

※2 メッセージが表示される原因によりブザー音は異なります。**1-18 ページ**の「各装
 備による警告ブザー」または**4-53ページ**の「エンジン自動停止中はこんなことに
 気をつけて」をお読みください。

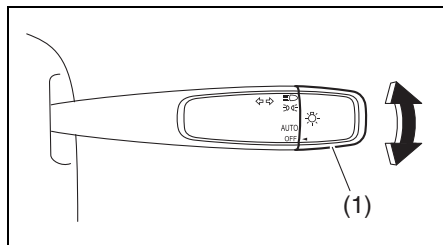
メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー音	原因 (対処方法)
 <p>再始動しました ◀ E ██████████ F</p>	消灯	※2	ブレーキ倍力装置の負圧低下、車両の転がり出し、運転席ドアが開いた、または運転席シートベルトが外されたなどによりエンジンが再始動しました。 → 4-57ページ (エンジン自動再始動の条件)
 <p>まもなく再始動します (バッテリー) ◀ E ██████████ F</p>	消灯	ピー (1回、室内ブザー)	バッテリーの放電が進んだ、または時間経過によりまもなくエンジンが再始動します。 → 4-57ページ (エンジン自動再始動の条件)
 <p>ヒルディセント 機能停止中 ◀ E ██████████ F</p>	消灯	なし	ヒルディセントコントロールに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 <p>Grip Control 機能停止中 ◀ E ██████████ F</p>	消灯	なし	グリップコントロールに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 <p>Grip Control 解除しました ◀ E ██████████ F (※1)</p>	消灯	なし	グリップコントロールスイッチがONのとき、次の状態となった。 <ul style="list-style-type: none"> ●車両が安定し、車速が約30 km/hを超えた ●グリップコントロールスイッチをOFFにした ●DSC&TCS OFFスイッチをONにした → 4-34ページ (グリップコントロール)

- ※1 印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。
- ※2 メッセージが表示される原因によりブザー音は異なります。**1-18 ページ**の「各装備による警告ブザー」または**4-53ページ**の「エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて」をお読みください。

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく使用でき、ライトスイッチのつまみ (1) をまわすと次のように点灯・消灯します。



71L30700

ライトスイッチの位置	ヘッドライト (前照灯)	車幅灯、尾灯、番号灯
☺	点灯	
☹	消灯	点灯
AUTO	自動点灯・消灯 (※)	
OFF	消灯	

※オートライトシステムは、エンジンスイッチが **ON** のときだけ作動します。

注記

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間は、メーター内のライト点灯表示灯が点灯します。

→ 3-72ページ (ライト点灯表示灯)

■ オートライトシステム

エンジンスイッチが **ON** のときに使用でき、車外の明るさに応じてヘッドライトや車幅灯が自動的に点灯・消灯します。エンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** (OFF) にすると、自動的に消灯します。

- ライトスイッチのつまみを AUTO の位置にまわすと、次のように点灯・消灯します。

車外の明るさ	ヘッドライト (前照灯)	車幅灯、尾灯、番号灯
明るいとき	消灯	
薄暗いとき	消灯	点灯
暗いとき	点灯	

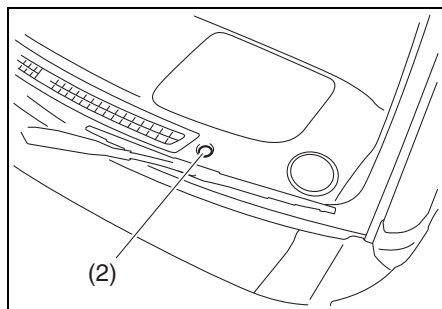
注記

AUTO 位置のままエンジンスイッチを **ON にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯します。そのまま長時間点灯させると、鉛バッテリーあがりの原因となりますのでご注意ください。**

アドバイス

オートライトセンサー (2) の上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

インパネ助手席側



65P00000

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、次のようなときに運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーー”と連続して鳴ります。

- エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にしたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

ライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

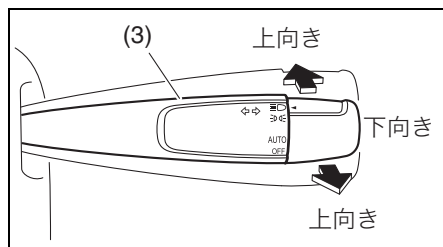
- 警告ブザーの作動中は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
→ **3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)**

ライトの上向き、下向きの切り替え

ヘッドライトを上向き (ハイビーム) に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー (3) を車の前方向に押しと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き (ハイビーム) 表示灯が点灯します。

→ **3-72ページ (ヘッドライト上向き (ハイビーム) 表示灯)**



65P3084G

アドバイス

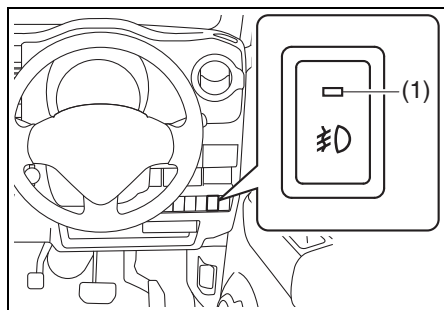
対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

タイプ別装備

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯します。
もう一度押すと消灯します。



注記

鉛バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

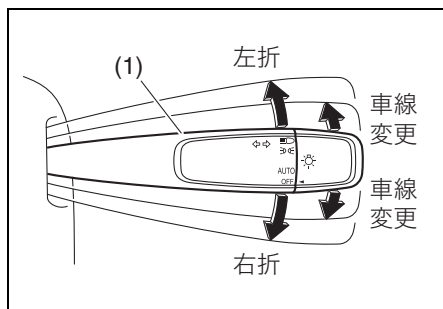
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー (1) を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもとどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもとどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

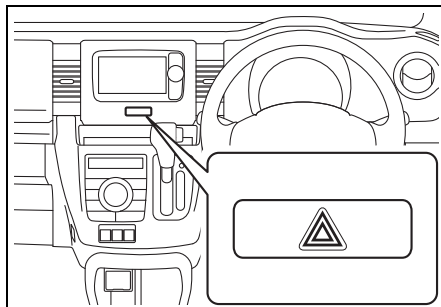
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



65P30820

注記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用できます。

▲ 注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなる場合があります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。

→ 5-22ページ (デフロスター)

注記

- ウィンドーが乾いているときは、ウィンドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。
- ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。

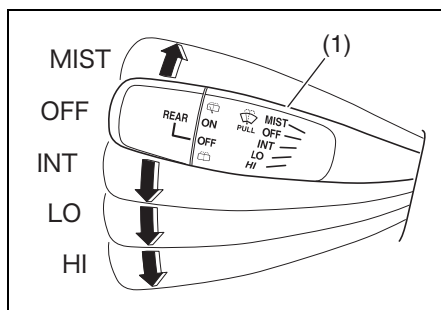
■ ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが停止します。次の手順で対処してください。

- 1 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** (OFF) にします。
- 2 ワイパースイッチをOFFにします。
- 3 ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。
- 4 モーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。
 - しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

フロントワイパースイッチ

レバー (1) を上下に操作すると、フロントワイパーが次表のように作動します。

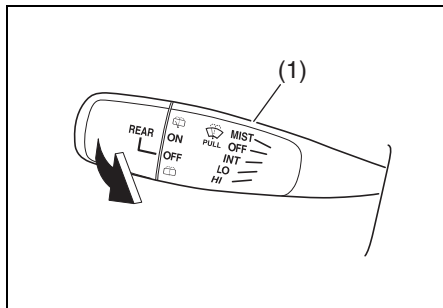


50M0066

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

フロントウォッシャースイッチ

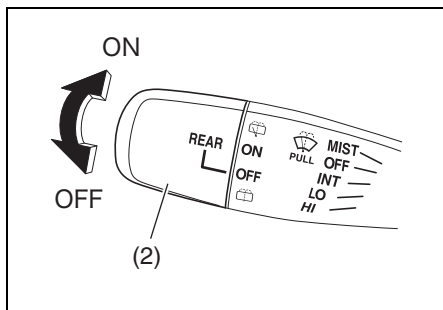
レバー (1) を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



50M0067

リヤワイパースイッチ

ツマミ (2) をまわします。

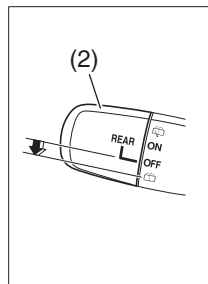
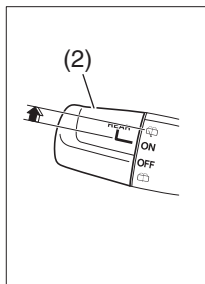


72M00179

ON	作動
OFF	停止

リヤウォッシャースイッチ

- 図の ↑ 方向にツマミ (2) をまわし、ONの上にある ☐ (ウォッシャー) にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。ツマミから手を離すとONにもどります。
- 図の ↓ 方向にツマミ (2) をまわし、OFFの下にある ☐ (ウォッシャー) にあわせるとウォッシャー液が噴射します。ツマミから手を離すとOFFにもどります。



50M0069

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押し、ホーンが鳴ります。



70K188

4. 運転するときは

● エンジン始動・停止

エンジンスイッチの各位置のはたらき	4-2
イモビライザーシステム	4-4
アドバンスキーレスエントリー& キーレスプッシュボタンスタートシステム	4-5
エンジンのかけかた	4-8
エンジンの止めかた	4-10

● パーキングブレーキ

パーキングブレーキの操作	4-11
--------------	------

● オートマチック車

セレクタレバーの操作	4-13
オートマチック車の特性	4-16
オートマチック車を運転するとき	4-17
オートマチック車の運転のしかた	4-19

● ABS

ABS装備車の取扱い	4-23
------------	------

● DSC&TCS

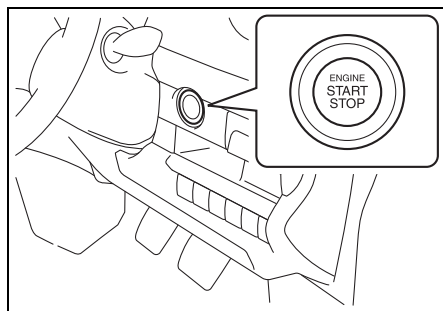
DSC&TCS装備車の取扱い	4-28
ヒルディセントコントロール	4-31
グリップコントロール	4-34

- **運転支援機能**
運転支援機能…………… 4-37
- **S - エネチャージ**
S - エネチャージ…………… 4-48
- **アイドリングストップシステム**
アイドリングストップシステム…………… 4-50
エネチャージ（減速エネルギー回生機構）…………… 4-60
エコクール（蓄冷エバポレーター）…………… 4-61
ヒルホールドコントロール…………… 4-61

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

エンジンスイッチの各位置のはたらき



65P40020

- エンジンを始動する場合は、4-8ページの「エンジンのかけかた」をお読みください。

4

エンジンスイッチの位置 (※)	エンジンの状態	はたらき
LOCK (OFF)	停止	駐車するときの位置です。エンジンスイッチをLOCK (OFF) にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	エンジンをかけずにドアミラーやオーディオまたはナビゲーション、アクセサリソケットなどの電装品 (タイプ別装備) を使用するときの位置です。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウィンドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。メーターが点灯します。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動するときの位置です。 → 4-8ページ (エンジンのかけかた)

※エンジンスイッチ位置の切替えについては、4-5ページの「アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム」をお読みください。

- エンジンスイッチの位置によって、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。詳しくは **3-94** ページの「マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ」をご覧ください。

注記

エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ナビゲーション、またはオーディオなどを使用しないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

⚠️ アドバイス

- ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) から **ACC** または **ON** にしたときに解除されます。
- 強い電波やノイズの影響を受けると、マルチインフォメーションディスプレイ内にメッセージが表示され、電源の切替えやエンジンの始動ができない場合があります。

ハンドルロックが解除できないときは

エンジンの始動ができません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、エンジンスイッチを押してください。



64L40180

4

■ ハンドルロック未解除警告

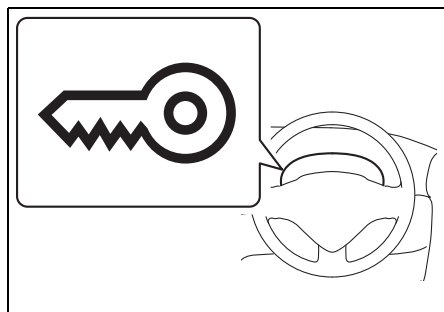
エンジンスイッチが **ON** のときに、ハンドルロックが未解除の場合、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **3-94** ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、携帯リモコンが電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたキーまたは携帯リモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

イモビライザー警告灯



メーターパネル内にあります。

→ 1-10ページ (警告灯・表示灯)

エンジンの始動が可能な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

- 点滅または約 5 秒間点灯すると、エンジンがかからない場合があります。携帯リモコンの場所を確認し、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどしてから、操作をやり直してください。
→ 4-9 ページ (▲ (マスターウォーニング) が点滅してエンジンがかからないときは)

- 携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。
→ 4-7 ページ
(携帯リモコン車外持ち出し警告)

アドバイス

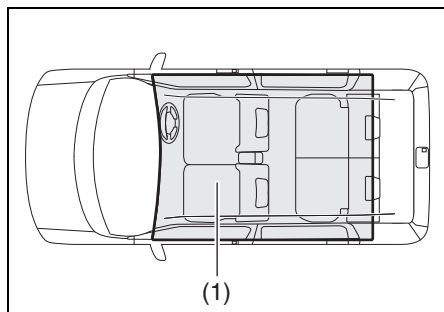
点灯または点滅すると、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。

→ 3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム

所持している携帯リモコンが、インパネの上や荷室などを除く車内の作動範囲に入っていると、エンジンスイッチによる始動（4-8 ページ参照）および電源の切替え（次ページ参照）が可能となります。また、そのほかに次の機能があります。

- リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠
→ 3-6ページ（携帯リモコン）
- キーレスエントリー
→ 3-4ページ（キーレスエントリー）
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
→ 4-4ページ
（イモビライザーシステム）



81M40230

(1) 車内の作動範囲

アドバイス

- 車内の作動範囲に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジン始動や電源切替えができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動する場合があります。
 - 携帯リモコンの電池が消耗している
 - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
 - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われていたりしている
 - 携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある
 - 5-9ページ
（インパネ収納スペース）
 - 5-12ページ
（ドリンクホルダー）
 - 5-15ページ
（そのほかの装備）
- 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある
- 車内の作動範囲に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、エンジン始動や電源切替えができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
 - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
 - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

電源の切替えのしかた

エンジンをかけずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてエンジンスイッチの位置を切り替えます。

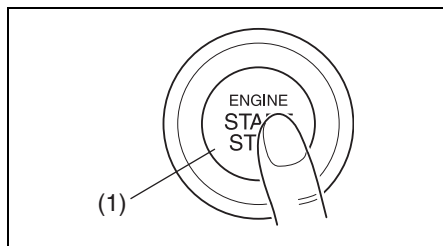
なお、この切替えのことを「電源の切替え」といいます。

- 電源の切替え時には、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
→ 3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

4

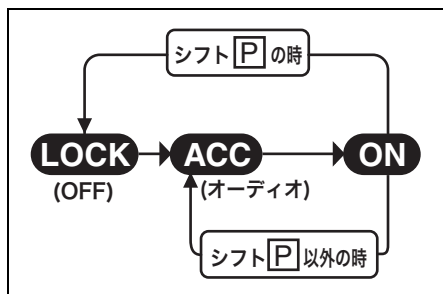
1 携帯リモコンを所持して運転席にすわります。

2 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ (1) を押します。



82K254

- 押すごとに次のようにエンジンスイッチの位置が切り替わります。



70K130

⚠️アドバイス

- セレクトレバーが **P** 以外に入っていると、**LOCK** (OFF) にはもどせません。
- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどせないことがあります。
→ 4-10ページ (エンジンスイッチをもどすときは)

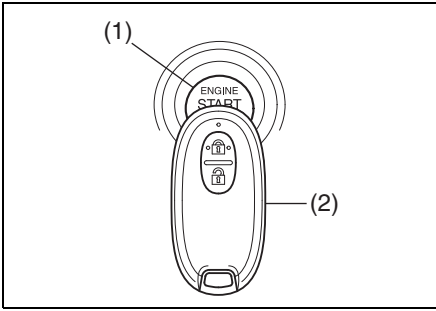
■ ⚠️ (マスターウォーニング) が点滅して電源が切り替わらないときは

携帯リモコンが「車内の作動範囲」(4-5ページ参照)で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでも切り替わらないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切り替えてください。

1 ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチ (1) を押します。

2 メーター内の ⚠️ (マスターウォーニング) が点滅している約10秒以内に、携帯リモコン(2)の先端(ロックスイッチ側)をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

- ⚠️ (マスターウォーニング) の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。



64L40030

※前記の手順を行なっても切り替わらないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。

Ⓜアドバイス

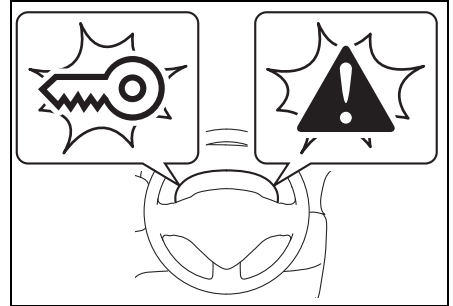
- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを **ON** にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - **3-9ページ**
(携帯リモコン電池消耗警告)
 - **6-8ページ**
(携帯リモコンの電池交換)

携帯リモコン車外持ち出し警告

エンジン回転中やエンジンスイッチを操作するときに携帯リモコンが検知されないと次のもので警告します。

- イモビライザー警告灯
- マスターウォーニング
- 室内/車外ブザー
→ **1-16ページ**
(警告ブザーが鳴ったときは)

- メッセージ
→ **3-94ページ** (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)



65P40030

警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンを車内にもどしてください。

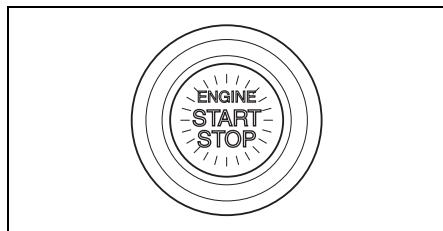
- 警告の作動中は、エンジンの再始動ができません。また、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - **3-94ページ** (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)
- イモビライザー警告灯およびマスターウォーニングの点滅は、通常、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどしてから再操作してください。

Ⓜアドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

エンジンスイッチ照明

- 運転席ドアを開けると点灯します。運転席ドアを閉めると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。ライトを消すと消灯します。



82K253

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能)

- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 運転席ドアを開けたまま約 15 分が経過

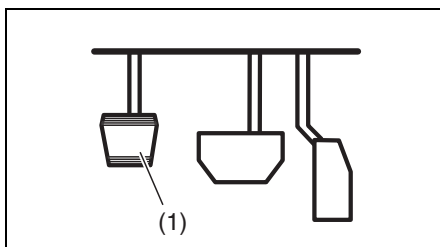
エンジンのかけかた

2-15 ページの「エンジンをかけるときは」もあわせてお読みください。

アドバイス

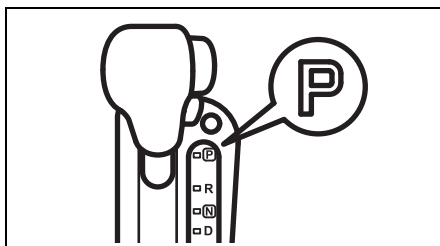
- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。
→ 4-3 ページ (ハンドルロックが解除できないときは)

- 1 パーキングブレーキ (1) がしっかりかかっていることを確認します。



81M20050

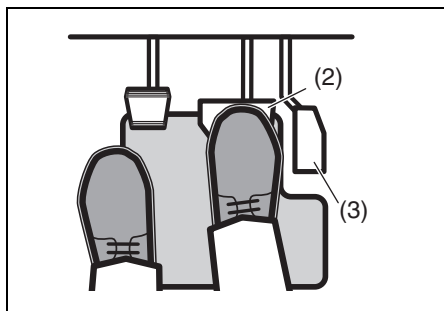
- 2 セレクトレバーが **P** に入っていることを確認します。



70K30010

3 右足でブレーキペダル (2) をしっかり踏み続けます。

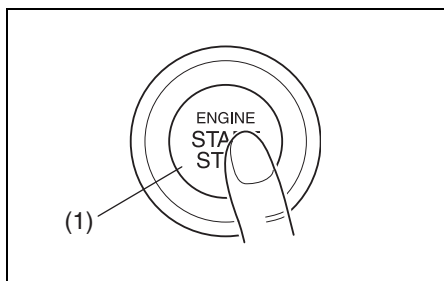
- アクセルペダル (3) は踏まないでください。



81M40590

4 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに「**Ⓞ**スタートスイッチを押して下さい」が表示されたらエンジンスイッチ (1) を押します。エンジンがかかったら、スターターは自動的に停止します。

- エンジンがかからなくても、スターターはしばらくすると自動的に停止します。自動停止後またはシステム異常時は、エンジンスイッチを押している間だけ、スターターがまわります。



82K254

■ ▲ (マスターウォーニング) が点滅してエンジンがかからないときは

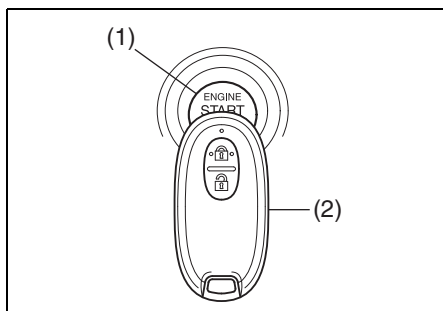
携帯リモコンが「車内の作動範囲」(4-5 ページ参照) で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでもエンジンがかからないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順を行なってください。

1 セレクトレバーが **P** に入っていることを再確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。

2 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに「**Ⓞ**スタートスイッチを押して下さい」が表示されたらエンジンスイッチ (1) を押します。

3 メーター内の ▲ (マスターウォーニング) が点滅している約 10 秒以内に、携帯リモコン (2) の先端 (ロックスイッチ側) をエンジンスイッチに約 2 秒間当てます。

- ▲ (マスターウォーニング) の点滅中に、イモビライザー警告灯が約 5 秒間点灯します。



64L40030

※前記の手順を行ってもエンジンがかからないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。

⌄アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを **ON** にしたときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - 3-9ページ
(携帯リモコン電池消耗警告)
 - 6-8ページ
(携帯リモコンの電池交換)

4

エンジンの止めかた

エンジンを止めるときは

⚠警告

緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。

- ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。
- パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。
- 次の機能が作動しません。
 - ABS
 - エマージェンシーストップシグナル (ESS)
 - DSC&TCS
 - レーダーブレーキサポート (RBS)
 - 誤発進抑制機能

注記

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッションが損傷するおそれがあります。

車両の状態	エンジン停止方法
停車中	エンジンスイッチを押し
走行中 (緊急時)	エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押しする

- 停車中にエンジンを停止できないときは、エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

エンジンスイッチをもどすときは

- 1 セレクトレバーを **P** に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。

→ 4-13ページ
(セレクトレバーの操作)

- 2 エンジンスイッチを押しして **LOCK** (OFF) にもどします。

⌄アドバイス

エンジンスイッチをもどすときに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。

→ 3-94ページ (マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ)

- エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
 - 誤操作防止のため、次のようなときは、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどせません。
 - セレクトレバーの位置が **P** 以外
 - セレクトレバーの位置が **P** に入っている場合、セレクトレバーのボタンを押しているとき
- 4-22ページ (駐車)

- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどせないことがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。
 - 盗難を防ぐため、キー操作にてドアを施錠してください。(リクエストスイッチやキーレスエントリーでは施錠できません)
 - 鉛バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。(10 mmスパナなどの市販工具が必要です)

■ エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー

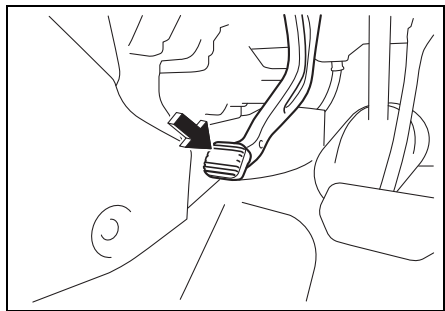
エンジンスイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンスイッチを **ACC** にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- セレクトレバーを **P** に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。エンジンスイッチを2回押して **LOCK** (OFF) にもどすと、室内ブザーが止まります。
- **LOCK** (OFF) にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

- ハンドルロック未作動警告ブザー
故障などで、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどして、いずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされない場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピッ、ピッ、”と断続的に鳴ります。マツダ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキの操作

パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。



4

⚠ 警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

→ 3-64ページ (ブレーキ警告灯)

駐車するときは

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

- パーキングブレーキをかけるときは、確実にブレーキが効くまで一気に踏み込んでください。
- 一気に踏み込まないで途中でペダルから足を離してしまったときは、一度解除してから、同じ手順で再度踏み込んでください。

⚠ 警告

- 走行中は、パーキングブレーキペダルを踏まないでください。急ブレーキをかけた状態になり、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中は、パーキングブレーキペダルに足を乗せないでください。カーブを曲がるときなどに足に力がかかり、踏み込んでしまうおそれがあります。

⚠ 注意

- パーキングブレーキの効きを強くしようとして、2度踏みをしないでください。2度踏みをすると、ペダルがもどってパーキングブレーキが解除されます。
- パーキングブレーキを解除するときは、右足でブレーキペダルを踏んでください。

■ パーキングブレーキをさらに強く効かせたいときは

- 1 右足でブレーキペダルを強く踏んだままにします。
- 2 左足でパーキングブレーキを踏んで解除してから、再度踏み込みます。

■ 解除するときは

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏み、ゆっくりと離します。
- 坂道発進するときは、左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏んでおき、右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動き出す感触を確認しながらパーキングブレーキペダルをゆっくりともどしてください。

パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー

パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

- 警告ブザーの作動中は、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
→ 3-94ページ（マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ）

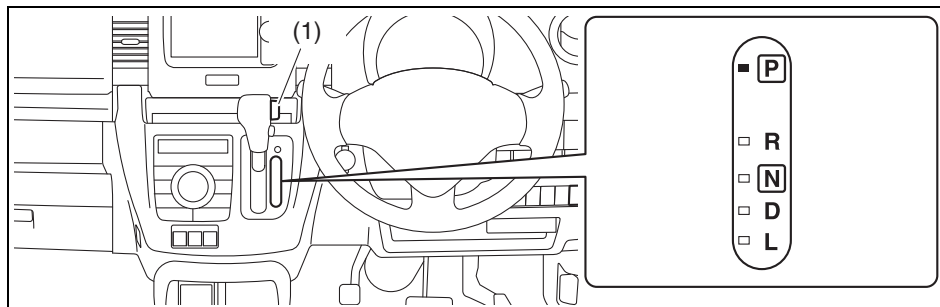
⚠ 警告

警告ブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、パーキングブレーキを解除してください。走行中の解除は、操作に気を取られて思わぬ事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの操作

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

セレクトレバーの各位置のはたらき

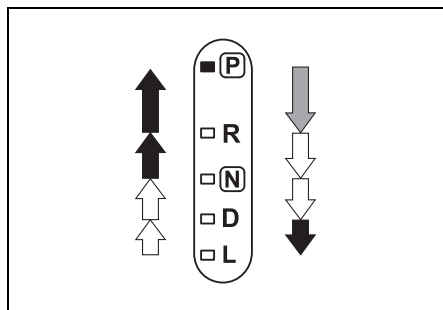


65P40070

(1) ボタン

P パーキング	<p>駐車するとき、エンジンを始動・停止するときの位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駆動輪（前輪）が固定されます。
R リバース	<p>車を後退させるときの位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	<p>エンジンの動力が伝わらない状態の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エンジンを始動できますが、安全のため P 位置で始動してください。
D ドライブ	<p>通常走行の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
L ロー	<p>強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 急な下り坂を走行するときなどに使用します。

セレクトレバーの動かし方

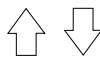


70K194

4



ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。



ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。



ボタンを押したままセレクトレバーを動かします。

注記

完全に停車させてから、セレクトレバーを **R** に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。なお、トランスミッション保護のため、前進車速が約 10 km/h 以上のときは変速されません。(ニュートラルのまま)

アドバイス

⇕の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣をつけてください。常にボタンを押して操作していると、間違っ て **P** **R** および **L** へ入ってしまうおそれがあります。

シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが **ON** でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを **P** からほかの位置に動かせません。
- エンジンスイッチが **ACC** または **LOCK** (OFF) のときは、ブレーキペダルを踏んでも、セレクトレバーを **P** からほかの位置に動かせません。
- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを **ON** にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを **P** からほかの位置へ動かせない場合は、次のページの手順でシフトロックを解除してください。この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

警告

セレクトレバー可動部に飲み物などをこぼしたり、内部に異物が入ったりした場合、そのまま使用を続けるとシフトロックシステムが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

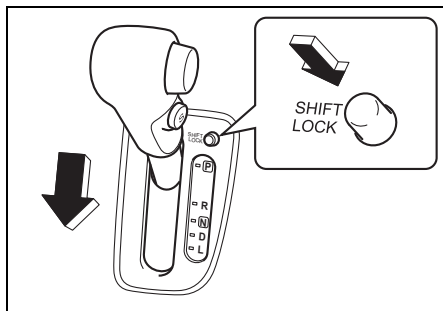
注意

発進するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障や鉛バッテリーあがりなどで、セレクトレバーを [P] からほかの位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

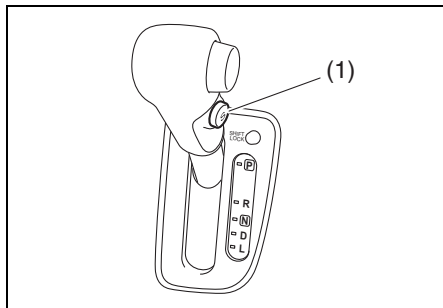
- 1 安全のため、エンジンスイッチを [ACC] にしてパーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。
- 2 セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。



81M40060

S (スポーツ) モードスイッチ

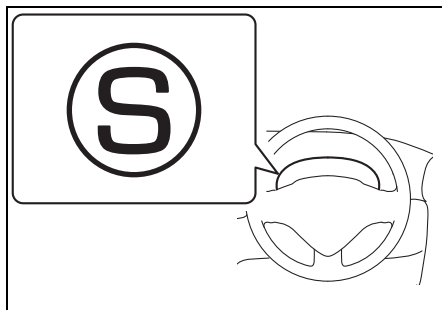
- スイッチを押すごとに、ON と OFF が切り替わります。



81M40070

(1) S(スポーツ)モードスイッチ

- ONのとき、メーター内のS (スポーツ) モード表示灯が点灯します。



65P40320

- S (スポーツ) モードスイッチは、エンジン始動時にはOFF状態にもどります。

■ スイッチがONのとき

坂道や山間路の走行に適しています。

- 下り坂ではエンジンプレーキがかかります。
- 上り坂や山間路ではエンジン回転数を高く保ち、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ スイッチがOFFのとき

通常走行に適しています。

- 燃費性能と静粛性の高い走行ができます。

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリーブ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリーブ現象といいます。

▲ 注意

- セレクトレバーを **P** **N** 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリーブ現象が強くなる場合があります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

📌 アドバイス

CVT車もクリーブ現象があります。

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱい踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

▲ 注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱい踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速をするおそれがあります。

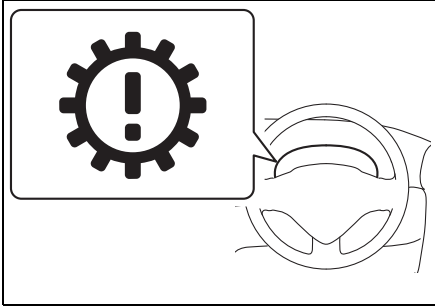
登降坂変速制御

セレクトレバーが **D** 位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。
- 降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯



81M40161

メーターパネル内にあります。

- CVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。
→ 1-10ページ（警告灯・表示灯）

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを **R** に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが **R** に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

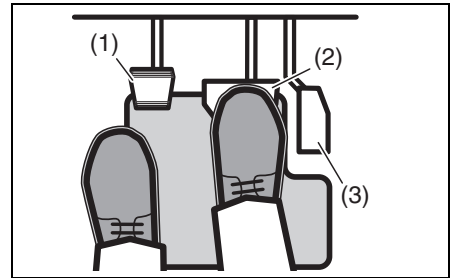
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



81M20060

- (1) パーキングブレーキペダル
- (2) ブレーキペダル
- (3) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するとき

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **[R]** に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに **[R]** から **[N]** に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

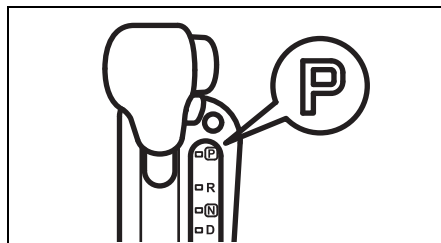
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は **[P]**、前進時は **[D]**、後退時は **[R]** に入っていることを目で確認してください。

車から離れるときは



70K30010

⚠ 警告

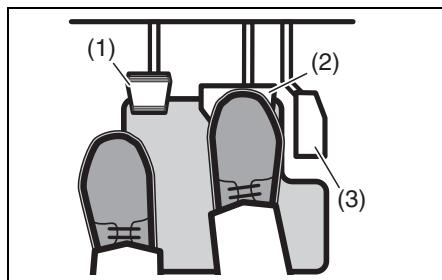
エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが **[P]** 以外に入っていると、車がひとりで動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

オートマチック車の運転のしかた

4-13ページの「セレクトレバーの操作」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

- 1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートを調節し、ハンドルを調節します。
→ 3-30ページ (前席シート)
→ 3-29ページ (チルトステアリング)
- 2 アクセルペダル (3) とブレーキペダル (2) の位置を右足で確認します。
- 3 パーキングブレーキペダル (1) の位置を左足で確認します。

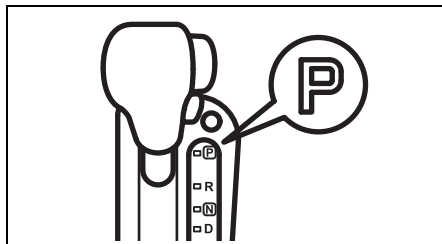


81M20060

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は4-8ページの「エンジンのかけかた」をお読みください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。
- 2 セレクトレバーが **P** にあるか確認します。



70K30010

アドバイス

セレクトレバーが **N** 位置でもエンジンがかかりますが、安全のため **P** でエンジンをかけてください。

- 3 ブレーキペダルを右足で踏みます。
- 4 エンジンを始動します。

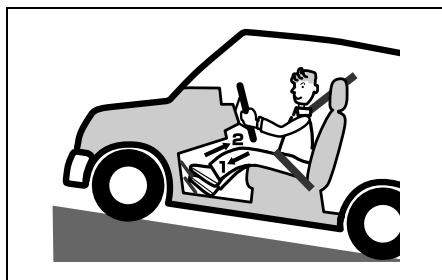
発進

■ 通常の発進

- 1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。
- 2 前進時は **D**、後退時は **R** にシフトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。
- 3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。
- 4 ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

■ 急な上り坂での発進

- 1、2は「通常の発進」と同じ操作です。
- 3 左足でパーキングブレーキペダルをカチッと音がするまで踏み込みます。
- 4 ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏み込みます。
- 5 車が動き出す感触を確認しながら、パーキングブレーキペダルをもどして発進します。



82K202

アドバイス

ヒルホールドコントロール装備車の場合、急な上り坂での発進時に車が後退することを一定時間防ぐ機能があります。

→ **4-61ページ**
(ヒルホールドコントロール)

走行

■ 通常走行

シフトレバーを **D** に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

▲ 注意

緊急時以外は、走行中にシフトレバーを **N** に入れしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思いがけない事故の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをするときは、アクセルペダルをいっぱい踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られません。

■ 上り坂走行

上り坂を **D** で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめ S (スポーツ) モードスイッチを ON にしておく、エンジン回転の変化が少ない力強くなめらかな走行ができます。

■ 下り坂走行

下り坂を **D** のままで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめ S (スポーツ) モードスイッチを ON にしてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには **L** に入れます。

⚠ 警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

📌 アドバイス

ヒルディセントコントロール装備車の場合、急な下り坂などで車速を一定に保ち、走行を補助する機能があります。

→ 4-31ページ

(ヒルディセントコントロール)

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままです。停車し、ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを **N** に入れます。

2 再発進するときには間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠ 警告

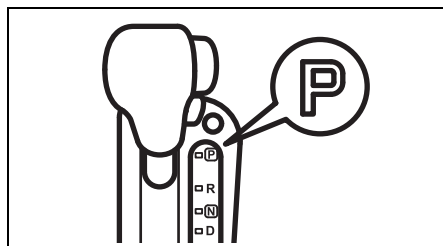
一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注記

上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしてしないでください。トランスミッションフルードが過熱し、故障の原因となります。

駐車

- 1 車を完全に止めます。
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。
- 3 セレクトレバーを **P** に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。
 - セレクトレバーが **P** 位置になっているか目で確かめます。



70K30010

警告

駐車するときは、セレクトレバーを **P** に入れてからエンジンを止めてください。**P** 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 4 エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にもどします。
→ 4-10 ページ (エンジンスイッチをもどすときは)

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行ってください。

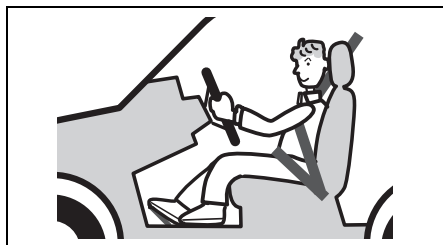
アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **R** に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに **R** から **N** に入れる習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しでも移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

▲ 注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（**D**）、**L**）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（**R**）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

■ 停車するとき

注記

車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを**P**に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

▲ 警告

- 常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABSによる制御には限界があります。
- ABSは、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。
- ※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

▲注意

- 急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABSがついていない車と同等です。
- 次のようなときは、ABSのついていない車より制動距離が長くなる場合があります。スピードを控えめにし、車間距離を十分にとってください。
 - 凸凹道や石だたみなどの悪路
 - じゃり道、新雪路
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - マンホールなど鉄板の上を通過するとき
 - タイヤチェーンの装着時
- 急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ(※)をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。
※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた
- 路面の状況によりますが、約10 km/h以下ではABSが作動しません。

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じる場合があります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

🔊アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

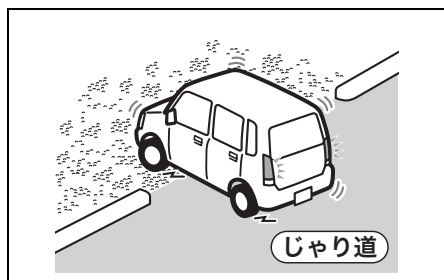
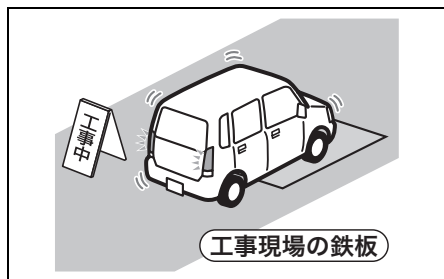
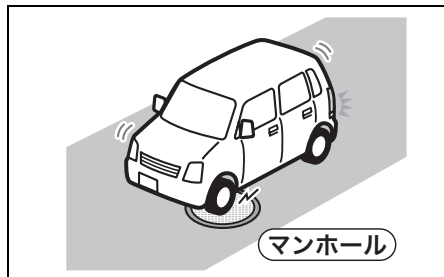
タイヤについて

▲警告

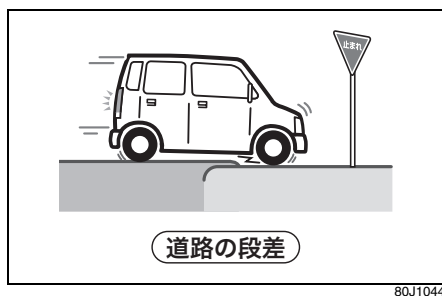
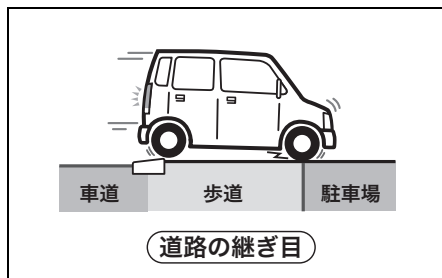
ABSは、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、指定のサイズで、4輪ともサイズ、メーカー、銘柄、トレッドパターン(溝模様)が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなってABSが正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSは、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

- 滑りやすい路面を走行しているとき

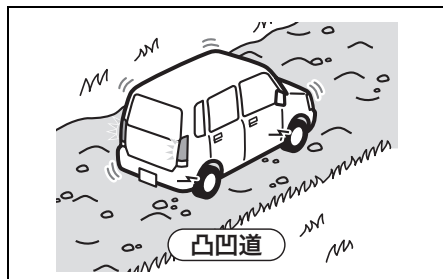


- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

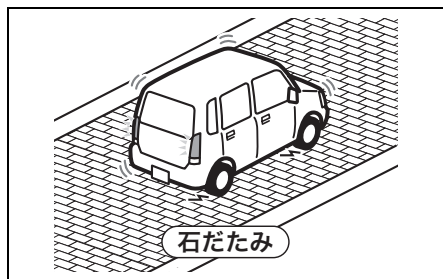


運転するときは/ABS

- 悪路を走行しているとき

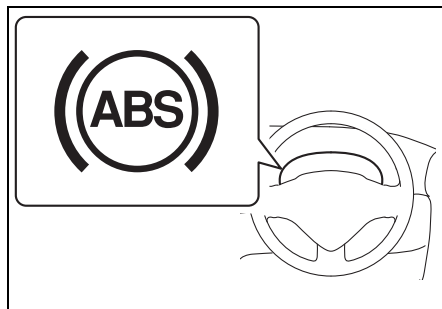


80J1045



80J1046

ABS警告灯



メーターパネル内にあります。

- ABSの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。

→ 1-10ページ（警告灯・表示灯）

ブレーキアシスト

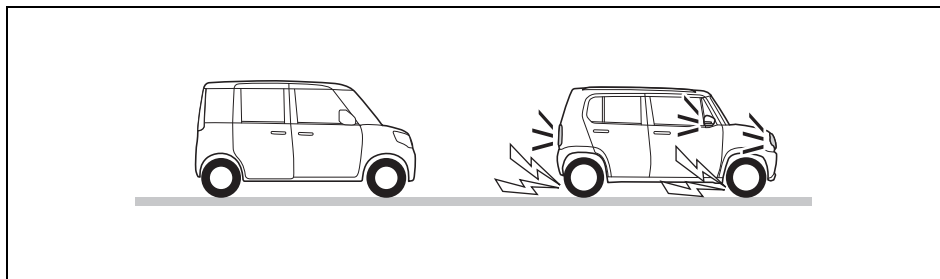
ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

エマージェンシーストップシグナル (ESS)

ESSとはEmergency Stop Signal (エマージェンシーストップシグナル)の略です。ESSは次の条件をすべて満たしているときに、非常点滅表示灯を通常よりも速く点滅させることで、後続車へ注意を促す機能です。またその際、メーター内の方向指示器表示灯もあわせて点滅します。

- ブレーキペダルを勢いよく踏み込んだときの車速が約55 km/h以上のとき
- ABSが作動しているとき、またはABSが作動するような急ブレーキのとき



65P40170

4

ESSは次の状態になると機能が停止します。

- 車速が十分に低下したとき
- ブレーキペダルを離したとき
- ABSの作動が終了したとき
- 非常点滅表示灯スイッチの位置を **ON** にしたとき

⚠ 警告

ESSは走行中の急ブレーキ時に、後続車に注意を促すことで追突を軽減する機能で、すべての追突を防ぐものではありません。減速や停車するときは不要な急ブレーキはさけ、常に安全運転に努めてください。

📌 アドバイス

- ESSの機能を停止させることはできません。
- ESSの機能よりも、非常点滅表示灯スイッチの操作が優先されます。
- 次のような路面を走行中に、一瞬しかABSが作動しなかったときは、ESSは作動しないことがあります。
 - 滑りやすい路面を走行しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

DSC&TCS装備車の取扱い

DSC&TCSは、ABS、TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

4-23ページをお読みください。

4 ■ ブレーキアシスト

ABSのブレーキアシストと同様です。

■ TCS（トラクションコントロールシステム）

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。DSC&TCSによる制御には限界があります。

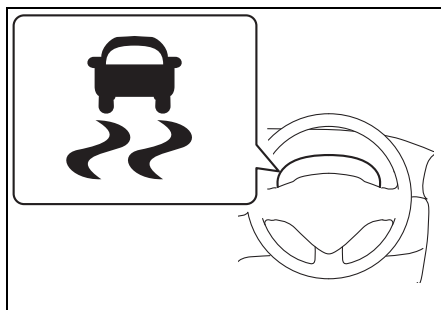
⚠ 注意

- 次のことをお守りください。
守らないとDSC&TCSが正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
 - タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する
→ 8-5ページ（タイヤの空気圧）
 - タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する
 - 著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない
 - サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）
 - サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない
 - エンジンを改造しない（マフラーの改造など）
 - LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない
- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、DSC&TCSが正常に作動しない場合があります。

⚠️ アドバイス

- 次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
 - ・ エンジンスイッチを **ON** にしたとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを **ON** にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
 - ・ エンジンをかけたとき
 - ・ エンジンをかけ、最初の発進時
- エンジン回転が高いときにDSC&TCSが作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

DSC&TCS作動表示灯



65P40080

メーターパネル内にあります。

→ 1-10ページ (警告灯・表示灯)

- DSC&TCS の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、マツダ販売店で点検を受けてください。
 - ・ 次の機能が作動しません。
 - ・ TCS (トラクションコントロールシステム)
 - ・ DSC (ダイナミック・スタビリティ・コントロール)
 - ・ ヒルディセントコントロール
→ 4-31ページ (ヒルディセントコントロール)
 - ・ グリップコントロール
→ 4-34ページ (グリップコントロール)
 - ・ レーダーブレーキサポート
→ 4-37ページ (レーダーブレーキサポート (RBS))
 - ・ 誤発進抑制機能
→ 4-42ページ (誤発進抑制機能)
 - ・ アイドリングストップシステム
→ 4-50ページ (アイドリングストップシステム)
 - ・ ヒルホールドコントロールも作動しない場合があります。
→ 4-61ページ (ヒルホールドコントロール)
 - ・ ABSは作動します。
 - ・ ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。

- 次のような状況になると、0.2秒間隔で小刻みに点滅します。
 - 発進時や加速時にTCS（トラクションコントロールシステム）が作動している
 - 急ハンドル時や旋回時にDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）が作動している
 - 下り坂などでヒルディセントコントロールが作動している
→ **4-31ページ**
（ヒルディセントコントロール）
 - 発進時などでグリップコントロールが作動している
→ **4-34ページ**
（グリップコントロール）
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

▲ 注意

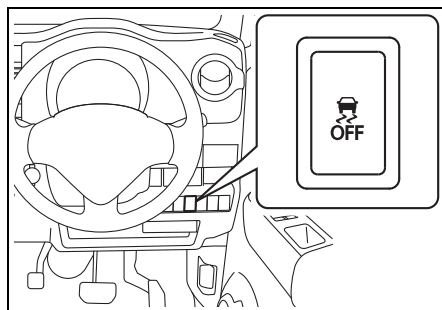
小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

ℳ アドバイス

点灯中はTCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）は作動しませんが、ABSは使用することができます。

DSC&TCS OFFスイッチ

- 次のようなときは、メーター内のDSC&TCS OFF表示灯が点灯するまでDSC&TCS OFFスイッチを押し続けてください。TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）が作動しなくなります。
 - 車検を受けるときなどデスターに載せる場合。TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）を作動停止の状態にする必要があります。
 - スタックからの脱出などの場合。TCS（トラクションコントロールシステム）／グリップコントロールが脱出に適さないときがあります。
- 次のような操作をすると、DSC&TCS OFF表示灯が消灯し、TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）が作動可能な状態にもどります。
 - もう一度DSC&TCS OFFスイッチを押す
 - 一度エンジンを止め、再始動する



65P40090

- スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、DSC&TCS OFFスイッチを再度押ししてDSC&TCS OFF表示灯を消灯させ、もとの状態にもどしてください。TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）は自動復帰しません。（一度エンジンを止め、再始動したときを除く）

📌 **アドバイス**

- 安全のため、DSC&TCS OFFスイッチを操作しても、ABSおよびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。
- DSC&TCS OFFスイッチの位置が作動停止（OFF）のとき、次の機能も停止します。（※）
 - レーダーブレーキサポート（RBS）
 - 誤発進抑制機能

※作動（ON）／作動停止（OFF）切替え時、ブザーが鳴ります。

→ **4-45ページ**
 （レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ）

- エンジンスイッチが **[ON]** のときに、DSC&TCS OFFスイッチを長押しすると点灯します。
 - 点灯中は、TCS（トラクションコントロールシステム）およびDSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）は作動しません。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **[ON]** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

ヒルディセントコントロール

タイプ別装備

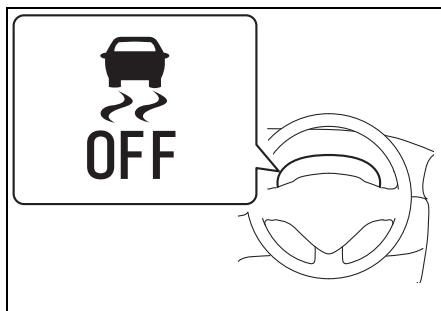
4

ヒルディセントコントロールは、エンジンブレーキだけでは十分減速できないような急な坂道を下るときに、DSC&TCSの制御により一定の低車速を保ち、走行を補助するシステムです。

⚠️ 警告

ヒルディセントコントロールを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道を下るときや、積載重量によっては、下り坂走行で一定の低車速を維持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏み、安全運転に心がけてください。

DSC&TCS OFF表示灯



65P40100

メーターパネル内にあります。
 → **1-10ページ**（警告灯・表示灯）

📌 **アドバイス**

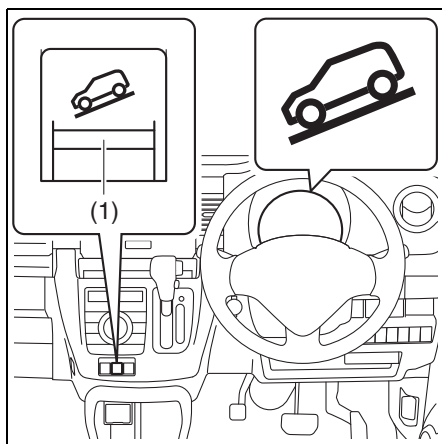
ヒルディセントコントロールは、雪道などの滑りやすい坂道において、ブレーキやアクセル操作に気をつかうことなく、ハンドル操作に集中することができます。

ヒルディセントコントロールの作動ついて

■ スタンバイ

1 セレクトレバーを **L** または **R** 位置に入れます。

2 車速が約 25 km/h 以下のときにヒルディセントコントロールスイッチ (1) を押します。メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点灯し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になります。
→ 4-33 ページ (ヒルディセントコントロール表示灯)



65P40250

◆ アドバイス

ヒルディセントコントロールスイッチを ON にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。

●専用画面は非表示にすることもできます。

→ 3-90 ページ (ヒルディセントコントロール表示設定)



65P40341

■ 作動

アクセルペダルを踏んでいない状態で車速が約 7 km/h を超えると自動でブレーキが作動して約 7 km/h に保ちます。

- 自動ブレーキが作動しているとき、DSC&TCS 作動表示灯が小刻みに点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。
- 車速が約 40 km/h 以上になると、メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに、自動的に作動停止します。車速が約 25 km/h 以下になると再びランプが点灯し、作動可能状態になります。

▲ 注意

- 長時間連続して使うと、ブレーキ装置が過熱する場合があります。この場合は装置保護のため、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに自動的に作動停止します。ブレーキペダルを踏んで安全な場所に停車してください。しばらくしてブレーキ装置の温度が下がると、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅から点灯に切り替わるとともに作動可能な状態にもどります。

- セレクトレバーが **N** 位置でも、ヒルディセントコントロールが作動する場合がありますが、エンジンブレーキが効きません。セレクトレバーを **L** または **R** の位置に入れてください。
- ヒルディセントコントロールを作動させるときは、ヒルディセントコントロールスイッチを押してヒルディセントコントロール表示灯の点灯およびマルチインフォメーションディスプレイの表示を確認してください。

📢 アドバイス

- 作動中にエンジンルームから音が聞こえることがあります。異常ではありません。
 - 作動中のときマルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。
 - 専用画面は非表示にすることもできます。
- **3-90 ページ (ヒルディセントコントロール表示設定)**

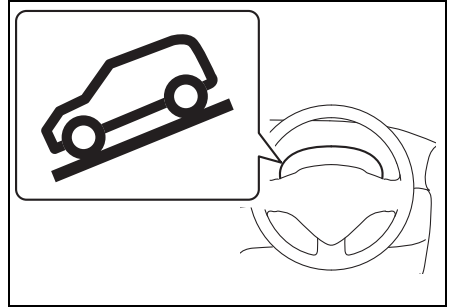


65P40351

■ システムを解除するときは

もう一度ヒルディセントコントロールスイッチ (1) を押し、ヒルディセントコントロール表示灯を消灯させます。

ヒルディセントコントロール表示灯



65P40260

メーターパネル内にあります。

- エンジンスイッチが **ON** のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になると点灯します。点滅した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。次の作動条件が満たされているか確認してください。
 - セレクトレバーが **L** または **R** の位置
 - 車速が25 km/h以下
 - ブレーキ装置が過熱していない
- システムが正常で、エンジンスイッチを **ON** にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 次のような場合はシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - エンジンスイッチを **ON** にしても点灯しない
 - エンジンスイッチを **ON** にし、約2秒間たっても消灯しない
 - エンジンスイッチが **ON** のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押しても点灯または点滅しない

ヒルディセントコントロールのメッセージ

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されたときは、ヒルディセントコントロールのシステムに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



65P40280

アドバイス

メッセージの表示中は、ヒルディセントコントロールは使用できません。

グリップコントロール

タイプ別装備

グリップコントロールは、雪道などの滑りやすい路面で片側のタイヤが空転してしまい発進が難しいとき、DSC&TCSの制御により4輪の駆動力とブレーキ力をコントロールしてスムーズな発進を補助するシステムです。場合によっては、両側のタイヤが空転したときにも発進を補助することもあります。

警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。グリップコントロールによる制御には限界があります。

注意

次のことをお守りください。守らないとグリップコントロールが正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。

- タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する
→ 8-5ページ (タイヤの空気圧)
- タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン(溝模様)が同一のものを装着する
- 著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない
- サスペンションやブレーキを改造しない(車高やサスペンションの硬さ変更など)
- サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない
- エンジンを改造しない(マフラーの改造など)
- LSD(リミテッドスリップデフ)を装着するなどの改造をしない
- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、グリップコントロールが正常に作動しない場合があります。

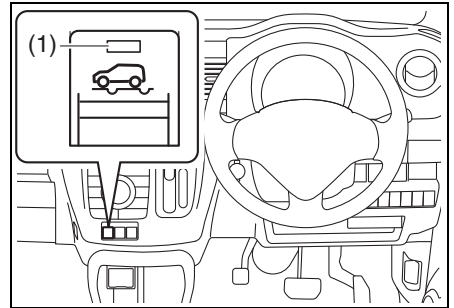
アドバイス

- 両側のタイヤが空転したときにもグリップコントロールは作動する場合がありますが、特に効果を発揮するのは片側のタイヤが空転したときです。
- 次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
 - エンジンスイッチを **ON** にしたとき
 - ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを **ON** にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
 - エンジンをかけたとき
 - エンジンをかけ、最初の発進時
- エンジン回転が高いときにグリップコントロールが作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

グリップコントロールスイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときにグリップコントロールスイッチを押すと、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯し、グリップコントロールは作動可能状態 (ON) となります。もう一度押すと表示灯が消灯し停止状態 (OFF) となります。

- 車両が安定し、車速が約30 km/hを超えると自動停止して、スイッチ内の表示灯が消灯します。
- DSC&TCS が作動停止状態 (OFF) のとき、グリップコントロールはONになりません。



65P40290

アドバイス

グリップコントロールスイッチを ON にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。

- 専用画面は非表示にすることもできます。

→ 3-91 ページ (グリップコントロール表示設定)



65P40360

グリップコントロールの作動について

グリップコントロールスイッチがONのとき、車輪にスリップが発生するとグリップコントロールが作動し、4輪の駆動力とブレーキ力をコントロールすることで発進を補助します。

- DSC&TCS が作動停止状態 (OFF) のとき、グリップコントロールは作動しません。

⚠ 注意

グリップコントロールを作動させるときは、グリップコントロールスイッチを押してスイッチ内の表示灯の点灯およびマルチインフォメーションディスプレイの表示を確認してください。

⚡ アドバイス

- グリップコントロールが作動中のとき、マルチインフォメーションディスプレイに専用の画面が表示されます。
 - 専用画面は非表示にすることもできます。
→ 3-91 ページ (グリップコントロール表示設定)



65P40370

- グリップコントロールが作動中、DSC&TCS作動表示灯が点滅します。

グリップコントロールのメッセージ

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに以下のメッセージが表示される場合があります。

- グリップコントロールスイッチがONのとき、次の状態となった。
 - 車両が安定し、車速が約30 km/hを超えた
 - グリップコントロールスイッチをOFFにした
 - DSC&TCS OFFスイッチをONにした



65P40300

- グリップコントロールに異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



65P40310

⚡ アドバイス

メッセージの表示中は、グリップコントロールが使用できません。

運転支援機能

この車は衝突の回避や衝突時の被害を軽減するための、次の機能を搭載しています。

- レーダーブレーキサポート (RBS)
→ 4-37 ページ (レーダーブレーキサポート (RBS))
- 誤発進抑制機能
→ 4-42 ページ (誤発進抑制機能)

また、急ブレーキをかけたときに後続車へ注意をうながすための、次の機能を搭載しています。

- エマージェンシーストップシグナル (ESS)
→ 4-27 ページ (エマージェンシーストップシグナル (ESS))

レーダーブレーキサポート (RBS)

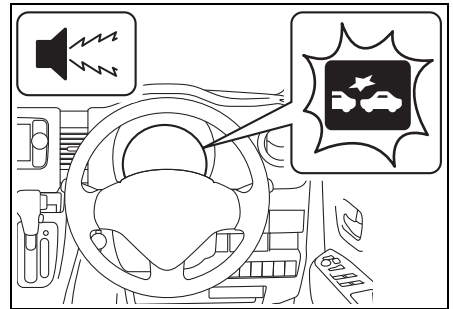
RBS とは Radar Brake Support (レーダーブレーキサポート) の略です。RBS は低速(約5 ~ 30 km/h)で走行中にレーザレーダーが前方車両との衝突を回避できないと判断したときに、自動で強いブレーキをかけて衝突の回避または、衝突時の被害軽減を図る機能です。

- 作動したときの速度が15 km/hより低いときは、追突を回避できる場合があります。
- RBSはDSC&TCSが作動停止のときには作動しません。

作動中は次の方法でお知らせします。

- メーター内のRBS作動表示灯が点滅
→ 3-64 ページ
(警告灯・表示灯の見かた)

- ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



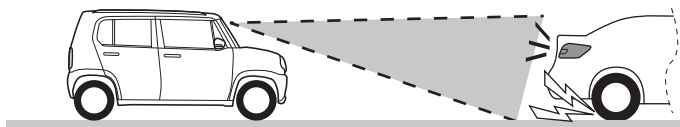
65P40130

警告

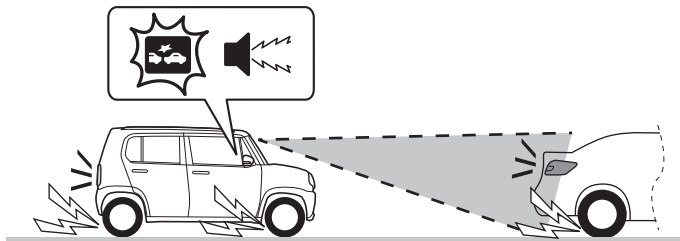
- RBS の性能には限界があり、すべての衝突を回避できるわけではありません。RBS にたよった運転はせず、走行中は常に周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。
- 安全のため、お客様自身でRBSの作動確認を行なわないでください。周囲の状況によっては、機能が作動しないことや車両が止まりきれないことがあります、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中は、すべての乗員がシートベルトを正しく着用してください。RBS が作動したときなどに、身体が投げ出されて重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 次のような場合は、車高や車両の傾きが変わり、RBS が正常に機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - サスペンションの改造 (車高の変更など)
 - 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着
 - 摩耗したタイヤや摩耗差の激しいタイヤの装着
 - タイヤの空気圧が適正でない

■ 作動イメージ

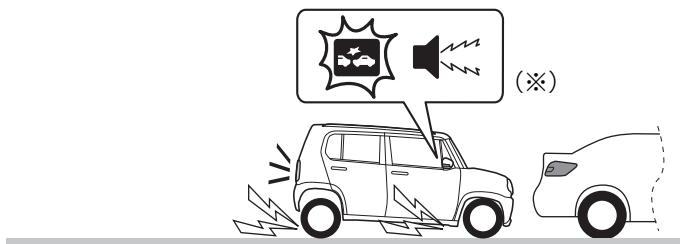
①前方車両へ接近（車間距離短縮）



②車間距離短縮（衝突を回避できないと判断）



③衝突を回避または被害を軽減



65P40140

※RBS による車両停止後、ブレーキ制御が解除されるまでの間は RBS 作動表示灯の点滅およびブザー音は継続されます。

▲ 注意

- RBS による車両停止後、しばらくはブレーキ制御は保持されますが、すみやかにブレーキペダルを強く踏み込んでください。ブレーキペダルの踏み込みが弱いとクリープ現象により車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- RBS は前方車両の検知に2つ以上装備されたリフレクター（反射板）を利用していますが、リフレクターの取り付け位置や大きさによってはRBSが作動しないことがあります。

📌 アドバイス

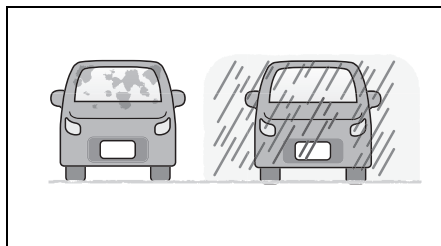
RBS 作動中に、前方車両がレーザーレーダーの検知範囲外に移動したり、運転者が回避行動（ステアリングまたは、アクセルペダルの操作）を行ったときには、途中でRBSの作動が解除されることがあります。

■ こんな場合は作動しません

- エンジンスイッチの位置が **ON** 以外
のとき
- メーター内のブレーキシステム警告灯
(オレンジ色) および、RBS OFF 表
示灯が点灯しているとき
→ **3-71 ページ (ブレーキシステム
警告灯 (オレンジ色))**
→ **3-75 ページ (レーダーブレーキ
サポート (RBS) OFF表示灯)**
- RBS OFF スwitchの位置が作動停止
(OFF) のとき
→ **4-45ページ (レーダーブレーキサ
ポート (RBS) OFFスイッチ)**
- DSC&TCS OFFスイッチの位置が作動
停止 (OFF) のとき
→ **4-30ページ
(DSC&TCS OFFスイッチ)**

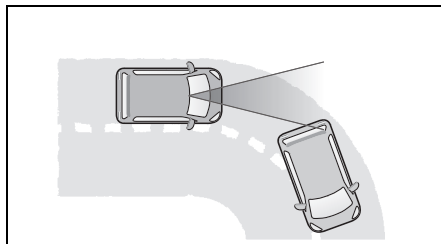
■ こんな場合は作動しないことが あります

- 次のようなときはレーザーレーダーが
前方車両を正しく検知できずにRBSが
作動しない場合があります。
 - レーダー本体が高温状態のとき
 - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候
のときや、前方車両の排気ガスや
水、雪などの巻き上げ、砂、煙などで
前方の視界が悪いとき
 - フロントガラスが汚れているときや
フロントウォッシャーを使用中のと
き
 - 降雨時にワイパーを使用していない
とき



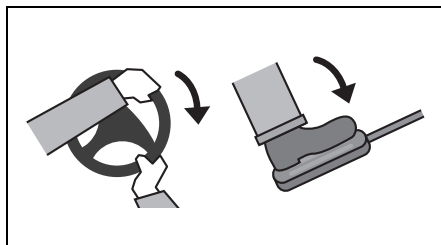
65P40380

- 急な坂道やカーブが連続する道路を
走行しているとき



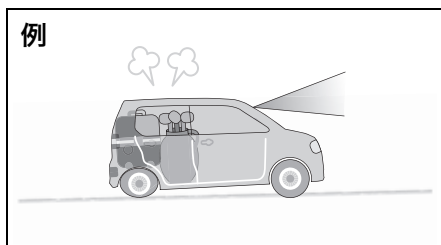
81M40260

- ハンドル操作やアクセルペダル操作
による回避行動を行っているとき



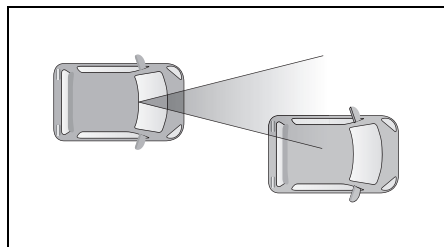
81M40270

- 荷室などに重い物を載せて、車両が
後傾しているとき



72M20405

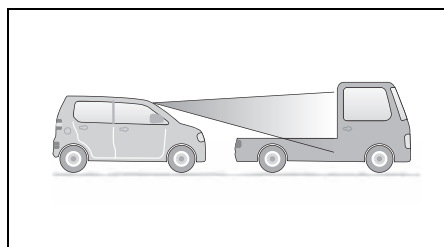
- レーダー検知範囲内に前方車両の一部しかないとき



72M20406

- 次のような前方車両はレーダーが検知できずにRBSが作動しない場合があります。

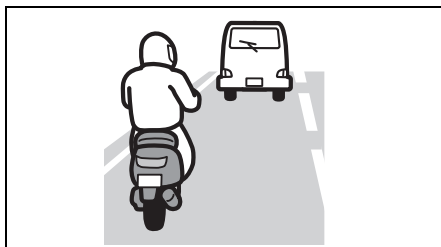
- 著しく汚れている車両
- ガラス面の大きな車両
- レーダーが検知しにくい黒系色の車両
- リフレクター（反射板）がない車両
- 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や高い車両
- キャリアカーなど、特殊な形状をした車両



72M20407

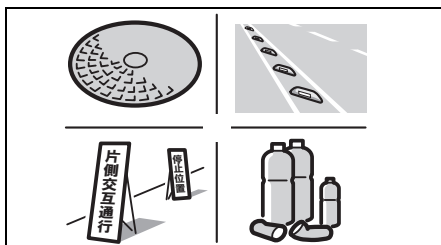
■ こんな場合にも作動することがあります

- 次のようなときはレーダーが前方車両と判断してRBSが作動する場合があります。あわてず注意して走行してください。
 - レーダーが二輪車および歩行者を検知したとき



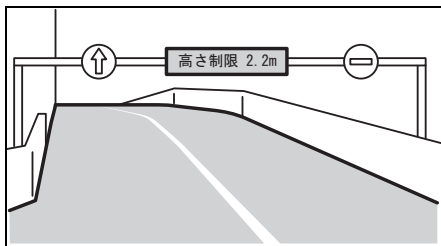
72M20422

- 路面上の金属物、段差、落下物または突起物があるとき



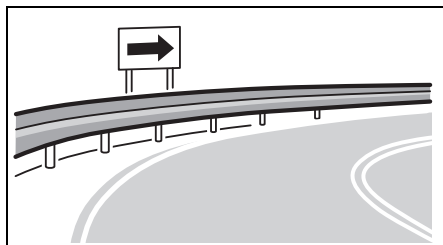
72M20408

- 進行方向にETCゲートや駐車場のバー、遮断機、看板などがあるとき



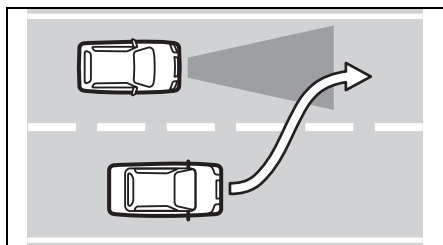
72M20409

- カーブ入口のガードレールや看板などの路側物があるとき



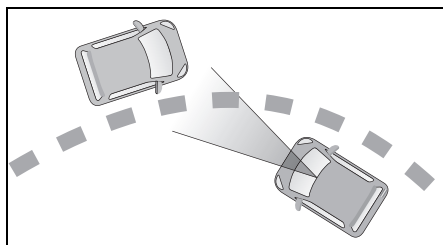
72M20410

- レーダーの検知範囲内で、他車が急な割込みや車線変更をしてきたとき



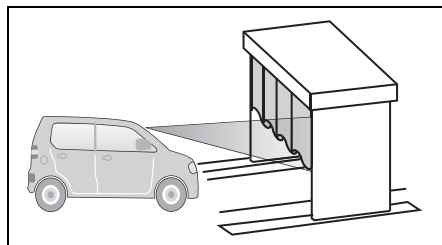
72M20411

- カーブで対向車とすれ違うとき



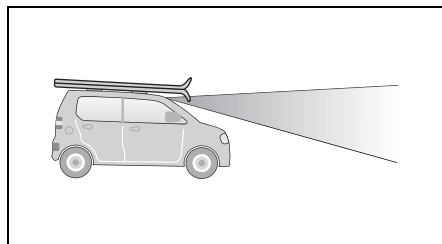
72M20412

- ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき



72M20413

- 搭載したルーフキャリアやスキー板などの長尺物がレーダー検知範囲内にあるとき



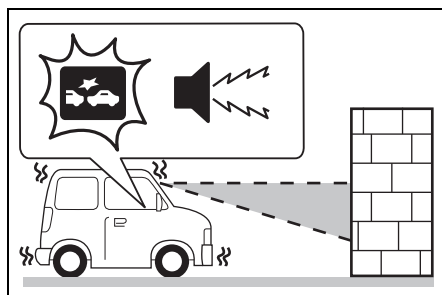
72M20423

- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき

誤発進抑制機能

誤発進抑制機能は停車または徐行（車速約10 km/h以下）中に、前方約4 m以内に車両や障害物を検知すると、アクセルペダルの急激な踏み込みによるエンジン出力の上昇を自動的に約5秒間抑制することで衝突時の被害軽減を図る機能です。抑制されていたエンジン出力は、機能が解除されると徐々にもどります。作動中は、次の方法でお知らせします。

- メーター内のレーダーブレーキサポート（RBS）作動表示灯が点滅
→ 3-64ページ
（警告灯・表示灯の見かた）
- ブザーが“ピピピピピ”と断続的に鳴る



72M20414

警告

- 誤発進抑制機能の性能には限界があります。誤発進抑制機能にたよった運転はせず、アクセルペダルの操作に気をつけ、常に安全運転に努めてください。操作を誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 前方約4 m以内に車両や障害物があっても、周囲の状況によっては機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制機能は停車状態を保つものではありません。急な坂道などで機能が作動すると、勾配によっては自重により坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次のような場合は、車高や車両の傾きが変わり、RBSが正常に機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - サスペンションの改造（車高の変更など）
 - 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着
 - 摩耗したタイヤや摩耗差の激しいタイヤの装着
 - タイヤの空気圧が適正でない

アドバイス

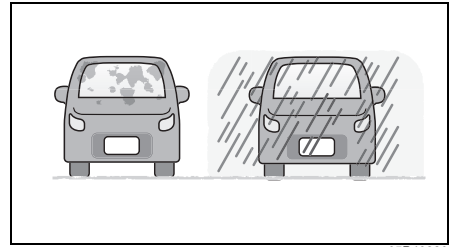
前輪を輪止めや縁石などに接触させておくと、より衝突を回避しやすくなります。

■ こんな場合は作動しません

- エンジンがかかっていないとき
- セレクトレバーの位置が **P** **R** **N** のとき
- ハンドルを大きくまわしているとき
- メーター内のブレーキシステム警告灯（オレンジ色）および、RBS OFF 表示灯が点灯しているとき
 - **3-71 ページ（ブレーキシステム警告灯（オレンジ色））**
 - **3-75 ページ（レーダーブレーキサポート（RBS）OFF表示灯）**
- RBS OFFスイッチの位置が作動停止（OFF）のとき
 - **4-45ページ（レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチ）**
- DSC&TCS OFFスイッチの位置が作動停止（OFF）のとき
 - **4-30ページ（DSC&TCS OFFスイッチ）**

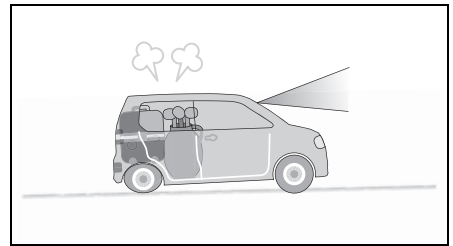
■ こんな場合は作動しないことがあります

- 次のようなときはレーザーレーダーが前方車両や障害物を正しく検知できずに誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
 - レーダー本体が高温状態のとき
 - 大雨、濃霧および吹雪などの悪天候のときや、前方車両の排気ガスや水、雪などの巻き上げ、砂、煙などで前方の視界が悪いとき
 - フロントガラスが汚れているときやフロントウォッシャーを使用中のとき



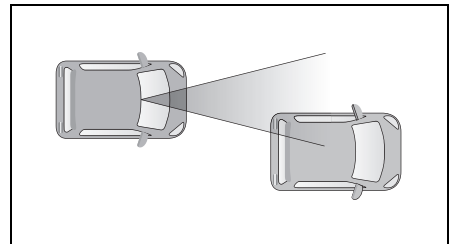
65P40380

- 急な坂道のとき
- 荷室などに重い物を載せて、車両が後傾しているとき



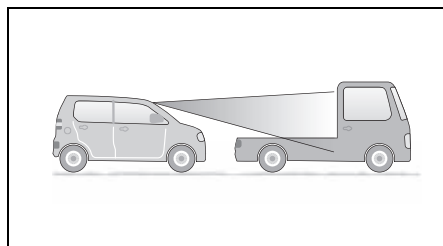
72M20405

- レーダー検知範囲内に前方車両の一部分しかないとき



72M20406

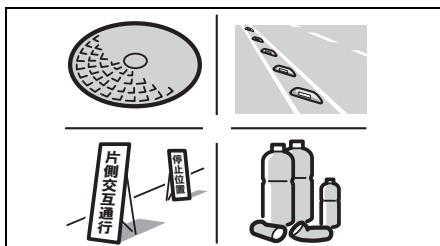
- 次のような前方車両および障害物はレーダーが検知できない場合があります。
 - 標識や街灯などポール状の障害物
 - ガードレールなど高さの低い障害物
 - 小さい障害物
 - 著しく汚れている車両
 - ガラス面の大きな車両
 - レーダーが検知しにくい黒系色の車両および障害物
 - レーダーが透過する網目の大きいフェンスやガラス
 - リフレクター（反射板）がない車両
 - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
 - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両



72M20407

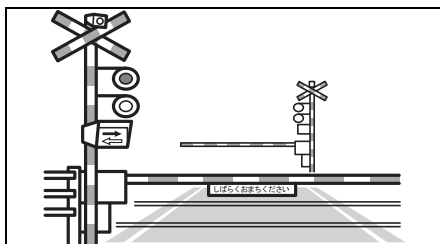
■ こんな場合にも作動することがあります

- 次のようなときはレーダーが前方車両および障害物と判断して誤発進抑制機能が作動する場合があります。
 - 路面上の金属物、段差、落下物または突起物があるとき



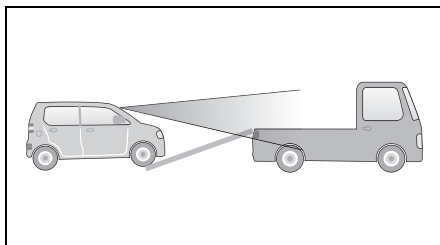
72M20408

- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき



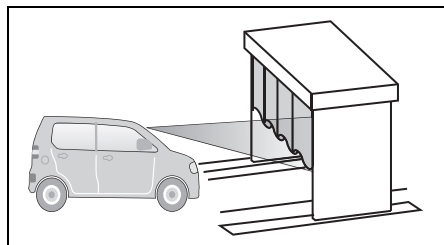
72M20415

- キャリアカーに積載するとき



72M20416

- ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき



72M20413

- スピードブレーカーが設置してある道や、河川敷などの悪路を走行するとき
- 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき

■ 踏切内などで作動した場合は

誤発進抑制機能が遮断機を障害物と判断して、踏切内に閉じ込められた場合は、次のいずれかの操作を行い踏切内から脱出してください。

- アクセルペダルを5秒以上踏み続ける
- ハンドルを大きくまわす
- いったんアクセルペダルを離し、再度すばやく踏み込む
- RBS OFFスイッチを長押しする
→ 4-45ページ (レーダーブレーキサポート (RBS) OFFスイッチ)

⚠ 警告

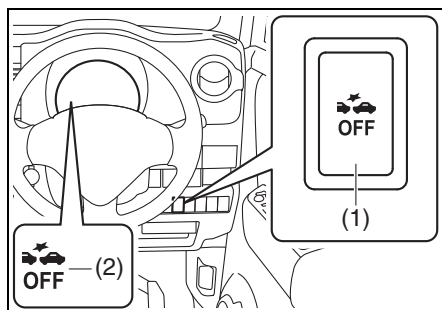
遮断機が下がる直前に無理に踏切内に進入しないでください。踏切内でRBSや誤発進抑制機能が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。
→ 7-30 ページ (踏切内で動けなくなったときは)

レーダーブレーキサポート (RBS) OFFスイッチ

RBS および誤発進抑制機能を停止状態 (OFF) にできます。

- 機能を停止させるときは、メーター内のRBS OFF表示灯 (2) が点灯するまでRBS OFFスイッチ (1) を長押しします。
- 機能を復帰させるときは、もう一度RBS OFFスイッチ (1) を長押ししてRBS OFF表示灯 (2) を消灯させます。
- 手でエンジンを停止するたびに機能は復帰し、RBS OFF 表示灯は消灯します。
- RBS OFFスイッチを押すたびにブザーが“ピッ”と鳴り、作動が切り替わったことをお知らせします。

4



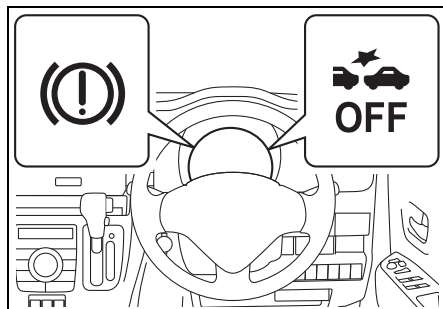
65P40150

●メーター内のRBS OFF表示灯はRBSおよび誤発進抑制機能が停止していることをお知らせするだけではなく、次のような場合に点灯します。

- 機能が正常な場合、エンジンスイッチを **[ON]** にしたときに約3秒間点灯したあと消灯します。
- エンジンスイッチが **[ON]** のときにRBSおよび誤発進抑制機能に異常がある場合やレーダーがフロントガラスの汚れを検知するなど、一時的にRBSおよび誤発進抑制機能が作動しない場合に点灯します。

→ 3-75 ページ (レーダーブレーキサポート (RBS) OFF表示灯)

4



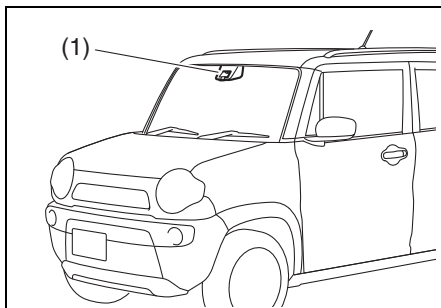
⚠️ アドバイス

- 次のようなときは、RBS および誤発進抑制機能が作動するおそれがあるため、RBS OFFスイッチを操作して停止させてください。
 - テスターなどで車両点検を行なうとき
 - けん引されるとき
 - 生い茂った草むらなどの悪路を走行するとき
- RBS OFFスイッチを操作しても、DSC&TCS を作動停止 (OFF) にすることはできません。

■ レーザーレーダー

レーザーレーダー (1) は精密部品です。フロントルームミラー付近に設置され、次の機能で使用しています。

- レーダーブレーキサポート (RBS)
- 誤発進抑制機能



⚠️ 警告

- レーダーを正しく作動させるために、次のことをお守りください。取扱いを誤ると、前方車両や障害物を正しく検知できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - レーダー前方のフロントガラスをきれいに保ち、ステッカーなどを貼らない (透明なものを含む)
 - レーダー本体、およびその周辺部に強い衝撃や力を加えない
 - レーダーを取り外したり、分解したりしない
 - フロントワイパー本体やブレードを交換するときは、指定のものを使用する (詳しくは、マツダ販売店にお問い合わせください)

●レーダー付近のフロントガラスにひび割れなどの傷がある状態で走行すると、レーダーが前方車両や障害物を正しく検知できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。RBS OFF スイッチを操作して、RBS および誤発進抑制機能を停止させ、マツダ販売店で点検を受けてください。

注意

エンジンスイッチが **ON** のときにレーダーから 10 cm 以内の距離で、拡大鏡、対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、照射部をのぞき込まないでください。レーダーから照射される赤外線が目を傷めるおそれがあります。

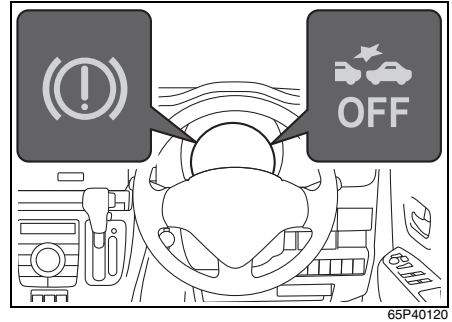
■ ガラス汚れを検知したときは

レーザーレーダーがフロントガラスの汚れを検知した場合は、レーダーブレーキサポート (RBS) および誤発進抑制機能を停止させるとともに、メーター内の RBS OFF 表示灯およびブレーキシステム警告灯 (オレンジ色) が点灯します。次の手順で対処してください。

- 1 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にします。
- 2 レーダー前方のフロントガラスをきれいにします。
- 3 エンジンスイッチを **ON** にします。

4 RBS OFF 表示灯およびブレーキシステム警告灯 (オレンジ色) の消灯を確認します。

- RBS OFF 表示灯およびブレーキシステム警告灯 (オレンジ色) が消灯しないときは、ガラスの汚れ以外の異常が考えられます。マツダ販売店にご連絡ください。

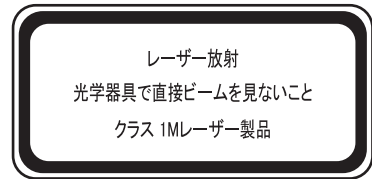


65P40120

アドバイス

このレーダーは、日本工業規格 JIS C 6802 「レーザー製品の放射安全基準」におけるレーザー等級 1M 製品です。

レーザー等級ラベル



72M20424

レーザーレーダー放射線データ

最大平均出力：45mW
 パルス幅：33ns
 波長：905nm
 発散角 (水平 × 垂直)：28° × 12°

S - エネチャージ

タイプ別装備

この車の S - エネチャージは、モーター機能付き発電機 (ISG) を用いて、次の機能を運転操作に合わせて作動させることで静粛性および燃費向上を図ったものです。

ISG とは、Integrated Starter Generator (インテグレートッド スターター ジェネレーター) の略です。

- 減速エネルギー回生機能
減速時に集中的に ISG で発電を行ない、走行中の発電が不要なときは ISG を停止させることで、エンジンの負荷を低減して燃費を向上させます。
- モーターアシスト機能
走行時に ISG がモーターとしてエンジンをアシストし、エンジンの出力を低減することで、燃費向上を図ります。
- スターターモーター機能
アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止から再始動するときに、ISG がベルトを介してエンジンを再始動させます。

⚠️ アドバイス

エンジンスイッチを操作して再始動した時は、通常のスターターモーターが作動するため、ギヤの噛み込み音が聞こえます。

■ ステータスインフォメーションランプ

減速エネルギー回生時には、スピードメーターの目盛りの照明の一部が、白色に変化します。

→ 3-63 ページ (ステータスインフォメーションランプ)

■ エネルギーフローインジケータ

ISG が作動しているかどうかを、メーター内のエネルギーフローインジケータで確認できます。

- 通常の走行時。ISG は作動していません。

図は表示例です



65P40400

- 通常走行の減速時に、減速エネルギー回生機能が作動しているとき。バッテリーへ充電しています。

図は表示例です



65P40410

- 停車中にエンジンが自動停止しているとき。バッテリーへの充電は行なわず、蓄積した電気をオーディオなどの電装品に使用しています。

図は表示例です



65P40420

- エンジン自動停止時にスターターモーター機能が作動したとき。バッテリーへの充電は行われず、蓄積した電気でISGを作動させます。

図は表示例です



65P40430

- ゆるやかな加速時にモーターアシスト機能が作動しているとき。エンジンをアシストしています。

図は表示例です



65P40440

次の条件をすべてみたすと、モーターアシスト機能が作動します。

- 加速のために、少しアクセルペダルを踏み増した
- セレクトレバーが **[D]** に入っている

- ブレーキペダルを踏んでいない
- 発進後～約85 km/h
- 次の機能が作動していない
 - ABS
 - DSC&TCS
 - RBS

- リチウムイオンバッテリーが十分に充電されていて、バッテリー内部が所定温度内にある
- エンジンの冷却水が所定温度内にある

⚠️ アドバイス

急加速などのアクセルペダルをいっぱいまで踏み込んだときはモーターアシスト機能は作動しません。

バッテリー表示について

バッテリー表示 (1) の目盛りは、リチウムイオンバッテリーの充電量の目安を示します。充電状態によって、表示内の目盛りが増減します。

図は表示例です



(1)

65P40450

⚠️ アドバイス

エネルギーフローインジケータ表示は目安です。外気温が低いときなど、状況によっては表示が遅れたり、実際とは異なる表示になったりする場合があります。

アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステムは、信号待ちなどの一時的な停車時および停車前の減速時に、自動的にエンジンを停止・再始動させるシステムです。排出ガスの低減、燃費向上、エンジン騒音低下に役立ちます。

- 本システムは一定の条件のもとで、一時的にエンジンを停止させるものです。長時間停車するときや車から離れるときは、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止してください。

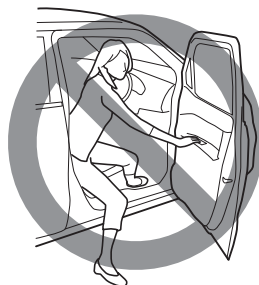
→ 4-10ページ

(エンジンを止めるときは)

- 一定の条件をみたすと停車前の減速時(約 13 km/h 以下)に自動停止します。ただし、システムの機能確認が終了するまでは、減速時に自動停止しません。

▲ 注意

- アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中は、車外に出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏んでいても運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開くとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムによるエンジン自動停止中であったことをお知らせします。



72M2042

- アイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止後、自動で再始動しない場合は、エンジンスイッチを操作してエンジンを始動してください。エンジンが再始動しない状態で車を動かすと、ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

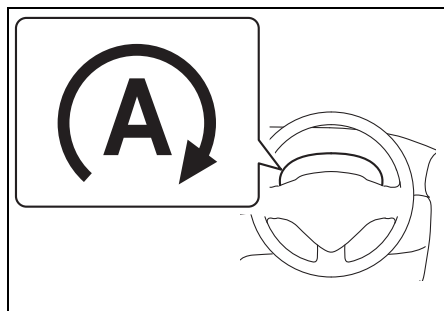
注記

アイドリングストップシステム装備車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないと本システムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する(指定外のものを使用しない)
 - 7-18 ページ(鉛バッテリーを交換するときは)
 - 8-2ページ(サービスデータ)
- バッテリー端子から電気製品の電源をとらない

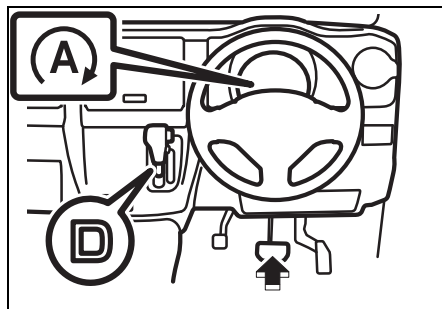
エンジンの自動停止・再始動のしかた

- 1 走行中に、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、メーター内のアイドルリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。
- 3-74ページ
(アイドルリングストップ表示灯)
 - 4-54ページ (スタンバイ条件)



- 2 セレクトレバーが **D** のままブレーキペダルを踏んで減速すると、停車前（約 13 km/h 以下）にエンジンが自動停止します。このとき、アイドルリングストップ表示灯（緑色）は点灯したままです。
- アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯した状態でブレーキペダルを踏んで減速しても、エンジン自動停止の条件をすべて満たさないと、エンジンが自動停止しません。
 - 4-56ページ
(エンジン自動停止の条件)

- 自動停止中に安全確保のため、室内ブザーが鳴ってエンスト状態にさせたり、エンジンを再始動させたりする場合があります。
- 4-53 ページ (エンジン自動停止中はこんなことに気を付けて)



4

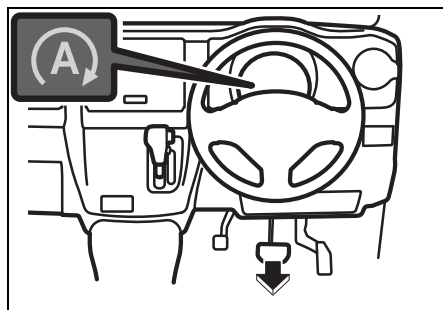
⚠️ アドバイス

- ブレーキペダルを踏まずに、エンジンブレーキなどを使用して減速しても、エンジンは自動停止しません。
- 停車前（約 13 km/h 以下）にエンジンが自動停止しない場合でも、停車時にエンジンが自動停止する場合があります。
- 自動停止中でもナビゲーション、またはオーディオなどの電装品は使用できますが、エアコンは送風に切り替わります。
- オートエアコン装備車の場合、冷暖房性能を長持ちさせるため、自動停止中の風量（自動制御時のみ）に制限がかかります。

3 停車の前後に関わらず、ブレーキペダルから足を離すとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

- ブレーキペダルを踏んでいても、エンジン自動再始動の条件をみたと自動的に再始動します。

→ **4-57 ページ (エンジン自動再始動の条件)**



65P40190

アドバイス

エンジン自動再始動のとき、ヒルホールドコントロールが作動します。

→ **4-61ページ**

(ヒルホールドコントロール)

4 エンジン自動再始動後しばらく走行して、エンジンが自動停止可能な状態（スタンバイ条件）になると、アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。

エンジン自動停止中はこんなことに気をつけて



自動停止中は、次表の操作は行なわないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

	操作/車両の状態	対処方法
共通	ボンネットを開ける <ul style="list-style-type: none"> ●室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。 ●エンジン自動停止状態からエンスト状態になります。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は消灯します。 	エンジンを再始動するときは、次の手順で対処してください。 <ol style="list-style-type: none"> ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②ボンネットを完全に閉めます。 ③エンジンスイッチを操作して再始動します。 → 4-8ページ (エンジンのかけかた)
	運転席シートベルトを外す、または運転席ドアを開ける <ul style="list-style-type: none"> ●室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。(約5秒間) ●エンジンが自動で再始動します。 ●アイドリングストップ表示灯（緑色）は約5秒間点滅したあと消灯します。 	発進する前に、ドアを閉め、シートベルトを着用してください。また車外に出るときは、事前に次の手順を実施してください。 <ol style="list-style-type: none"> ①パーキングブレーキをしっかりとかけ、セレクトレバーを P に入れます。 ②長時間停車するときや車から離れるときは、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止します。 → 4-10ページ (エンジンを止めるときは)

📌アドバイス

メーターパネル内の次の警告灯は、エンジンの自動停止中は点灯しませんが、エンスト状態になると点灯します。

- エンジン警告灯
- パワーステアリング警告灯
- 油圧警告灯
- 充電警告灯

→ **1-10ページ** (警告灯・表示灯)

アイドリングストップシステムの作動条件

■ スタンバイ条件

次の条件をすべてみたすと、走行中にアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯し、エンジンの自動停止が可能な状態になります。

エンジン始動時	ボンネットが完全に閉まっている状態でエンジンを始動する
---------	-----------------------------

4 走行時	<ul style="list-style-type: none">● アイドリングストップシステムが停止状態（OFF）になっていない → 4-59ページ(アイドリングストップシステムOFFスイッチ)● バッテリーが十分に充電されていて、バッテリー内部が所定温度内にある（※1）● 冷却水が所定温度内にある● 運転席シートベルトを着用している● 運転席ドアが完全に閉まっている● ボンネットが完全に閉まっている● セレクトレバーの位置が D または N である（※2）● S（スポーツ）モードスイッチが停止状態（OFF）になっている → 4-15ページ (S（スポーツ）モードスイッチ)● アイドリングストップシステム以外の電子制御システムから、エンジン停止を禁止する信号が出ていない（※3）
----------	--

※1 車を長期間使用しなかったときや、エンジン停止中にナビゲーション、またはオーディオなどの電装品を長時間使用したときなど、バッテリーが放電している状況では、スタンバイ状態になるまでに時間がかかることがあります。

※2 セレクトレバーの位置が **N** でもスタンバイ状態になりますが、このときは停車前の減速時（約13 km/h以下）ではなく、停車時にエンジンが自動停止します。

※3 アイドリングストップ表示灯（緑色）の点灯後に、エンジン停止を禁止する信号が出ることがあります。この場合、停車時にアイドリングストップ表示灯（緑色）が消灯し、エンジンは自動停止しません。また、アイドリングストップシステムに影響をあたえる警告灯や表示灯のいずれかが点灯したときは、エンジンは自動停止しません。

<p>共通</p>	<p><オートエアコン装備車></p> <ul style="list-style-type: none">● エアコンの吹出し口温度が、冷房時は十分に冷えている、または暖房時は十分に暖まっている● デフロスタースイッチが停止状態（OFF）になっている → 5-23ページ（オートエアコン）
-----------	---

■ エンジン自動停止の条件

アイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯中に次の条件をすべて満たすと、停車前の減速時または停車時にエンジンが自動停止します。

停車前の減速時	<ul style="list-style-type: none">● ブレーキペダルを適切に踏んでいる（※）● 車速約13 km/h以下に減速している● ハンドル操作をしていない● アクセルペダルを踏んでいない● 急な坂道を走行していない● 急減速をしていない● ABSやDSC&TCSが作動していない● ブレーキ倍力装置の負圧が正常である
----------------	--

4

停車時	<ul style="list-style-type: none">● ハンドル操作をしていない● ブレーキ倍力装置の負圧が正常である● 停車前に急減速をしていない● ABSやDSC&TCSが作動していない● ブレーキペダルを適切に踏んでいる（※）● アクセルペダルを踏んでいない● 急な坂道で停車していない
------------	--

※ブレーキペダルの踏みかたが弱い、または強いと、自動停止しない場合があります。

■ エンジン自動再始動の条件

自動停止中に次のいずれかの操作をすると、または車両がいずれかの状態になると、エンジンが自動で再始動しアイドルリングストップ表示灯（緑色）が消灯します。

共通	<ul style="list-style-type: none"> ● ハンドル操作をする（※2） ● アイドリングストップシステムを停止状態（OFF）にする → 4-59ページ（アイドルリングストップシステムOFFスイッチ） ● バッテリーの放電が進んだとき（※3） ● 本システムに関わる異常を検出したとき（※3） ● ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき（※3） ● 停車時に坂道などで車両が動き出したとき（※3） ● ブレーキペダルから足を離す（※1） ● アクセルペダルを踏む ● セレクトレバーを [N] に入れたあと [D] にもどす ● 減速時（約13 km/h以下）に、ボンネットを開けたとき ● 減速時（約13 km/h以下）に、セレクトレバーを [N] に入れたとき ● 減速時（約13 km/h以下）に、道路の勾配が急変したとき ● 運転席シートベルトを外したとき（※3） ● 運転席ドアを開けたとき（※3） ● セレクトレバーを [P] [R] または [L] に入れる ● S（スポーツ）モードスイッチを作動状態（ON）にする → 4-15ページ（S（スポーツ）モードスイッチ） <p><エネチャージ装備車></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動停止してから、しばらく経過したとき（2分程度）（※3） <p><S - エネチャージ装備車></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動停止してから、しばらく経過したとき（3分程度）（※3）
----	--

※1 ブレーキペダルの踏み込みが弱いと、自動再始動する場合があります。この場合、再びブレーキペダルを踏み込むと自動停止し、アイドルリングストップ表示灯（緑色）が再点灯することがあります。

※2 ハンドル操作時の自動再始動条件は、操作量ではなく操舵力となります。このため、自動再始動するときのハンドル操作量は、路面状況や乗車人数によって変化する場合があります。

※3 アイドリングストップ表示灯（緑色）が点滅し、エンジンが再始動したあと消灯します。車両が停車していた場合は、アイドルリングストップ表示灯の点滅開始と同時にブザー音が鳴ります。

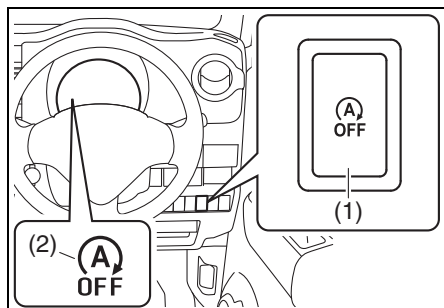
共通	<オートエアコン装備車> <ul style="list-style-type: none">●自動停止後、エアコンの吹出し口温度が大きく変化し、冷暖房性能が十分でなくなったとき（※3）●温度調節ダイヤルを冷房時はCOOL側、暖房時はHOT側に大きくまわしたとき（※3）●デフロスタースイッチを作動状態（ON）にしたとき（※3） → 5-23ページ（オートエアコン）
-----------	---

※3 アイドリングストップ表示灯（緑色）が点滅し、エンジンが再始動したあと消灯します。車両が停車していた場合は、アイドリングストップ表示灯の点滅開始と同時にブザー音が鳴ります。

アイドルリングストップシステムOFFスイッチ

アイドルリングストップシステムを停止状態（OFF）にできます。

- システムを停止状態にするときは、メーターパネル内のアイドルリングストップシステムOFF表示灯（2）が点灯するまで、アイドルリングストップシステムOFFスイッチ（1）を押します。
- システムを作動可能な状態にもどすときは、表示灯（2）が消灯するまで、もう一度スイッチ（1）を押します。
- 手動でエンジンを停止するたびに、システムは作動可能な状態にもどり、アイドルリングストップシステムOFF表示灯は消灯します。

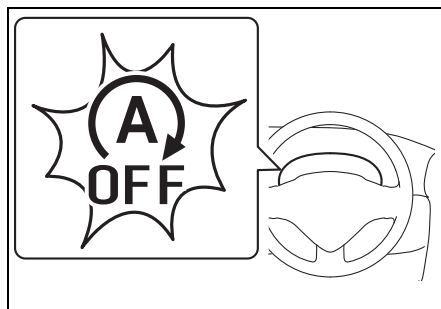


65P40220

⚠️ アドバイス

エンジンの自動停止中にアイドルリングストップシステムOFFスイッチ（1）を押すとエンジンが自動再始動し、アイドルリングストップシステムOFF表示灯（2）が点灯します。

- メーターパネル内のアイドルリングストップシステムOFF表示灯（オレンジ色）はアイドルリングストップシステムが停止していることをお知らせするだけではなく、次のような場合、点灯または点滅します。点滅した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
 - システムが正常な場合、エンジンスイッチを **[ON]** にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。
 - システムに異常がある、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期の場合、エンジンスイッチを **[ON]** にしたときに点滅します。（アイドルリングストップシステムは正しく作動しません。）
- 3-74ページ（アイドルリングストップシステムOFF表示灯）



81M40181

⚠️ アドバイス

アイドルリングストップによるエンジン自動停止中に点滅すると、エンスト状態になる場合があります。

エネチャージ (減速エネルギー回生機構)

エネチャージ(減速エネルギー回生機構)は、減速時に集中して発電し、鉛バッテリーおよびリチウムイオンバッテリーに充電するシステムです。走行時の発電量を最小限に抑え、発電が不要なときは発電機(オルタネーター)を停止してエンジンへ負荷を減らすことができ、燃費の向上につながります。

■ ステータスインフォメーションランプ

エネチャージが機能しているときは、スピードメーター上部の照明の一部が、白色に変化します。

→ 3-63 ページ (ステータスインフォメーションランプ)

■ エネルギーフローインジケーター

エネチャージが機能しているかどうかを、メーター内のエネルギーフローインジケーターで確認できます。

- 通常の走行時。エネチャージは機能していません。

図は表示例です



65P40400

- 通常走行の減速時に、エネチャージが機能しているとき。バッテリーへ充電しています。

図は表示例です



65P40410

- 停車中にエンジンが自動停止しているとき。バッテリーへの充電は行なわず、蓄積した電気をオーディオなどの電装品に使用しています。

図は表示例です



65P40420

バッテリー表示について

バッテリー表示 (1) の目盛りは、リチウムイオンバッテリーの充電量の目安を示します。充電状態によって、表示内の目盛りが増減します。目盛りがなくなった状態でもアイドルリングストップは作動することがあります。

図は表示例です



(1)

65P40450

⚠️アドバイス

エネルギーフローインジケータ表示は目安です。外気温が低いときなど、状況によっては表示が遅れたり、実際とは異なる表示になったりする場合があります。

エコクール (蓄冷エバポレーター)

エアコンを使用して走行しているとき、エアコンユニット内の蓄冷材に冷気を蓄えます。蓄えられた冷気は、アイドリングストップによるエンジン自動停止中に車内に送風されるため、エアコンが作動していない状態でも車内温度の上昇を抑えます。

車内温度の上昇が抑えられることでエンジン自動停止の時間が長くなり、燃費の向上につながります。

⚠️アドバイス

走行を開始して間もないときや渋滞中は、冷気が十分に蓄えられない場合があります。また、外気温やエアコンの設定状態によっては、効果に差があります。

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に車が後退することを一時的に（約2秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

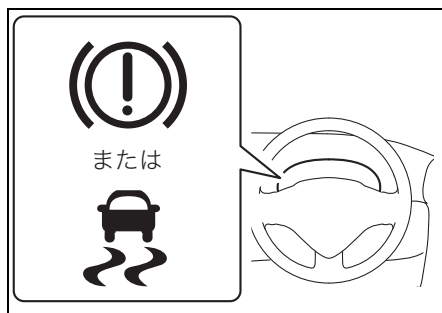
- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。
- 本システムに異常があると、メーター内の次のいずれかの警告灯が点灯し、ヒルホールドコントロールが作動しない場合があります。また、アイドリングストップシステムが作動しません。マツダ販売店で点検を受けてください。

- ブレーキシステム警告灯（オレンジ色）

- DSC&TCS作動表示灯

→ **3-64ページ**

(警告灯・表示灯の見かた)



65P40330

警告

- 常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。
- 極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。ブレーキペダルから足を離したまま2秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

■ ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべて満たしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間、車が後退することを防ぎます。

- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである

アイドルリングストップシステム装備車の場合、前記条件をみたしていなくても、エンジン自動停止後の再始動時ならヒルホールドコントロールが作動します。

→ 4-50ページ

(アイドルリングストップシステム)

📌 アドバイス

作動中にエンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

5. 装備の取扱い

● 主な装備

燃料給油口	5-2
ボンネット	5-3
サンバイザー	5-5
室内灯	5-7
インパネ収納スペース	5-9
ドリンクホルダー	5-12
その他の装備	5-15

● エアコン、ヒーター

エアコンの吹出し口	5-22
オートエアコン	5-23
リヤデフォグガスイッチ	5-30
エアコンの上手な使いかた	5-31

● オーディオ

アンテナ	5-33
オーディオ機器	5-34

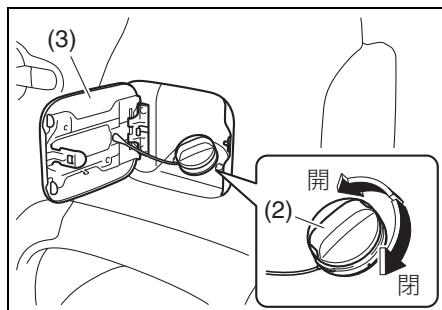
燃料給油口

2-25 ページの「給油するときは」もあわせてお読みください。

警告

必ず次のことをお守りください。

- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。



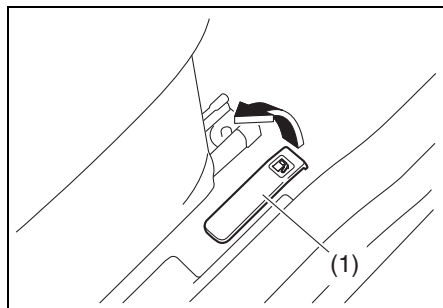
65P50020

- (2) フューエルキャップ
(3) フューエルリッド

フューエルリッド

助手席側の車両後方にあります。

- 開けるときは、運転席足元のフューエルリッドオープナー (1) を引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押し付けます。



65P50010

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは時計方向にまわし、カチッという音が2回以上するまで締めます。

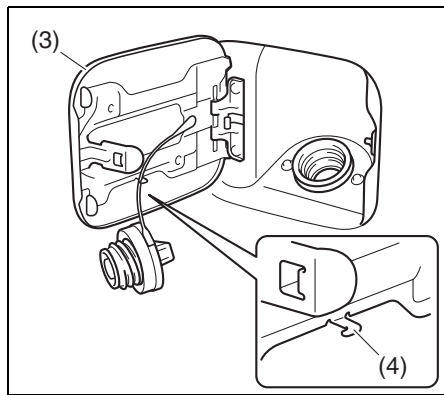
警告

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- フューエルキャップは車両に合った正しいものをご使用ください。燃料漏れのおそれがあります。

キャップホルダー

フューエルリッド(3)の裏側にあります。

- 給油中は、外したキャップが車体に当たらないように、ひもの部分をかけてください。



(4) キャップホルダー

ボンネット

⚠ 警告

- お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いので、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。
- ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
- 点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。

⚠ 注意

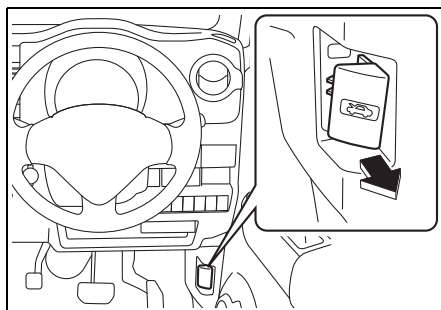
動いているドライブベルトや冷却ファンに近づかないでください、手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

📌 アドバイス

レーザーレーダー装備車は、エンジンスイッチの位置が **ON** のときに、ボンネットを開けていると、レーザーレーダーがボンネットに反応して、メーター内のブレーキシステム警告灯(オレンジ色)およびRBS OFF表示灯が点灯する場合がありますが、異常ではありません。

開けかた

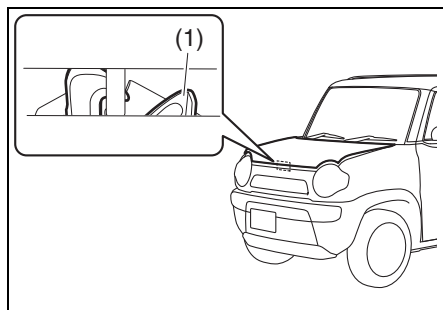
- 1 運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



65P50040

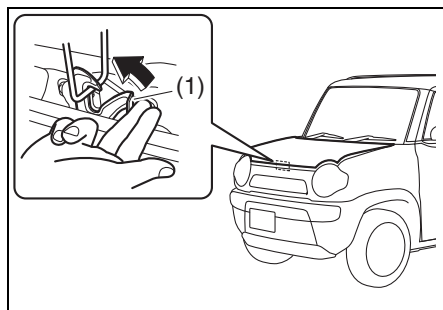
装備の取扱い/主な装備

- 2 浮き上がったボンネットのすきまからロックレバー (1) の位置を確認します。



65P50500

- 3 浮き上がったボンネットのすきまに手を入れ、ロックレバー (1) を左側へ押し付けながら、ボンネットを持ち上げます。



65P50501

⚠ 注意

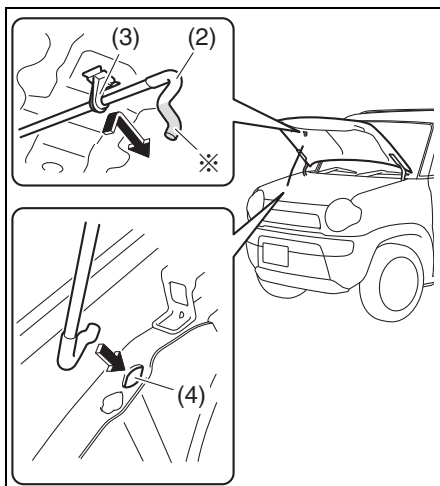
エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に確認してください。

注記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

- 4 ボンネットを固定します。

- ボンネット側にあるステー (2) をホルダー (3) から外し、車体側の固定穴 (4) に差し込みます。



65P50061

⚠ 注意

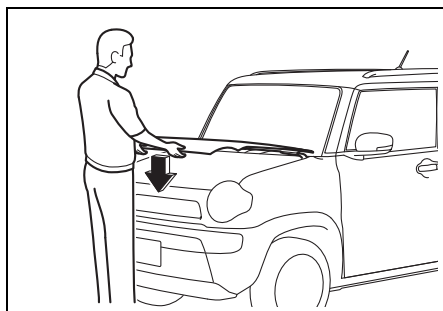
- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に確認してください。
- ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。
- ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。

注記

ステーをホルダーから外すときは、ステーの先端 (※部) を持ってください。

閉めかた

- 1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外してもとのホルダーに固定します。
- 2 ボンネットを閉めます。
 - ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



65P50070

▲注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。

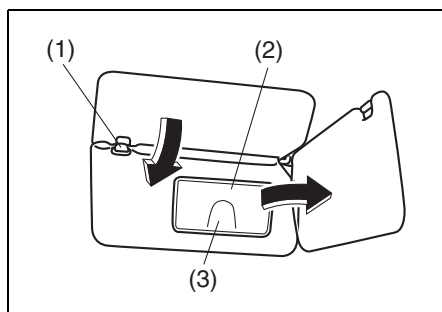
サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。

チケットホルダー

助手席側はタイプ別装備

サンバイザーの裏側にあります。有料道路の通行券などがはさめます。



72M2058

- (1) フック
- (2) ミラーカバー
- (3) チケットホルダー

注記

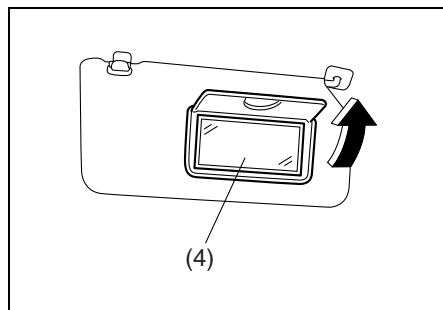
炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

→ 2-24 ページ (ライターやメガネなどを放置しない)

バニティミラー

助手席側はタイプ別装備

ミラーカバーを開けた場所にあります。



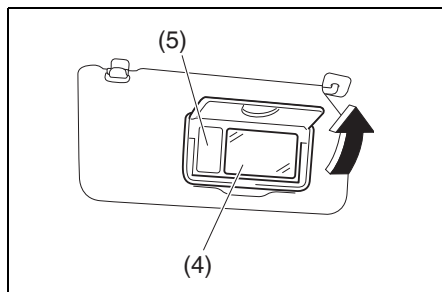
70K178

(4) バニティミラー

■ 照明付バニティミラー

タイプ別装備

照明 (5) は、ミラーカバーを開けている間、点灯します。



70K095

(4) バニティミラー

5

⚠ 警告

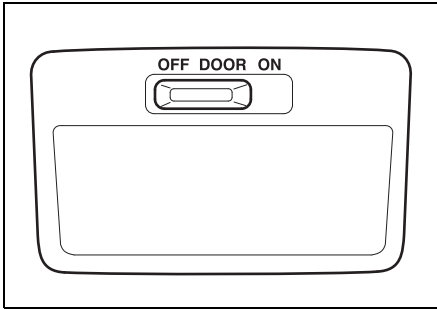
- 走行中はバニティミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バニティミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。

注記

エンジン停止中に、ミラーカバーを開けたまま放置しないでください。照明が点灯したままとなり、鉛バッテリーあがりの原因となります。

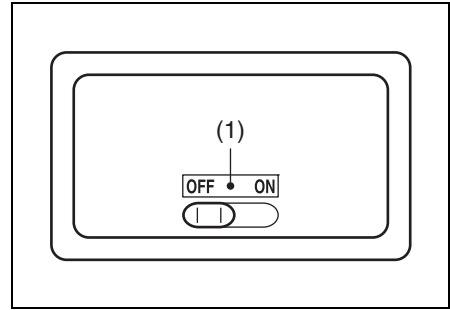
室内灯

前席室内灯



80J274

荷室室内灯



82K159

(1) DOOR位置

注記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。鉛バッテリーあがりの原因となります。

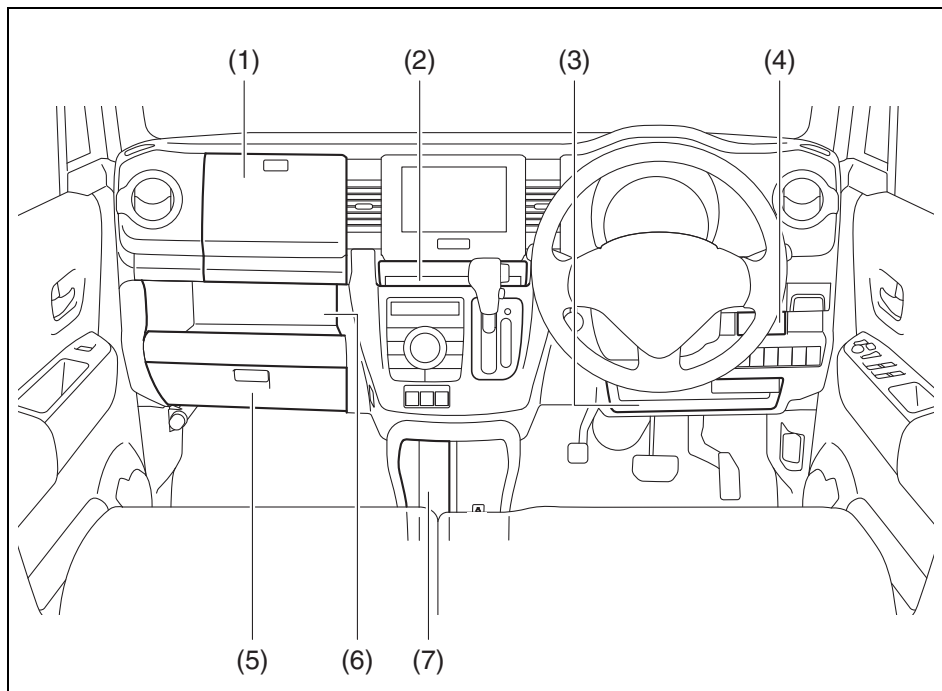
⚠️アドバイス

- 鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、室内灯が自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能)
 - エンジンスイッチが **LOCK** (OFF)の位置
 - 室内灯スイッチがDOOR位置
 - 点灯したまま15分が経過
- 室内灯スイッチがDOOR位置のときに、キーレスエントリーまたはリクエストスイッチを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。
 - **3-5ページ (アンサーバック機能)**

スイッチの位置	室内灯
ON	ドアの開閉に関係なく点灯します。
DOOR	<p>いずれかのドアを開けると点灯します。</p> <ul style="list-style-type: none">●すべてのドアを閉めると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 <p>また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。</p> <ul style="list-style-type: none">●エンジンスイッチを ACC または ON の位置にする●キーまたは運転席ドアのロックレバーによる施錠●キーレスエントリーまたはリクエストスイッチによる施錠
OFF	ドアの開閉に関係なく消灯します。

インパネ収納スペース

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



65P5008G

- | | |
|-------------------|----------------|
| (1) リッド付インパネボックス | (5) グローブボックス |
| (2) センターインパネトレイ | (6) インパネトレイ |
| (3) インパネアンダートレイ | (7) センターロアポケット |
| (4) インパネポケット(運転席) | |

- センターロアポケット (7) には、ペットボトルホルダーがあります。
→ 5-12ページ (ドリンクホルダー)

⚠ 警告

ふたがない収納スペースの場合、走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにもものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

▲ 注意

ふた付収納スペースの場合、ふたを開けたまま走行したり、走行中にふたを開けたりしないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

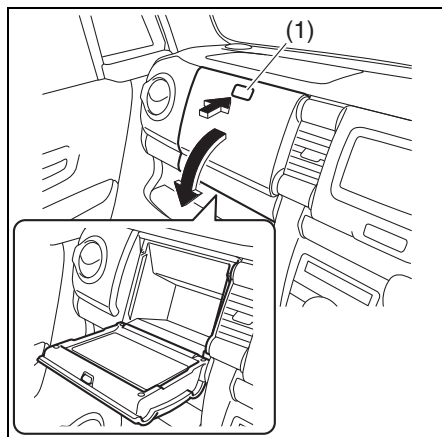
📌 アドバイス

携帯リモコンをいずれかのインパネ収納スペースに置いた場合、検知できないことがあります。

ふた付収納スペースの取扱い

- 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

5 ■ リッド付インパネボックス



- ボタン (1) を押してふたを開けます。また、開けたふたは停車中にテーブルとして使用できます。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

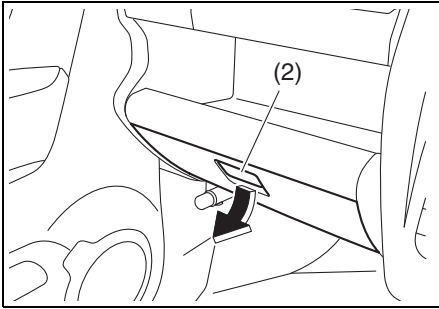
▲ 注意

走行中はテーブルとして使用しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにものが落ちて思わぬ事故につながったり、熱い飲み物がこぼれてやけどしたりするおそれがあります。

注記

- 開けたふたに載せるものは1.5 kg以下としてください。ふたが破損するおそれがあります。
- 炎天下で駐車するときは開けたふたの上に物を置いたままにしないでください。ふたが変形、破損するおそれがあります。

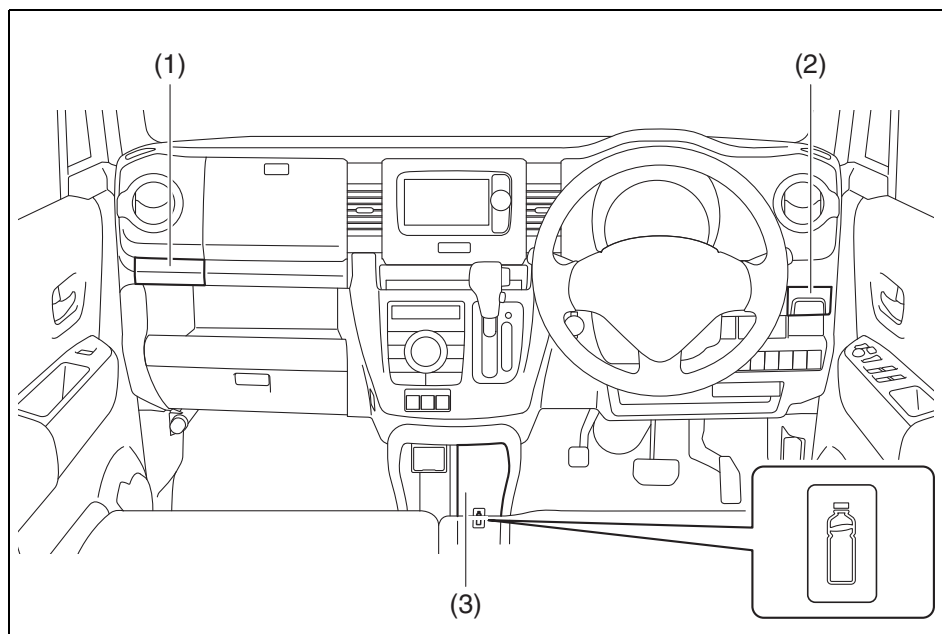
■ グローブボックス



65P50100

- レバー (2) を手前に引いてふたを開けます。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

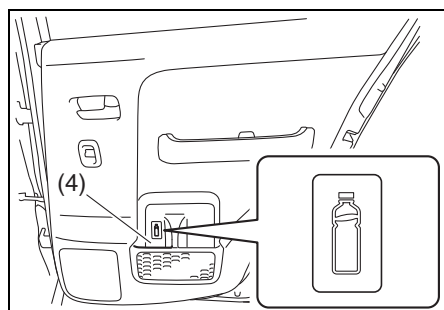
ドリンクホルダー



- (1) 助手席ドリンクホルダー
- (2) 運転席ドリンクホルダー

- (3) 前席用ペットボトルホルダー

後席ドア



- (4) 後席用ペットボトルホルダー

 **警告**

- 飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。
 - ・ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類
 - ・フロア下の配線、電気部品やセレクターなどの可動部
- 運転席/助手席ドリンクホルダーに、缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。

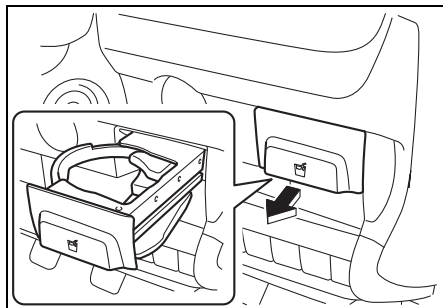
 **アドバイス**

携帯リモコンをドリンクホルダーや、ペットボトルホルダーに置いた場合、検知できないことがあります。

格納式ドリンクホルダーの取扱い

- 下図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

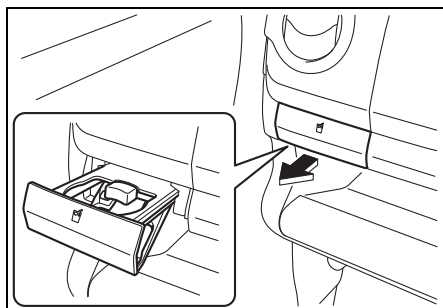
運転席ドリンクホルダー



65P50130

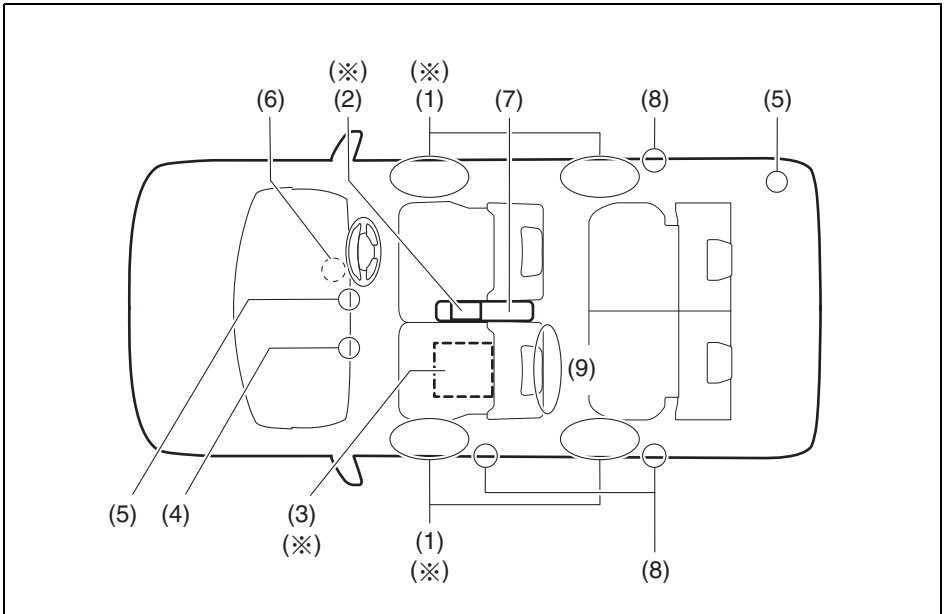
- 手前に引き出して使用します。
- 使用後は、押し込んで格納します。

助手席ドリンクホルダー



65P50140

そのほかの装備



65P5015G

5

- (1) ドアポケット(※) 5-16
- (2) アームレストボックス(※) 5-16
- (3) シートアンダーボックス(※) 5-17
- (4) ショッピングフック 5-18
- (5) アクセサリーソケット 5-18
- (6) フットレスト 5-19
- (7) アームレスト(ひじ掛け) 5-19
- (8) 可倒式アシストグリップ 5-20
- (9) 助手席シートバックテーブル 5-20

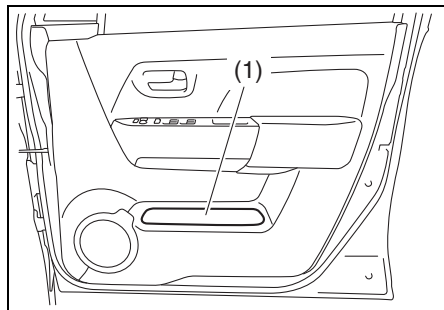
※携帯リモコンをこの場所に置いた場合、検知できないことがあります。

● 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

ドアポケット

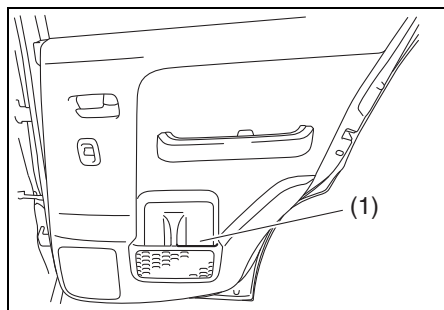
手回り品や小物などの収納にご使用ください。

前席



65P50160

後席

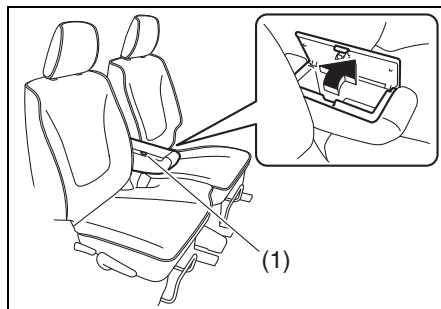


65P50170

(1) ドアポケット

アームレストボックス

- 開けるときは、ボタン (1) を押したまま、ふたを持ち上げます。
- ものを出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。



65P50180

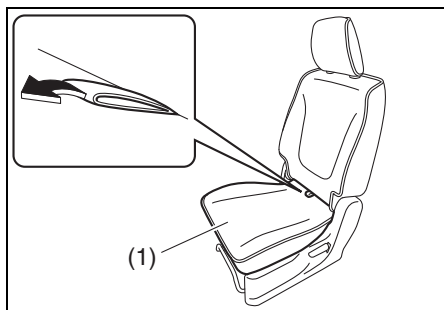
注記

ボックスの中に重いものを入れたり、ふたを開けたままにしたりしないでください。アームレストを取納したり、運転席の背もたれを後方に倒したりしたときに、中のものが飛び出すおそれがあります。また、ふた破損の原因となります。

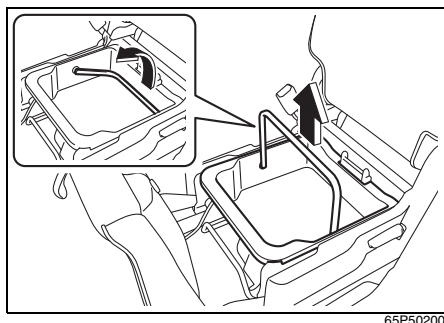
シートアンダーボックス

■ 取り出しかた

- 1 助手席を後方へいっぱいまでスライドし、クッション (1) 後部のバンドを引き上げて、固定を外します。
 - バンドを引き上げにくいときは、背もたれを後方へ倒します。



- 2 クッションを車の前方向に起こし、とっ手を持ってボックスを取り出します。



注記

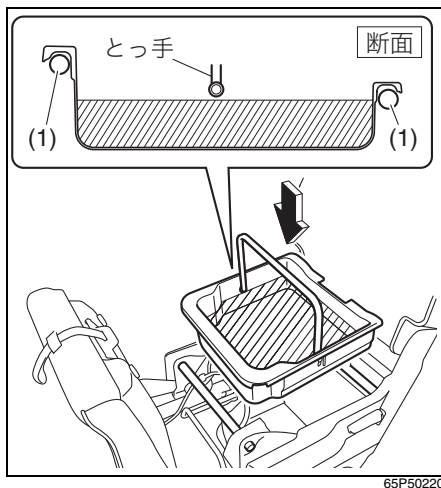
起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

アドバイス

シートアンダーボックスの下に、リチウムイオンバッテリーがあります。
 (エネチャージ装備車またはS-エネチャージ装備車)
 → 2-5ページ
 (リチウムイオンバッテリー)

■ もとにもどすときは

- 1 ボックスの両端がシートのパイプ (1) にはまるように、ボックスをはめ込みます。



注記

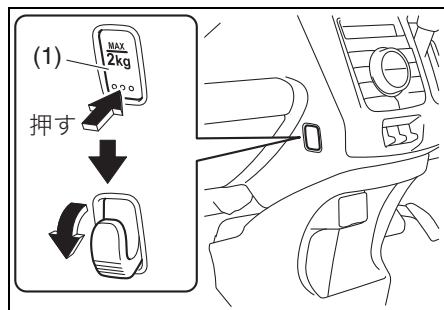
前図の斜線部分よりも上にもものを入れないでください。クッションやボックス、中のものが破損するおそれがあります。

- 2 クッションを車の後方へ倒します。クッションは、もとの位置までもどると固定されます。

ショッピングフック

買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。

- 使用するときは、フック (1) の下部を押しながら回転させます。
- 使用後は、反転させてフックを格納します。



注記

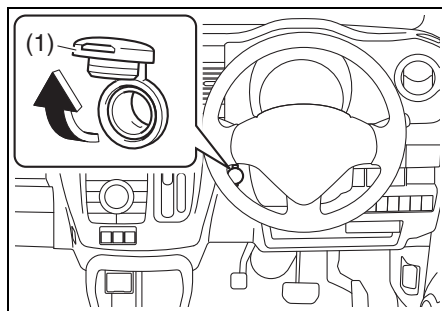
フックにかけるものは、2 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

アクセサリソケット

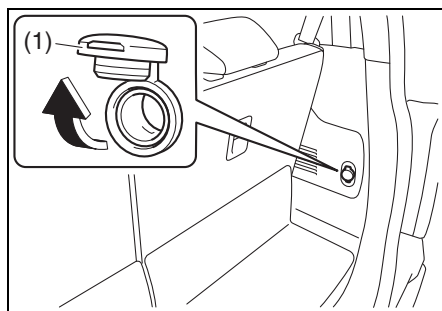
エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに、電気製品の電源として使用できます。使用できる電気製品の規定容量はインパネと荷室合わせて12 V 10 A (120 W) 以下です。

- 使用するときは、ふた (1) を開けます。

インパネ



荷室



警告

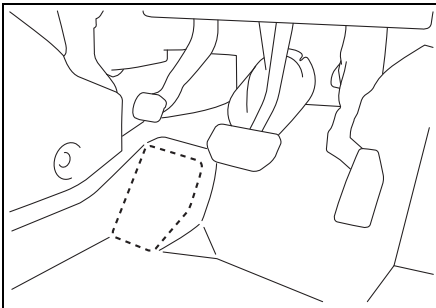
- 使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。
- 事故防止のため、マツダ純正用品以外の電気製品を使用しないでください。

注記

- 規定容量は、インパネと荷室合わせて120 Wまでとなります。規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。
- エンジン停止中に長時間使用すると、鉛バッテリーあがりの原因となります。また、エンジンがかかっている状態でもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

フットレスト

フロアカーペット内にあります。左足のささえとして使用します。

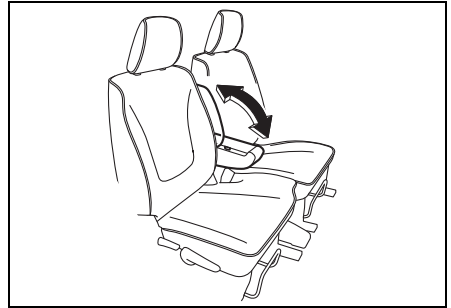


65P50270

アームレスト (ひじ掛け)

手前に倒して使用します。

- 使用後は、持ち上げて収納します。



65P50280

警告

シートベルトは、アームレストの下を通してください。アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。



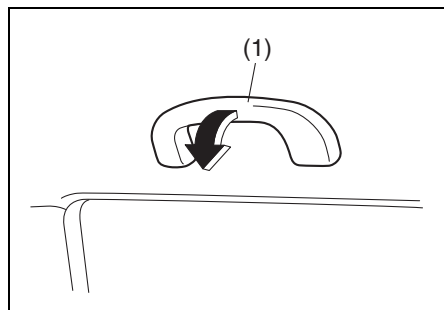
70K40011

注記

アームレストに腰をかけたり、荷物を乗せたりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

可倒式アシストグリップ

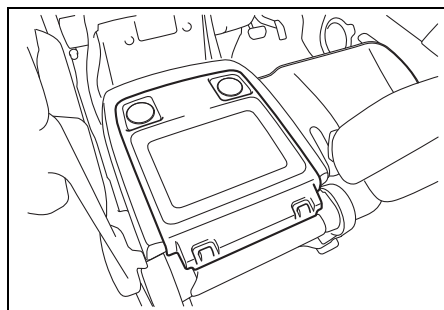
アシストグリップ (1) を手前に倒して使用します。



80J1233

5 助手席シートバックテーブル

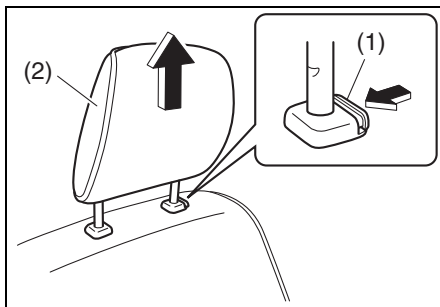
助手席の背もたれを倒すとテーブルとして使用できます。



65P50290

■ テーブルにするときは

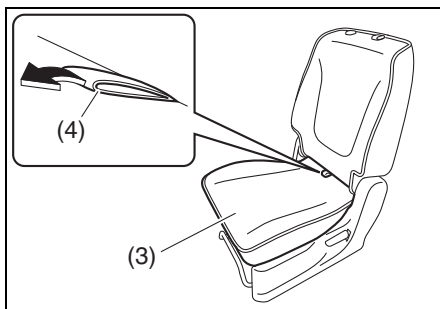
- 1 助手席を後方へいっぱいまでスライドします。
- 2 ロックボタン (1) を押したままヘッドレスト (2) を引き抜きます。



65P50510

- 3 クッション (3) の後部についているバンド (4) を引き上げて固定を外し、クッションを車の前方向へ起こします。

●バンドが引き上げにくいときは、背もたれを後方へ倒します。

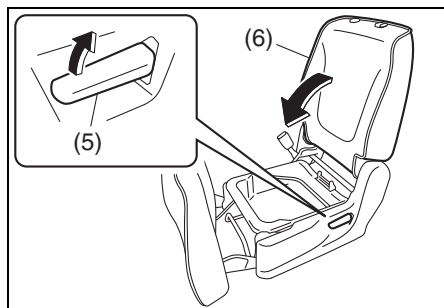


65P50520

注記

前方へ起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

- 4 リクライニングレバー (5) を引き上げ、背もたれ (6) を前方へいっばいまで倒します。



65P50530

警告

前方へ倒した背もたれの上に、人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに投げ出されてけがのおそれがあります。また、シートが破損する原因となります。

注意

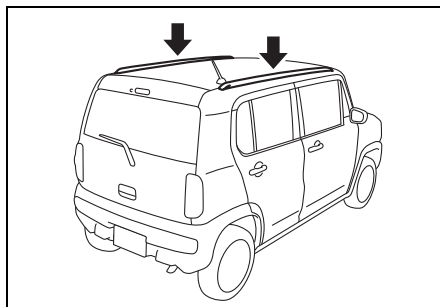
走行中はテーブルとして使用しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにものが落ちて思わぬ事故につながったり、熱い飲み物がこぼれてやけどしたりするおそれがあります。

注記

前方へ起こしたクッションに、力を加えないでください。クッション取り付け部が損傷するおそれがあります。

ルーフレール

タイプ別装備



65P50480

ルーフレールに別売りのベースキャリアおよびアタッチメントを装着すると、ルーフの上にスキーやサーフボードなどの荷物が積めます。

- マツダ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）の場合、ルーフに積載できる最大重量は30 kg（ベースキャリアおよびアタッチメントの重量を含む）です。取り付けおよび使用上の注意については、ベースキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書をお読みください。

5

注意

搭載したルーフキャリアやスキー板などの長尺物がレーダー検知範囲内にあるとき、RBS が作動する場合があります。

→ 4-37 ページ（レーダーブレーキサポート（RBS））

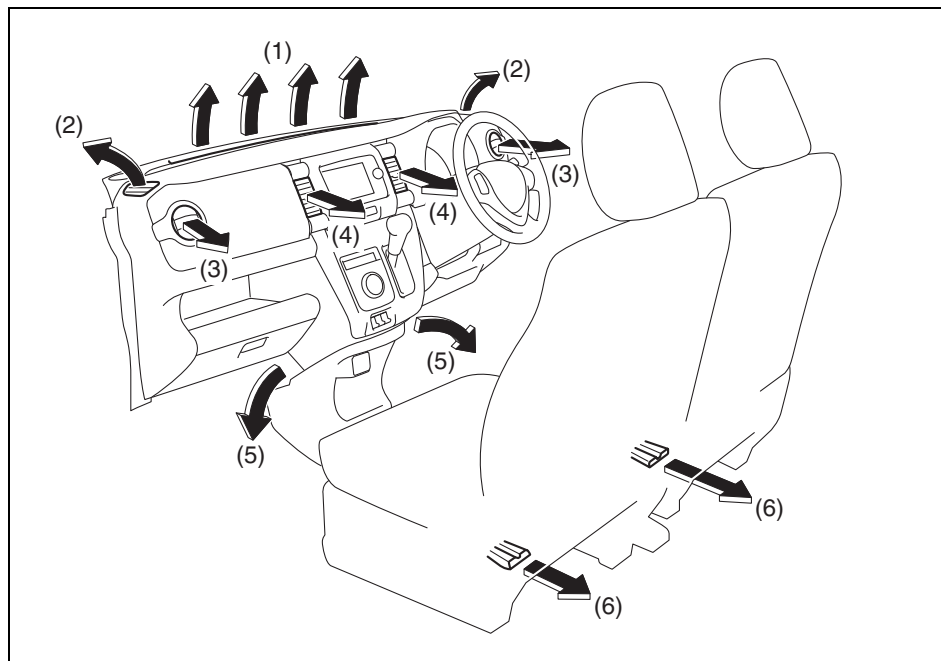


72M20423

注記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

エアコンの吹出し口



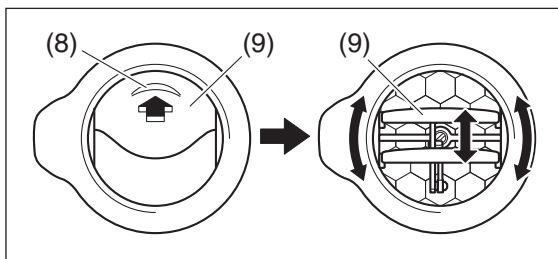
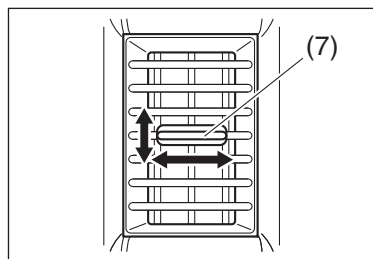
65P50340

- (1) デフロスター
- (2) サイドデフロスター
- (3) サイド吹出し口
- (4) 中央吹出し口
- (5) 足元吹出し口
- (6) 後席足元吹出し口(リヤヒーターダクト)

- 中央吹出し口 (4) は、ノブ (7) を上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口 (3) は、凹部 (8) を押して開いたルーバー (9) を、上下または回転させると風の向きが調節できます。また、サイド吹出し口は開閉ができます。

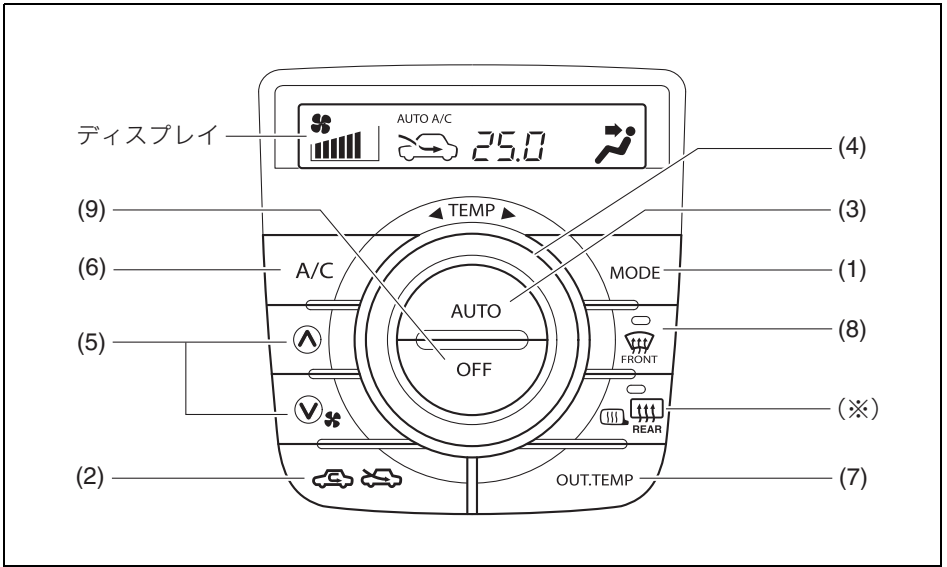
中央吹出し口

サイド吹出し口



65P50350

オートエアコン



65P5049G

- (1) モード (吹出し口) 切替えスイッチ
- (2) 内外気切替えスイッチ
- (3) オートスイッチ
- (4) 温度調節ダイヤル
- (5) ファン (風量) 調節スイッチ
- (6) エアコンスイッチ
- (7) 外気温表示スイッチ
- (8) デフロスタースイッチ
- (9) OFFスイッチ

※リヤデフォグガススイッチについては、5-30ページをお読みください。

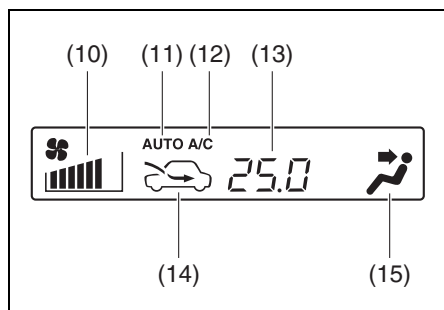
オートエアコンの使いかた

■ 通常の使いかた（自動で使うとき）

オートスイッチ (3) を押して温度調節ダイヤル (4) で希望の温度を設定すると、各機能が自動制御されます。ただし、デフロスター位置へは自動で切り替わりません。

→ 5-27ページ (オートスイッチ)

- 1 エンジンをかけ、オートスイッチ (3) を押します。ディスプレイに次のように表示 (代表例) されます。



- (10)風量 (13)設定温度
(11)AUTO表示 (14)内外気切替え表示
(12)A/C表示 (15)吹出し口

- 冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチ (6) を押してエアコンを止めてください。エンジンへの負荷が軽減され、燃費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。

- フロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押すか、モード (吹出し口) 切替えスイッチを押して「デフロスター / 足元」位置へ切り替えてください。

→ 5-26ページ

(モード切替えスイッチ)

→ 5-29ページ

(デフロスタースイッチ)

- 2 温度調節ダイヤル (4) をまわして希望温度を設定します。設定温度はLO、18℃～32℃、HIの間で、0.5℃間隔で設定できます。

- 25℃を基準に希望の温度を設定してください。ただし、外気温によっては、希望の設定温度にならないことがあります。

- 3 作動を停止するときは、OFFスイッチ (9) を押します。

⌄ アドバイス

- エンジンを停止しても設定温度を記憶しています。
- AUTO作動中に、ファン（風量）調節スイッチ（5）、モード（吹出し口）切替えスイッチ（1）のいずれかを操作すると、操作したスイッチの機能が優先されて**AUTO**表示が消えます。ただし、操作したスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO作動中にデフロスタースイッチ（8）を押すと、**AUTO**表示が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。
- 外気温が低くエンジンが冷えているときや、外気温が高いときは、冷風や熱風が吹き出すのを防ぐため、しばらくの間、風が少量しか吹き出さなことがあります。
- エンジンスイッチが **ON** のときに、ディスプレイの **AUTO** 表示が点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

■ 手動で使うとき

好みにあわせてスイッチを操作してください。

- AUTO 作動中でも、操作したスイッチの機能が優先され、操作したスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を AUTO にもどすときは、オートスイッチ（3）を押します。
- 止めるときは、OFFスイッチ（9）を押します。

■ アイドリングストップ中

エンジン自動停止中は送風に切り替わり、エコクールで蓄えた冷気を車内に送ります。

→ 4-61ページ（エコクール）

- 設定を切り替えることで、アイドリングストップ中の空調を変更できます。
→ 3-92ページ（アイドリングストップ (IS) 空調設定）



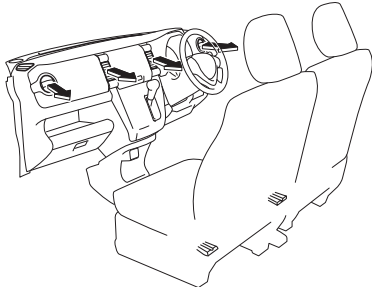
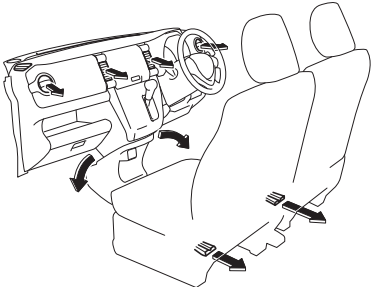
⌄ アドバイス



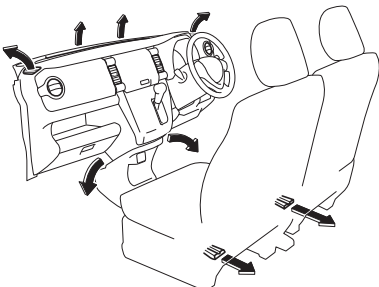
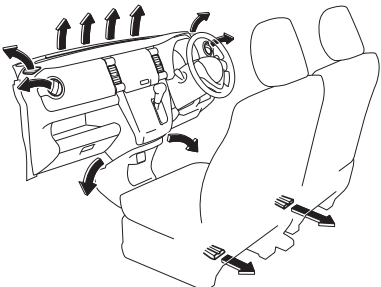
- 走行を開始して間もないときや渋滞中は、冷気が十分に蓄えられない場合があります。また、外気温やエアコンの設定状態によっては、効果に差があります。
- エンジン自動停止により、冷暖房性能が十分でなくなった場合は、アイドリングストップシステム OFF スwitch を押して、アイドリングストップシステムを停止状態にしてください。（エンジンが自動再始動し、冷暖房性能が復帰します。）
→ 4-59 ページ（アイドリングストップシステムOFFスイッチ）
- エンジン自動停止中にフロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押してください。（デフロスタースイッチを押すとエンジンが自動再始動し、デフロスターが作動します。）
→ 4-50 ページ（アイドリングストップシステム）
→ 5-29ページ
（デフロスタースイッチ）

各スイッチ、ダイヤルの使いかた

■ モード（吹出し口）切替えスイッチ

モード（吹出し口）切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
表示		
吹出し口	 65P50360	 65P5037G



目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示		
吹出し口	 65P5038G	 65P5039G

⚠️ アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ 内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチを押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

表示	状態
 (外気導入)	外気を導入しています。 ●通常はこの位置でお使いください。
 (内気循環)	外気をしゃ断しています。 ●トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

⚠️ アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- 外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、内外気切替えスイッチを押して切り替えてください。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

■ オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ディスプレイに **AUTO A/C** が表示され、次の機能が自動制御されます。

- 吹出し風量の調節
- 吹出し口の切替え
- 内気循環／外気導入の切替え


内気循環／外気導入の自動制御

手動で内気循環を選択しているときは、オートスイッチを押しても内気循環はそのまま自動制御されません。内気循環／外気導入の切替えを自動制御にもどすには、次のようにします。

1 内外気切替えスイッチ (2)、またはデフロスタースイッチ (8) を押して外気導入に切り替えます。

2 オートスイッチを押します。

頭寒足熱暖房

AUTO 作動中、吹出し口切替え表示が  のときに、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

■ 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルをまわすと、LO、18℃～32℃、HI の間で設定温度を変更できます。設定温度はディスプレイに表示されます。

- ダイヤルを18℃から反時計方向にまわすと、ディスプレイに **LO** が表示され、最大冷房になります。また、ダイヤルを32℃から時計方向にまわすと、ディスプレイに **HI** が表示され、最大暖房になります。

⚠️ アドバイス

LO または **HI** が表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。

■ ファン（風量）調節スイッチ

ファン（風量）調節スイッチを押すと、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- 風量を大きくするときは **▲**（凸部）、風量を小さくするときは **▼**（凹部）を押します。
- 連続調節するときは、長押しします。
- ファンを停止するときは、OFF スイッチ (9) を押します。

■ エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、こち良い暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0°C近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温度が0°C近くまで下がっているとき外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

■ 外気温表示スイッチ

外気温表示スイッチを押すと、ディスプレイに約5秒間、外気温度が表示されます。

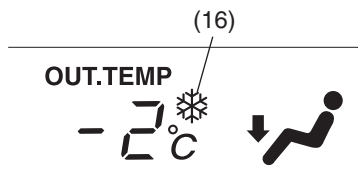
表示中にもう一度押すと、表示が消えます。

- 外気温が氷点下近くになると、フリーズマーク（雪の結晶マーク）が点灯します。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。

→ 6-13ページ

（雪道を走行するとき）

図の値は表示例です



72M20512

(16) フリーズマーク

▲ 注意

フリーズマークの点灯は目安です。気象状況によっては、フリーズマークが点灯しなくても路面が凍結している場合があります。注意して走行してください。

⌄ アドバイス


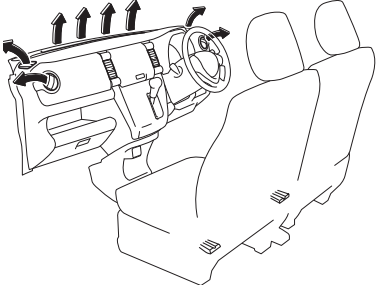
- 外気温はセンサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温と異なる場合があります。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車時または低速走行時
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）
- フリーズマークは、外気温を表示していないときにも点灯します。

■ デフロスタースイッチ

デフロスタースイッチを押すと、自動的にエアコンが作動し、吹出し口が切り替わります。同時にスイッチ内の表示灯が点灯し、ディスプレイの表示も切り替わります。

もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。（オート制御の場合、吹出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります）

- 内気循環になっているときは、外気導入に切り替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン（風量）調節スイッチを操作して、好みの風量にも調節できます。
- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押して停止してください。

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示	
吹出し口	 <p style="text-align: right;">65P50400</p>

⌄ アドバイス

- 内気循環に切り替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- 外気温が低いときは、エアコンが作動しないこともあります。
- スイッチ内の表示灯は吹出し口がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。
- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

■ OFFスイッチ

OFFスイッチを押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

リヤデフォグスイッチ

エンジン回転中、またはアイドリングストップシステムによるエンジンの自動停止中に使用でき、バックドアガラスの内側のくもりを取ります。

ドアミラーヒーター装備車では、同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。

→ 4-50ページ

(アイドリングストップシステム)

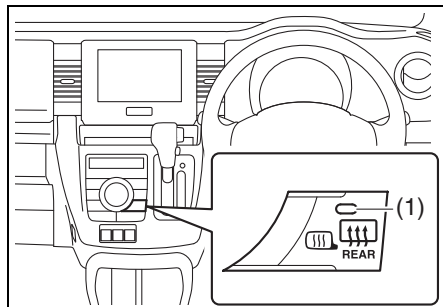
→ 3-29ページ

(ドアミラーヒータースイッチ)

- スイッチを押すとバックドアガラスが暖められて、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯します。

もう一度押すとスイッチが切れます。

- 約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** (OFF) にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。



65P5047G

注記

- 鉛バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。また、雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりする目的で使用しないでください。
- バックドアガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

アドバイス

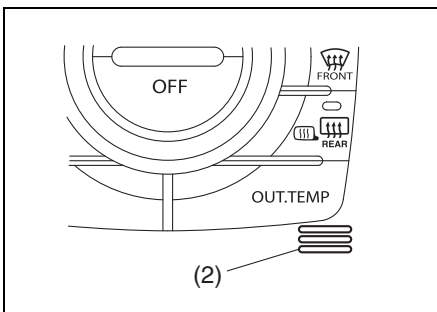
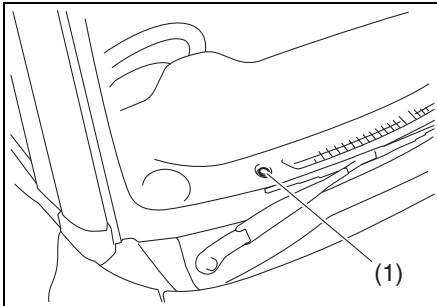
エンジン停止中はスイッチが入りません。(アイドリングストップシステム装備車のエンジンの自動停止中を除く)

エアコンの上手な使いかた

温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー (1)、室温センサー (2)、外気温センサーなどによって周囲の状況を検知し、自動制御しています。

インパネ運転席側



アドバイス

日射センサーの上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼って、ふさがないようにしてください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

エアコンガスを充填するときは

エアコンガスは、必ず冷媒 HFC134a (R134a) を使用してください。

- エアコンガスを充填するときは、マツダ販売店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、マツダ販売店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に1回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油汚れを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを清掃、交換するとき

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	5,000 kmごと、または6か月ごと	車検ごと
上記以外の地域	10,000 kmごと、または12か月ごと	車検ごと

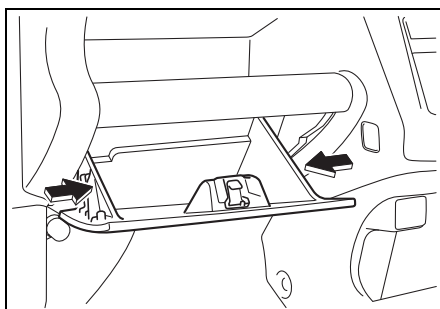
5

アドバイス

- エアフィルターを清掃または交換の際は、車内部品を破損するおそれがありますので、マツダ販売店での清掃／交換（有料）をおすすめします。
- 新しいエアフィルターはマツダ販売店でご購入ください。

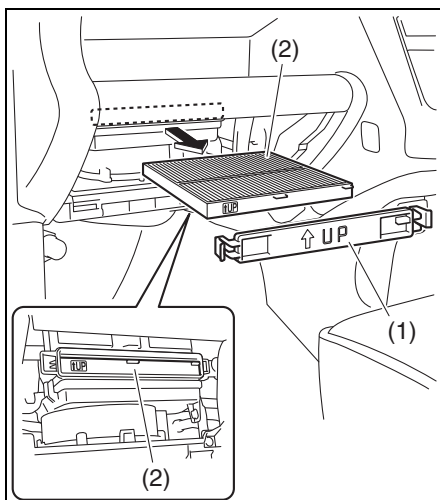
■ エアフィルターの取り外し

- 1 グローブボックスの側面を矢印の方向に押し込み、取り外します。



65P50420

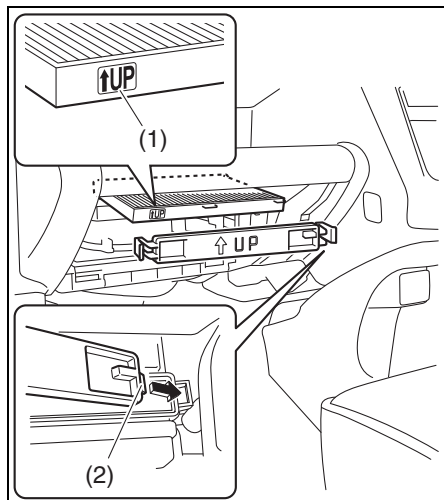
- 2 ホルダー（1）を外し、エアフィルター（2）を取り出します。



65P50430

■ エアフィルターの取り付け

- 1 エアフィルターは、取り付け方向マーク (1) の矢印を上向きにして挿入します。
- 2 ホルダー右側のツメ (2) をケース側面にひっかけます。



65P50440

アンテナ

アドバイス

アンテナで受信できるラジオの電波は使用環境により変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

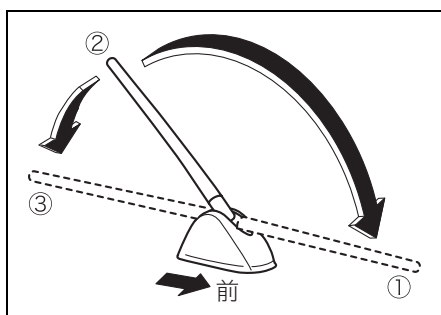
ルーフアンテナ

車両後部の運転席側にあります。

■ アンテナの調節

アンテナの位置は3段階 (①、②、③) に調節できます。

- 調節は手でアンテナを動かして行ないます。



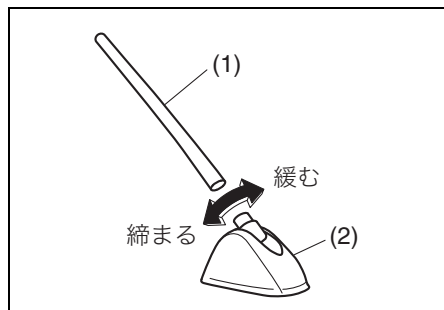
50M0162

注記

車庫の天井などにアンテナが当たるときは、手でアンテナを①または③の位置に倒してください。

■ アンテナの脱着

- 取り外すときはアンテナ (1) を反時計方向にまわします。
- 再び取り付けるときは手でアンテナをベース部 (2) にねじ込み、しっかりと取り付けてください。



オーディオ機器

この車にはオーディオは標準装備されていません。

別売りのオーディオについては、マツダ販売店にお問い合わせください。

5

注記

次のようなときには、アンテナを取り外してください。アンテナを損傷するおそれがあります。

- 自動洗車機にかけるとき
- ボディカバーをかけるとき
- 降雪時に長時間駐車するとき

6. お車との上手なつきあいかた

● お手入れ

外装のお手入れ	6-2
内装のお手入れ	6-4
タイヤの交換	6-5
エアクリナーフィルターの交換	6-7
携帯リモコンの電池交換	6-8

● 寒冷時の取扱い

冬期に入る前の準備	6-10
出発の前に	6-11
雪道を走行するとき	6-13
駐車するとき	6-14
タイヤチェーンを装着するとき	6-15

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
 - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
 - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
 - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に1回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明にしたがってください。



80J302

- 飛び石の傷や、引っかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注記

塗装面の傷を補修するときは、マツダ販売店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

▲ 注意

- 車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。
- 洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。
→ 2-20ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）

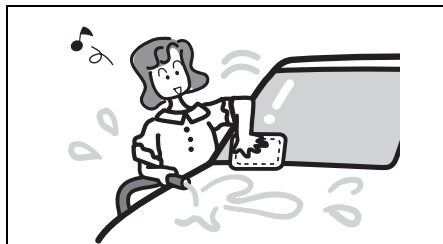
注記

エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。

手洗い洗車をするとき

- 1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のようなやわらかいものを使って汚れを洗い落とします。
- 2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

- 3 やわらかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

注記

- ドアミラーを格納し、アンテナを取納または取り外してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。
- ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。洗車機にひっかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。
- 自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注記

- 洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりとすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。
- 洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けて、車内に水が入るおそれがあります。

フロントガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

アルミホイール（タイプ別装備）の手入れ

6-2 ページの「手洗い洗車をするときは」をお読みください。

注記

- 酸性、アルカリ性の洗剤、石油系溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れ、およびセンターキャップの損傷の原因となります。
- 硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼったやわらかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

警告

- 車内に水などをかけないでください。ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。
- エネチャージ装備車または S - エネチャージ装備車の助手席下（シートアンダーボックス下）には、リチウムイオンバッテリーがあります。バッテリーを水などで濡らさないでください。火災や感電などを起こしたり、故障の原因となったりするおそれがあります。

注記

- 次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
 - ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤
 - 酸性、アルカリ性の洗剤
 - 漂白剤や染料
- エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺部の清掃にはシリコ

ンを含むケミカル用品を使用しないでください。シリコンが付着した場合、故障の原因となるおそれがあります。

- 色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

- 1 中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
- 2 真水を含ませたやわらかい布で、残った洗剤分をふき取ります。
- 3 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

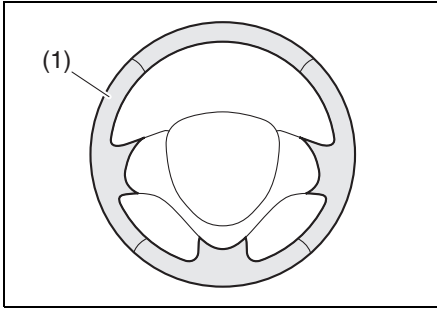
本革ハンドルの手入れ

- 1 ウール用中性洗剤を次の比率でうすめたものをやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
ウール用中性洗剤：水＝1：20
- 2 真水を含ませたやわらかい布を固くしぼり、残った洗剤分をふき取ります。

注記

洗剤のふき残しがあると、本革部分を傷めるおそれがあります。

- 3 乾いたやわらかい布で乾ぶきし、風通しの良い日陰で乾燥させます。



65P60010

(1)本革部分

注記

化粧液やハンドクリームなどに含まれるオレイン酸は変色、しみの原因となります。万一、ハンドクリームなどがハンドルの本革部分に付着した際は、すみやかにティッシュペーパーや、やわらかい布でふき取り、前記手順でお手入れをしてください。

アドバイス

- 外観品質を長く保つため、年に2回程度は定期的にお手入れをしてください。
- 水が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。ぬれたままにしておくと、硬くなって縮むことがあります。
- 炎天下に駐車するときは、日よけなどを使用してください。直射日光に長時間さらすと、色あせや縮みの原因となります。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、皮革本来の傷などがあっても、皮革としての物性に影響はありません。

バックドアガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

タイヤの交換

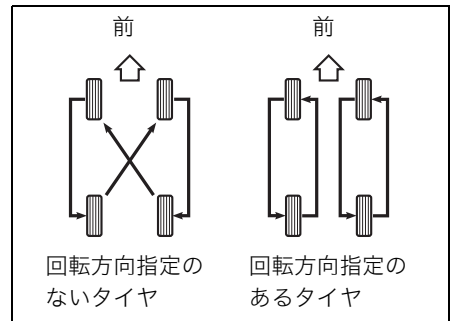
タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約5,000 km走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、応急用スペアタイヤ（別売り）などを使用して1輪ずつ交換します。

→ 7-11ページ（ジャッキアップ）

- タイヤパンク応急修理セット装備車には、応急用スペアタイヤが装備されていないため、マツダ販売店にご相談ください。



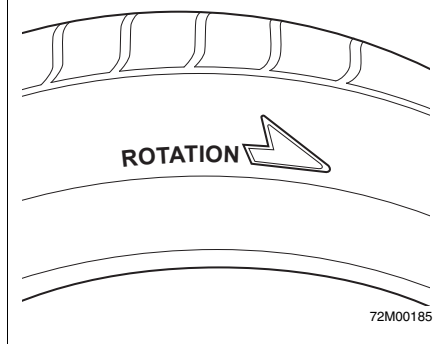
80J305

⚠ 注意

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときには、回転方向を逆にししないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

📏 アドバイス

回転方向指定のあるタイヤは、側面に図のような“ROTATION”の文字と、回転方向を示す矢印が刻印されています。



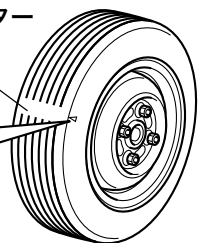
- 上図のタイヤは代表例です。

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「空気圧ラベル」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが1.6mm浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、ほかのタイヤと交換してください。

ウェアインジケーター
(摩耗限度表示)

⚠
ウェアインジケーター位置
を示すマーク



82K135

⚠ 警告

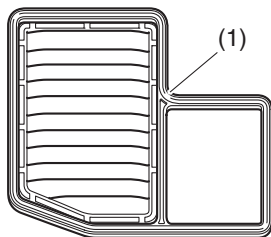
指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。（冬用タイヤも同様です）

- 正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。
 - ABS
 - エマージェンシーストップシグナル (ESS)
 - DSC&TCS
 - グリップコントロール（タイプ別装備）
 - レーダーブレーキサポート (RBS)
 - 誤発進抑制機能
- 4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

エアクリナーフィルターの交換

注記

エアクリナーフィルターを取り付けるときは、ゴムパッキン (1) が確実にハマっていることを確認してください。ゴムパッキンが損傷するおそれがあります。ゴムパッキンが確実にハマっていなかったり損傷したりすると、エンジン内部にほこりなどが侵入しエンジンの不具合や破損につながるおそれがあります。



81M60041

●前図のエアクリナーフィルターは代表例です。お車のタイプにより異なります。

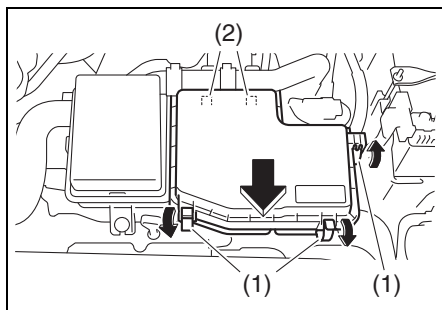
アドバイス

エアクリナーフィルター交換の際、フィルターや車両の部品を損傷するおそれがありますので、マツダ販売店での交換 (有料) をおすすめします。

ターボなし車

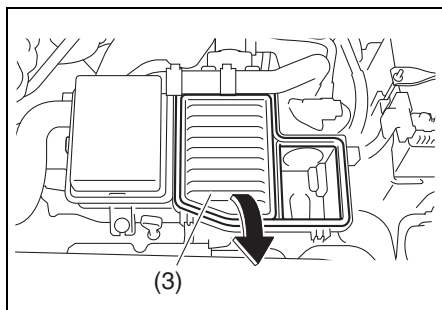
■ 外しかた

- 1 ボンネットを開けます。
→ 5-3ページ (ボンネット)
- 2 エアクリナーのフック (1) を3か所外します。
- 3 ふたを持ち上げ、手前に引き、奥のつめ (2) 2か所を外してエアクリナーのふたを取り外します。



65P60020

- 4 エアクリナーフィルター (3) を取り外します。



65P60030

■ 取り付けかた

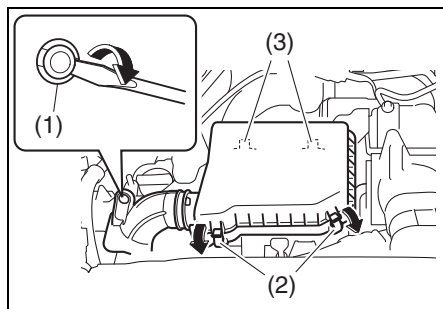
「外しかた」と逆の手順で行ないます。

- ふたを取り付けるとき、奥にあるつめをエアクリーナー本体の穴に挿入してください。

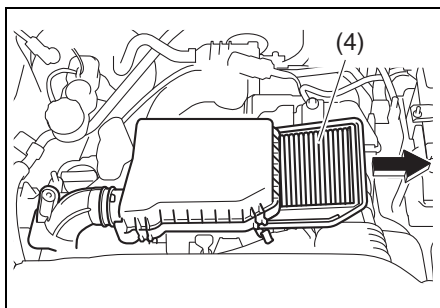
ターボ車

■ 外しかた

- 1 ボンネットを開けます。
→ 5-3ページ (ボンネット)
- 2 エアクリーナーのふたのクリップ (1) とフック (2) を2か所外します。
 - クリップはマイナスドライバー (市販品) でこじって外します。
- 3 ふたを持ち上げ、手前に引き、奥のつめ (3) 2か所を外してエアクリーナーのふたを浮かせます。
 - エアクリーナーのふたは取り外さず、フィルターの交換を行ないます。



- 4 浮かせたふたのすきまから、エアクリーナーフィルター (4) を引き抜いて取り外します。



■ 取り付けかた

「外しかた」と逆の手順で行ないます。

- ふたを取り付けるとき、奥にあるつめをエアクリーナー本体の穴に挿入してください。

携帯リモコンの電池交換

⚠ 警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないように注意してください。

注記

故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 濡れた手で電池交換をしない
- 電池以外の端子や電子部品に触れない
- 端子を曲げない
- 油や異物を付着させない

🔧 アドバイス

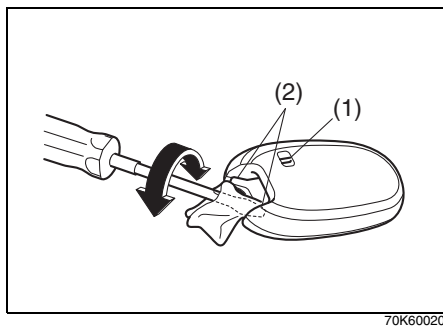
- 電池交換の際、携帯リモコンを破損するおそれがありますので、マツダ販売店で交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、マツダ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

使用電池	リチウム電池CR2032
------	--------------

1 携帯リモコンからキーを取り出します。
→ 3-2ページ（キー）

2 携帯リモコンのケースを分割します。

- ケースは、ロック解除レバー（1）側を上にして。（内部ユニットの落下防止のため）
- 傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせませす。キー格納穴の両側にある溝（2）へ差し込み、ケースを分割します。

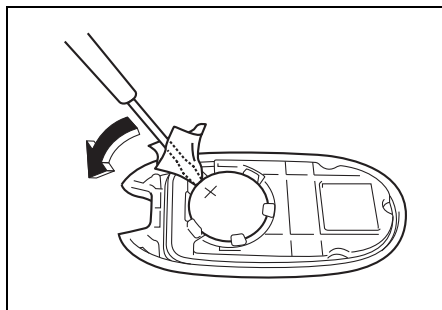


注記

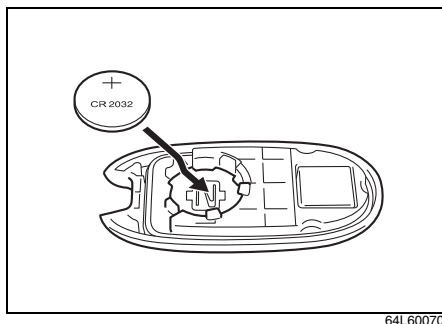
- ケースを分割するときは、ロック解除レバー（1）側を下にしないでください。内部ユニットが落下して破損するおそれがあります。
- ドライバーで、内部ユニットを破損しないよう注意してください。

3 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。

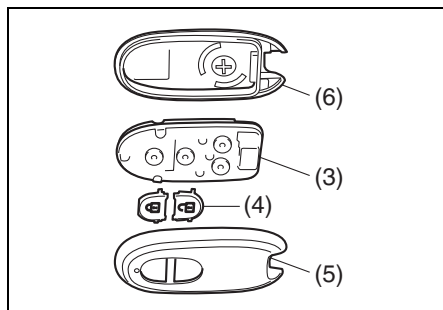


- 電池は、+極を上にして取り付けます。



4 ケースを組み付けます。

- ケースのあわせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。
- 万一部品がばらけてしまった場合は、次の図を参考に組み付けてください。



70K60030

(3)内部ユニット (4)スイッチ
(5)アッパーケース (6)ロアケース

5 キーを格納します。

6 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

■ 携帯リモコン電池消耗警告のリセットのしかた

電池交換前に携帯リモコン電池消耗警告が表示されていた場合は、電池交換後に次の操作を行なって警告をリセットしてください。

- キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を2回以上繰り返す
 - 3-4ページ (キーレスエントリー)
 - 3-9ページ (携帯リモコン電池消耗警告)

アドバイス

所持している予備の携帯リモコンの電池が正常な場合、予備の携帯リモコンで上記の操作を行っても警告をリセットできます。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈マツダ純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通常	原液1に水3	約-7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約-50℃

鉛バッテリー

鉛バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ 2-4ページ

(鉛バッテリーの液面を点検する)

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

- 8-1ページ (サービスデータ)
- メンテナンスノート (日常点検)

⚠️ アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、マツダ販売店へお申し付けください。

スノーブレード (別売り)

スノーブレード (降雪地用ワイパーブレード) は、金属部分をゴムで覆って雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

⚠️ 注意

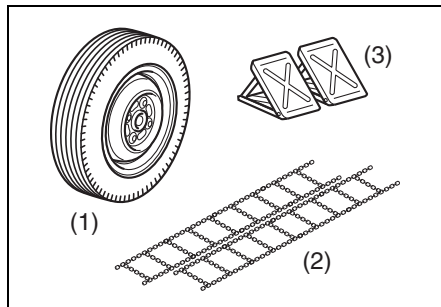
高速走行時は、通常ワイパーブレードよりふき取りにくくなる場合があります。その場合には、車のスピードを落としてください。

⚠️ アドバイス

- 雪の降らない時季は、通常ワイパーブレードのご使用をおすすめします。
- レーザーレーダー装備車のスノーブレードについては、マツダ販売店にご相談ください。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



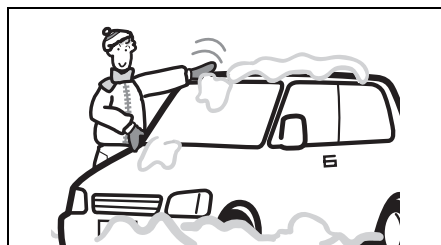
82K139

- (1) 冬用タイヤ
- (2) タイヤチェーン
- (3) 輪止め

出発の前に

屋根に積もった雪

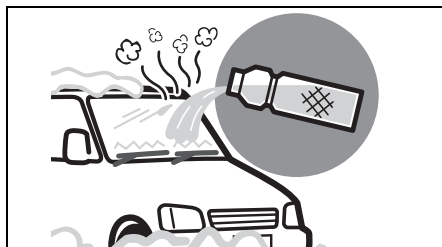
出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。



80J308

ワイパーの凍結

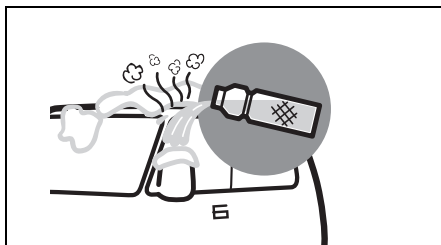
ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。



65P60060

ドアミラーの凍結

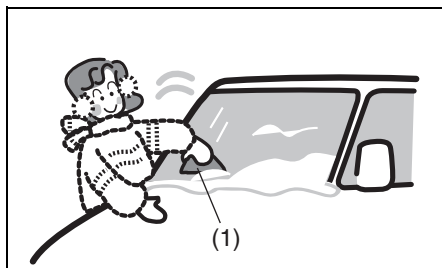
ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にドアミラーを動かそうとすると、故障するおそれがあります。



65P60070

ガラス面の雪や霜

プラスチックの板 (1) を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。



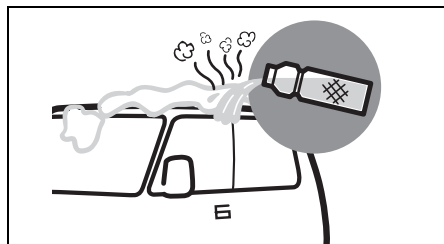
82K261

注記

- ドアミラー格納スイッチの場合、ミラーを手で動かすことが可能かを確認してから、スイッチ操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 3-26ページ
(ドアミラー格納スイッチ)
- リモート格納ミラー（タイプ別装備）の場合、ドアミラーが凍結するような寒冷時は、リモート格納ミラーの機能を停止してください。凍結したまま動作を繰り返すと、故障の原因となります。
→ 3-27ページ
(リモート格納ミラー)

ドアの凍結

ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



65P60080

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

▲注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



80J039

6

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効が悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
→ 6-6ページ
(タイヤ交換するときは)
- 6-15ページ
(タイヤチェーンを装着するとき)

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなる場合があります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

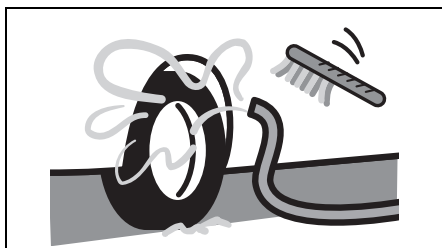
- 長時間駐車するときはパーキングブレーキをかけず、セレクトレバーを **P** に入れ、輪止め（市販品）をしてください。

凍結防止剤が散布してある道 を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。

凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

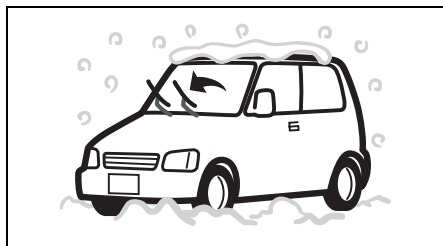


80J314

屋外に駐車するときは

注記

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- ルーフアンテナの場合、降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
→ 5-34ページ（アンテナの脱着）
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。



排気管のまわりが雪で覆われたときは

警告

排気管のまわりが雪で覆われたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したマツダ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、マツダ販売店にご相談ください。

警告

- 適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。
- 走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

▲ 注意

- タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30 km/h 以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。
- タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。
 - ABS
 - エマージェンシーストップシグナル (ESS)
 - DSC&TCS
 - グリップコントロール（タイプ別装備）
 - レーダーブレーキサポート (RBS)
 - 誤発進抑制機能

注記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの4WDです。後輪には装着しないでください。

■ 応急用スペアタイヤ（別売り）には装着できません

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてから、タイヤチェーンを前輪に装着します。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-10 ページの「タイヤ交換の準備」の①、②をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注記

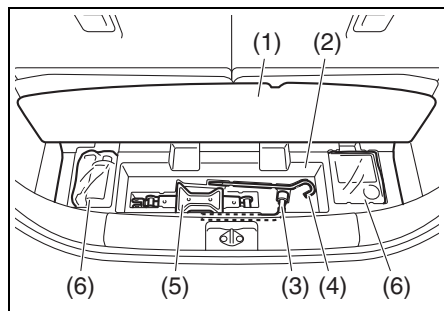
タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

7. 万ーのとき

- パンク 7-2
- バッテリーあがり 7-16
- ヒューズ切れ 7-20
- 電球切れ 7-24
- オーバーヒート 7-28
- そのほか 7-29

工具、ジャッキ、タイヤパンク 応急修理セットの収納場所

荷室のフロアボード (1) 下にあるツールボックス (2) に収納されています。



65P70010

- (1) フロアボード (4) ジャッキパー
(2) ツールボックス (5) ジャッキ
(3) ホイールナット (6) タイヤパンク
レンチ 応急修理セット

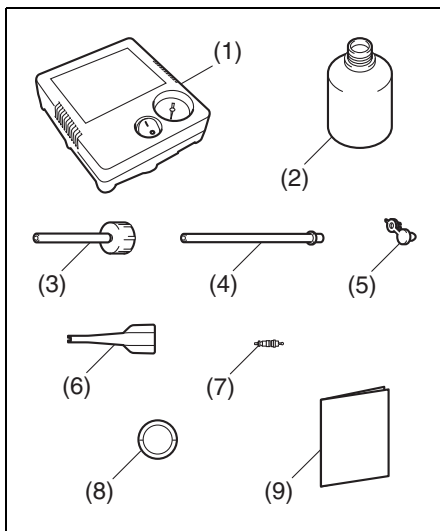
- 使用後は、所定の位置に収納してください。
- ジャッキは、完全に縮めてから収納してください。

パンクしたときは

- タイヤパンク応急修理セットをお使いください。
- 別売りの応急用スペアタイヤを使用するときは、7-9 ページの「**応急用スペアタイヤ (別売り) の取扱い**」以降の項目をお読みください。

タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかにマツダ販売店で修理または交換してください。



65P70030

- (1) エアコンプレッサー
(2) 修理剤ボトル(タイヤ1本分)
(3) 注入ホース
(4) 延長ホース(修理剤抜き取り用)
(5) 注入ホースの栓
(6) コア回し
(7) バルブコア(予備)
(8) 速度制限シール(※)
(9) セット付属の取扱説明書

※速度制限シールは、修理剤ボトルの底面に貼付されています。

▲ 注意

- 応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。

注記

- エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- エアコンプレッサーはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。
- エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ 10分以上連続して使用しない
 - ・ 防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする
 - ・ 砂やほこりなどを吸い込ませない
 - ・ 使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する
 - ・ 分解、改造などをしない
 - ・ 強い衝撃や圧力を加えない

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
 - ・ 期限が切れる前に、新品と交換してください。
- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
 - ・ エンジンスイッチを **ACC** にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

応急修理の可否判断

■ 次のようなとき、タイヤの応急修理ができます

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

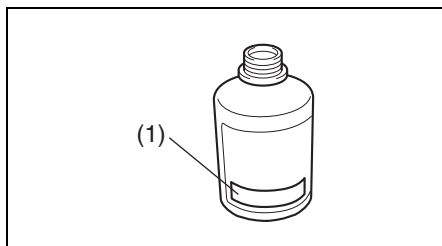
注記

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

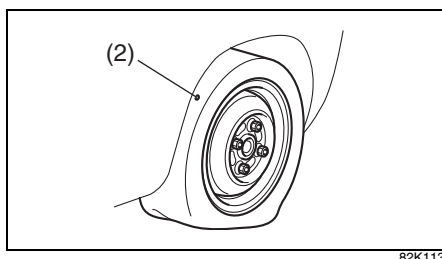
■ 次のような場合は、タイヤの 応急修理ができません

マツダ販売店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

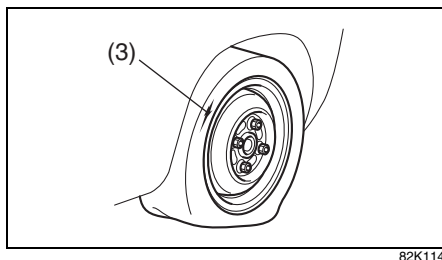
- 応急修理剤の有効期限(1)が切れている(有効期限はボトルのラベルに記載)



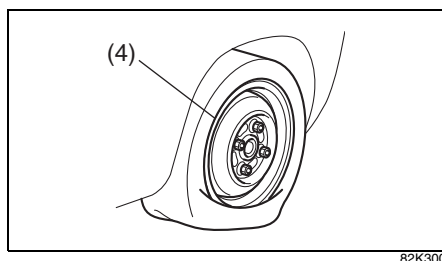
- タイヤの接地面に長さ4 mm以上の切り傷や刺し傷(2)がある



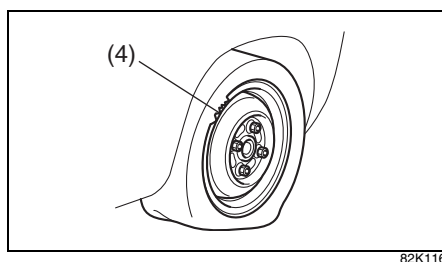
- タイヤの側面に傷(3)を受けている



- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリム(4)の外側へ完全に外れている



- ホイールリム(4)が破損または変形している



- タイヤが2本以上パンクしている(修理剤はタイヤ1本分です)

■ タイヤ応急修理のしかた

1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- セレクトレバーを **P** に入れ、エンジンを止めます。

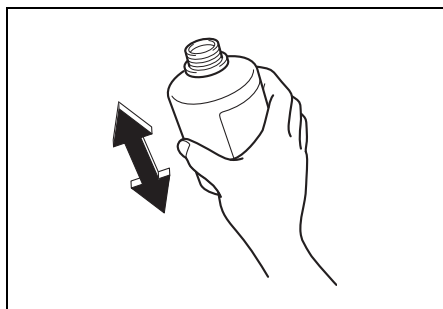
必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

- パンクしたタイヤの状態を確認します。

→ 7-3ページ

(応急修理の可否判断)

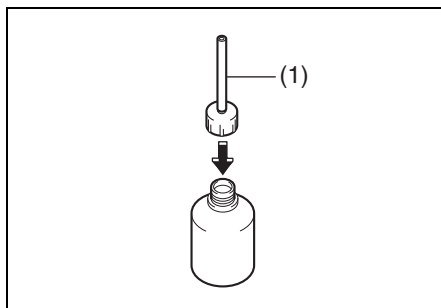
3 同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出し、注入ホースをねじ込む前に、修理剤ボトルをよく振りまわします。



50M0121

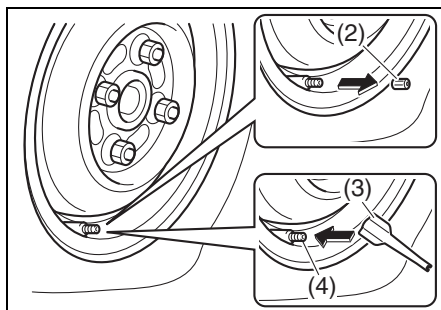
4 注入ホース（1）を修理剤ボトルにしっかりとねじ込みます。

- ボトルの栓が破れます。



72M00184

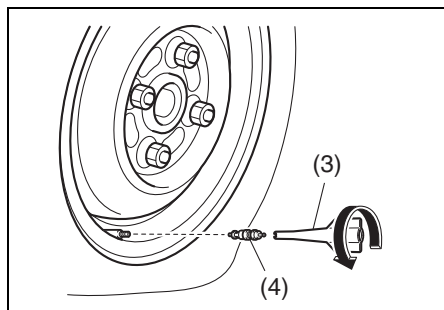
5 タイヤバルブからキャップ（2）を反時計方向にまわして外します。コア回し（3）の羽根状部分の先端などでバルブ内のバルブコア（4）を押し、タイヤに残った空気を完全に抜きます。



65P70040

6 コア回し (3) でバルブコア (4) を反時計方向にまわして外します。

- バルブコアは再使用します。汚れないようにきれいなところへ保管します。



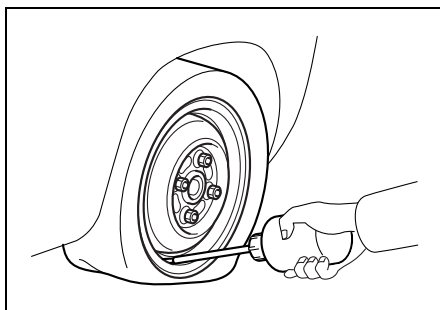
65P70050

▲ 注意

バルブコアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

7 7 注入ホースの先端をタイヤバルブに差し込みます。修理剤ボトルを逆さまにして持ち、手で何度も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。

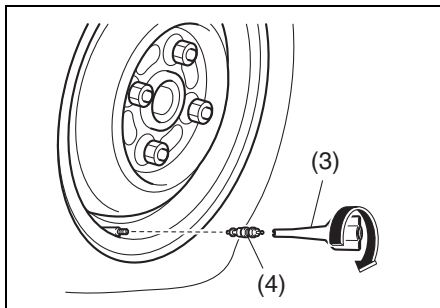
- 空になったボトルは、修理剤の抜き取りに必要なため、タイヤ交換または修理を依頼するときにマツダ販売店にお渡しください。
- こぼれた修理剤は、ふき取るかそのまま乾燥させてからはがします。



82K121

8 注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、コア回し (3) でバルブコア (4) をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。

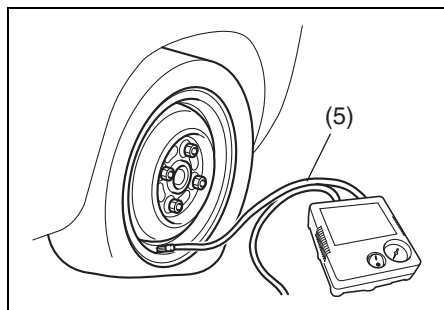
- 外しておいたバルブコアが汚れていたり紛失したりした場合は、タイヤパンク応急修理セット内にある予備のバルブコアをご使用ください。



65P70060

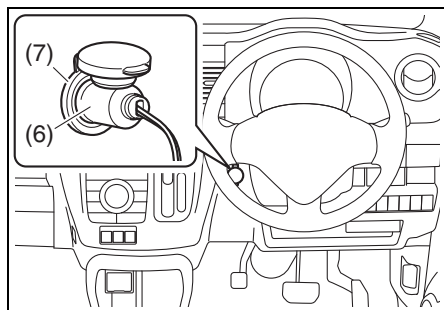
9 エアコンプレッサーの底面から、ホースを取り出します。

- 10 エアコンプレッサーのホース (5) 先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



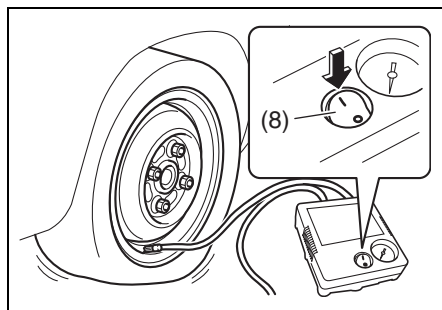
72M00187

- 11 エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認します。電源プラグ (6) をアクセサリースOCKET (7) に差し込み、エンジンスイッチを **ACC** にします。



65P70070

- 12 エアコンプレッサーのスイッチ (8) を ON にし、空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。



72M00188

- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤのすきまをなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。(すきまがなくなれば空気圧が上がります。)
- 指定空気圧まで昇圧するには、約 10 分程度が必要です。10 分以内に指定空気圧まで昇圧しないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。マツダ販売店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。
- 空気を入れすぎたときは、コンプレッサーのホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

▲ 注意

- コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万ーバーストなどした場合に、けがのおそれがあります。
- タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。

注記

- コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。
- コンプレッサーは10分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

- 13 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、コンプレッサーを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

- 14 約10分間または5 km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130 kPa (1.3 kgf/cm²) 以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。

- タイヤ空気圧を測定するときは、コンプレッサーのホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに電源をつなぎ、一度スイッチをONにしたあと、すぐにスイッチをOFFにして空気圧を確認します。

- 走行後、タイヤ空気圧が130 kPa未滿に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、マツダ販売店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

注意

走行後、必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

- 15 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して80 km/h以下の速度で走行してください。



65J5050

警告

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。

- SRSエアバッグの収納部。万一のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。
- 警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置

タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにマツダ販売店で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤はマツダ販売店でご購入ください。

応急用スペアタイヤ (別売り)の取扱い

応急用スペアタイヤ(別売り)は、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するものです。パンクしたタイヤはただちに修理または交換し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べて空気圧が高く、幅が細く、直径がやや小さいため、次の事項を守ってください。

■ 定期的に点検する



空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗した状態での使用は、思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用スペアタイヤの指定空気圧は 420 kPa (4.2 kgf/cm²) です。

■ ほかの車のスペアタイヤを使わない



応急用スペアタイヤは、この車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用スペアタイヤをこの車に使用したりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 装着したときの走行は



- 正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。
 - ABS
 - エマージェンシーストップシグナル (ESS)
 - DSC&TCS
 - グリップコントロール (タイプ別装備)
 - レーダーブレーキサポート (RBS)
 - 誤発進抑制機能
- 応急用スペアタイヤは、高速走行には適していません。やむをえず高速道路を走行する場合は、最低速度(法令では高速道路の最低速度は50km/hです)に近い速度で走行してください。

注記

- 4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤは、標準タイヤに比べ直径がやや小さいため、車高が少し低くなります。突起物などを乗り越えるときは、車体を接触させないように気をつけてください。

■ 前輪には使用しない

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの4WDです。前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてください。

■ レーザーレーダー装備車での取扱い

応急用スペアタイヤ（別売り）を使用する場合は、レーダーブレーキサポート（RBS）OFFスイッチを操作して誤発進抑制機能を停止させてください。

■ タイヤチェーンは装着できません

タイヤチェーンを装着した前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪の標準タイヤを前輪に付けてからタイヤチェーンを再装着してください。

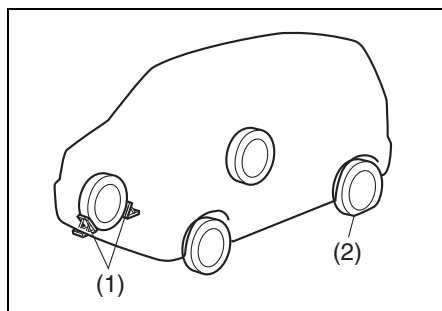
タイヤ交換の準備

別売りの応急用スペアタイヤが準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。

→ 7-2ページ

（タイヤパンク応急修理セット）

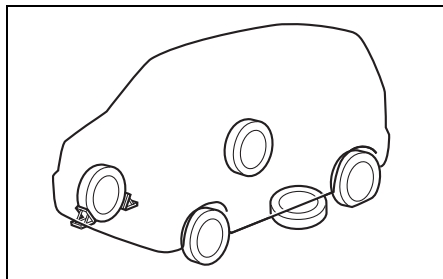
- 1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。
- 2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。
 - セレクトレバーを **P** に入れ、エンジンを止めます。必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。
- 3 交換するタイヤ（2）と対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（1）（市販品）を置きます。



80J1245

4 工具、ジャッキ、応急用スペアタイヤを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。

- 万ージャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出した応急用スペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。

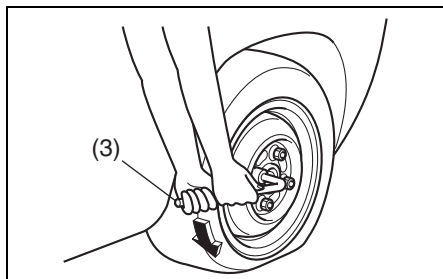


80J323

↓mアドバイス

応急用スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にとすると傷つきにくくなります。

5 ホイールナットレンチ (3) を使用して、ホイールナット4個を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



65P70350

ジャッキアップ

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- セレクトレバーを **[P]** に入れ、エンジンを止めてください。

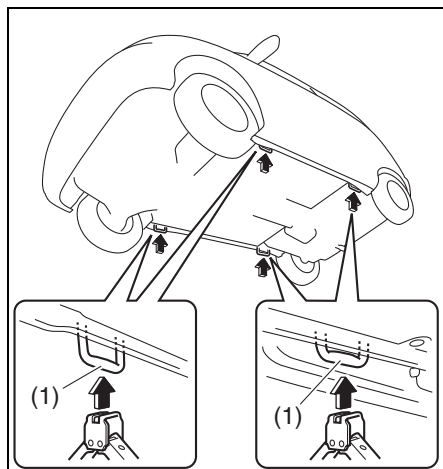
⚠警告

万ージャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

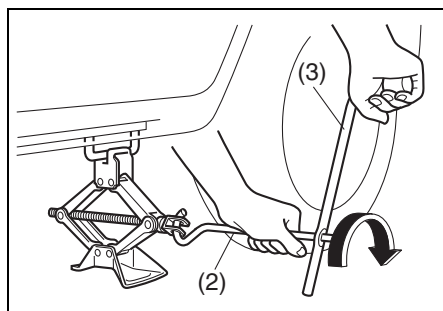
- 地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。
- ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。
- ジャッキはこの車に付属のものを使用し、ほかの車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキをほかの車に使用しないでください。
- ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。
- ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。
- ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。
- ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下にもものをはさまないでください。
- 複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。

万有的时候/パンク

- 1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置(1)に軽く接触させます。
- 2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置(1)にはまっているか確認します。



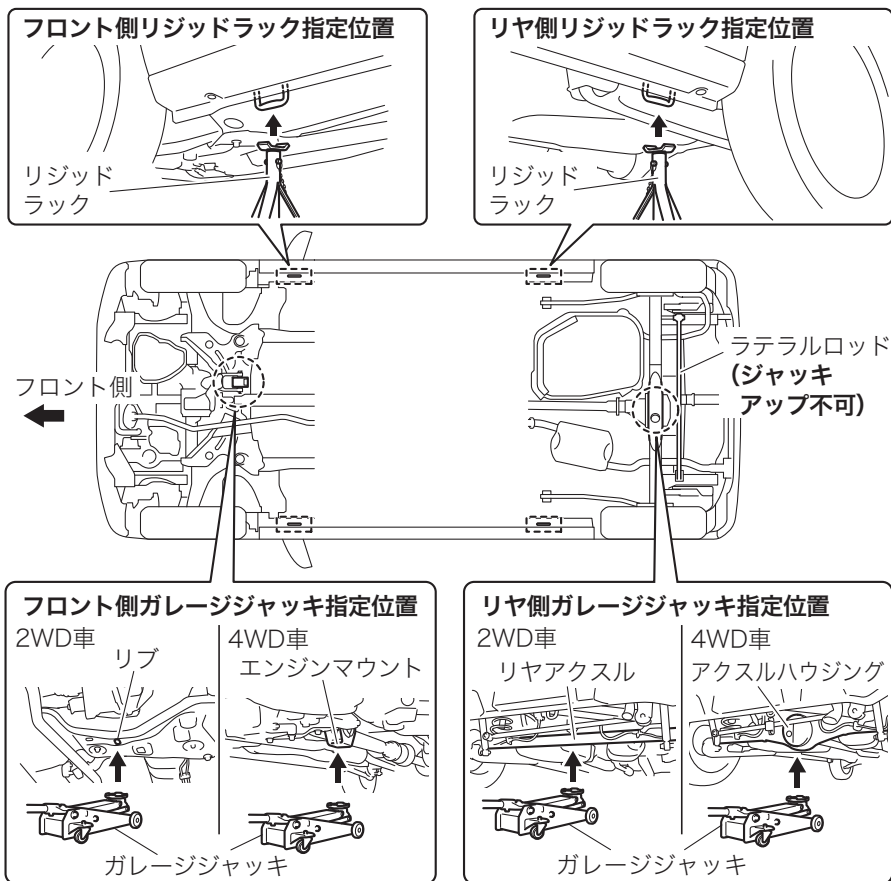
- 3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールナットレンチを取り付けます。
(次の図参照)
 - ジャッキバーは次の図のように、ホイールナットレンチの穴に差し込みます。
- 4 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



- (2) ジャッキバー
(3) ホイールナットレンチ

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を次の図に示します。詳細については、マツダ販売店にご相談ください。



65P70090

警告

- 必ず図に示す指定位置を守ってください。
- ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。
- フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。

タイヤの取り付け・取り外し

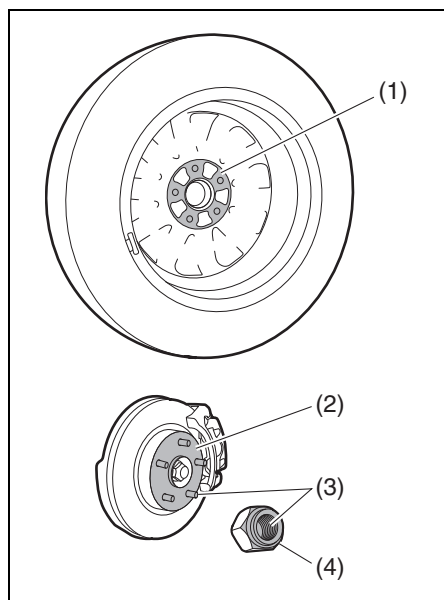
- 1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にするとう傷つきにくくなります。

- 2 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取り付け面 (1)
- 車体側の取り付け面 (ハブ面) (2)
- ボルトやホイールナットのネジ部 (3)
- ホイールナットのテーパ-面 (4)
- ホイール穴のテーパ-面 (5)



65J4033

- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

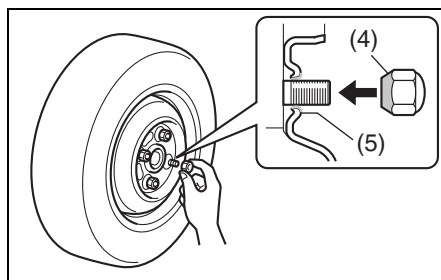
- このとき、ボルトやナットのネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

- 前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
- ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締めすぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

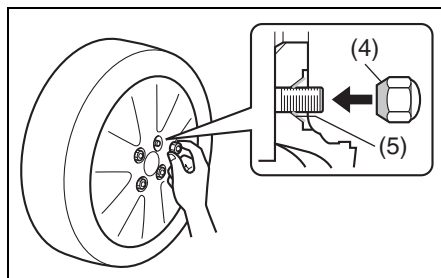
- 3 ホイールナットのテーパ-面 (4) が、ホイール穴のテーパ-面 (5) に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

スチールホイール装備車



65P70360

アルミホイール装備車



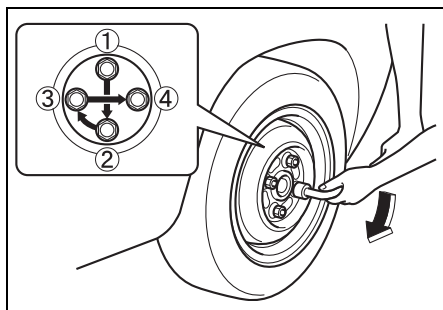
71L70410

4 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

**締め付けトルク：85 N・m
(870 kgf・cm)**

- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は330 N (34 kgf) を目安にしてください。
- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。



82K132

⚠ 警告

- ホイールナットが確実に締まっていなると、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くマツダ販売店で締め付けトルクの点検を受けてください。
- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締めすぎてボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。

📌 アドバイス

既定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

タイヤを交換したあとは

- 工具、ジャッキは、所定の位置に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから 1,000 km 程度走行したあとに、ホイールナットにゆるみがないか点検してください。

⚠ 警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店にご連絡ください。

鉛バッテリーあがりとは

次のようなときは、鉛バッテリーがあがっています。

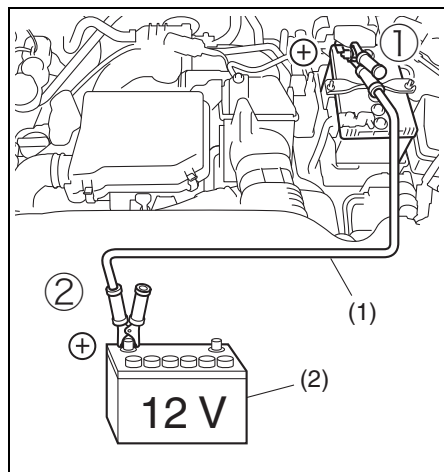
- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

鉛バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12Vバッテリーを使用しているほかのバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

- 1 本目のブースターケーブル (1) を①→②の順序で接続します。

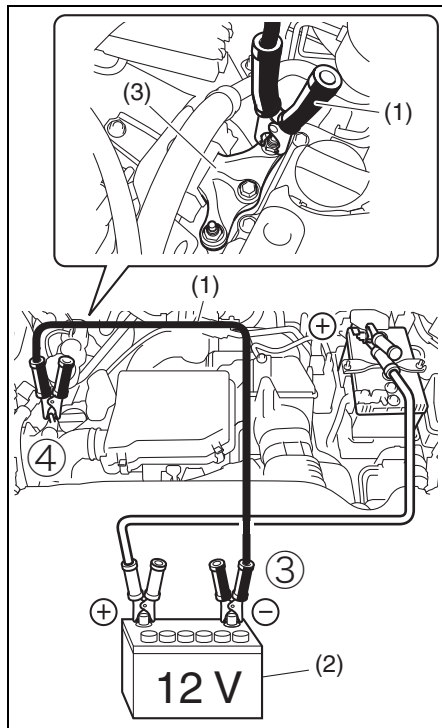
- ①バッテリーあがり車の ⊕ 端子
- ②バッテリー正常車の ⊕ 端子



- (1) ブースターケーブル
- (2) 正常車の鉛バッテリー

- 2 本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

- ③バッテリー正常車の ⊖ 端子
- ④バッテリーあがり車のエンジンマウントのボルト



- (1) ブースターケーブル
- (2) 正常車の鉛バッテリー
- (3) エンジンマウント

- 3 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

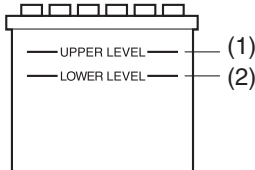
- 4 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

- 5 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

- 6 お近くのマツダ販売店でバッテリーを完全充電します。

警告

- 鉛バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。
 - バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限(2)以下のままで充電などすると、バッテリーが発熱して爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。
- バッテリー補充液を上限(1)まで補充してから、充電などを行なってください。



82K209

- 充電は火気のない風通しの良いところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。
- ④の接続のときに、バッテリーがあがった車の \ominus 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジンマウントのボルトに接続してください。
- 乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。

- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

注意

- ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ドライブベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。
- ショート防止のため、ブースターケーブルの \oplus 端子は、バッテリーの \oplus 端子以外の部分 (\ominus 端子、ボデー、ブラケットなど) と接触させないでください。
- オートマチック車** は押しがけができません。

鉛バッテリーを交換するときは

警告

鉛バッテリーを交換するときは、次のことをお守りください。

- 濡れた手でバッテリーに触れないでください。感電のおそれがあります。
- 走行後の場合は、30分以上放置し、バッテリーの水素ガスが抜けるのを待ってから作業を行ってください。
- バッテリーを交換するときは、ブレーキパイプに当たらないように注意してください。ブレーキパイプが変形するおそれがあります。万一、ブレーキパイプが変形したときは、自分で直さず、マツダ販売店で点検を受けてください。

注記

アイドリングストップシステム装備車は、高性能な専用の鉛バッテリーを使用していますので、次のことをお守りください。守らないとアイドリングストップシステムが正常に作動しなくなったり、バッテリーの寿命が短くなったりするおそれがあります。

- バッテリーを交換するときは、指定のバッテリーを使用する（指定外のものを使用しない）
→ 8-2ページ（サービスデータ）
- バッテリー端子から電気製品の電源をとらない

アドバイス

鉛バッテリー交換の際、バッテリーや車両の部品を損傷するおそれがありますので、マツダ販売店で交換（有料）をおすすめします。

外しかた

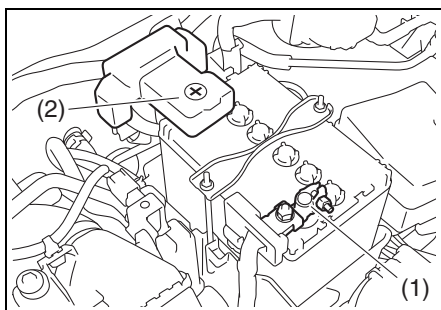
- 1 エンジンスイッチを **LOCK**(OFF) にします。
- 2 バッテリーケーブルの ⊖ 側 (1) を外します。
 - バッテリー端子のナットは、10 mm スパナ（市販品）などでゆるめます。

注意

ショート防止のため、次のことをお守りください。

- ⊖ 側のケーブルから先に外す
- 金属工具などにより、⊕ 端子と ⊖ 端子とを接触させない
- 外したケーブルは、交換時にバッテリー端子と接触しないよう、バッテリーの側面や離れた場所へ動かす

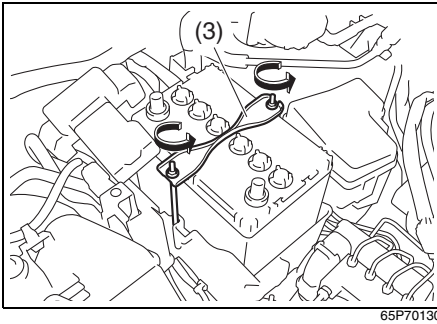
- 3 バッテリーケーブルの ⊕ 側 (2) を外します。
 - カバーを開け、ナットをゆるめます。



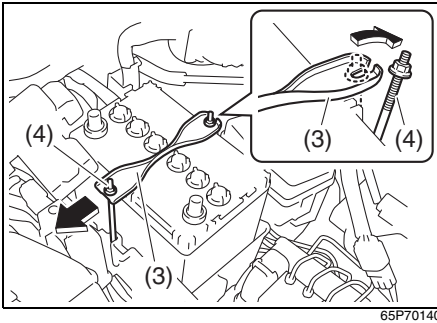
65P70120

4 取り付け金具 (3) のナットを緩めます。

- 取り付け金具のナットは、8 mm スパナ (市販品) などで緩めます。

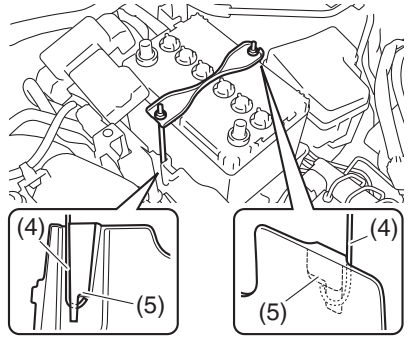


5 両側のフック (4) を持ち、外側に開いて、取り付け金具 (3) の切り欠きから外します。



アドバイス

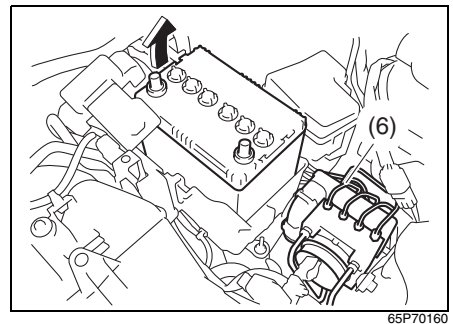
取り付け金具を外すときは、取り付けるときに位置を間違えないよう、あらかじめ両側のフック (4) がかかっている位置を確認してください。



(5) バッテリーケースのホルダー部

6 バッテリーを外します。

- 奥側を斜めに引き上げるようにして持ち上げます。
- バッテリーは重いため、両手でしっかりと持って、ブレーキパイプ (6) などに当たらないように取り出します。



▲ 注意

バッテリーを傾けすぎないでください。液漏れのおそれがあります。

■ 取り付けかた

「外しかた」と逆の手順で行ないます。

- 鉛バッテリーのタイプについては、巻末の「サービスデータ」をご覧ください。
→ **8-2ページ (サービスデータ)**
- 鉛バッテリーを交換したときは、初期設定が必要な機能があります。
→ **8-7 ページ (次の機能は、必ず初期設定してください)**

⚠ 警告

バッテリー端子および取り付け金具のナットは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。

⚠ 注意

バッテリーケーブルを取り付けるときは、⊕側から先に取り付けてください。ショートのおそれがあります。

🔧 アドバイス

鉛バッテリー交換は、「マイナスで始まり、マイナスで終わる」といわれます。作業手順を守ってください。

バッテリーあがりを防ぐためには

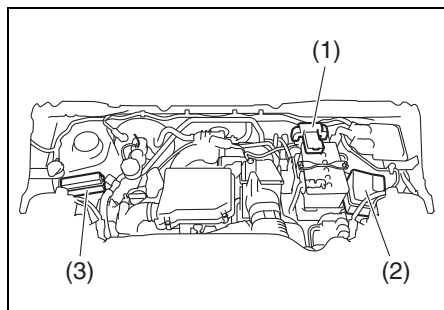
- 1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用したりしないようにしましょう。(アイドリングストップシステム装備車によるエンジン自動停止中を除く)
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。
→ **2-4ページ (鉛バッテリーの液面を点検する)**

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と運転席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

エンジンルーム内のヒューズ



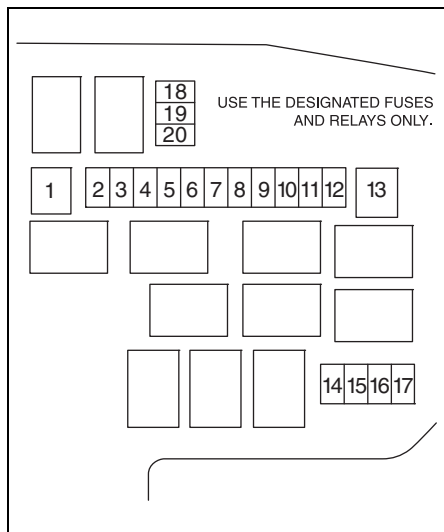
65P70170

- (1) メインヒューズボックス
- (2) リレーボックス No.1
- (3) リレーボックス No.2
(タイプ別装備)

■ リレーボックス内のヒューズ

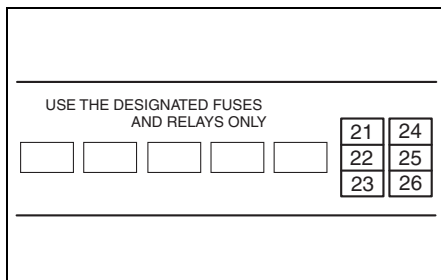
ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。

リレーボックス No.1



72M00078

リレーボックス No.2



65P70370

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	BAT2	30A	リレーボックス No.2
2	F1 (※1)	—	—
	PSD R (※2)	—	—
3	CVT (※3)	—	—
	PSD L (上記以外)	—	—
4	RDTR	30A	ラジエーターファン
5	THR MOT (※1)	—	—
	ST3 (※4)	20A	スターター
	— (※5)	—	—
6	CPRSR	10A	コンプレッサー
7	ABS SOL	25A	ABS ソレノイド
8	H/L L	15A	ヘッドライト (左)

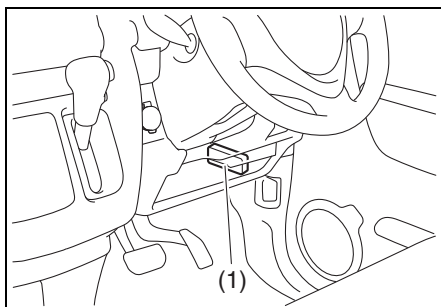
万有的时候/ヒューズ切れ

位置	表示	容量	接続先名称
9	H/L R	15A	ヘッドライト (右)
10	ST2	30A	スターター
11	DCDC (※6)	—	—
	SUB BAT (※7)	30A	サブバッテリー
12	A-STOP	10A	アイドリング ストップ コントローラー
13	ABS MOT	40A	ABS モーター
14	FI2	15A	燃料噴射装置
15	CVT PUMP	15A	電動 オイルポンプ
16	THR MOT2	15A	スロットル モーター
17	SPARE	—	—
18	IG COIL2	15A	イグニッション コイル
19	METER2	10A	メーター
20	ST SIG (※8)	—	—
	IG1 SIG2 (※9)	10A	レーザー レーダー
21	FOG	15A	フォグランプ
22	H/L HI	25A	ディスチャージ ヘッドライト
23	SPARE	—	—
24	H/L HI/SOL R	15A	ディスチャージ ヘッドライト (右)

位置	表示	容量	接続先名称
25	H/L HI/SOL L	15A	ディスチャージ ヘッドライト (左)
26	SPARE	—	—

- ※1 エネチャージおよびS - エネチャージ非装備車
- ※2 エネチャージまたはS - エネチャージ装備車
- ※3 エネチャージおよびS - エネチャージ非装備CVT車
- ※4 エネチャージ装備車
- ※5 S - エネチャージ装備車
- ※6 アイドリングストップシステム装備MT車
- ※7 アイドリングストップシステム装備CVT車
- ※8 RBS非装備車
- ※9 RBS装備車

運転席足元のヒューズ

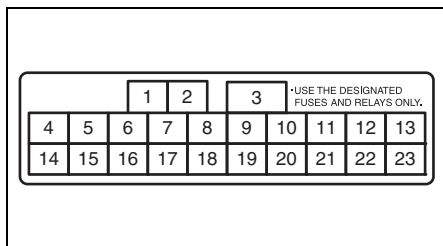


65P7018G

(1) 運転席足元のヒューズ

■ 運転席足元のヒューズ

ヒューズの表は、ヒューズの近くにあります。



● 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	ST	30A	スターター
2	RR WIP	10A	リヤワイパー
3	P/W	30A	パワーウインドー
4	注) P/W T	20A	パワーウインドー タイマー機能
5	BLW	25A	ブLOWER ファン
6	D/L	20A	ドアロック
7	HTR	10A	ヒーター
8	FR WIP	20A	フロント ワイパー
9	RADIO	15A	ラジオ
10	STOP	10A	制動灯
11	BACK	10A	後退灯
12	A/B	10A	エアバッグ
13	ACC	15A	アクセサリー ソケット

位置	表示	容量	接続先名称
14	RR DEF	20A	リヤ デフォッガー
15	STL	15A	電動ハンドル ロック
16	BCM	10A	BCM
17	HORN HAZ	15A	ホーン 非常点滅表示灯
18	TAIL	10A	尾灯
19	DOME	10A	室内灯
20	IG COIL (※1)	—	—
	CVT (※2)	15A	CVT
21	MTR (※1)	—	—
	— (※2)	—	—
22	IG1 SIG	10A	パワー ステアリング
23	ABS/ ESP(※3)	10A	ABS/ DSC&TCS

※1 エネチャージ装備車

※2 エネチャージまたはS - エネチャージ装備車

※3 ヒューズカバー表示の「ABS/ESP」は、ABS/DSC&TCSを示しています。

→ 4-23ページ (ABS (アンチロックブレーキシステム) とは)

→ 4-28ページ

(DSC&TCS装備車の取扱い)

注) P/W T のヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。

→ 3-23ページ

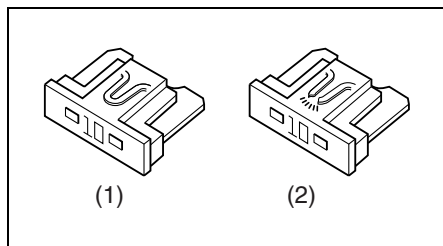
(初期設定のしかた)

ヒューズの点検と交換

ヒューズの点検・交換には、ヒューズ抜き（低背ヒューズ用、市販品）および交換用ヒューズ（別売り）が必要となります。点検・交換の際は、マツダ販売店にご相談ください。

点検・交換のしかた

- 1 エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にします。
- 2 エンジンルーム内のリレーボックスでは、ボックスのカバーを外します。
- 3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（市販品）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。
- 4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。
 - 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



- (1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯はほかの人に見てもらるか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

↓m アドバイス

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、ランプ内外の温度差により一時的にレンズ内面がくもることがありますが、機能上の問題はありませぬ。(窓ガラスがくもると同じ現象)

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ(8-4ページ)をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

高電圧による感電のおそれがあるため、ディスチャージヘッドライトの電球交換は絶対に行なわないでください。交換の際は、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- 安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。
- エンジンを止め、各ランプを消灯させ、エンジンや排気管、電球などが十分に冷えてから行なってください。やけどのおそれがあります。
- 車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。



51K0180

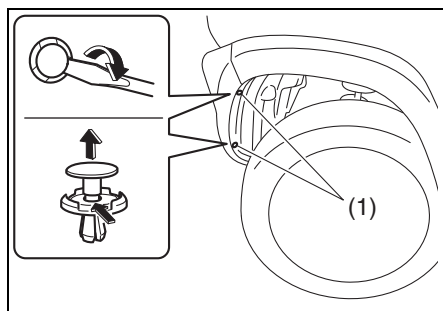
フォグランプ

タイプ別装備

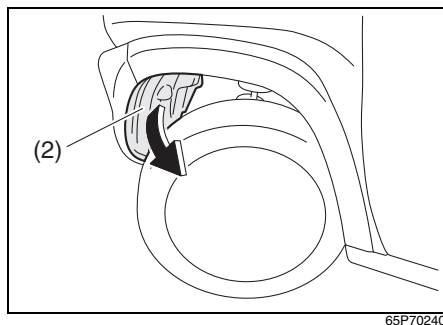
- 1 交換作業のスペースを確保します。
- エンジンをかけ、交換する電球の側と同じ側にハンドルをいっぱいまわします。

- 2 エンジンを停止します。

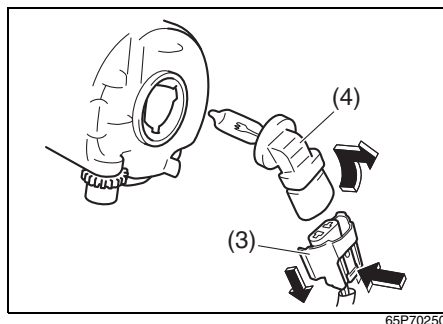
- 3 フェンダー内のカバーを一部外します。
- フェンダー内のカバーにあるクリップ (1) は、マイナスドライバー (市販品) でこじって外します。



- 4 フェンダー内のカバー (2) をめくって内側から交換します。



- カプラー (3) は、ツメを押しながら外します。
- カプラーを外したあとに電球 (ソケット一体式) (4) を、反時計方向にまわして外します。



- 5 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

- フェンダー内のカバーは、バンパーの内側に入れます。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、マツダ販売店にご相談ください。

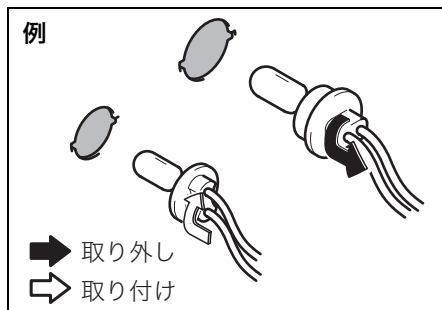
- 制動灯/尾灯
- 方向指示器/非常点滅表示灯 (フェンダーまたはドアミラー)
- ハイマウントストップランプ
- 車幅灯

そのほかの一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取り外し/取り付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取り外し/取り付け

- ソケットをランプ本体から取り外すときは、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるときは、ソケットをランプ本体の切り欠きにあわせて差し込み、時計方向にまわします。



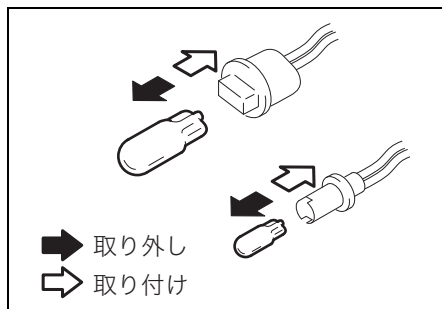
72M2038

■ 電球の取り外し/取り付け

2つのタイプがあります。

- **Aタイプ**は、図のように抜き差しするだけです。

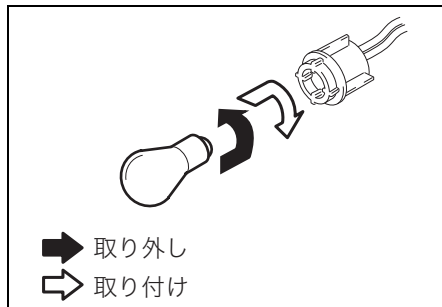
Aタイプ



72M2014

- **Bタイプ**は、次のようになります。
 - 取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
 - 取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。

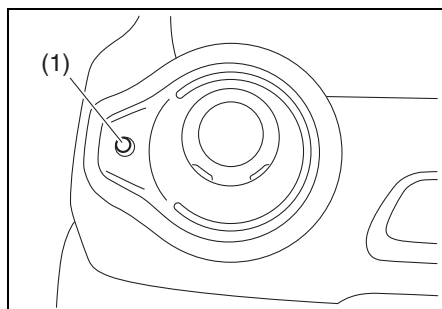
Bタイプ



72M2015

■ 方向指示器/非常点滅表示灯 (前面)

ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。



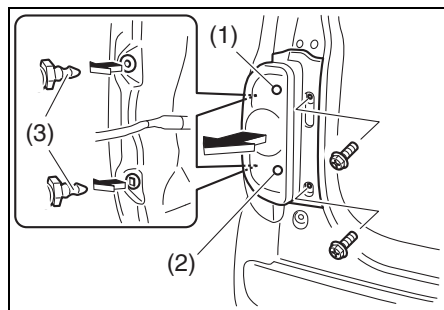
65P7027G

(1) 方向指示器/非常点滅表示灯 (前面、Aタイプ)

■ リヤコンビネーションランプ

バックドアを開け、ランプ全体を外してから交換します。

- ボルト 2 個は、プラスドライバー（市販品）などで外します。
- ランプ本体は、車両の後方へまっすぐ引いて外します。



65P70280

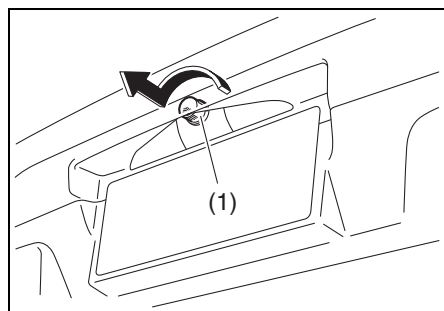
- (1) 方向指示器／非常点滅表示灯
(後面、Aタイプ)
- (2) 後退灯 (Aタイプ)

- ランプ本体をもとにもどすときは、クリップ 2 か所 (3) を車体側の穴にあわせて押し込みます。

7

■ 番号灯 (Aタイプ)

レンズ (1) を反時計方向にまわして外してから交換します。



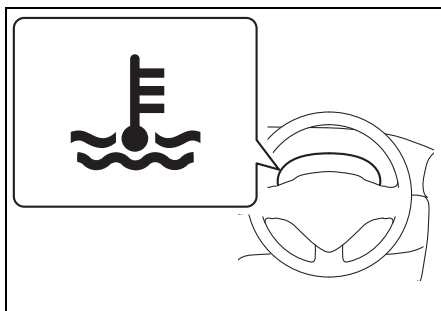
65P70290

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- メーター内の水温警告灯が赤色に点灯
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

水温警告灯



65P70300

メーターパネル内にあります。

- エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると赤色に点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは赤色に点灯します。
→ 1-10ページ (警告灯・表示灯)

オーバーヒートしたときは

- 1 車を安全な場所に止めます。
- 2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。
 - エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。
→ 5-3ページ (ボンネット)

警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

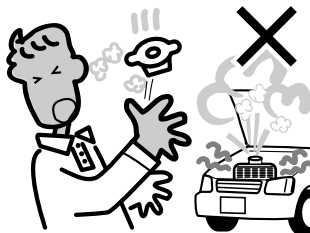
3 冷却ファンの作動を確認し、水温警告灯が消灯するのを待ってエンジンを止めます。

- 冷却ファンが作動していないときや、水温警告灯が消灯しないときは、ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



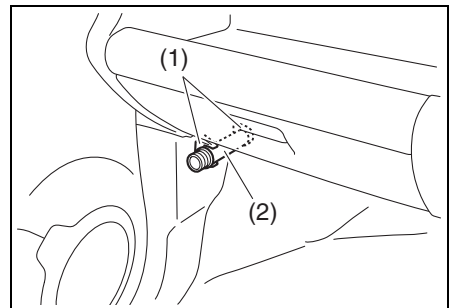
82K126

5 冷却水の量が不足しているときは補充します。

- 水漏れなどの異常があるときは、マツダ販売店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補充したときは、できるだけ早くマツダ販売店で冷却水の点検または交換をしてください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約5分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はマツダ販売店でご購入ください。



65P70310

(1) ホルダー (2) 発炎筒

警告

- お子さまにはさわらせてないください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
- 必ずホルダーに保管してください。
- 点火するときは、筒先を顔や身体に向けないください。やけどのおそれがあります。
- ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
- トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。

故障したときは

故障したときの連絡先は

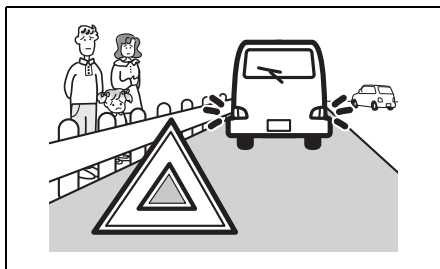
7 お買い求めのマツダ販売店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

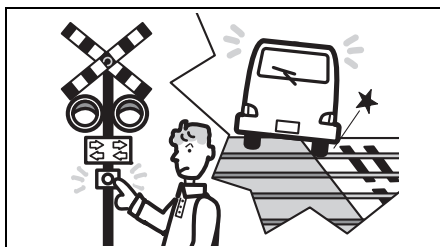


63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

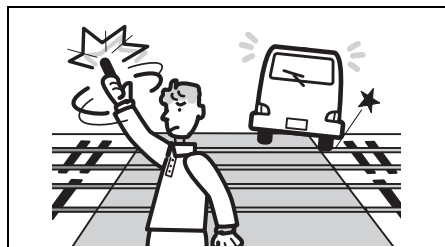
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



64L70190

踏切の非常ボタンがわからないときは、
 発炎筒で列車に合図してください。

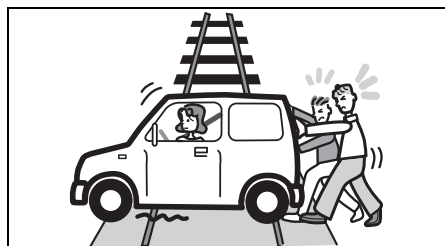


64L70200

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押しってもらって、車を安全な場所まで移動させてください。

このとき、セレクトレバーを **N** に入れます。



64L70210

アドバイス

エンジンスイッチを **START** の位置で保持してスターターをまわすことにより、車を動かすことはできません。

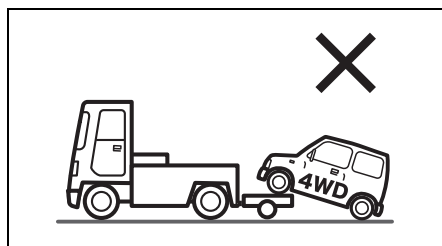
けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4WD車は必ず4輪を持ち上げてください。2WD車は4輪または駆動輪である前輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっているにもかかわらず車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。

けん引する前に、マツダ販売店にご連絡ください。

警告

- レーザーレーダー装備車をけん引するときは、レーダーブレーキサポート (RBS) OFF スイッチを操作して作動停止 (OFF) にしてください。急にRBSが作動して思いがけない事故につながるおそれがあります。
- 4WD車は、前輪だけまたは後輪だけを台車に乗せた (車輪が回転できない) 状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛び出すなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。



80J1265

ロープけん引

ロープをかける位置は

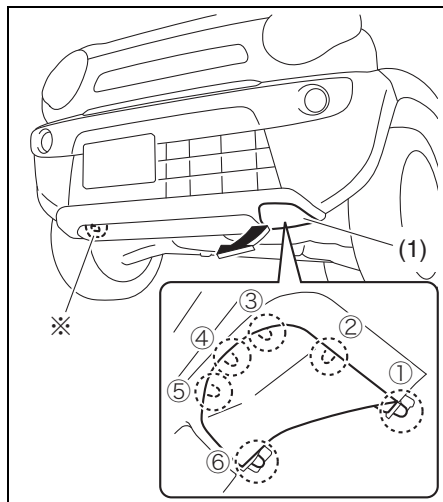
ロープは、けん引フックにかけます。

1 けん引フックカバー (1) を外します。

- カバーのつめを図の番号順に手前に引いて外します。このとき、カバーには落下防止のひもがついているため勢いよく引かないでください。

注記

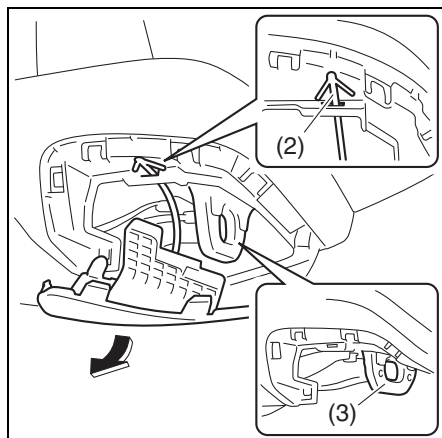
けん引フックカバーを勢いよく引くと、落下防止のひもが破損するおそれがあります。



65P70320

2 バンパーから落下防止のひも (2) を外します。

- 取り外したカバーは、車内で保管してください。

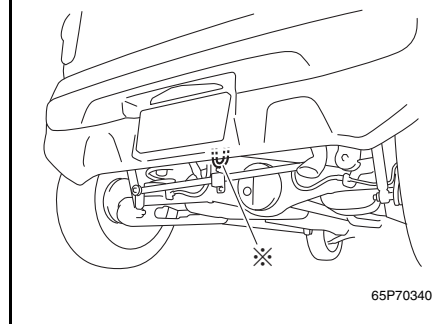


65P70330

(3) けん引フック

注記

- この車で他車をけん引することはできません。
- フロント側およびリヤ側に装備されている※印のフックは、車を輸送するときの固定用フックです。けん引には使用しないでください。フックや車体が破損するおそれがあります。



65P70340

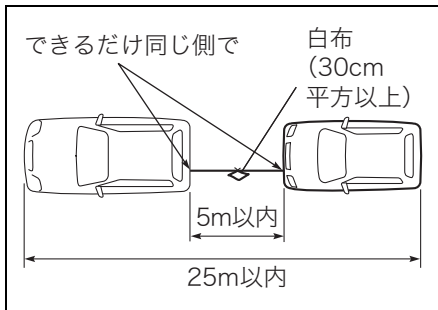
ロープでけん引してもらうときは

- けん引フックにロープをかけます。
 - ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

注記

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

- ロープの中間に白い布（30cm 平方以上）を付けます。



64L70250

- エンジンはかけたままにします。
 - エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) 以外の位置にします。
 - ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。
 - レーザーレーダー装備車は、エンジンスイッチ位置が **ON** のときは、レーダーブレーキサポート (RBS) OFF スイッチを操作して作動停止 (OFF) にしてください。

警告

エンジンがかからない車の運転

- エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) の位置にしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。
- ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。
- パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。

注意

故障や鉛バッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

- セレクトレバーを **N** に入れます。

アドバイス

故障や鉛バッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを **ON** にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーの位置を **P** からほかの位置へ動かせないときは、**4-15 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注記

- けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。
- やむをえずロープでけん引してもらったときは、トランスミッション保護のため、速度30 km/h以下、走行距離30 km以内にしてください。

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

- 1 事故の続発を防ぐため、ほかの交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。
- 2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。
- 3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。
- 4 相手方、事故の状況をメモします。
- 5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

項目		データ					
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン					
	タンク容量	27 L					
エンジン オイル (※)	グレード	エンジン	オイル名	APIサー ビス分類	SAE粘度	使用温度範囲 (外気温℃)	
		ターボ なし車	純正モーターオイル ゴールドENECO SN	SN	0W-20	-35~40	
	ターボ車	純正モーターオイル ゴールドENSN	SN	5W-30	-25~40		
	規定量	S-エネ チャージ 装備車	オイル交換時				2.4 L
			オイル、オイルフィルター同時交換時				2.6 L
		エネ チャージ 装備車	オイル交換時				2.6 L
オイル、オイルフィルター同時交換時				2.8 L			
トランス ミッション フルード	グレード	CVTF グリーン2					
	規定量	5.7 L					
トランス ファーオイル (4WD車)	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85					
	規定量	0.5 L					
リヤデファレン シャルオイル (4WD車)	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85					
	規定量	1.0 L					
冷却水	グレード	マツダ純正ロングライフクーラント					
		スズキ純正スーパーロングライフクーラント (青)					
	規定量	ターボ なし車	S-エネチャージ非装備車			3.0 L	
			S-エネチャージ装備車			3.2 L	
	ターボ車	3.4 L					
ウォッシャー液	グレード	ウインドーウォッシャー液					
	タンク容量	1.5 L					
ブレーキ液	グレード	ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)					

※適切なオイルのご使用方法については、**2-35 ページ**の「**エンジンオイルの規格/粘度**」をお読みください。

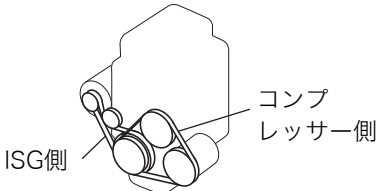
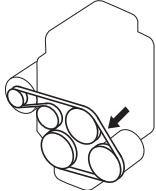
- 0W-20は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。(ターボなし車)
- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のトランスミッションフルード、ブレーキ液は絶対に入れないでください。

サービスデータ

項 目		デ ー タ		
スパークプラグ	タイプ	S - エネチャージ 装備車	NGK : ILKR7J8 (イリジウム) DENSO:ZXU22HPR8(イリジウム)	
		エネチャージ 装備車	NGK : ILMAR7A8 (イリジウム)	
	電極のすきま	0.7~0.8 mm		
バッテリー	タイプ	鉛バッテリー	K-42R	
		リチウムイオン バッテリー	点検不要 (※1)	
フロント ブレーキ	ディスク厚さ (※2)	ソリッドディスク	基準値(新品時)	11.0 mm
			限度値	10.0 mm
		ベンチレーテッド ディスク	基準値(新品時)	17.0 mm
			限度値	15.0 mm
リヤブレーキ	ドラム内径 (※2)	基準値 (新品時)		165 mm
		限度値		166 mm
ブレーキペダル	遊び	1~8 mm		
	床板とのすきま	54 mm以上〔踏み込み力 300 N (31 kgf) 〕		
パーキング ブレーキペダル	踏みしろ	6~8 ノッチ〔踏み込み力 300 N (31 kgf) 〕		

※1 リチウムイオンバッテリーの交換または廃棄については、マツダ販売店にご相談ください。

※2 点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。
なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。マツダ販売店にご相談ください。

項 目		デ ー タ		
ドライブベルト	たわみ量 (100N(10kgf)で 押したとき)	S - エネチャージ 装備車	ISG側	自動調整式
			コンプレッサー側	調整不要
		エネチャージ 装備車	新品時	3.4~3.8 mm
			再張時	4.5~5.2 mm
		 <p>ISG側</p> <p>コンプレッサー側</p> <p>S - エネチャージ装備車</p> <p>72M30801</p>		
		 <p>エネチャージ装備車</p> <p>50M0167</p>		
ハンドル	遊び	0~30 mm (ホイール外周)		
タイヤ	ローテーション	5,000 km走行ごと		

■ 電球の容量

- 交換方法については、参照先の内容をお読みください。

名 称		ワット数 (型式)	参照先	
ヘッドライト	ディスチャージ仕様車	35W (D4S)	※1	
フォグランプ		35W (H8)	7-26ページ	
車幅灯	ディスチャージ仕様車	LED	※2	
方向指示器／ 非常点滅表示灯	前面	21W (WY21W)	7-27ページ	
	側面	フェンダー	5W	※2
		ドアミラー	LED	※2
	後面	21W (WY21W)	7-28ページ	
制動灯／尾灯		LED	※2	
ハイマウントストップランプ		LED	※2	
後退灯		16W (W16W)	7-28ページ	
番号灯		5W (W5W)	7-28ページ	
前席室内灯		10W		
荷室室内灯		10W		

- 表に記載されている次の電球の場合、点検・交換の際はマツダ販売店にご相談ください。
 - ※1 高電圧の電球を使用しているため、感電のおそれがあります。
 - ※2 非分解式のランプのため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ/ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

タイヤの種類	タイヤサイズ		空気圧
標準タイヤ	165/60R15 77H		250 kPa (2.5 kgf/cm ²)
応急用スペアタイヤ (別売り)	2WD	T115/70D14	420 kPa (4.2 kgf/cm ²)
	4WD	T135/70D15	

ホイールのサイズ

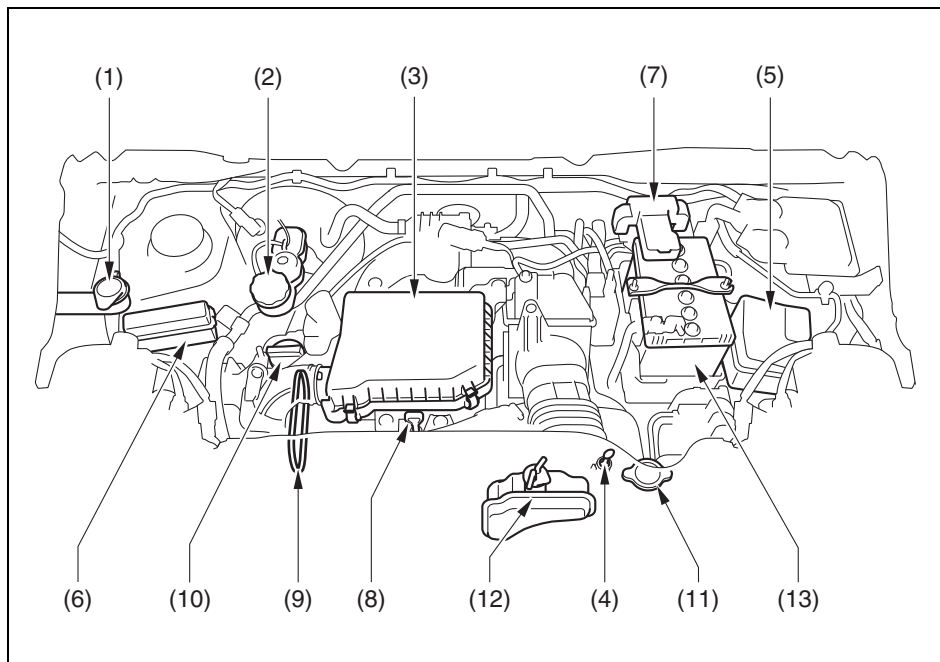
タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取り付けピッチ円直径 (PCD)
165/60R15 77H	15 × 4 1/2J	45 mm	100 mm

タイヤチェーン

この車に適合したマツダ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、マツダ販売店にご相談ください。

エンジンルームをのぞいて

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



65P80010

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| (1) ウォッシャータンク | (8) エンジンオイルレベルゲージ |
| (2) ブレーキフルードリザーバータンク | (9) ドライブベルト |
| (3) エアクリーナー | (10) エンジンオイルフィルターキャップ |
| (4) CVTフルードレベルゲージ | (11) ラジエーターキャップ |
| (5) リレーボックスNo.1 | (12) 冷却水リザーバータンク |
| (6) リレーボックスNo.2 | (13) 鉛バッテリー |
| (7) メインヒューズボックス | |

 次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウィンドー → 3-20ページ	はさみ込み防止機能 → 3-22ページ	鉛バッテリー端子やヒューズ（ 7-20ページ 参照）を外すなどしたとき

 こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

次の機能の設定切替えについては、マツダ販売店にご相談ください。

- アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム
- アンサーバック機能
- ステータスインフォメーションランプ

項目	機能	初期設定 (工場出荷時)	設定切替え時
アドバンストキーレスエントリー&キーレスプッシュボタンスタートシステム	車室内、荷室、前席／バックドアにある発信機の機能 → 2-12ページ	あり	なし
	携帯リモコン電池消耗警告の表示（約15秒間） → 3-9ページ	あり	なし
	携帯リモコン検出範囲外警告ブザーの吹鳴（1回） → 4-7ページ、 4-10ページ	なし	あり
アンサーバック機能 → 3-5ページ	非常点滅表示灯／室内灯による合図	非常点滅表示灯／室内灯	室内灯のみ
	車外ブザーによる合図	あり	なし
セキュリティアラーム → 3-17ページ	セキュリティアラームモード	警報モード	警報なしモード
リモート格納ミラー（タイプ別装備） → 3-27ページ	ドアの施錠やエンジンスイッチ操作による連動動作	あり	なし

サービスデータ

項目	機能	初期設定 (工場出荷時)	設定切替え時
ステータスインフォメーションランプ → 3-63ページ	スピードメーター上部の照明色が青から緑に変化	あり	なし
オープニング動画 → 3-88ページ	エンジンスイッチを [ON] にしたときのオープニング動画	切り替え	固定A
			固定B
			固定C
			固定D
アイドリングストップ (IS) 表示 → 3-90ページ	エンジン自動停止中の動画	あり	なし
アイドリングストップ時間/節約量表示 → 3-90ページ	エンジンスイッチを [LOCK] (OFF) にしたときのアイドリングストップ時間/節約燃料の表示	あり	なし
アイドリングストップ警告表示 → 3-90ページ	アイドリングストップに関する警告が発生したときの表示	あり	なし
ヒルディセントコントロール表示 → 3-90ページ	ヒルディセントコントロール作動中などの動画	あり	なし
グリップコントロール表示 → 3-91ページ	グリップコントロール作動中などの動画	あり	なし
エコスコア → 3-91ページ	エンジンスイッチを [LOCK] (OFF) にしたときのエコスコアの表示	あり	なし
エコ照明 → 3-92ページ	スピードメーター上部の照明色が青、緑、白に変化	3色変化	青色固定
アイドリングストップ空調 → 3-92ページ	エンジン自動停止中のエアコン設定	標準	燃費優先
			快適優先

数字

4WD車の運転 …………… 2-31

A

ABS

(アンチロックブレーキシステム)

警告灯 …………… 3-66、4-26

装置 …………… 4-23

D

DSC&TCS …………… 4-28

DSC&TCS OFFスイッチ …………… 4-30

DSC&TCS OFF表示灯 …………… 4-31

DSC&TCS作動表示灯 …………… 4-29

I

ISG …………… 4-48

ISOFIX …………… 3-60

ISOFIX対応チャイルドシート

固定専用金具 …………… 3-60

R

Rポジション警告ブザー …… 2-27、4-17

S

S(スポーツ)モード表示灯 …………… 3-72

SRSエアバッグ警告灯

…………… 3-44、3-52、3-65

SRSエアバッグシステム …… 2-28、3-45

S-エネチャージ …………… 4-48

ア

アームレスト(ひじ掛け) …………… 5-19

アームレストボックス …………… 5-16

アイドリングストップ時間 …………… 3-85

アイドリングストップシステム …… 4-50

アイドリングストップシステム

OFFスイッチ …………… 4-59

アイドリングストップシステム

OFF表示灯 …………… 3-74

アイドリングストップ節約燃料 …… 3-85

アイドリングストップ表示灯 …… 3-74

アクセサリソケット …………… 5-18

アシストグリップ …………… 5-20

アドバンストキーレスエントリー

&キーレスプッシュボタン

スタートシステム …………… 4-5

アルミホイール

タイヤ交換の準備 …………… 7-10

タイヤチェーン …………… 6-15

アンサーバック機能 …………… 3-5

アンテナ …………… 5-33

イ

イベントデータレコーダー(EDR)

…………… 3-52

イモビライザー警告灯 …………… 3-70、4-4

イモビライザーシステム …………… 4-4

インパネアンダートレイ …………… 5-9

インパネトレイ …………… 5-9

インパネポケット …………… 5-9

インパネボックス(助手席) …… 5-10

ウ

ウインドー

ウインドーロックスイッチ …… 3-21

パワーウインドー …………… 3-20

フロントガラスの手入れ …………… 6-3

ウォッシュャー液 …………… 6-10、8-1、8-6

ウォッシュャースイッチ …………… 3-105

運転支援機能 …………… 4-37

運転席シートヒータースイッチ …… 3-32

エ

エアクリナーフィルターの
交換 6-7

エアコン、ヒーター
オートエアコン 5-23
吹出し口 5-22

エアフィルター 5-32

エコ運転表示機能 3-84

エコクール 4-61

エコスコア 3-82、3-85

エコドライブ 2-36

エネチャージ 4-60

エネルギーフロー
インジケーター 4-48、4-60

エマージェンシーストップシグナル
(ESS) 4-27

エンジンオイル 2-35、3-69、8-1

エンジン回転計(タコメーター) ... 3-81

エンジンキー 3-2

エンジン警告灯 3-68

エンジンスイッチ 4-2

エンジンスイッチ照明 4-8、4-42

エンジンスイッチもどし忘れ
警告ブザー 4-11

エンジンのかけかた 4-8

エンジンの止めかた 4-10

エンジンフード(ボンネット) 5-3

エンジンブレーキ 2-18

エンジンルームをのぞいて 8-6

エンジンを止めるときは 4-10

エンスト 7-31

オ

オイル(エンジンオイル)
..... 2-35、3-69、8-1

応急用スペアタイヤ
取扱い 7-9

オートエアコン 5-23

オートマチック車
運転 4-19
セレクトレバー 4-13

オートライトシステム 3-102

オートレベリング警告灯 3-67

オーバーヒート 7-28

お子さま用シートの
シートベルトによる固定 3-58

お子さま用シートの
選択について 3-53

お子さまを乗せるときは 2-7

オドメーター 3-79

カ

外気導入
(エアコン、ヒーター) 5-27

外装のお手入れ 6-2

ガソリン(燃料) 2-26、8-1

仮眠するときは 2-23

ガレージジャッキ 7-13

冠水した場所 2-20

寒冷時の取扱い 6-10

キ

キー(エンジンキー) 3-2

キースイッチ(エンジンスイッチ) 4-2

キーナンバープレート 3-3

キーレスエントリー 3-4

キックダウン 4-16、4-20

給油 2-25、5-2、8-1

ク

空気圧 8-5

くもり取り
(デフロスター) 5-22、5-29

くもり取り(リヤデフォッガー) ... 5-30

クリーブ現象 2-26、4-16

グリップコントロール 4-34

グリップコントロールスイッチ ... 4-35

車のお手入れ 6-2

グローブボックス 5-11

ケ

警告灯	1-10
警告灯・表示灯の見かた	3-64
警告ブザー	
エンジンスイッチもどし忘れ	
警告ブザー	4-11
警告ブザーが鳴ったときは	1-16
携帯リモコン検出範囲外	
警告ブザー	4-7、4-10
シートベルト警告ブザー	3-40
パーキングブレーキ解除忘れ	
警告ブザー	4-12
ハンドルロック未作動警告ブザー	
	4-11
ライト消し忘れ警告ブザー	3-103
リクエストスイッチ未作動	
警告ブザー	3-11
R(リバース)ポジション	
警告ブザー	2-27、4-17
携帯電話	2-17
携帯リモコン	3-6
携帯リモコン車外持ち出し警告	4-7
携帯リモコン電池消耗警告	3-9
携帯リモコン閉じ込み防止機能	3-11
警報装置	3-17
けん引	7-31

コ

工具	7-2
後席シート	3-33
航続可能距離	3-80
故障したときは	7-30
誤発進抑制機能	4-42

サ

サービスデータ	8-1
サンバイザー	5-5

シ

シート	3-30
シートアンダーボックス	
(助手席)	5-17
シートヒーター(運転席)	3-32
シートベルト	3-39
シートベルト可変	
ロードリミッター	3-45
シートベルト警告灯	3-65
シートベルト警告ブザー	3-40
シートベルトプリテンショナー	3-44
事故が起きたときは	7-34
室内灯	5-7、8-4
シフトロック	4-14、4-22
ジャッキ(収納場所)	7-2
ジャッキアップ	
(タイヤチェーン)	6-16
ジャッキアップ	
(パンクしたとき)	7-11
集中ドアロック	
(パワードアロック)	3-16
充電警告灯	3-69
樹脂部品などの手入れ	6-4
出発の前に	2-2
ジュニアシート	3-54
瞬間燃費	3-80
照明コントロール表示	3-82
助手席シートバックテーブル	5-20
ショッピングフック	5-18

ス

水温警告灯 …… 3-67、7-28
 スタック(立ち往生) …… 2-20
 ステータスインフォメーション
 ランプ …… 3-63
 スノーブレード …… 6-11
 スピードメーター(速度計) …… 3-63
 スペアタイヤ(応急用スペアタイヤ)
 取扱い …… 7-9
 スポーツモードスイッチ …… 4-15
 スライドレバー …… 3-30、3-33

セ

積算アイドリングストップ時間 …… 3-81
 積算アイドリングストップ
 節約燃料 …… 3-81
 セキュリティアラーム
 インジケーター …… 3-75
 セッティングモード …… 3-86
 セレクトレバー
 位置表示 …… 3-77
 操作 …… 4-13
 洗車 …… 6-2
 前照灯(ヘッドライト)
 …… 3-102、7-25、8-4
 前席シート …… 3-30
 センターインパネトレイ …… 5-9
 センタードアポケット …… 5-9

ソ

走行中の注意 …… 2-16
 速度計(スピードメーター) …… 3-63

タ

ターボ車の運転 …… 2-31
 タイマーロック機能 …… 3-6
 タイヤ
 応急修理したあとは …… 7-9
 応急修理のしかた …… 7-5

空気圧 …… 8-5
 交換したあとは …… 7-15
 交換するときは …… 6-6
 交換の準備 …… 7-10
 チェーン …… 6-15
 パンク応急修理セット …… 7-2
 冬用タイヤ …… 6-11
 ホイールサイズ …… 8-5
 ローテーション …… 6-5
 輪止め …… 2-22、6-11
 タコメーター(エンジン回転計) …… 3-81
 立ち往生 …… 2-20
 暖機運転 …… 2-36

チ

チェーン(タイヤチェーン) …… 6-15
 チケットホルダー
 (サンバイザー) …… 5-5
 チャイルドシート …… 3-54
 チャイルドブルーフ …… 3-17
 駐車するときは …… 2-22、4-22、6-14
 チルトステアリング …… 3-29

テ

停止表示板 …… 7-30
 低水温表示灯 …… 3-74
 ディスチャージ
 ヘッドライト …… 7-25、8-4
 デフロスター
 (エアコン、ヒーター) …… 5-22
 デフロスタースイッチ …… 5-29
 電球
 電球の交換(ランプ類) …… 7-25
 電球の点検 …… 7-24
 ワット数(ランプ類) …… 8-4
 点検 …… 2-2、8-1
 電源が切り替わらないときは …… 4-6
 電源の切替え …… 4-6
 電池交換(携帯リモコン) …… 6-8

ト

ドア	3-12
ドアの開閉	3-2
ドアポケット	5-16
ドアミラー	3-25
ドアミラー角度調節スイッチ	3-25
ドアミラー格納スイッチ	3-26
ドアミラーヒータースイッチ	3-29
ドアロック解除機能	3-16
凍結防止剤	6-14
凍結路	6-13
登降坂変速制御	4-16
トランスミッション警告灯	3-69
トリップメーター	3-79
ドリンクホルダー	5-12

ナ

内気循環 (エアコン、ヒーター)	5-27
内装のお手入れ	6-4
長い荷物を積むとき (助手席シート)	3-37
鉛バッテリー	2-4

ニ

日常点検	2-2
------	-----

ネ

燃費	
瞬間燃費	3-80
平均燃費	3-80
燃料	2-26、8-1
燃料給油口	5-2
燃料計	3-78
燃料残量警告灯	3-66
燃料タンク容量	8-1

ハ

パーキングブレーキ 寒冷時の取扱い	6-14
操作	4-11
ブレーキ警告灯	3-64
ハイドロブレーキ現象	2-19
ハイマウントストップランプ	7-26、8-4
はさみ込み防止機構	3-22
発炎筒	7-29
バックドアガラスの 室内側の手入れ	6-5
バックミラー(ルームミラー)	3-24
バッテリー	
鉛バッテリー	2-4、6-10
鉛バッテリーあがり	7-16
鉛バッテリーを 交換するときは	7-18
バッテリーについて	2-3
リチウムイオンバッテリー	2-5
バッテリーあがり	7-16
パニティミラー (サンバイザー)	5-6
パワーウィンドー	3-20
パワーステアリング警告灯	3-68
パワードアロック	3-16
パンク 応急修理のしかた	7-5
タイヤ交換	7-10
番号灯	7-28、8-4
半ドア警告灯	3-70
ハンドルロックが解除できない ときは	4-3
ハンドルロック未解除警告	4-3
ハンドルロック未作動 警告ブザー	4-11

ヒ

ヒーター(エアコン) 5-22
オートエアコン 5-23
吹出し口 5-22
非常点滅表示灯 7-26、7-27、8-4
非常点滅表示灯スイッチ 3-105
必読! 2-2
ヒューズ切れ 7-20
表示灯 1-10
日よけ(サンバイザー) 5-5
ヒルディセントコントロール 4-31
ヒルディセントコントロール
スイッチ 4-32
ヒルディセントコントロール
表示灯 4-33
ヒルホールドコントロール 4-61

フ

ブースターケーブル 7-16
フォグランプ 7-26、8-4
フォグランプスイッチ 3-104
フットレスト 5-19
フューエルキャップ 5-2
フューエルリッド 5-2、5-3
フルフラットシート 3-38
ブレーキ
ブレーキ液 8-1
ブレーキ警告灯 3-64
ブレーキ倍力装置
..... 2-21、4-10、7-33
ブレーキシステム警告灯 3-71
フロントシート 3-30
フロントワイパーノ
ウォッシャースイッチ 3-105

ヘ

平均燃費 3-80
ヘッドライト(前照灯)
..... 3-102、7-25、8-4
ヘッドライト上向き(ハイビーム)
表示灯 3-72

ヘッドレスト

後席 3-34
前席 3-31
ベビーシート 3-54

ホ

ホイールサイズ 8-5
方向指示器 7-26、7-27、8-4
方向指示器スイッチ 3-104
方向指示器表示灯 3-72
ホーンスイッチ 3-107
ボンネット 5-3

マ

マスターウォーニング 3-76
マルチインフォメーション
ディスプレイ 3-77
メッセージ 3-94
万一のとき 7-1

ミ

ミラー
ドアミラー 3-25
バニティミラー
(サンバイザー) 5-6
ルームミラー 3-24

メ

メーター
マルチインフォメーション
ディスプレイ 3-77
メーターの照明 3-63
メーターの見かた 3-63

ユ

油圧警告灯 3-69
雪道を走行するとき 6-13

ヨ

- よくあるご質問…………… 1-23
横風が強いときは…………… 2-19

ラ

- ライト消し忘れ警告ブザー…………… 3-103
ライトスイッチ…………… 3-102
ライト点灯表示灯…………… 3-72
ラジエーターキャップ…………… 7-29、8-6
ランプ
 室内灯…………… 5-7
 電球の交換(ランプ類)…………… 7-25
 ハイマウントストップランプ… 7-26
 番号灯…………… 7-28
 フォグランプ…………… 3-104、7-26
 ヘッドライト…………… 7-25
 方向指示器／非常点滅表示灯
 …………… 7-26、7-27
 リヤコンビネーションランプ… 7-28
 ワット数(ランプ類)…………… 8-4

リ

- リクエストスイッチ…………… 3-9
リクエストスイッチ未作動
 警告ブザー…………… 3-11
リクライニングレバー…………… 3-30
リジッドラック…………… 7-13
リチウムイオンバッテリー…………… 2-5
リッド付インパネボックス
 (助手席)…………… 5-10
リバース(R)ポジション警告ブザー
 …………… 2-27、4-17
リモート格納ミラー…………… 3-27
リヤ(後席)シート…………… 3-33
リヤコンビネーションランプ…………… 7-28
リヤデフォッガースイッチ…………… 5-30
リヤワイパー/ウォッシャー
 スイッチ…………… 3-107

ル

- ルーフアンテナ…………… 5-33
ルーフレール…………… 5-21
ルームミラー…………… 3-24
ルームランプ(室内灯)…………… 5-7、8-4

レ

- 冷却水(ラジエーター液)
 寒冷時の取扱い…………… 6-11
 規定水量…………… 8-1
レーザーレーダー…………… 4-46
レーダーブレイキサポート
 (RBS)…………… 4-37
レーダーブレイキサポート
 (RBS)OFFスイッチ…………… 4-45
レーダーブレイキサポート
 (RBS)OFF表示灯…………… 3-75
レーダーブレイキサポート
 (RBS)作動表示灯…………… 3-76

ワ

- ワイパー
 寒冷時の取扱い…………… 6-11、6-12、6-15
 ワイパースイッチ…………… 3-105
ワックス…………… 6-2

